令和６年第１回定例会会議録目次

会期日程 …… 1
第１号（３月５日）（火曜日）
１．開　会 …… 5
１．開　議 …… 5
１．日程第　１　会議録署名議員の指名 …… 5
１．日程第　２　会期の決定 …… 5
１．日程第　３　諸般の報告 …… 5
１．日程第　４　行政報告 …… 6
１．日程第　５　令和６年度施政方針説明 …… 7
１．日程第　６　一般質問 …… 19
福　岡　兵八郎　議員 …… 19
新年度各事業について
農業後継者育成
被災地支援対策
住宅環境整備
（太学校教育課長、水野耕地課長、高城農林水産課長、
吉田おもてなし観光課長、吉田企画課長、廣介護福祉課長、
村上総務課長、清山建設課長、茂岡社会教育課長、
高岡町長、田畑健康増進課長）
是　枝　孝太郎　議員 …… 43
教育振興について
観光・地域振興について
徳之島町経済振興について
（太学校教育課長、高岡町長、福教育長、
吉田おもてなし観光課長、幸野副町長、吉田企画課長）
宮之原　　剛　議員 …… 54
国民保護法に基づく避難訓練について
ＡＥＤ設置について
音楽教育環境の整備について
交通弱者・障がい者支援について
（村上総務課長、太学校教育課長、廣介護福祉課長、

高岡町長、吉田企画課長）
木　原　良　治　議員　･･････････････････････････････････　66
道の駅「とくのしま」について
命名権「ネーミングライツ」について
（尚花徳支所長、高岡町長、吉田企画課長、
清瀬地域営業課長、吉田おもてなし観光課長、
村上総務課長、幸野副町長、茂岡社会教育課長）
１．散　会　･･　76

第２号（３月６日）（水曜日）
１．開　議　･･　79
１．日程第　１　一般質問　･･　79
竹　山　成　浩　議員　･･････････････････････････････････　79
危機管理について
北部地区の観光振興について
（村上総務課長、清山建設課長、尚花徳支所長、
吉田おもてなし観光課長、高岡町長）
勇　元　勝　雄　議員　･･････････････････････････････････　89
防災訓練等について
町政について
町道の整備について
ソテツジャングルについて
（村上総務課長、高岡町長、幸野副町長、保久水道課長、
清山建設課長、吉田おもてなし観光課長）
政　田　正　武　議員　･･････････････････････････････････　108
会計年度任用職員制度について
子育て支援について
亀徳新港のボーディングブリッジ導入について
町ホームページの情報発信について
トライアスロンの来年度以降の開催について
（村上総務課長、廣介護福祉課長、太学校教育課長、
清山建設課長、吉田企画課長、吉田おもてなし観光課長）
植　木　厚　吉　議員　･･････････････････････････････････　118

次期奄振予算について
キビ対策について
島内の戦跡について
（吉田企画課長、高城農林水産課長、高岡町長、
新田税務課長、茂岡社会教育課長）
１．散　会　……　132

第３号（３月７日）（木曜日）
１．開　議　……　135
１．日程第　１　一般質問　……　135
広　田　　勉　議員　……　135
相続税について
施政方針について
行財政改革について
配食について
（新田税務課長、大山住民生活課長、廣介護福祉課長、
村上総務課長、尚花徳支所長、高岡町長、
吉田おもてなし観光課長、高城農林水産課長、福教育長、
太学校教育課長、清山建設課長、清瀬地域営業課長）
松　田　太　志　議員　……　165
災害への備えを
北部地区の認定こども園について
（村上総務課長、高岡町長、太学校教育課長、福教育長、
廣介護福祉課長、当会計管理者兼会計課長）
１．散　会　……　176

第４号（３月８日）（金曜日）
１．開　議　……　181
１．日程第　１　議案第　１号　専決処分について承認を求める件　……　181
１．日程第　２　議案第　２号　徳之島町日本復帰記念の日に関する条例の制定について　……　182
１．日程第　３　議案第　３号　徳之島町犯罪被害者等支援条例の制定について　……　183

１．日程第　４　議案第　４号　道の駅「とくのしま」設置及び管理に関する条例の制定について　……　184
１．日程第　５　議案第　５号　徳之島町会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について　…　186
１．日程第　６　議案第　６号　職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例について　……　186
１．日程第　７　議案第　７号　徳之島町報酬及び費用弁償条例の一部を改正する条例について　……　187
１．日程第　８　議案第　８号　徳之島町課設置条例の一部を改正する条例について　……　188
１．日程第　９　議案第　９号　督促手数料の廃止に伴う関係条例の整備に関する条例について　……　189
１．日程第１０　議案第１０号　徳之島町国民健康保険税条例の一部を改正する条例について　……　192
１．日程第１１　議案第１１号　徳之島町印鑑条例の一部を改正する条例について　……　193
１．日程第１２　議案第１２号　徳之島町保育士等修学資金貸与条例の一部を改正する条例について　……　194
１．日程第１３　議案第１３号　徳之島町看護職員等修学資金貸与条例の一部を改正する条例について　……　196
１．日程第１４　議案第１４号　徳之島町重度心身障害者医療費助成条例の一部を改正する条例について　……　198
１．日程第１５　議案第１５号　徳之島町介護保険条例の一部を改正する条例について　……　199
１．日程第１６　議案第１６号　中山間ふるさと・水と土保全基金条例の一部を改正する条例について　……　200
１．日程第１７　議案第１７号　徳之島町下水道事業の設置に関する条例の一部を改正する条例について　……　202
１．日程第１８　議案第１８号　徳之島町立学校設置条例の一部を改正する条例について　……　203
１．日程第１９　議案第１９号　徳之島町給水条例の一部を改正する条例について　……　204
１．日程第２０　議案第２０号　徳之島町水道事業の設置に関する条例の一部を改

正する条例について　……　206
１．日程第２１　議案第２１号　徳之島町過疎地域持続的発展市町村計画の一部変更について　……　206
１．日程第２２　議案第２２号　総合整備計画の一部変更について　……　207
１．日程第２３　議案第２３号　徳之島町農業委員の選任について　……　208
１．日程第２４　議案第２４号　徳之島町農業委員の選任について　……　208
１．日程第２５　議案第２５号　徳之島町農業委員の選任について　……　208
１．日程第２６　議案第２６号　徳之島町農業委員の選任について　……　208
１．日程第２７　議案第２７号　徳之島町農業委員の選任について　……　208
１．日程第２８　議案第２８号　徳之島町農業委員の選任について　……　208
１．日程第２９　議案第２９号　徳之島町農業委員の選任について　……　208
１．日程第３０　議案第３０号　徳之島町農業委員の選任について　……　208
１．日程第３１　議案第３１号　徳之島町農業委員の選任について　……　208
１．日程第３２　議案第３２号　徳之島町農業委員の選任について　……　208
１．日程第３３　議案第３３号　徳之島町農業委員の選任について　……　208
１．日程第３４　議案第３４号　徳之島町農業委員の選任について　……　209
１．日程第３５　議案第３５号　徳之島町農業委員の選任について　……　209
１．日程第３６　議案第３６号　徳之島町農業委員の選任について　……　209
１．日程第３７　議案第３７号　令和５年度一般会計補正予算（第７号）について　……　217
１．日程第３８　議案第３８号　令和５年度国民健康保険事業特別会計補正予算（第３号）について　……　220
１．日程第３９　議案第３９号　令和５年度介護保険事業特別会計補正予算（第４号）について　……　221
１．日程第４０　議案第４０号　令和５年度公共下水道事業特別会計補正予算（第４号）について　……　222
１．日程第４１　議案第４１号　令和５年度後期高齢者医療特別会計補正予算（第３号）について　……　223
１．日程第４２　議案第４２号　令和５年度水道事業会計補正予算（第４号）について　……　224
１．日程第４３　議案第４３号　令和６年度一般会計歳入歳出予算について　…　227
１．日程第４４　議案第４４号　令和６年度国民健康保険事業特別会計歳入歳出予算について　……　227

１．日程第４５　議案第４５号　令和６年度介護保険事業特別会計歳入歳出予算について　……　227
１．日程第４６　議案第４６号　令和６年度後期高齢者医療特別会計歳入歳出予算について　……　227
１．日程第４７　議案第４７号　令和６年度水道事業会計歳入歳出予算について　……　227
１．日程第４８　議案第４８号　令和６年度下水道事業会計歳入歳出予算について　……　227
１．散　会　……　230

第５号（３月１４日）（木曜日）

１．開　議　……　233
１．日程第　１　議案第４３号　令和６年度一般会計歳入歳出予算について　…　233
１．日程第　２　議案第４４号　令和６年度国民健康保険事業特別会計歳入歳出予算について　……　233
１．日程第　３　議案第４５号　令和６年度介護保険事業特別会計歳入歳出予算について　……　233
１．日程第　４　議案第４６号　令和６年度後期高齢者医療特別会計歳入歳出予算について　……　233
１．日程第　５　議案第４７号　令和６年度水道事業会計歳入歳出予算について　……　233
１．日程第　６　議案第４８号　令和６年度下水道事業会計歳入歳出予算について　……　233
１．日程第　７　陳情第　３号　自衛隊誘致に関する陳情について　……　236
１．日程第　８　発議第　１号　徳之島に於ける自衛隊関連施設整備に関する意見書　……　238
１．日程第　９　発議第　２号　徳之島町議会基本条例の一部を改正する条例について　……　238
１．日程第１０　議員派遣の件　……　239
１．日程第１１　議会運営委員会の閉会中の所掌事務調査の申し出について　…　240
１．閉　会　……　242

令和６年第１回徳之島町議会定例会

会　期　日　程

令和６年第１回徳之島町議会定例会会期日程（案）

令和６年３月５日開会～令和６年３月15日閉会　会期11日間

月	日	曜日	会議別	日程
3	5	火	本会議	○開会 ○開議 ○会議録署名議員の指名 ○会期の決定 ○諸般の報告 ○行政報告 ○令和６年度施政方針の説明 ○一般質問（福岡・是枝・宮之原・木原）４名
	6	水	本会議	○一般質問（竹山・勇元・政田・植木）４名 ○経済建設常任委員会
	7	木	本会議	○一般質問（広田・松田）２名
	8	金	委員会	○議案（条例・補正予算等）審議、採決 ○令和６年度当初予算上程（特別委員会設置、付託） ○予算審査特別委員会
	9	土	休　会	
	10	日	休　会	
	11	月	休　会	
	12	火	休　会	
			委員会	○予算審査特別委員会
	13	水	委員会	○予算審査特別委員会
	14	木	委員会	○予算審査特別委員会
	15	金	本会議	○委員長報告 ○議案 ○発議 ○閉会

令和６年第１回徳之島町議会定例会

第１日

令和６年３月５日

令和６年第１回徳之島町議会定例会会議録

令和６年３月５日（火曜日）　午前10時　開議

１．議事日程（第１号）

○開　会

○開　議

○日程第　１　会議録署名議員の指名

○日程第　２　会期の決定

○日程第　３　諸般の報告

○日程第　４　行政報告

○日程第　５　令和６年度施政方針説明

○日程第　６　一般質問

福岡兵八郎　議員

是枝孝太郎　議員

宮之原　剛　議員

木原　良治　議員

○散　会

１．本日の会議に付した事件

○議事日程記載事件のとおり

１．出席議員（１６名）

議席番号	氏　名	議席番号	氏　名
１番	内　博行　君	２番	政田正武　君
３番	宮之原　剛　君	４番	植木厚吉　君
５番	竹山成浩　君	６番	松田太志　君
７番	富田良一　君	８番	勇元勝雄　君
９番	徳田　進　君	１０番	池山富良　君
１１番	是枝孝太郎　君	１２番	広田　勉　君
１３番	木原良治　君	１４番	福岡兵八郎　君
１５番	大沢章宏　君	１６番	行沢弘栄　君

１．欠席議員（０名）

１．出席事務局職員

事務局長	清原美保子　君	主　査	稲村よう子　君

１．地方自治法第121条の規定により説明のため出席した当局職員の職氏名

職　名	氏　名	職　名	氏　名
町　長	高岡秀規　君	副町長	幸野善治　君
教育長	福　宏人　君	総務課長	村上和代　君
企画課長	吉田　忍　君	建設課長	清山勝志　君
花徳支所長	尚　康典　君	農林水産課長	高城博也　君
耕地課長	水野　毅　君	地域営業課長	清瀬博之　君
農委事務局長	藤　康裕　君	学校教育課長	太　稔　君
社会教育課長	茂岡勇次　君	介護福祉課長	廣　智和　君
健康増進課長	田畑和也　君	おもてなし観光課長	吉田広和　君
税務課長	新田良二　君	住民生活課長	大山寛樹　君
選管事務局長	白坂貴仁　君	会計管理者・会計課長	当　洋子　君
水道課長	保久幸仁　君		

△　開　会　午前１０時００分

○議長（行沢弘栄君）

おはようございます。

ただいまから、令和６年第１回徳之島町議会定例会を開会します。

△　開　議　午前１０時００分

○議長（行沢弘栄君）

これから本日の会議を開きます。

△　日程第１　会議録署名議員の指名

○議長（行沢弘栄君）

日程第１、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、会議規則第127条の規定によって、５番竹山成浩議員、10番池山富良議員を指名します。

△　日程第２　会期決定

○議長（行沢弘栄君）

日程第２、会期決定の件を議題にします。

お諮りします。本定例会の会期は、本日から３月15日までの11日間にしたいと思います。御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、会期は、本日から３月15日までの11日間に決定しました。

△　日程第３　諸般の報告

○議長（行沢弘栄君）

日程第３、諸般の報告を行います。

一般的な事項については、お手元に文書で配付してありますので、口頭報告は省略いたします。

なお、この際、特に報告いたしますことは、監査委員から令和５年12月分、令和６年１月分、２月分の例月現金出納検査の結果報告がありました。

なお、関係資料等は事務局に常備してありますので、御覧いただきたいと思います。

これで諸般の報告を終わります。

また、今期定例会におきまして、本日までに受理した陳情、請願は、会議規則第92条の規定により、陳情・請願書の写しの配付とともに、所管の常任委員会に付託することにしましたので、御報告いたします。

△　日程第４　行政報告

○議長（行沢弘栄君）

日程第４、行政報告を行います。

○町長（高岡秀規君）

詳細につきましては、お手元に配付してありますので、主なものを申し上げたいと思います。

12月18日、令和５年度九州地区町村会長・事務局長会議に出席。

12月25日、令和５年度第４回鹿児島県市町村振興協会臨時理事会に出席。

12月27日、第13回奄美保健医療圏地域医療構想調整会議に出席しておりまして、民間の病床、増床についてようやく認められることで、完結型の医療が実現できるかなというふうに考えて、期待をしております。

１月16日、離島振興の促進に関する要望活動をしております。

１月17日、第２回世界自然遺産５地域会議に出席。

１月18日、大島郡市町村長会。令和５年度離島緊急医療現状報告会及び意見交換会に出席。

１月24日、国と町村の道路政策に関する意見交換会。港湾関係団体新春賀詞交歓会に出席。

１月25日、全国町村会正副会長会。一般財団法人全国自治協会理事会・全国町村職員生活協同組合理事会出席。全国町村会理事会・都道府県町村会長会・全国町村職員生活協同組合総代会に出席。都道府県町村会正副会長交流会に出席。

１月28日、防衛協力諸団体賀詞交歓会に出席。

１月29日、令和５年度鹿児島県町村ＩＣＴ・ＩｏＴ職員等研修会出席。

１月30日、鹿児島県町村会理事会出席。

２月２日、令和５年度第２回奄美地域保健医療福祉協議会に出席しておりまして、そこには精神科医師の不足等についての課題点を意見述べております。

２月７日、令和５年度第２回鹿児島県農業・農村振興協会通常理事会に出席。

２月９日、令和５年度市町村長研修会、第142回鹿児島県町村会定期総会、鹿児島県過疎地域協議会第86回臨時総会、令和５年度鹿児島県町村ＩＣＴ・ＩｏＴ利活用推進協議会定期総会、令和５年度奄美群島農業農村整備事業推進協議会と県農政部との意見交換会に出席。

２月14日、第７回奄美群島新ビジョン懇話会に出席。

２月17日、トップセールスといたしましてＤＩＳＣＯＶＥＲＴＯＫＵＮＯＳＨＩＭＡ春一番場に出席。

２月18日、2024年「とくの島観光・物産フェアｉｎ東京」に出席。

２月25日、故　荒木泰臣氏「偲ぶ会」に出席。

２月27日、大島郡町村会　市町村長会、奄美群島地域産業振興基金協会理事会、奄美群島日本復帰70周年記念実行委員会、奄美広域中小企業勤労者福祉サービスセンター理事会、大島郡町村会　市町村長・議会議長合同会、奄美群島広域事務組合議会定例会、奄美群島観光物産協会理事会、奄美群島観光物産協会総会、令和５年度第２回大島地域行政懇話会に出席しております。

以上、主なものを申し上げました。

○議長（行沢弘栄君）

これで行政報告を終わります。

△　日程第５　令和６年度施政方針説明

○議長（行沢弘栄君）

日程第５、令和６年度施政方針説明を行います。

○町長（高岡秀規君）

令和６年第１回徳之島町議会定例会の開催に当たり、町政に臨む所信を申し上げるとともに、令和６年度徳之島町一般会計予算案及び特別会計予算案、関連議案を提出し、町民の皆様方並びに町議会議員の皆様の御理解と御協力を賜りたいと存じます。

施政方針を述べます前に、本年は１月１日に発生しました石川県能登半島地震や２日の羽田空港での航空機事故と、非常に心が痛む災害や事故に始まりました。犠牲になられた方々や御遺族に謹んでお悔やみを申し上げますとともに、一日も早い復旧・復興を衷心よりお祈り申し上げます。

はじめに。

令和６年度一般会計予算案の総額は、歳入及び歳出それぞれ87億8,710万円となっており、前年度と比較しますと4.6％の増となっております。歳入歳出の主な事柄といたしましては、令和６年２月16日に登録された道の駅「とくのしま」に建設中の徳之島世界自然遺産センターの管理運営事業、健康の森総合運動公園改修事業、東天城中学校建設事業等になります。

それでは、第６次徳之島町総合計画に掲げる将来像、「Ｗｅ’ｒｅ　ＯＰＥＮ～みらい輝く、とくのしま町～」の実現と地域のさらなる発展に向け、総合計画内の６つの基本目標に沿って、令和６年度事業施策を申し上げます。

令和６年度事業施策。

まず未来を担う子どもを育み、活力を生み出すまちづくり。

幼児・学校教育の充実。

本町においても、教育を取り巻く社会状況の変化や学校現場における課題の多様化・複雑化に対応する必要があります。未来を担う島われんきゃの教育を構築するために「個別最適な学び」・「協働的な学び」の充実を図り、子ども中心の学びを実現します。

幼児教育の充実については、教育の質の向上を図るために、教育環境の整備を含めた幼児教育の内容・方法の改善・充実や、人材の確保、資質及び専門性の向上など、民間の保育園、幼稚園及び関連施設と連携を深めながら、幼児教育を推進するための体制構築に努めます。また、今年度は山幼稚園が休園となるため、町立幼稚園３園がより一層連携を深め、日々の保育に努めてまいります。

学校教育の充実については、新しい時代に対応できる児童生徒等の育成を目指した「最先端技術の利活用による学校教育の改善・充実・拡充」を目指します。学校におけるＩＣＴ活用については、１人１台ＰＣ端末の積極的な利活用や持ち帰り学習等に取り組みます。小規模校５校では北海道教育大学と連携し、「徳之島型モデル」の全国展開をはじめ遠隔合同授業や合同研修会を継続的に実施いたします。今年度より生成ＡＩを搭載したロボット「Ｐｅｐｐｅｒ」の貸出対象を小学校だけではなく中学校へも拡充し、より一層プログラミング教育をはじめとした質の高いＩＣＴ教育を推進いたします。

学士村塾においては、教育ＤＸを支える基本的ツールとしてｉＰａｄ端末を１人１台配布し、アプリを用いた学習により基礎学力の向上を図り、町全体において積極的なＩＣＴ活用で情報活用能力など、将来を見据えた資質能力のスキルアップを図ります。また進学塾では、町内の中学校３年生を対象に１人１台端末を活用し、高校受験対策に特化したオンライン学習を実施いたします。

プログラミング教育の充実に向けては、「みらい創りラボ」井之川において、小学生及び中学生を対象にプログラミングスクールを継続いたします。また全国最大規模のプログラミングキャンプに参加し、好きな事を形にする力や未来の選択肢を増やすきっかけ作りに努めます。

子どもや教員を含め、専門的な指導や最先端の学びを実現するために「新しい時代にふさわしい教育推進事業」を実施いたします。沖縄科学技術大学院大学ＯＩＳＴ等の大学及び教育機関や関連企業との連携、海外派遣事業を実施し、未来の夢の実現に向けて、グローバルな視点から世界で活躍できる人材の育成を目指します。

「われんきゃポイント事業」については、年長対象児から小・中学校の児童生徒を対象に様々な教育活動についてポイントを付与し、ポイント相当の地域振興券を交付することで幼児・児童生徒の活躍を奨励するとともに、子育て世帯の家庭教育を応援します。今年度は地域活動をポイント対象にすることで、児童生徒の様々な努力や挑戦を地域から応援し、子育て世帯を支える地域づくりを目指します。また、ポイント対象の活動を広げることで、児童生徒の多様な教育活動を推奨いたします。

小規模校の課題解決と校区の活性化については、小規模校において「ふるさと留学生」の受入れを積極的に進めるとともに、「親子留学制度」においても、受入れ件数を増やすことにより、小規模校区の活性化を図ります。

新たに「子ども第三の居場所」を拠点として、誰一人取り残さず学びが届くような不登校支援の仕組みを作ります。また増加している発達支援が必要な子どもたちにとって、よりよい教育環境、支援の充実を図るため、新たに大学や専門機関との連携を始めます。

農業振興。

農業振興については、昨今の世界情勢の影響により、化学肥料価格高騰が続いており、みどりの食料システム戦略における化学農薬の使用量、化学肥料の使用量の低減化に向けた技術革新への取組が必要だと考えます。昨年は、堆肥センターのばっ気ブロアーの修繕及びペレット化機械の導入を行い、堆肥ペレットの販売を開始し、化学肥料の使用低減に取り組みました。今年度は、島内資源の肥料利用を推進するため国庫補助を活用し、堆肥センターの施設整備・拡充、設備更新、機械導入を進め供給体制の構築を図ります。

農業基盤整備については、県営畑地帯総合整備事業を継続的に行い、水利用効果を最大限に生かした品質の安定化による生産性と収益性の向上を目指します。水資源の安定供給については、基幹水利施設のストックマネジメント事業を実施し、農業用水の安定供給を図ります。

さとうきびについては、ここ数年気候条件に恵まれながらも、地力の低下等により単収が減少しております。さとうきび振興対策支援、土づくり対策支援や環境保全型農業推進事業等を有効利用することで地力改善を図り、令和６、７年期においては、振興計画の目標である5,471キロへの単収向上を図るとともに、さとうきびの生産拡大に努めます。

園芸については、生産者組織の育成強化を図るため、関係機関・団体と連携しながら、栽培技術研修会等を実施します。ＩＣＴを活用したスマート農業の推進に向けては、農業用ドローンによるばれいしょのピンポイント農薬散布や、台風等対策として農産物の貯蔵等に要する設備等の整備なども検討を進め、超省力・高品質な作物の生産を目指します。

畜産の振興については、優良雌牛自家導入事業や畜産クラスター事業、畜産振興事業、畜産基盤総合再編整備事業等の活用により、畜産生産基盤を強化し、受精卵センターやＴＭＲセンター事業を継続することで、畜産農家における労力負担の軽減と所得向上を図ります。また、家畜の消化管内発酵や家畜排せつ物等によるメタンなどの温室効果ガスの排出が、全国の農林水産分野における排出量の３割を占めていることから、家畜由来の温室効果ガス排出削減は重要な課題であり、今後は家畜排せつ物の堆肥化促進のための堆肥舎等の整備や新たな飼料の開発、ハカマロールの有効活用や普及促進について検討を進めてまいります。さらに、２年連続Ａ５ランクを獲得している肥育事業を継続することにより、徳之島町産黒毛和牛の能力・品質の高さをＰＲし、子牛セリに係る購買者誘致を図るとともに、「徳之島牛」のブランド化へ向

けた取組を推進いたします。

担い手及び就農者の育成・支援については、農地の適正利用についての継続的な話合いを行い、それに基づいた地域計画の策定推進や新規就農者育成総合対策事業により、就農促進のための取組を支援いたします。

食育及び地産地消については、徳之島町食育推進計画を基に、各ライフステージに応じた料理教室や講演会、農業体験などを実施することによって、住民の意識を高め食生活の改善や地産地消等に関心を持ち、食育を通して心と体が健やかになれるように、食育関係組織と連携し推進してまいります。

鳥獣被害防止対策では、令和２年度から補助金を活用して捕獲活動を強化したことにより、農産物被害面積が減少したことから、引き続きＩＣＴ機器を活用した効率的な捕獲活動を推進していくほか、耕作放棄地の解消などを関係機関と連携し農家へ呼びかける「寄せ付けない」取組や、既設侵入防止柵の維持管理を徹底する「侵入を防止する」取組などを一体的に行い、農産物の安定的な生産を維持します。

水産業の振興。

水産業については、離島漁業再生支援事業を活用することにより担い手の育成や支援を行い、離島漁業の再生に向けた種苗放流や藻場造成等、「漁場の生産力の向上に関する取組」や「漁業の再生に関する実践的な取組」を支援いたします。地域の漁業活動を支える第１種漁港においては、機能低下した各施設の保全対策向上を引き続き実施いたします。さらに、老朽化した漁協施設を、競り市場・食堂・物産展示場などを備えた複合施設として建て替えの検討も進め、安心・安全で効率的な漁業活動の支援及び水産業の振興を図ります。

商工業の振興。

商工業の振興については、地元中小企業の経営支援を目的とする商工会育成事業やプレミアム商品券の発行に対する助成を継続することで、地域活性化につなげます。また、農林水産物等輸送コスト支援事業の継続と拡充、町総合食品加工センター「美農里館」並びに島内事業者の徳之島産の農産物を利用した加工品等のＰＲを島内外に実施し、商品の販路拡大につなげます。また、12月に完成予定の道の駅「とくのしま」管理者と「美農里館」、ふるさと思いやり応援推進室が連携を密にすることで売上げの向上を目指します。

観光の振興。

観光施設等の整備については、令和５年度の闘牛との触れ合い体験が安全に行えるよう、花徳闘牛場牛ふれあい広場を整備しました。また、観光振興については、世界自然遺産に登録された自然資源の保全と活用が可能なガイドの育成・支援を継続的に実施いたします。観光関係団体と連携した観光案内を実施し、見る観光から体験する観光メニューの構築や、「食」に関する取組に重点を置き、食を通じた徳之島の魅力を発信します。また、首都圏の郷土会と連携

を図り、島ゆかりの方々を対象としたツアー企画等を通じ、交流プログラムの構築に取り組みます。

昨年10月には、プロジュニアサーフィンアジア大会が花徳浜で開催され、ライブ配信によって全世界へ発信いたしました。今年の12月には、道の駅「とくのしま」並びに世界自然遺産センターがオープン予定であります。道の駅が観光の拠点となるよう、オープニングイベントや季節ごとのイベントを企画・開催し、町公式のＳＮＳ等で情報を発信することで、徳之島の認知度向上に努めます。

新たな産業創出と雇用の確保。

島外企業や島内企業、事業者との「共創」を生み出すために整備した「みらい創りラボ」井之川を活用し、テレワークやワーケーションを推進することにより、しごとの創出・ＩＣＴ人材の育成を推進いたします。

令和５年度に実施した、「わっきゃぬシマさばくり事業」は、新たな産業創出や雇用の確保、人材育成等、民間事業者からの独創的なアイデアや、すでに有する資源等に基づく提案への資金援助等を実施し、シマおこしへのチャレンジを支援することを目的とした事業であります。この事業により９事業が新たな取組に着手しており、今年度も継続することで、様々なことにチャレンジできる機運を醸成してまいります。

ふるさと納税の推進による地域活性化。

ふるさと納税の市場は年々増加傾向にあり、全国の自治体が返礼品に力を入れています。本町においても、徳之島ならではの返礼品を取り入れることにより、寄附件数は増加しております。

昨年10月に制度の見直しがあり、返礼品や経費割合など難しい部分も増しておりますが、本制度を最大限に活用し、全国の皆さんに本町の“想い”と魅力ある特産品のＰＲに努めます。特にふるさと納税の「使い道」で選ばれる自治体を目指すために、寄附者の皆様へふるさと思いやり基金の活用事例をしっかりと報告し、ふるさと納税によって地域が元気になっていることを実感していただける取組を推進してまいります。

支え合いで、だれもが幸せ感じるまちづくり。

子育て支援・児童福祉の充実。

就労形態の多様化等による保育所利用ニーズの増加に応じ、延長保育・病児保育・一時保育事業・放課後児童健全育成の促進等、保育のサービスの充実に努めます。

また、ファミリーサポートセンター事業や地域子育て支援拠点事業等、地域における子育て支援事業の充実や出産祝金事業の継続など、子育て家庭が安心して子どもを産み育てられる環境づくりを推進いたします。

障害者福祉の充実。

障害者福祉の施策については、「障がいのある人もない人も、共に生きる島づくり」を基本理念に、基本計画の推進や目標の達成に向けて、徳之島地区地域自立支援協議会と連携を図りながら「安心して生活できる支援体制づくり」、「自立と社会参加の推進」、「人にやさしい地域社会づくり」等の障がい者のニーズに応えられる相談支援事業体制の構築に努めます。

健康・医療の充実。

第３期徳之島町データヘルス計画【令和５年度改定】に基づいて、特定健康診査の受診率並びに特定保健指導の実施率向上に努めるとともに、生活習慣病の発症予防や重症化予防に取り組みます。また、町全体で健康づくりに取り組みやすい環境整備し、自分の健康は自分で守るという健康意識を高め、健康増進に積極的な町民が増えるよう、元気なまちづくりを目指します。

高齢者福祉・地域福祉の充実。

高齢者や障がい者ができる限り健康を維持し、住み慣れた地域で元気に暮らし続けることができるよう、介護予防の充実を図るとともに、必要に応じて宅配給食や介護支援など様々な面から生活を支えるように支援いたします。また、ボランティアポイント事業を推進し、従来から行われている地域での見守りや支え合いを活性化してまいります。さらに、社会福祉協議会や医療・介護の関係機関と連携を図り、各種相談に総合的に対応した地域包括ケアシステムの構築を推進いたします。

包括的支援事業では、近年、権利擁護・成年後見制度利用に関わる相談が増加していることから、介護福祉課を成年後見制度に関わる「中核機関」として位置付け、後見制度に関する周知や相談対応、受任者調整などの機能を担ってまいります。また、元気な高齢者が自らの経験を活かし地域社会の担い手として活動できるよう、シルバー人材センターの活動支援を行い、雇用の場の確保や生きがいづくりの推進、人員の増加を図ります。

豊かな自然を守り、快適な魅力あるまちづくり。

自然環境・生態系の保護・保全。

固有種や希少種の生息環境の保全のための外来種駆除や盗掘盗採パトロールの継続、生物多様性の象徴であるアマミクロウサギのロードキル対策の推進を図ります。昨年は、ふるさと納税活用事業により、道路に注意喚起の看板や減速帯を設置しました。また、自然保護に対する地域全体での意識醸成として、次世代を担う子どもたちへ自然と触れ合えるイベント等を実施し、環境教育を推進します。さらに、今年度オープン予定の徳之島世界自然遺産センターにおいては、島民のみならず観光客の利用により交流人口の増加も予想されることから、国立公園の目的である「保護と利用」に取り組み、徳之島全体の振興を図ります。

循環型社会の推進。

再生可能エネルギーの利用促進として、「徳之島町地域脱炭素戦略ビジョン」に基づき、地

球温暖化防止に向けて、太陽光発電やバイオマスエネルギーなどの再生可能エネルギーの活用について検討を重ねます。

徳之島町浄化センター内で処理している下水道・浄化槽汚泥及びし尿については、堆肥化施設を有効活用した新たな堆肥の開発・製造に取り組み緑農地還元を行うことにより、循環型社会の構築を推進いたします。

林業の振興。

本町の森林には、世界自然遺産登録を受けた国立公園に属する地域もあるため、自然環境に配慮した森林の計画的な育成・間伐などを推進していく必要があります。今年度も引き続き、国・県事業を活用した適切な森林整備を行い、森林の持つ公益的機能の維持増進を図ってくほか、各種事業及び森林環境譲与税を活用した若年層などへの木育活動を推進し、林業の振興につなげていきます。また、町内における松くい虫被害は終息しつつあり、幹線道路沿線の過年被害による枯損木の除去がほぼ完了したことにより、倒木による人的被害や人家の損壊被害の未然防止につなげました。本町の公共施設や観光地などの保全すべき松は、定期的に薬剤の樹幹注入を行うなど、将来にわたり維持保全に努めます。

地域情報化の推進。

行政情報や地域情報などの発信については、町公式ウェブサイトの最適化、ＳＮＳ・ネットテレビやＦＭ放送局の開設等の情報通信ツールについて、最も効果的な方法を検討した上で実施することにより、地域コミュニティの活性化及び地域情報発信の充実を図ります。また北部地域においては、道の駅「とくのしま」を拠点として、道路・観光情報の発信機能を整備し、交流人口の拡大による地域振興に加え、多様な情報発信ネットワークの確立を目指します。

公園緑地の整備。

平成30年度から実施している都市公園長寿命化事業により、今年度は総合運動公園プール施設や多目的広場施設の改修工事を実施し、利用者が安全に安心して利用できる公園施設の整備を推進します。その他各公園についても遊具の点検や安全管理に努めることにより、町民の健康づくりを支援いたします。

住環境の充実。

公営住宅。

公営住宅整備事業では、尾母４団地の木造平屋２棟４戸の建て替え事業を実施し、世代のニーズに対応した住宅の整備を行い、安全・快適に生活できる住宅の確保及び住環境の向上を図ります。

住宅リフォーム助成事業では、民間住宅リフォーム資金助成を行い、住宅の長寿命化、質の向上、地域経済の活性化を図ります。また、空き家活用セーフティネット住宅改修事業で２件の民間住宅改修資金助成を行い、住宅確保要配慮者の民間住宅への入居の円滑化に努めます。

公営住宅等ストック総合改善事業では、港ヶ丘団地１棟４戸・集会場・電気室・プロパン庫・受水槽・ブロワ庫・九年母団地１棟２戸・プロパン庫の外壁改修工事を実施し、建物の老朽化や劣化による事故等を未然に防ぐとともに質の向上を図ります。さらに、公営住宅等長寿命化計画を見直すことで、公営住宅ストックの効率的かつ円滑な更新を実現するために必要な公営住宅のストックの長寿命化及びライフサイクルコストの縮減を図ります。

ごみの減量化。

３町において共通の課題は「ごみの減量化」であり、引き続き燃やせるごみに含まれている再利用可能な資源ごみの細分化による「再資源化可能なごみの排出量調査」や生ごみの堆肥化等、減量化に向けて取り組みます。

北部地区。

令和３年度に実施した空き家活用計画を基に、今年度は貸主の普及啓発を強化するとともに、借手へのアプローチとして「ルーツを探る旅」等を実施いたします。また２世・３世の方々への情報を発信することにより空き家の活用につなげます。

12月には、北部地区のにぎわい創出を図ることや本町全体の交流人口拡大へと繋げることを目的とした道の駅「とくのしま」のオープンを予定しており、施設を管理する団体と連携を図りながら、地域資源を活用した物産や郷土料理・体験プログラムを構築し、管理運営に対する人材育成・雇用促進などに取り組んでまいります。

学び合い、育て合い、笑顔きらめく社会づくり。

生涯学習・生涯スポーツ活動の振興。

スポーツに関わることで競技の楽しさや感動を味わい、生涯にわたり健康で活力ある生活の実現を目標に、鹿児島県が策定した第２期マイライフ・マイスポーツ運動を展開します。主な取組といたしまして、普段スポーツを行わない方も運動を行うきっかけとなるスポーツイベントの開催、各種ＳＮＳや広報紙等による積極的な情報発信を行うなど、スポーツを「する」「みる」「ささえる」といった多様な関わりを通じ、心身の健康の保持増進をはじめ、地域社会の活性化に寄与してまいります。また、各種合宿の受入れ活動や各種大会の企画・運営を行い、交流人口の拡大に加えて、競技力の向上と人材育成に取り組みます。

青少年健全育成の推進。

青少年育成については、本町の子宝を大切にする風土を生かし、「地域の子どもは地域で育てる」環境づくりを推進し、青少年の地域行事への参加促進を図ります。ジュニア・リーダークラブでは、子どもたちの資質向上のための研修や交流活動を通して、地域活動を自主的に行うリーダーの育成に努めます。芸術文化活動では、子ども芸術鑑賞事業として、小学４年生以上を対象に劇団四季「こころの劇場」を鑑賞してもらい、普段見ることのできない生の舞台芸術に直接触れることで、創造性と心の豊かさの育みに寄与しています。また、中学生には文化

庁の舞台芸術等総合支援事業を活用し、音楽・演劇・舞踊・伝統芸能といった幅広い分野の芸術鑑賞を実施いたします。この２つの事業に加え、とくのしま劇団事業を実施し、子どもたちの情操教育並びに健全育成に取り組んでまいります。

郷土文化の継承・活用。

町誌編さん事業で収集した古写真など、各種資料の整理・保管、デジタル化を進めます。内容としては、文化財保護審議委員や教育機関、町民などと連携し、更なる資料の収集・保管ができるように努めます。また、町で記録している映像資料などをデジタル化し、デジタルアーカイブとして広く町民が視聴できるよう環境整備を進めます。

指定文化財を適切に保存・管理できる環境を整え、修復が必要なものについては、補助金などを活用し修復に努めます。未指定の文化財については、調査を行い文化財指定等について審議してまいります。今年度は、文化財修復に関する講演会を開催し、文化財保護への関心を深められるよう努めてまいります。

男女共同参画社会の推進。

男女が互いに人権を尊重し、性別にかかわらず一人ひとりが個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会の実現を目指します。昨年３月に「第２次徳之島町男女共同参画基本計画」を策定いたしました。一人でも多くの町民に理解してもらうため、町広報紙やパンフレット・ポスター等で啓発を行うなど着実な施策の実施に努めます。

安全・安心で持続可能なまちづくり。

計画的な土地利用の推進。

計画的な土地利用の推進については、公共事業・災害復旧事業などを円滑に進めることができるように地籍調査を実施し、土地境界の明確化に努めます。農地においては、遊休農地の改善を図ることにより優良農地の確保に努めます。また、将来にわたって適切な農地利用を図るため、農地中間管理機構を活用して担い手や新規就農者等に集積を図ります。

乱開発や無秩序な土地利用防止においては、国土利用計画法に基づく土地売買等届出制度により、土地取引という早期の段階から適正な土地利用がなされるようチェックすることで、快適な生活環境や暮らしやすい地域づくりを推進します。

道路・交通網の整備・充実。

社会資本整備道路事業として、亀津19号線道路拡張工事のための用地買収や建物補償を進めます。また、通学路や生活道路等についてはゾーン30整備事業を活用した整備を進めます。橋梁については、橋梁長寿命化計画に基づいて橋梁点検を行い、補修が必要な橋梁の補修工事を実施します。その他路線も各種事業を実施することにより、広域圏交通のネットワーク形成と市街地交通網の円滑化を促進いたします。

交通安全の推進。

交通事故多発箇所及び危険箇所については、十分な検証を行い、カーブミラーやガードレール、道路の区画線・路面表示、警戒標識などを整備し、安全で安心な交通環境の充実を図ります。

上下水道の整備。

令和３年度から実施している亀津浄水場更新事業については、今年度完成予定であります。令和７年度から稼働を目標として、引き続き安全な生活用水の安定供給に努めます。

下水道事業については、下水道整備による快適な生活環境づくりや河川・海域の水質汚濁防止を目的とした、管路工事の実施を亀津南区・東区周辺で行います。下水道区域外では、汲み取便所から合併浄化槽への改修や、単独浄化槽から合併浄化槽への転換等の普及啓発に努めることにより汚水処理人口普及率の向上を図ります。また、今年度より地方公営企業法適用会計へ移行するため、下水道施設を適切に維持するための財務情報を整理し、経営の効率化・健全化に努めてまいります。

地域防災、消防・救急の充実。

多種多様な災害が発生する中、地域は自分たちで守るという隣保協同の精神と連帯感に基づく地域ぐるみの住民の自主的な防災組織が必要なため、災害発生初期等における情報連絡、避難誘導、救出・救護、初期消火等が行える地域住民による自主防災組織の育成、強化を図ります。また、災害に強いまちづくりを推進するため、災害情報配信のシステムの登録を促進するとともに、テレビのデータ放送やＸ・ＷＥＢ防災マップ等、ＳＮＳを活用した迅速かつ確実な情報提供を図るなど、さまざまな情報伝達手段の充実・強化、啓発に努めます。さらに、避難場所への公衆トイレの設置を進めるとともに、災害発生後に必要な備蓄用の食料品や消耗品を確保するなど、避難設備の整備を進めていきます。

消防については、老朽化した消防車両の更新や消防団車庫の整備を実施するとともに、高度で専門的な知識・技術を備えた救助隊員の育成に努めます。

絆を育み、ともに考え行動するまちづくり。

行財政運営の効率化。

徳之島町行政改革大綱を基に、中期的な視点と目標を持って財政の健全化をはじめとする、効果的・効率的な行財政運営に努めるとともに、次世代につながる町民サービスの向上に努めます。また、各種事業を実施する中でＰＤＣＡサイクルによる見直しを行い、町民のニーズに対応した費用対効果の高い事業を推進いたします。自主財源確保に向けた取組といたしましては、各種税のコンビニ収納や電子決済サービスによる時代に即した納付環境を整備し、納税者の利便性への向上、収納業務の効率化及び収納率の向上につなげます。

また、東天城中学校建設や観光拠点整備事業、今後も大型事業を控えており、補助金や交付税措置がある有利な地方債の活用を検討し、財政負担の軽減を図ります。

広域連携の推進。

今年２月に策定した「奄美群島成長戦略ビジョン2033」では、前ビジョンの基本理念である重点３分野（農業・観光／交流・情報）を継承しつつ、新たに３つの柱（つなぐ宝、稼ぐ力、支える基盤）を基軸とした自然や文化を守り受け継ぐとともに、仕事の創出に重点を置いた産業振興を目指すために、奄美群島広域事務組合を中心とした12市町村の広域連携を図ってまいります。

むすびに。

現在、本町においては新型コロナウイルス感染症が季節性インフルエンザと同じ「５類」に引き下げられたことに伴い、徐々に各種イベントが開催できるようになりました。

昨年７月には「新庁舎落成式及び祝賀会」、その後も奄美群島日本復帰70周年記念事業を冠に、町民体育祭やどんどん祭り、日本復帰記念式典や朝潮記念館落成式など、数々のイベントが盛大に行われました。久しぶりのにぎわいや先人の日本復帰への弛まぬ努力と思いなどを町民の皆様と分かち合えたことは感慨深いものでした。各種イベントの開催に御尽力いただいた関係者の皆様、実行委員の皆様、また御協力をくださった町民の皆様に深く感謝を申し上げます。

「奄美群島振興開発特別措置法の一部改正する法律案」は、今年２月９日に閣議決定されました。これからの奄美群島がさらなる発展を遂げるためには、交付要綱の条文を改正していただくことが必要不可欠と考え、国への要望等を行ってまいりました。

主な内容は、農業の振興について、「農業の生産性の向上に関する事業」を「農林水産業の振興に関する事業」への改正、さらに現行の「人材の確保及び育成等に関する事業」の組替えによる「教育及び文化の振興に関する事業」の追加、そして、沖縄県との連携強化を含めた各種制度の拡充などであります。

農業の振興に係る支援の拡充については、化学肥料や薬剤に頼る農業から農地の地力向上に資する取組、更に環境に配慮した１次産業の構築いわゆる環境支払等の必要性を伝えるとともに、新たに「農産物の流通効率化に資する事業」や対象地域（沖縄県）との拡大、「家畜排せつ物の堆肥化促進に資する事業」などの支援の拡充に取り組みました。

人口減少対策では、「関係人口の増加を図る支援」の拡充や、「移住・定住促進住宅の整備等に関する事業」の追加、教育及び文化の振興においては、将来の担い手は子どもたちであり、その教育環境の構築は最重要課題と考えております。未来人材に求められるものは大きく変わることが予想され、問題発見力、的確な予測、革新性、つまりは新しいもの、サービス、方法等を作り出す人材が求められることになります。そのためにも、学校教育と連携をしたＩＣＴを活用した新たな教育環境の整備やオンライン化の推進、歴史・伝統文化のデジタル化など「教育の充実及び文化の継承に資する事業についての支援」への組替えに取り組み、また製造

業の振興に関する事業では、「奄美群島の特性に応じた製造業の振興に関する事業支援」への組替えや、新たに「観光消費の促進やデジタル技術等を活用した事業が特定配分事業に追加」されるよう努めてまいりました。

奄美群島振興開発特別措置法の５年間の延長は、10年後の豊かで住みよい活気にあふれたまちづくりの貴重な財源であり、奄美群島成長戦略ビジョン2033の実現に向けて、拡充された制度を最大限に活用するために、４月から地域座談会を実施します。地域座談会におきましては、多くの地域住民の参加を呼びかけ、忌憚のない御意見・御提案をお聞きし、全課において共有・対応してまいります。地域の課題を行政の課題と捉え、常に「計画」「実行」「評価」「改善」のプロセスであるＰＤＣＡサイクルを意識しながら行動し、課題解決及び地域活性化に向けた取組を進めてまいります。

世界自然遺産登録や今回の奄振法の延長及び拡充は追い風となりますが、飛び立つための向かい風は自ら構築する必要があります。成功事例をつくること、またチャレンジ精神を持つこと、しっかりと責任を持って効果検証を行うことが重要だと考えます。強風が吹いたときに、壁を作る人もいます。また、風車を作る人もいます。地域振興とは、日々変化する情勢に的確に対応することが求められます。

最後に、本町花徳に建設中の観光拠点施設が、２月16日に道の駅「とくのしま」として登録されました。この道の駅を拠点とした、北部地域の活性化と新たな滞在型・着地型観光プログラムづくり、デジタル技術や最先端技術を使った新しい観光メニューの構築、町の特産品・加工品の販売、イベントの開催など夢は膨らむ一方であります。

「Ｗｅ’ｒｅ　ＯＰＥＮ～みらい輝くとくのしま町～」の実現に向けて、失敗を恐れず、あらゆる課題にスピード感を持って「挑戦」し、「努力」し続ける姿勢が大切であり、その想いが後輩へと引き継がれることが実現への大きな原動力になると信じております。

以上で令和６年度の行財政運営における基本的な考え方を申し上げました。

町民の皆様並びに議員各位の御理解と御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。ありがとうございました。

○議長（行沢弘栄君）

以上で施政方針説明を終わります。

しばらく休憩します。11時５分から会議を開きます。

休憩　午前１０時４９分

再開　午前１１時０５分

○議長（行沢弘栄君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

△　日程第６　一般質問

○議長（行沢弘栄君）

日程第６、一般質問を行います。

福岡兵八郎議員の一般質問を許可します。

○１４番（福岡兵八郎君）

おはようございます。14番福岡兵八郎です。

先ほど、町長をはじめとする全職員の英知を結集した施政方針が、高岡町長、元気よくやる気満々で説明がございました。

事務局からこの施政方針を送っていただいて受け取ったときに、元旦の朝を迎えたような気持ちでありました。いよいよ令和６年度、これでスタートするんだという気持ちで３回拝読をいたしました。この中身の濃い一般質問において、この施政方針の順番に取り上げられている事業をお尋ねいたしますけれども、質問に入る前に、議長の許可を得まして、少し時間を頂きます。

まず、町長からもございましたが、令和６年１月１日午後４時10分頃に発生した石川県能登半島の巨大地震、または１月２日の羽田空港での航空事故によって亡くなられました方々のお悔やみを申し上げ、御冥福を心からお祈り申し上げますとともに、被災された多くの方々にお見舞い申し上げます。2011年（平成23年）の11月18日午後７時頃に、我が集落で起きた急な竜巻によって貴い３名の命を失った悲しい出来事が昨日のように思い出されます。一日も早く復旧されて、元の安全で安心な生活に戻られることを心から御祈念申し上げます。

さて、最近知り得た情報の中で３点ほど心に留まっておりますので、今年１年、よく調べて勉強しないといけないなと思う点がございます。

１点目は、コロナ対策におけるワクチンについてであります。

予防接種法で接種を推進しているわけでありますけども、副反応よりもそれを上回る効果があるということでワクチンの接種、保健センターからよく通知が来ますけれども、３回打ってもコロナにかかったりしております。打った後、ふらふらしたり、熱が出たりとかあります。ドイツのファイザー社、アメリカ、ノババックス、アメリカとイギリスの共同開発したモデルナ社の開発したワクチンでありますけども、これが本当に健康な細胞に影響ないのか、発がん性ではないのか、マイクロチップは入っていないのか。みんな番号があるわけですので。その辺のところをしっかりともっと勉強する必要があるなと思って、今年の勉強の課題の一つにしております。

２番目においては、地球温暖化についてであります。

鹿児島での議員研修においての講演の中でありますが、2050年に0.007度平均気温が上昇しますよと、また、過去30年で横綱級の台風は来ていませんよと過去の気象データを基に説明が

ありました。地球温暖化はあまり騒ぐなという意味でありますけれども。どういう情報を信じて私たちは活動の指針にすべきなのか、これもまた勉強しなければなりません。

それから３番目には、食料供給困難事態対策法案についてであります。

政府が米、麦、大豆、食肉等について供給目標を設定し、農家に増産計画の届出をするように指示ができる、従わない場合は20万円以下の罰金を科するとの内容であります。５年ごとに改定される食料・農業・農村基本法との併せ法案として、自民党から今国会で提出されるようであります。

振り返ってみますと、2000年に地方分権一括法が制定されました。国の権限を地方に移譲して、国と地方は対等の関係を構築するはずということでありましたが、先ほどの本案では、指示して聞かない場合は罰金を科するという国からの強力な圧力であります。こういうことについて、私たち地方議会人としては傍観するわけにはいきません。

以上の３点を、今年１年、最重点項目としても勉強し、研究してまいりたいと思っております。

では、14番福岡が通告の４項目について質問いたします。町長並びに主管課長の明快な答弁をお願いいたします。

ただいま町長から令和６年度施政方針が述べられましたとおり、各事業についてお伺いしたいと思います。新規事業もあれば、既存の事業もあるわけですが、各課の課長の皆さんは自分の課の一応ＰＲも兼ねて町民の皆様を前に行政報告をしているんだという観点と、もう一つはカメラの前で全世界に発信しているんだよということも心に置いて、そして、この場で言えること、言えないことがあろうかと思いますので、その辺はお任せいたします。大変尊敬できる課長の皆様でありますから、その見識にお任せいたしますので、どうぞよろしくお願いしたいと思います。

まず、１番目であります。幼児・学校教育の充実の項目で、教育推進事業、幅広くいっぱいしております。それから、海外派遣事業について、その内容と目指すものは何なのか。

そして、施政方針で最後のほうでありましたＰＤＣＡ（Ｐｌａｎ、Ｄｏ、Ｃｈｅｃｋ、Ａｃｔｉｏｎ）、どの時期にどのメンバーでされるのか、評価ですね。今、検討中であれば検討中で結構でありますので、よろしくお願いしたいと思います。

○議長（行沢弘栄君）

福岡議員、各課長が答弁するんですけども、どの分野ということで、この施政方針の順番でいいですか。その都度言ってもらわないと、どこが答えるか、ちょっと。

○１４番（福岡兵八郎君）

今、言ったじゃないですか。教育推進事業と海外派遣事業について、まず説明を。

○議長（行沢弘栄君）

今後の進め方ですけれども、その進め方のときに、福岡議員のほうから施政方針の項目ということについて課長に問うわけですね。

○１４番（福岡兵八郎君）

はい。

○議長（行沢弘栄君）

分かりました。

○学校教育課長（太　　稔君）

福岡議員の御質問にお答えいたします。

学校教育課の主な事業及び令和６年度の新規事業は、東天城中学校建設で外構整備工事、旧校舎解体工事、管理業務委託、備品購入、継続事業で学校新築工事です。令和６年度の事業費は総額で７億165万円になります。

次に、母間小学校体育館床改修工事及び管理業務委託、総額で1,188万円となります。

この後は、事業名と事業内容を答弁いたします。

まず、進学塾です。中学３年生を対象に、９月から２月末までの期間、高校受験に特化した内容の授業を週２回、全44コマ、島外の学習塾に委託しオンライン学習塾を開講いたします。また、受験生の学力の推移を図るために、８月と12月に鹿児島県統一模試を実施いたしております。

次に向学塾、夏休み期間中、毎週火曜日と木曜日に全10回、生涯学習センターの２部屋を借りまして自主学習スペースとして開放いたします。また、保護者、教員に向けて講演会を行い、学校、保護者と連携して児童生徒の学力向上を図ります。

次に特別支援体制業務委託、支援を必要とする児童の学校生活での医療的ケアを充実するために、看護師を確保いたします。

次に各小学校へのデジタル教科書購入、教員の指導用として全学年に全教科を整備し、学習の向上を目指しております。

次にＯＩＳＴ（沖縄科学技術大学院大学）との交流、未来の夢実現へ向けて、グローバルな視点から、島でも世界で活躍できる人材の教育を目指し、ＯＩＳＴの科学者の出前科学教室やＯＩＳＴでのミニ講座、見学等を実施しております。また、ＯＩＳＴの学生の８割、また教員の６割は外国人が占めており、学内で使われている公用語は英語です。また、研究レベルは世界のトップレベルの大学院です。

次に、われんきゃポイント事業、幼稚園年長対象児童から中学生までの児童生徒の活動として、町のポイント対象イベントへの参加、コンクール等への応募、各年児童生徒に応じた生活習慣取得の取組、各種検定試験等の合格に対してポイントを付与します。

また、家庭での絆づくりや家庭教育力の向上や健康づくりが事業の目標の一つとなっており

ますので、家族での取組につきましてはポイントを増加して加算しております。また、取得したポイントを商品券に交換して町内の店舗で利用できるようにすることで、子育て世代の家庭教育を応援するための事業となっております。

次に、海外語学留学事業です。本町の高校生が、これまでの培った語学力やコミュニケーション能力が海外で適用できるか試みを目的として、実際に海外へ行き、語学留学や生活体験をする語学留学制度事業を実施しております。語学能力にとどまらず、コミュニケーション、チャレンジ精神、新しいものに興味を持つ柔軟性、家を離れて過ごすことによって生まれる精神力などを身につけ、グローバル社会を活躍する町の人材を育成することを目的としております。

現在、町内の人口減少に伴い高校生の人数も減少する中で、毎年一定数が島外の高校へ進学しております。故郷で過ごす残り少ない、高校生活を保護者の十分な支えの中で過ごしながら、人生を生き抜く力を身につけ、人生の挑戦を育むことができる環境を整備するのも必要であります。そのために、中学生が島内の高校へ進学したいという思いを持たせるために、島内での高校生活の魅力を増し、高校生の努力や挑戦を認めて応援することが必要だと考えております。子どもたちが徳之島での生活の中で夢を持ち続け、広い世界に視野を向け、興味や意欲を湧かせることが必要であります。

本事業に参加するには一定以上の語学力が必要です。そのために、中学生のうちから学習を習慣化する、英語検定に挑戦する生徒が増える可能性があります。また、島内の高校へ進学する生徒が増える可能性を秘め、町内の児童生徒の学力の向上につながる可能性があります。

以上が主な事業並びに新規事業となります。

以上です。

○１４番（福岡兵八郎君）

ありがとうございます。すばらしい事業がいっぱい取り組まれるということ、町民の皆様がこれを聞きますと非常に喜んでいただけると思います。

この項目の中で発達支援というのが出てくるんですけども、赤ちゃんを産むと、へその緒がありますよね。消費者代表の皆様とか意見交換の中で、今の食生活、食品添加物、残留農薬、化学薬品で、母親の体からへその緒に240種類ぐらいの化学薬品が検出されているというわけです。そうしますと、子どもが学校行きだしてからアトピーになったりとか、体のトラブルが出るのは当たり前なんです。

ですので、母親がやはり食育研修というか、勉強してもらって、その辺の生活の中で化学薬品を排除するような、そういう育成といいますか、それもやはり来年辺りは取り入れていただければなと思っております。これは要望になりますので、よろしくお願いしたいと思います。

２番目は農業振興でありますが、ここには６つ取り上げてありますので、順番に、町民の皆様に分かりやすいような内容で結構でありますのでよろしくお願いします。

まず１番、ストックマネジメント事業、優良雌牛自家導入事業、これも非常に歴史が長いわけですけれども、畜産クラスター事業、畜産振興事業、畜産基盤総合再編整備事業、新規就農者育成総合対策事業、この６つ、順番にお願いいたします。

○耕地課長（水野　毅君）

お答えいたします。

ストックマネジメント事業なんですが、これは県のほうの基幹水利施設整備事業となっております。令和６年度につきましては、第２神嶺地区におきまして、神嶺ダムの更新事業で仮設備、仮ポンプ設置の事業を実施してまいります。予算につきましては、令和６年度は全体で3,200万円を予定しております。

以上です。

○農林水産課長（高城博也君）

お答えいたします。

まず、優良雌牛自家導入事業につきましては、自家保留牛に関して、１頭当たり10万の補助金を出しておりまして、従来からやっておりますので、今後も継続していく事業であります。

畜産クラスター事業につきましては、内容によっては町を経由してやるふうな形もありますけれども、基本的には農家が直接機構側のほうの事業を導入してやるような事業で、計画の段階で町のほうを経由してやっていくというふうな形でやっております。

畜産振興事業につきましては、数年ほど前から、簡易的な機械、施設、設備を畜産の農家に、小頭農家等に、なかなか設備が拡充できないということで、つなげる意味で新たに町単独でやっております。昨年は自走式のモア等も対象にしておりますので、またそれを継続していくということであります。

畜産基盤総合再編整備事業につきまして、これも団体等の事業でありまして、町を経由して承認を頂きます。大島地区の段階で、いろいろ、かなりの規模、大規模農家、畜産農家を対象とした事業であります。土地基盤整備と畜産整備、土地基盤のほうが大きければ機械等の導入等も対象になるという事業でありまして、これも数年ほど前からずっと継続してやっていく事業でありまして、町を経由して申請というふうな形になっている。

続きまして、新規就農者育成総合対策事業、これにつきましては、従来から町のほうから申請を上げている次世代の就農資金になりまして、これを新たな名称で継続してやっていくということであります。

以上です。

○１４番（福岡兵八郎君）

ありがとうございます。

この項目では２点ほど、これまた要望ですので、後、調べておいていただきたいと思います。

神嶺ダム、これが大分堆積、対処はしていると思うんですが。当初計画どおり、今も貯水量があるというような話なんですけれども。

その調べ方が、その下の泥もそのまま水になっているんじゃないか。水という基準で、堆砂だけども水だというような調査しているんじゃないかなと思うわけです。ですので、これが、本当に水量が減ってきて、畑かんと生活用水に使っていくわけですが、これがもう、前にもう一つこのダムを造るべきだという要望したことがございますけれども、計画して使えるまで15年かかってるわけです。ですので、水問題、非常に大事ですので、神嶺ダムがもしトラブルあったときにはすぐ切り替えられるように、その準備を今からすべきじゃないかなという、一般質問でも要望したことがございますけれども、その辺のところをよく調べていただくということと、ダムを造ったときと、あの周囲、牛舎とか果樹農家とか、その辺の除草剤いろいろ使ったりとか、そういうのがないのかどうか、環境問題ですよね。それもよく、しっかり調べておいていただきたいと思います。

それから、畜産振興事業においてですけども、今、牛舎が何軒、町内あるか分かりませんが、ずっと回ってみますと、もう、し尿が垂れ流しでそのまま側溝通じて川に流れているところがいっぱいあります。その問題はどう考えておられるのか。

特に、私は徳之島ダムについては再三言っております。伊仙町でも天城町でも言っておりますけれども、三京ダムのし尿がそのまま川に流れて、そのまま徳之島ダムに流れている、大雨が降った翌日は川がコーヒーの色になっていますよと何度も言っていますけれども、どこでも問題になっていないというのが私は非常に怖いんですが。これはすぐ、予想以上に早く問題が出るんじゃないかなと。

全国、国がダムを造る、後は地元自治体で運営してくださいと投げかけてやってきているんだけれども、そういうところもほとんど今、問題、トラブルが出ているわけです。私たち徳之島においては、600億投じて国が造ってくれたのはありがたい。水問題で、恐らく農業は変わるだろう。高知県の耕地面積と徳之島の耕地面積は一緒なんですが、高知県は540億ぐらいですよね、産出額が。徳之島は130億ぐらいですかね。同じ面積がありながら、それぐらいの差があるわけですので、このままでは農業後継者が育成難しくなってきますから、時代とともに農業も変わっていかなければいけない。

先ほどおっしゃっていましたけども、さとうきびも10トンは十分取れる、そういう技術を構築し、やはり4,000ヘクタールはさとうきびでちゃんと作っていく、あと飼料畑と園芸作物等含めて6,880ヘクタールをどのように作っていくかということ、今後の課題だと思いますけれども、その辺の問題をまた調べておいて、今日の段階ではお答えは難しいと思いますので、機会を改めてまた取り上げたいと思いますので、よろしくお願いしたいと思います。

３番目、水産業の振興、離島漁業再生支援事業についてお願いいたします。

○農林水産課長（高城博也君）

離島漁業再生支援事業につきましては、こちらのほうに従来から行っている事業であります離島漁業の再生に向けた種苗放流、スジアラ等のあれと藻場再生事業のほうをメインで行っておりまして、漁場の生産力の向上に関する取組であります。

以上です。

○１４番（福岡兵八郎君）

藻場の再生事業、これは、今、海の汚染状況はどうなっていますか。例えば赤土流出とかによって計画どおり行かないとか、問題は出ていませんか。

○農林水産課長（高城博也君）

お答えいたします。

詳細については調査不足であれなんですけれども、報告では、なかなか藻場の再生がうまくいかないというふうな、ここ数年やっておりまして。これは汚染ばかりでなく、温暖な状況が、海水温とか、そこら辺ではないかということと、以前、この事業とは関連しませんけれども、畦で一時期サンゴが白化現象を起こしたことも御存じだと思いますけれども、そういった意味で、環境がその海域についても大分変化しているというふうな報告を受けておりますので、何らかの新たな知恵をもって再生を今後も要望していきたいと思います。

○１４番（福岡兵八郎君）

ありがとうございます。後、詳しいところ、徳田漁協長がおりますので、委員会室でまたちょっといろいろ聞いてみたいと思うんですが。

大雨が降って、赤土を防止しましょうとやっていますけれども、これは今、やはり除草剤、これもなかなか、みんな、そこを使わないとキビは作れませんよということで来ていますけど。特に、24―Dというやつは、やつって失礼ですけども、あれをかけないと草は枯れないわけですが、あれは非常に分解しにくいと言われているんです。普通のは１週間ぐらいで空気と水に分解するんですけども、なかなか分解しにくい農薬が使われている。こういう小さな離島で、ずっとこれから百年の計を考えたときに、それに代わるものがないのかどうか、やはり専門家に研究してもらうということも大事だと思います。

陸と海はつながっているわけですので、その辺のところも、課長、どのような方法で。海だけじゃなくて、海に流れてくる水の元はどうなっているのか。農水ですから、関係しているわけですから、ちょうどいいと思いますけど、その辺も含めてひとつテーマとして取り組んでほしいなと思っておりますが、どうですか、課長。

○農林水産課長（高城博也君）

お答えいたします。

福岡議員のおっしゃるとおりだと思います。

ただいま徳之島町においてはオーガニックビレッジ宣言を去年やった経緯もありますし、有機農業を推進して、環境保全も同時に推進しております。そういった意味で、新たな農薬、除草剤に関しても、自然とか循環型農業を目指す上でやはりそこら辺は新たなものも考えていかなきゃいけない、自然に優しいような、そういうふうなものを考えていかなければいけないと思っておりますので、そういったものも含めて知恵をまた御教授いただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

○１４番（福岡兵八郎君）

ベテランですから、後輩のためにもひとつ礎をしっかり残してほしいなと思っておりますので、お願いいたします。

４番目が商工業の振興であります。商工会育成事業、農林水産物等輸送コスト支援事業、２つお願いいたします。

○議長（行沢弘栄君）

吉田おもてなし観光課長。

○おもてなし観光課長（吉田広和君）

福岡議員の御質問にお答えします。

まず、商工会育成事業については、この事業は商工会への育成補助金となっています。

商工会の主な活動については、活力ある地域経済の発展を目指し、小規模事業者の経営改善、地域商工業の振興・発展を図り、地域資源の活用や地域おこしの地域活性化、さらに各種イベントやボランティア活動、社会一般の福祉増進に資する事業を実施することにより、地域社会全体の振興・発展と活性化を図る取組を行っています。

次に、農林水産物等輸送コスト支援事業についてですけれども、奄美群島においては、農林水産物及び加工品を奄美群島外へ移出する場合、本土より高い輸送費を負担していることから、生産・出荷に係る輸送費を補助することにより流通条件の不利性を改善し、生産振興や産業振興を促進するための事業となっています。

以上です。

○１４番（福岡兵八郎君）

商工会も非常に幅広く、非常に活発的に活動されております。大変大事な機能でありますから、地域発展のために活躍していただきますように、応援をしていただきたいなと思っております。

この輸送コスト、品目を教えてください。

○おもてなし観光課長（吉田広和君）

お答えします。

観光課のほうでは、加工品が対象ということで、今現在、黒糖焼酎と、その原材料として瓶

のほうが対象になっています。

以上です。

○農林水産課長（高城博也君）

お答えいたします。

関連する農林水産物ということでありますんで、まず、奄振が新規になったということで、新たに先日説明会を受けております。

その中で、５項目に対象とするというふうな形で改正と同時に、先ほどの水産業に関しますけれども、水産業についても、新たなパターンといたしましては沖縄向けの、そこら辺のほうがある程度対象にもなったと。那覇港までですけれども。そういうふうになったということと、水産物に関しては、ほぼ沖縄向けに出している水産物が全て、物は確認しておりませんが、要領の中では全てほぼ対象になるということで説明を受けております。

品目につきましては、計画の段階でどれを選ぶか、また、資材費の関係にはどれを選択するかはこれからというふうになっておりますので、御理解いただきたいと思います。

○１４番（福岡兵八郎君）

沖縄との連携ですね、施政方針にもありますが。今後やはり大きな市場として、鹿児島だけじゃなくて、沖縄との連携はすごく大事だと思います。これから密接ないろんな事業展開をして、同じ南西諸島でありますから、地理的には一緒なわけですからね。ですから、やはり新しい着目、これはすばらしいことだと思います。ありがとうございます。

５番目、新たな産業創出と雇用の確保の部分から、①わっきゃぬシマさばくり、最初、僕、読めなくてね、これ。わっきゃぬシマさばくり、どんなさばくりですか。お願いします。

○企画課長（吉田　忍君）

企画課より、お答えいたします。

これ、僕も読みづらかったんですが、担当者の思いで、わっきゃぬシマさばくり事業という事業を令和５年度より実施しているところです。

こちらのほう、徳之島町で在住もしくは事業所がある方の立ち上がり、新規起業支援型、そしてもう一つがテナント等の空き家等改修型、そしてもう一つが、既に事業を展開されている方が新たな事業に取り組む事業拡大型、この３本の補助事業となっております。

参考までに、令和５年度は立ち上がり起業支援型が３件、補助金額189万円、事業拡大型が４件、450万3,000円、空き家改修型が２件、合計で160万円、補助金合計額、９件で799万3,000円、この９事業の方々が新規起業もしくは事業拡大をしているところでございます。

以上です。

○１４番（福岡兵八郎君）

これは、例えばＩターンとか、都会から来た人たちのための対象ということですよね。地元

にある人たちが事業拡大とか、そういうことではないんですか。

○企画課長（吉田　忍君）

こちらは、例えばＩターンの方が徳之島に来られて何か事業展開をしたいという場合はもちろん対象になりますが、地元の事業者さんもしくは地元の方で新規起業を始めたい、こういった方々の応援事業となっております。

○１４番（福岡兵八郎君）

ありがとうございます。末端で、これ、よく理解している人たちいるのかなと思うんですけども。またいろいろ、広報で分かりやすくしていただければなと思います。

次、支え合いで、だれもが幸せを感じるまちづくりでありますが、ファミリーサポートセンター事業、地域子育て支援拠点事業、出産祝金事業、お願いします。

○介護福祉課長（廣　智和君）

福岡議員の質問にお答えいたします。

まず、ファミリーサポート事業なんですけれども、社会福祉協議会へ委託事業としてしております。保育等、家庭でできない、保育園に預けられなくて急遽預けたいとかなると、こちらのほうで預かっている事業でございます。

また、地域子育て支援拠点事業につきましても委託料になっていますけれども、こちらも子育てとか、そういったものに困ったりとかすれば相談を受けたりするようになっております。親子ネットワークがじゅまるの家、そちらのほうの委託になっているかと思います。

それから、出産祝金につきましても、今、実績として90件前後で推移しておりまして、今年度も引き続き、90件をめどに予算を組んでいるところでございます。出産祝金は第１子が10万円、第２子が15万円、第３子が25万円、第４子が35万円、第５子が45万円、それ以上は55万円が上限になっているというところでございます。

以上です。

○１４番（福岡兵八郎君）

２番目の地域子育て支援拠点事業、これ、今、ファミリーサポートと一緒に説明されたのかな。（「そうです」と呼ぶ者あり）一緒に。（「はい」と呼ぶ者あり）そうですか。分かりました。

ファミリーサポート、社会福祉協議会の事業として、私も理事としてずっと見てきました。職員の皆さん、一生懸命頑張っております。保育所に預ける前に預かるという非常にいい機能でありますので、またこれもしっかりと社協へのサポートしていただいて、充実させていただければなと思っております。

７番目、障害者福祉の充実、この相談支援についてお願いいたします。

○介護福祉課長（廣　智和君）

お答えいたします。

障害者福祉の充実ということで、相談支援事業です。

最近、障がい者に関しましても、そういったサービス、いろいろと増えてきておりまして、相談も増えてきているところでございます。

その中で、今年度はまた第７期障がい福祉計画、第３期障がい児福祉計画というものを策定しておりまして、来年度から新たな計画で進めていきますけれども、その中で相談支援についてもまた進めていきたいというふうに考えております。

以上です。

○１４番（福岡兵八郎君）

具体的に相談支援、どういう支援を受けたという、二、三件で結構ですけども、最近はどういう相談を受けていますよという、何かありますか。

○介護福祉課長（廣　智和君）

お答えいたします。

相談者は様々それぞれいろいろな事情がありますので、１つとすれば、やはり障害を受けていますので、通所サービス、仕事のほうの相談とか、障がい児から障がい者になるのに使えるサービスも変わってきますので、そういった変わり目のサービスの相談とか、あとはやはり、通学、通院は駄目ですけれども、買物とかいろいろと出かけるための利用をしたいという、いろいろな相談があります。

以上です。

○１４番（福岡兵八郎君）

これは、相談受けたときに町が直接するわけじゃないですよね。これについては社協に行ってくださいとか、民間の施設に行ってくださいとか、いろいろ分けると思うんだけれども、その辺の町が相談受けたときに、後の対応というのは十分、今、対応できているということですか。

○介護福祉課長（廣　智和君）

お答えします。

相談事業所は確かに町内何か所かございますけれども、町に相談が来たときも、そういった相談事業所を通してこちらのほうにまたサービスの申請等、行うようにしております。相談事業所では専門員がいらっしゃいますので、計画を立てて町のほうに持ってきているというところでございます。

以上です。

○１４番（福岡兵八郎君）

分かりました。

８番、高齢者福祉・地域福祉の充実の項目でありますが、ボランティアポイント事業、それと包括的支援事業、お願いいたします。

○介護福祉課長（廣　智和君）

お答えいたします。

ボランティアポイント事業に関しましては幾つかありますけれども、１つは、グループポイント事業として、地域で高齢者、65歳以上の方もメンバーに入った方々が、高齢者の買物支援とか家のごみ捨てとか、そういったサービスすることでポイントがたまるといった事業になっております。

また、もちろん元気度アップ・ポイント事業もありますけれども、そういった取組をしております。

また、包括的支援事業ということですけれども、こちらも、指定法人もありますけれども、高齢者、障がい者等が住み慣れた地域で暮らし続けることができるようにということで、介護予防の充実ということで、今年度、引き続き地域サロン活動とか、そういったものを進めていきたいということです。

また、こちらに関しましても、今、新しい計画を策定しておりまして、令和６年度からは新たな介護保険事業計画、高齢者福祉計画で事業を進めていくということになります。

以上です。

○１４番（福岡兵八郎君）

ポイントがたまったらどうなるんですか。

○介護福祉課長（廣　智和君）

ポイントがたまりましたら、何ポイントかそれぞれあるので、今、申し上げられないんですけれども、たまったら年に数回ポイントを付与するといった、商品券に交換するといったことを社会福祉協議会のほうで行っております。大体、ポイントたまったら5,000円の券とかになります。

○１４番（福岡兵八郎君）

社協でやっていることは十分承知しておりますが、地域の皆様が本当にどこまで理解しているかなと思うんですけれども。

これ、非常に喜ぶんですよね、高齢者の皆さん。そのカードを持っていって、印鑑、お互い見せ合って、自分はここまで印鑑押してもらっているよといってお互い見せ合って喜んでいる姿をよく見るんですが、いい事業だと思います。

それから、包括的、これは地域サロンなんかでも、高齢者が、家で１人でずっとテレビを見てこもっている方々が地域出てきてお互い話し合って、昔話に花を咲かせてやっている、非常に生きがいを見出せるような楽しい時間を過ごせるということで、これも非常に効果が出てい

ると思います。より充実強化していただきますようにお願いしたいなと思っております。

この項目の中で、施政方針にありますが、遊具の点検という文言が出てくるんですけれども、児童公園の遊具がございますが、側溝があって、ガードレール、３本の鉄パイプでのガードレールなんですが、小さな子どもがそこをすぐくぐり抜けて側溝に落ちたということがあって、あそこをちょっと金網か何かできませんかという要望を受けたことがあるんですが、担当課長、どうでしょうか。その辺、ちょっと整備できませんか。

○総務課長（村上和代君）

お答えいたします。

落ちたかどうかというところがまだはっきり分からないんですが、その辺を確認した上で、危険を伴うようであれば網等を設置するとか、方法をちょっと考えてみたいと思います。

○１４番（福岡兵八郎君）

今は予防の時代なんですよね、課長。前、落ちた方から電話頂いて、私はすぐ言ったんですよ、何とかできませんかと。しかし、一回だけで、私も後、確認は全然していません。あまりしつこく言われると嫌われるから言いませんが。

ぜひ、これは、子どもたち本当遊んでるわけです。親も、１人じゃ、ここ、見えないわけです。ですので、小さな子どもが落ちて、それがどこに行ったか分からなくなって、側溝で寝て、泣いていなかったもんですからということで。ちょっと前になりますので、忘れておられるかもしれませんが。

これは、起きてからじゃなくて、課長、予防が大事ですので。よく向こうは利用されている方がいっぱいおられますので、小さな幼児のためにやはり事故がないように、予防として網をぜひしていただければなと思いますので要望しておきます。よろしくお願いいたします。

９番、住環境の充実、住宅リフォーム助成事業、空き家活用セーフティネット住宅改修事業、公営住宅等総合改善事業、今年のテーマ、お願いいたします。

○建設課長（清山勝志君）

お答えします。

公営住宅整備事業では、尾母４団地の木造平屋２棟、４戸の新築工事であります。

住宅リフォーム助成は、民間住宅のリフォームを一部助成する事業でありまして、工事費の15％、限度額は24万円となります。

公営住宅ストック総合改善事業は、港ヶ丘団地１号棟、集会場、プロパン庫、受水槽室、電気室、ブロワ庫の屋根外壁改修工事、九年母団地１号棟、プロパン庫の屋根外壁改修工事となっております。

以上であります。

○１４番（福岡兵八郎君）

ありがとうございます。

総事業15%、上限24万ですが、これ、もうちょっと増やす方法はないもんですか。１戸24万というのを。

○建設課長（清山勝志君）

これはもう国の事業なんで、決まっておりますのでなかなか、できることはできないと思います。

○１４番（福岡兵八郎君）

はっきり言っていただいてありがとうございます。これはもう、皆、聞かれても、もう24万円以上はできませんよということでいいわけですかね。国で決まっているからというんだけども、あと県、町はどうなっているのか分かりませんが、今のところはそういうことだということですよね。

この項目の中で、町長の説明で施政方針でありましたが、浄化センター、汚泥、緑化環境に使うということ、今、ありましたね。これ、今、全国で汚泥を非常に開発されて、農産物でもどんどん使うようになってきているわけです。

先般、広田議員が、鹿児島市の職員のお二人来られて、紹介だということで来られて、私も紹介されてお会いしたんですけども、鹿児島の汚泥を何とか使いたいということで、いや、徳之島もいっぱいありますよと言いながら、いろんな情報ということで、非常にいい情報頂いたんですけれども。

これはもうちょっと大腸菌なりいろんな菌なり調べて分析をして、昔はそれをそのまま担いで畑に入れていたわけですからね。それで、今、科学的に非常に処理されてきておりますし、それから堆肥に代わって、化学分析してもちゃんと裏づけができて、やって、堆肥と今後混ぜていくというような方向、可能性があるような気がするんですが、今すぐどうのこうのじゃなくて。緑化に限らず、堆肥として使っていく。それから、酒造の会社でできる廃液も含めて非常にいい堆肥ができる。とにかく、地元でできたもので堆肥を作っていくという考えをやはり持つべきだと思うんですが、それもやはり前向きな研究課題としてされれば、僕は可能性が将来出てくるかなと思っているんです。都会からいろいろ入れる必要ないわけです。都会からいろいろ入れる必要なくて、地元にあるものでやっていけば、非常にいいのができるということなんです。

だから、やはり長寿の島、健康の島でありますから、そこで生まれた堆肥で作るんだということにいけば可能性が出てくると思いますので、ぜひ、緑化に限らず、農産物にも使っていくんだというような、今の科学の発達した時代に可能性があると思いますので、ぜひ研究をしてほしいなと思っております。

それから、青少年健全育成の推進でありますが、子ども芸術鑑賞事業、舞台芸術等総合支援

事業、とくのしま劇団事業についてお願いいたします。

○社会教育課長（茂岡勇次君）

お答えいたします。

現在、小学生、中学生向けということで、小学生に今、明日、あさって、実は劇団四季の「こころの劇場」ということで行っております。

実は、「こころの劇場」については、昨年、議員の皆様方にお願いしました。３町で約660万円という予算を組むことになりました。これは、実は、劇団四季は毎年ただで、無償で来ていただいていました。ただ、コロナ禍の中において、劇団四季も運営等いろんな事情ございましたので、３町の議員の皆様方に御協力いただき、議会を通しまして、昨年はやることができました。それに応えた形というか、それについては劇団四季のほうもやはり徳之島は落とせないということで、今回もやることになっております。

やはり劇団を見せることによって、本物を見せること、そしてその中でやっぱり感じてほしいのが、見る、聞く、感じる、そしてやってみるというふうなことをしながら、情操教育の一環として頑張っております。

また、中学生につきましては、先ほどありましたように、いろんなものをやっております。例えば伝統芸能であり、民謡であり、舞謡であり、いろんなものが演劇であります。

ただ今年度は、令和５年、実は劇団のほうをやる予定でしたけれども、劇団員の方のほうが体調がすぐれなく、日程が調整ができないということで、今年度は中学校のほうではできなかったということになっております。

それから、今期の新規事業としてやりますのがとくのしま劇団事業。これは、実は今、島内において、町内において、ダンス、ボイストレーニングの指導を行ったり、また、過去に島民劇のことに携わった方がいらっしゃいます。その方を中心に、小中高生を対象に募集を行い、事業を実施してまいりたいと考えております。

予算につきましては総額509万円で、国から２分の１、県から10分の１、残りを町の一般財源でと考えております。

国の２分の１の補助については、これは先ほど施政方針にもありましたけども、町長が以前より提案しておられました奄美振興事業での教育及び文化の振興に関する事業が採択されましたので、活用してまいりたいと考えております。

以上であります。

○１４番（福岡兵八郎君）

すばらしい事業だと思います。地域の発展を考えたときには、文化活動に比例すると言われております。大いに励んで、発展させてほしいなと思っております。

最後に11番目、計画的な土地利用の推進ですが、この項目には地籍調査というのが入ってい

るんですけども、地籍調査の進捗状況をちょっと教えてくれませんか。

○建設課長（清山勝志君）

お答えします。

令和４年度末で27.09％でございます。

○１４番（福岡兵八郎君）

27％、これは今、どうですか、課長の視点から。地籍調査、進んでいるほうと思いますか。まだまだ進んでいないと考えておられるのか。

○建設課長（清山勝志君）

お答えします。

毎年なんですが、事業費を多めに上げてはおりますが、なかなか100％つかない状態でありますので、なかなか事業が進んでおりません。

○１４番（福岡兵八郎君）

これ、する方は本当大変だと思いますね、この仕事は。確保したけども、またその後トラブルが出たりとか、今いろいろお尋ねしますとまたいっぱい出てくると思いますが、それ以上は追及しませんけれども。

地籍調査の進捗状況によって、いろんな事業も取り入れたくとも取り入れられないというのも出てくると思いますので、どのような方法を講じても、とにかく早く進めるようなことを努力をしていただきたいなとお願いしておきたいと思います。

次、奄美群島広域事務組合、膨大な予算を奄美群島市町村、出しているわけですが、施政方針の中にもあります。奄美市の下請け機能ではないとは思うんですけれども、やはりこの予算を出している分、広域事務組合の機能が本町の発展にどれぐらい寄与されているか、費用対効果を考えたときにどのように考えておられるのか、お尋ねいたします。

○企画課長（吉田　忍君）

お答えいたします。

奄美群島広域事務組合につきましては、12市町村企画担当課長をもって構成しているところであります。

やはり、広域事務組合が計画する事業につきましては、広く群島に行き渡るような各種施策、例えば群島誘客であれば各島々へ行った際の滞在、体験型の旅費の助成であったり、民間チャレンジ事業におきましても、これまでも本町からチャレンジして採択を受けた事業者さんもございます。

こちらにつきましては、費用対効果につきましては、その他、例えば広域事務組合として管理していただいているヘリポートの管理費であったり、その他義務的経費もございますが、今後も、徳之島町としましても、徳之島３町のほうにも非常に有益性のある事業提案などをして

いけたらと考えております。

○１４番（福岡兵八郎君）

ありがとうございます。

機能強化を図っていただいて、本町への予算以上の効果を十分出していただきますように、職員ももちろん派遣して、研修も含めて勉強させているわけですが、せっかくある機能ですから。

例えば本部を島ごとに移動したらどうかとかいろんな意見もあるわけですけれども、やはり幹部はみんな奄美市の職員だということで、いろんないいのはやっぱり奄美市に持っていくんじゃないかなとか、末端ではそういう声があるわけですけれども、そうさせないように、またそれは地元の頑張りだと思いますので、特に町長をはじめとする職員の皆さんの努力を期待したいと思います。ありがとうございます。

２番目、いいですか、そのまま。

○議長（行沢弘栄君）

しばらく休憩します。13時30分より再開します。

休憩　午後　０時０２分

再開　午後　１時３０分

○議長（行沢弘栄君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

福岡議員。

○１４番（福岡兵八郎君）

第１項目めの各事業について、（２）に検証とありますが、Ｄ、Ｃ、Ａの部分は、第２回、第３回の議会において、その都度質問をしていきたいと思いますので、よろしくお願いしたいと思います。

２番目の農業後継者育成についてでありますが、北部振興の一環として、営農ハウスが令和元年に設立されました。６年目に迎えたわけでありますが、１期、２期、３期振り返って、まず課長の見解をお伺いいたします。

○農林水産課長（高城博也君）

お答えいたします。

振り返ってということでありますけれど、私のほうが農林水産課長を拝命した地点には、その前年度に整備されております。振り返って、なかなか現状として施設園芸に取り組む募集をかけておりますけれども、施設園芸に取り組むというふうな若い方がなかなか集まらないというのが、一番の悩みであります。

ここ５年を経過しておりますけど、環境整備についてお答えいたしますと、施設開所から既

に５年が経過しておりますので、施設の修繕等が非常に必要になってきていると思います。

以上です。

○１４番（福岡兵八郎君）

１期は何名、２期は何名、３期は何名、そして修了後、卒業後はどのような取組をされているのかお願いします。

○農林水産課長（高城博也君）

お答えいたします。

まず、研修生でありますけれども、まず１期が２名、２期が３名、３期が１名であります。

まず、研修生につきましては、これまで６名の研修に取り組み、４名が研修終了、３名が就農、１名が進学、１名が一身上の都合により退所、現在１名の研修生が在籍しております。トータルして３名が即時就農というふうな形になっている。

○１４番（福岡兵八郎君）

研修生募集要項、目的、気象条件に左右されにくい施設園芸農家育成し、将来の担い手とするということであります。

その内容について、まず（１）は座学。農業基礎講座の勉強をするということで、園芸を中心として、徳之島での栽培されている作物の基本的な栽培方法を学ぶ。

（２）実習。管理作業について、研修品目、トマト、パッションフルーツの管理作業、播種や定植前の準備、栽培技術について学ぶということで、対象者年齢45歳まで、施設園芸志向者、そして新規就農者、農協部会に加入できる方、研修期間終了後、徳之島町で５年以上営農を実施できる方、できなかった場合は、研修期間で受け取った賃金、売上金を全額返済してもらう場合がありますとあります。

今、研修後の、さすが研修をして将来の担い手農家となるなという研修生が、今その方向に可能性を見出せる生徒がいるかどうか。ちょうど今５年目を迎えたわけですが、今回はそういう質問はしません。しかし、研修された方について、どのように取り組んでおられるか。終わったからいいということじゃなくて、その後、後輩たちのモデルとなるのかどうか。ちゃんとしっかりと調査なり、育成をしてほしいなと思っております。

私が見た感じの課題が５つございます。

まず１つは、施設周囲の環境整備であります。大雨が降ると、みんな施設のほうに水が来て、施設園芸ですから、地下水がやはり移動してきますと、水の管理ができないわけですね。例えばトマトであれば、糖度を上げたいけれども、水を切って切って苦しめる場合が出てくるわけですが、そのときに大雨が降りました。水分がどんどん吸収されますと、糖度は上がらないわけですよね。糖度は上がらないわけですよ。だからそういう状況にありますので、環境整備、つまり排水をしっかりしていただくという、周りですね、それがすべきではないかということ

が一つ。

それから、２番目。研修をいたしました。じゃあ、その後どうしますかということで、奄美市の営農センターも私は見てきました。そして県の農業センター、天城町の営農施設ですよね。やはり研修した後、自分たちで経営から全部１人でやって、独り立ちできるという、そこまでやはり準備が必要じゃないかなということが２番目ですよね。

それともう一つは、今課長おっしゃいました研修生の募集、なかなか集まらない。どこに原因があるのか。

それともう一つは、前、課長はやりますと言いましたけど、例えば運営協議会みたいな協議会を持って、その課題をお互いに検討し合ってやる。私たちも行ってずっと聞かないと内容が分からんわけですよね。聞かれるわけですが、分かりませんというのもちょっと言えないもんですから、行って内容を聞いて答えるぐらいの状況にありますので、やはり北部振興であれば、その北部振興の中においてふさわしい人を選任をしまして、営農ハウスを今後どのように運営していこうか、どのような課題があるからこれをどう解決していくか。やはりその協議会みたいのが必要じゃないかなと思うんだけれども、高城課長は協議会をつくりますという約束したような記憶があるんだけど、私の記憶違いかどうか、課長は今どのように考えておられるのか、お願いします。

○農林水産課長（高城博也君）

お答えいたします。

たしか私のほうで協議会をというふうな形でお答えしたと思います。その後、条例を確認すると、運営委員会なるものがありまして、運営委員会の中でこれまでやっていて、年１回、年次計画を立てております。正直言って、条例ができて５年になりますけれども、おっしゃるとおり不足の部分に関しては、やはり条例の整備も含めた上でやっていく必要があるんじゃないかなと思っております。

まず、最初に福岡議員のほうから意見のあった水周り、水の関係は非常に私も感じております。施設の状況を見ると、低地に、周りの圃場からするとちょっと無理があって、これを改修をするとなると相当な経費がかかるように見受けられます。ですから、何らかの暗渠とか何らか経費が少しでも抑えられる方向では、いろいろ検討はしておりますけど、なかなか結果に至らないというふうなことでありますので、今後もそれは進めていきたいと思っております。

今後の在り方も含めて答弁いたしたいと思いますけれども、やはり北部振興ということでやっておりますので、以前、議会のところでも答弁したと思うんですけれども、今回、北部のほうに拠点施設ができるということでありますので、それを含めた形で計画の中にいろんな苗物とかそこら辺を普及して勉強しながら、北部の農家の方に提供していただいて、やはり活性化を図れればなと。今まだ運営委員会の中で話し合っておりませんけれども、そういったことも

考えております。

これまでの先ほどこうやって紹介いただいたように、トマト、パッションフルーツというふうにありましたけれども、その中で今までやって、出荷の実績のある作物といたしましては、メロン等も取り込んでいる。今回、前々年度からでありますけれども、ドラゴンフルーツの苗とか、やはり時代に合ったものをそちらのほうで勉強していただくというふうなことも取り入れておりますので、今後ともそういうふうな形で進めていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○１４番（福岡兵八郎君）

昨日行きまして、一応状況を見てきました。今パッションを植えております。トマトは非常にきれいな色ついて、見た感じで非常においしそうなんだけども、一応食べてみましたけど、糖度がちょっと入り始めたかなという感じで、七、八度かなと思って、12度ぐらいまで最低持っていかないと、お客さんが買ったときに営農ハウスで作ったトマトですと売っても、あんまおいしくないねじゃいかんわけですよ。だから、パッションにしても、メロンにしても、トマトにしても、形は作れても、やはり食べたときに本来の味が出ていなければ、これは研修にならんわけですよね。だから、経費もいろいろかかるか知りませんけれども、研修施設ですから、その研修する生徒が本来のものを作るというね。メロンなんかも、地下水のコントロールができなければ、丸いのが丸くなかったり、変形しているわけですよ。だから、500円から２万ぐらいの差がついてしまうんですよね。形としてはできるけれども、素人が見れば分からないかもしれませんが。だけど、それを整備しない限り、ほかの品目をいろいろ入れていっても、Ｂクラスじゃ何も意味ないわけなんですよね。ですので、非常に北部振興でまた後継者育成すばらしい機能でありますので、本来の技術を教えないといけないわけですよ。ですので、ただ植えれば、実がなるまでは適当にやればある程度実がつくわけですので、それは本来のＡ級を作るための一流のものを作る技術を教える場所ですから、だから、その辺の環境整備を、面積は少なくてもいいけども、やはり本来の人間でコントロールできるような技術が生かされるような環境づくりは、費用的にかかるかもしれませんが、ぜひ進めてほしいなと思いました。

それで、昨日行きまして、私は考えていなかったんですけれども、豊島所長の話では、敷地は今借りているんですよね、借家なんですよね。そことその隣に例えば実践ハウスを造るのであれば、その地主は今都会にいるらしくて、町が買うなら譲っていいですよという話だそうです。ですので、あれをどうせ今後永久に使っていくのであれば、やはり取得したほうがいいのではないかなと思うんですども、その辺は課長と含めて町長も見解をお願いしたいと思います。

○町長（髙岡秀規君）

今、その土地の件なんですが、町が農地を持つことはできませんので、今回、堆肥センター等が町に移管されます。そこでＴＭＲセンター、受精卵センター等を含めて、営農ハウスも含

めて、地域振興公社という第三セクターを立ち上げる計画、構想を持っております。その際には、農地という地目も購入できるのではないかなというふうに考えておりますので、今現在のところ、町が農地は持てないということなので、御理解いただきたいなと思います。

○農林水産課長（高城博也君）

お答えいたします。

町長が言ったように、所管課のほうといたしましては、やはりせっかく造った施設なんで、全体的に拡充整備はいろいろ構想は練っております。先ほども土地の問題が出ましたけど、その土地を含めた形でやはり十分な設備の整ったものでの後継者を育成できればなと思っておりますので、各事業をこうやって調べて、利用できるものは利用して、提案できるものはまた提案してやっていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○１４番（福岡兵八郎君）

もう６年目になりますので、とにかくいろんな研修制度というのはいろいろあっていいんですよね。例えば人数を多く集めてやる方法と、少数精鋭の後継者を育成１人、２人でいいんですよ。しかし、そこに本当の技術を教えないと、そこで研修した生徒がその地域でやっていきますと、自然とその地域広がるんですよ。

今、天城町で、昔ポストウリミバエってことでメロンを入れました。そのときから私は関わったんですけども、メロンの技術とパッションの１年間の組み合わせですよね。それを天城町である農家がやったわけです。農家がやって技術ができたもんですから、農業センターでそのハウスをその方に貸して、その人が作って見せたから、研修生もそれを学んで、今天城町はパッションとメロンと非常に広がっているわけですよ。一人の技術者で農家が技術をつくり上げたんです。名前は申し上げませんけどね。それからずっと私は見ております。ですので、一人が技術をつくり上げた。それによってぱっと広がりますので、徳之島町の営農ハウスでは、そういう人材の育成、技術員を育成でいいわけですよね。だから、人数は多くなくていい、１人、２人で結構だと思いますが、その方が今いうトマト、メロン、パッション含めて、ほかの果実もあると思いますけれども、それを本当の技術を学んでいただいて。そうしますと自然と広がっていきますから、徳之島町の場合は、少数精鋭の本当の技術者を育てるんだと、人数、頭数じゃないんだということで、一つその方向でしっかりと環境整備をして技術者を育てる。その方が将来、またそこの指導員になるというような、そういうやり方でいいと思いますので、大きく期待をしておりますので、ぜひお願いしたいと思います。

３番目ですね、被災地対策ですが、能登半島地震による被災地への支援対策が、島内でも義援活動の取組をされておりますが、どのような組織がどのような取組をしているのか伺います。

○総務課長（村上和代君）

福岡議員の御質問にお答えいたします。

まず、本町におきましては、町民の方々に声かけをし、義援金を集めました。鹿児島県町村会を通じて石川県のほうへ送っております。また、物資やボランティアの派遣につきましては、鹿児島県からの要請待ちでございます。

そのほか組織につきましては、それぞれの課で答弁していただきますので、よろしくお願いいたします。

○農林水産課長（高城博也君）

団体のほうでメインとなる農協等に聞き取りをしたところ、農協はまだ今のところ取り組んでいないというふうな返答をもらいましたので、また、状況を団体のほうに確認しますと、まだそういった方面までは取り組んでいないというふうな担当の調査でそのようになっております。

○学校教育課長（太　　稔君）

福岡議員の御質問にお答えいたします。

学校のほうでの支援は、児童生徒や職員、ＰＴＡ等で募金活動を行ったということです。

以上です。

○介護福祉課長（廣　智和君）

お答えします。

介護福祉課が関係する団体として、介護保険、障害者福祉に関係する団体について聞き取りを行っております。結果としましては、社会福祉協議会が義援金箱を設置し、募金を日本赤十字社へ送金しております。介護サービス事業所１か所は、独自で寄附を予定をしているというところでございます。障害福祉系の事業所１か所では、障がい者関係なく、被災者受入れ体制をつくっているんですけれども、現在のところ利用者はいないということです。

また、その１か所につきましては、災害派遣福祉チームＤＷＡＴに２名派遣可能として登録を行っているということでした。

以上です。

○健康増進課長（田畑和也君）

お答えいたします。

町内の医療機関へ確認したところ、スタッフの派遣を行った医療機関が１か所、募金箱を設置した医療機関が２か所です。

以上です。

○社会教育課長（茂岡勇次君）

お答えいたします。

社会教育関係団体としましては、女性連のほうで単独で寄附のほうを行ったということを伺っております。

○１４番（福岡兵八郎君）

結構しているじゃないですか。私は奄美市議会の皆さんが、先日、奥議長に確認したら、みんな5,000円ずつ出して送りましたと言っていまして、それが新聞記事に載ったんですけれど。今そうしておられるのは、やはりマスコミを通じてやっていますというのもしていいんじゃないかなと思うんですが。今寒いです、まだ。三寒四温の繰り返しで。新ばれいしょを送るんだと、徳之島のせっかくの産物ですから。これについては考えておられませんか。

○町長（高岡秀規君）

お答えいたします。

今現在、何を送ったらいいのか等々も含めて、今問合せをしようかなと思っております。以前、東北の震災でばれいしょをというふうに送ったんですけども、なかなか現地に届くまでに時間がかかったり、やはり日持ちしないものだと、実際に効率的に運べるかどうかも含めて、本当に必要なもの何かを検討して、そういった支援をしていきたいなというふうに思います。

○１４番（福岡兵八郎君）

徳之島町は人に優しい町でもありますから、ぜひこれは意思と反して、私たちも竜巻のときも、１時間前はどうもない平常な天気だったのに、１時間後にああいう竜巻が来て、地震にしても本当に予期しない、１月のスタートの日にああいうことが起きて本当にとんでもない災害ですが。地震専門家はいっぱいいるんだけども、みんな起きてからは専門家がいっぱい出てくるんだけど、やっぱり起きる前にぴしっと的中させる専門家というの、難しいかもしれませんが、しかし、起きてから皆いっぱい出てきて言われるのがいまだに悲しいなと思うんですが、ぜひ徳之島町として取り組んでいるんだというのを、今いう腐敗の問題があります。よくよく島の産物をやっているんだというのを町民の皆様にもそういう一つを見せていただきたいなと思っております。

住宅環境整備４番目ですが、轟木旧教職員住宅の建て替えについて、前回一般質問し、その前もその前もしました。建てるまでしますよということを申し上げたんですけども、前回の質問後、その後どのように検討されたか伺います。

○総務課長（村上和代君）

福岡議員の御質問にお答えいたします。

轟木旧教職員住宅につきましては、前回御質問いただいた後、協議いたしましたところ、耐震診断の結果、改修できないということでありましたので、福岡議員のおっしゃっていたとおり、解体を急ぐ必要があるということになりました。

現在、建物にアスベストの調査費用及び解体作業に係る費用の見積りを依頼しているところでありますので、どのくらいの費用がかかるかを確認した上で予算を計上していきたいと考えております。

○１４番（福岡兵八郎君）

これは総務課が窓口になっているわけですので、総務課の場合は、やはり各課の要望書を恐らく予算の倍ぐらい来ていると思うんですよ。それをずっと抑えないといけない立場にあるわけですよね。ですので、総務課自身の事業というのは、なかなかしにくいと思うんですよね。ですので、住宅ですから、これは建設課に窓口を移していただけるわけにはいきませんか。

○総務課長（村上和代君）

お答えいたします。

今の旧住宅地の跡が、また住宅を建てるのであれば、建設課のほうで建てるということになると思いますので、令和６年度の公営住宅等長寿命化計画の見直しが令和６年度にございます。その中で轟木住宅をまた建設するのか、またほかの改修、今の空き家の改修等に町が支援をしていくのか。その辺をまた検討しながら、建設課のほうでできるのであれば、そちらのほうに移管するように考えて、前向きに検討していきたいと思います。

○１４番（福岡兵八郎君）

非常に答弁、総務課長が困っているなと思いましたが、総務課では本当難しいと思うんですよね。ですので、住宅ですので、とにかく法的に問題なければ、建設課にこの件については移管するとしていただければ、また建設課と具体的に、今やはり地方創生ですから、ほっていても、私たちの集落は山の中なわけですよ。人が住んでいるかなとみんな知らない人もいると思うんですね。伊仙町へ行きますと、どの辺にあるかなという人もおりますので。だから、我々は地方創生のモデルをつくろうと思って、今区長も一生懸命やっていますので、だけど、今のコンクリの古びた施設が非常に限界集落を象徴しているような状況なんですよね。だから、もちろん壊していただいて、造るのであればという言葉はちょっと撤回していただきたい。ぜひ造っていただかないと困るんですよ。これから人口を増やそうと今していますから、夫婦でＵターンの方が来られて家を探したら、いい家があっても、時々法事とか帰ってくるから貸せません、貸せませんというのがあって、北部振興でも空き家で対策をしているんだけれども、いい家があってもなかなか借りれないというのがあって。だけども、やはりそこに、あれ４戸ですけども、２戸ぐらいでも建てる計画があると、これ来年どうのこうのと言っているわけじゃありませんので、あるいは、なくしてそのまま終わりじゃなくて、建てる方向で考えていただきたいということと。やはりどうしても地域住民の皆さんは、それをずっと総会のたびに言うわけですから、私も返答困っているわけですが。ぜひ建設課のほうに移管するという方向でまず検討していただきたいと思いますが、町長、御見解をお願いいたします。

○町長（高岡秀規君）

総務課長の言葉に付け加えますが、造るのであればどんな住宅になるのかという言葉が抜けていたような気がしますので。それと、あと住宅なのか、地方創生で轟木地区をどうやって活

性化するのかということは、例えば観光に類似する、観光客を寄せ付けるような施設とかですね、様々な方向性から、地域の集落の皆さんと話合いを持ちながら進めていけたらいいなというふうに思っております。

○１４番（福岡兵八郎君）

ありがとうございます。ぜひせっかく敷地もあるわけですから、今の時代に合った、これからニーズということで、集落に応えるべくということでありますので。

ただ一つ、今何回も言いますけども、総務課の段階では、非常に課長難しいと思う、しにくいと思いますよ。ほかの課の予算を切らないといけない立場が、自分の事業をできるはずないわけですから、ぜひ建設課のほうに移管していただいて、そして今町長がおっしゃったその辺の対策をまず取り組んでいただければと思いますので、課長、最後に決意を。

○総務課長（村上和代君）

お答えいたします。

移管につきましては、建設課のほうに移管するよう前向きに行っていきます。

○１４番（福岡兵八郎君）

笑いながら自信を持って言っていただきましたので、本当にありがとうございます。

これで質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（行沢弘栄君）

次に、是枝孝太郎議員の一般質問を許可します。

○１１番（是枝孝太郎君）

こんにちは。２番手で質問したいと思います。

初めに、能登半島地震で震災に遭われた皆様方のお見舞いを申し上げるとともに、亡くなられた方の御冥福をお祈り申し上げます。御心中を察します。

2024年の日本経済において、幾つかの主要な産業が注目されています。自動車産業、自動車の生産と輸出は、日本の経済において重要な役割を果たしています。自動車メーカーは技術改革と電動車の普及を促しています。

電子部品、半導体産業。半導体は現在のテクノロジーに欠かせない要素であり、日本は半導体の製造と研究開発では世界で名をはしています。

医療機器産業。高齢化社会において、医療機器の需要は増大しています。日本は高品質の医療機器を提供する国として有名です。

観光業。インバウンド観光需要の回復が期待されており、地方の観光資源を活用した観光産業も成長の一端を担っています。これらの産業は、日本経済の成長に必ず役に立ち、寄与していると思います。

このことを踏まえ、令和６年度第１回定例会におきまして、11番の是枝が通告の３項目につ

いて伺います。執行部並びに主管課長の的確で明快なる答弁を求めます。

第１項目め、教育振興について。

学校教育における給食提供について伺います。非課税世帯を除く幼児教育・義務教育を対象とする世帯に、給食提供に係る助成制度の確立はできないか伺います。

○学校教育課長（太　　稔君）

是枝議員の御質問にお答えいたします。

本町では、小中学校に在籍する130万円以下の世帯に対して、学校教育法第19条の規定に基づき、徳之島町就学援助費で給食費を援助しています。

議員御質問の非課税世帯に近い世帯への給食費の助成ですが、助成を必要とする支援対象となる所得の上限範囲を設定するに当たり、様々な面から慎重に検討しなければなりません。

また、就学援助費は、学校給食費以外にも助成もありますので、現在のところは難しいと思います。

以上です。

○１１番（是枝孝太郎君）

近年、食をめぐる情勢の変化に対応して、学校給食法が公布施行されました。昭和29年６月３日に公布され、その間、国民生活の改善が上げられ、そして平成21年４月１日に国民生活食生活改善を削除し、食に関する正しい理解と適切な判断能力を養う点が盛り込まれ、食育を重要視する点から、その推進を新規に盛り込んでいます。

学校給食法、学校給食の普及・充実及び学校における食育の推進を図ることを目的とする法律であります。そして、学校給食法の給食提供は、国、地方公共団体の責務であります。国及び地方公共団体は、学校給食の普及と健全な発達を図るように努めなければならない。学校給食法第５条と明記されています。

近年、学校の食事が揺れています。１食約250円ほど提供されていた小学校の給食は、物価高の影響で、鶏の胸肉やモヤシなどの安価な食材を多用。例えば広島では、調理を担っている民間事業者が破綻し、高校の食堂や寮で食事がストップする事態に。

そうした中、給食の費用はユニークな財源で補助し、学校給食を支えると同時に、地域づくりに活用する自治体も現れてきました。給食費無償化の動きも広がる中、子どもの食のインフラをどうするかは今後の課題になっています。

課長に伺います。１食当たり保護者の負担とは言いませんが、１か月当たりの小学校の給食費、中学校の給食費は幾らでしょうか。

○学校教育課長（太　　稔君）

是枝議員の御質問にお答えいたします。

亀津小学校を例に取りますと、亀津小学校では４月から１月まで3,300円、亀津中学校を例

に取りますと、亀津中学校では４月から９月までは4,000円、10月から１月までは3,000円となっております。

以上です。

○１１番（是枝孝太郎君）

その金額において、確実なる給食提供をしていかなければならないと思います。

学校給食とは、１、栄養バランスの取れた食の提供、２、これは法律の中にうたわれていますよ、地域食材の提供、３、食育教育。

それでは、学校給食法は1954年制定、昭和29年６月30日に公布されていますが、学校給食の目的として、義務教育諸学校の児童生徒の心身健全な発達と食育の推進。これは学校給食法にうたわれ、国、地方公共団体が必ずしていかなければならないと。

次に、食の実施。地方自治体などの学校の設置者、学校の設置者は、徳之島町であれば徳之島町、そして学校の建物の責任者は、徳之島町長ということに明記されています。

そこにおきまして、次、学校給食の経費について述べます。整備、人件費などは自治体負担。学校給食法第11条１項にあります。食材費に関して、ここが重要です。皆さん、父兄の方々もなかなか知らないことと思いますが、食材費に関しては保護者負担と明記されています。学校給食法第11条第２項、なぜ保護者負担か。家庭において食の重要性を認識し、食育のワンプレーヤーとして行わなければならない食材負担は法律に明記されています。

このことを踏まえて、今、政府のほうでは、2025年度から３人以上の子どもがいる多子世帯を対象として大学など高等教育機関の授業料や入学金の無償化を予定しています。例えば第１子が大学１年、第２子が高校２年、第３子が中学校２年、そのときに第１子の４年生大学に進学した４年生の大学費用が無償になる。第１子だけです。

そのことを鑑みて町長に伺います。政府はここまでやろうと、国の責務、地方公共団体の責務で、学校給食をしていかなければいけない。食材は保護者が負担しなければいけないと法律に明記されていますけど、学校給食に関する新たな考えを教えていただきたいと思います。

○町長（高岡秀規君）

お答えいたします。

まず、食の重要性については、福岡議員のほうからもお話があったように、昨今、人口減少の中で発達障害というお子さんが減らないということは、食にもあるんではないかと。離乳食にも原因があるのではないかなというふうに言われつつあります。

そこで、役場のほうでも様々な検証を重ねて、食育そしてまた食の重要性を認知する努力をまずしたいというふうに考えております。

そしてまた、今後の給食の在り方については、こども家庭庁ができて大きく変わりつつあるというのは認識しておりまして、町村会としても様々な施策を要望しているところであります。

そしてまた、町として何ができるか。当然、特殊出生率、人口減少に歯止めをかけるためにどういう施策を打つべきなのかという観点から、２子については給食費の半額。例えば３子以降は、無償と同じような施策が取れるかどうかということなんですが、私が今頭の中で描いているのは、今ワンポイント、ポイント制度を今していますが、例えば一度はお支払いをして、２子の場合は、半額分をポイントで商品券に換えていくとか。そしてまた３子目からは、お金はもらいますが、それ相当分の３子から無料の配分という代わりに、ポイント制にして振興券ということで地域経済もしっかりと回しながら、雇用を守り、そしてまた地域経済をしっかりと守りながら、食の重要性を皆さんに御理解いただければいいのかなというふうに今のところは考えております。

○１１番（是枝孝太郎君）

その考え方はどういうふうにして実施していくのか、どういうふうにして徳之島町として波及させていくのか。その点、教えていただきたいと思います。

○町長（高岡秀規君）

今、奄振でなぜ教育及び文化というものにこだわったかといいますと、担い手は地域の子どもたちであり、10年後には成人になるわけですね、そしてまた地域を支える側になるわけです。

そこで、一番重要視されているのが親子の絆です。親子の絆があって初めて、私は合計特殊出生率に響いてくるのではないか。親子でいる時間、家族でいる時間こそが、私は重要だろうというふうに考えております。それで、われんきゃポイント制度を考えたわけですね。それプラス、そして１子、２子等々のお子さんをすることによって少子高齢化、合計特殊出生率を国が上げようとしているというところに、しっかりと時代に乗った形でするためには、一度お払いした、そして還元という形で、われんきゃポイント制度で振興券に振り替えられないかなというのを今考えているところであります。

○１１番（是枝孝太郎君）

町長にもう一度。２子は半分の軽減、３子からは、ある程度の振興券で対応するという考えでよろしいでしょうか。

○町長（高岡秀規君）

例えば２子で4,000円の給食費があれば2,000円のポイント。そしてまた３子で4,000円払えば4,000円のポイントというふうに、振興券といいますか、商品券をすることによって地域経済、そしてまた雇用対策、そして商店街にもシャッター街を増やさないためにも、微々たる力でありますが、そういったところにも貢献していければなというふうに考えております。

○１１番（是枝孝太郎君）

何でもかんでも無償ということは、法律上もあり得ないことです。無償というのは、私たちの税金、私たち住民の税金から払うわけですけど、税金をどうやっていい方向に使っていくの

は、政治の考え方一つであります。これを２子、３子から経済的に負担軽減をし、地域経済を発展させるということは、私はすばらしいことだと思いますけど、この考えをいつから実施していくのか伺いたいと思います。

○町長（高岡秀規君）

今回、学校教育課ともいろんな意見交換をしたところであります。食材というものを地域から食材提供となると、多少輸入品そういったもの、外部から来るよりは割高になる可能性もある。それは１子の予算、２子の半分もらった価格の中からしっかりと食材を地元食材でそろえるということを今考えているところですが。

今現在、持続可能な給食の在り方、そしてまた合計特殊出生率を下に下降させない施策、そしてまた、しっかりと雇用を守って、若い人たちが帰ってこれる島づくりというものを目指すためには、経済を回していくことが最重要かなというふうに考えております。

それとまた、いつからということになりますと、今学校教育課としっかりと現場と打合せをしながら、なるべく早い段階で方向性を決めて、実施に向けて取り組んでいきたいというふうに思います。

○１１番（是枝孝太郎君）

よろしくお願いします。各学校において給食の在り方というのは必要であります。確実に進歩していかなければなりません。教育長の考えを、町長の考えを基にして、どういうふうな考えをしているのか伺いたいと思います。

○教育長（福　宏人君）

ありがとうございます。

是枝議員の御指摘のとおりで、昨日のＮＨＫのクローズアップ現代においても、「揺らぐ学校の食事　子どもの“食のインフラ”をどう守るか？」というような報道がなされておりました。今、国のほうでも、学校給食の無償化をめぐる様々なものが出ております。コロナ禍であるとか物価の高騰に向けて、与野党が学校給食の無償化に向けて、様々な議論があるということを承知しております。

そして、根本には、先ほど、議員が御指摘のとおり、学校給食法において、設置者はその施設設備、人件費において町負担と、それから食材は保護者負担というような規定がございます。そして、同11条において、この食材の負担については保護者負担というふうになっておりますが、この学校11条の規定によって、学校の設置者の判断で、これ町というふうになりますが、保護者負担の軽減、負担なしを含むをすることも可能とされるという法律的なのも提起されておりますので、ただいま議員の御提案のとおり、そういったようなことも検討する必要があるのかなと思います。

それと、もう既に御存じのとおり、岸田総理がこども未来戦略会議で、現在、学校給食の無

償化に向けた実態の把握と課題の整理ということで、国のほうについても方向性を今、検討しているというふうに報道がなされています。

そこも踏まえて、もう一点は、やはりその無償化について、保護者負担というのは、やっぱりこの給食が無償化になるというのは、保護者の意識もやっぱりあるんですよね。子育ては、やっぱり保護者の責任においてしなければいけないと、そういうものを、ただ現金じゃなくて、今町長がおっしゃるとおり、ポイント制にするというような考えをしたほうが、非常にまたこの給食法も含めて、この保護者負担に関しても、非常に整合性も取れているのかなというふうに、今考えているところでございます。

いずれにせよ、実施した後も給食が、子どもたちのほうの健康も、そういう点では職の考え方も全て含めた形でスムーズにできるんですね。また、検討していきたいというふうに考えています。

以上でございます。

○１１番（是枝孝太郎君）

教育長の考えを踏まえて、再度、早めな実施をしていただきたいと思いますけれども、早めな話合いのもとでしていただきたいと思います。

最後にもう一回、学校給食法に関わるポイント制をお願いします。

○町長（高岡秀規君）

早い段階で議論いたしますが、今、教育長のほうから、国が町村会としても無償化を要望しているところですが、そういったどういう方向性になる、ならないかかわらず、無償化というものをもし仮になったとしたら、食の充実をどうやって図るかというときに、価格の増額をまた要望しないといけません。それがなる、ならないは分からないわけですね。だから、しっかりと自由度のあるものとなりますと、今のそのポイント制度を最初、導入をしまして、国の動向を見るというものが一番子どもたちにとって必要なことじゃないかなというふうに思っております。

○１１番（是枝孝太郎君）

２子、３子においては、必ずその方向性で実施していただきたいと思います。

それでは、２項目について質問します。２項目め、観光・地域振興について。

徳之島町に観光資源は数多く存在しますが、原紙を生み出す、お金を生み出す観光地は限られています。日夜の管理体制がみんなの御協力において成り立っている施設が地域において存在する。その中心的な存在が井之川の第46代横綱朝潮太郎記念館であります。町におかれましては、光熱水費、浄化槽費の提供をしていただき、住民は感謝しています。つきましては、記念館の安全管理費として助成制度を設け、歳出計上はできないか伺います。

○おもてなし観光課長（吉田広和君）

是枝議員の御質問にお答えします。

第46代横綱朝潮太郎記念館は、井之川集落にあることから、地域活性化につながればという思いで、集落の方々が自主的に記念館の管理、運営を行っているところです。そのことについて深く感謝申し上げます。

しかしながら、今の管理体制をあと何年先まで続けていけるのかと考えたときに、いつの日か皆さんへの負担が大きくなってくると思います。今後、そうなる前に管理運営体制に対する見直しや支援策の検討が必要だと思っています。

運営に携わる皆さんと協議した上で検討していきたいと考えています。

以上です。

○１１番（是枝孝太郎君）

しっかり確実にお願いしたいと思います。

副町長に伺います。朝潮太郎記念館の素晴らしさというのは、どういうことなのか、教えていただきたいと思います。

○副町長（幸野善治君）

皆さん、御承知のとおり、昨年度は奄美復帰70周年記念、数多くの事業の中で、朝潮太郎記念館のオープンをいたしました。大変、内外から注目を集め、戦後、最高のヒーローは誰よりも朝潮太郎じゃないかということで記念講演などもありました。

それに付随して、一ノ矢さん、亀津出身の一ノ矢さんが来て朝潮太郎の功績を称えながら、相撲と邦楽という、まれに見る日本古来の相撲音楽なども披露していただきました。

あの場所に建つところには、錦ヶ嶺と申しまして、是枝議員、御承知のとおり、聖地であります。八幡神社があり、八波むと志さんの歌碑が立っているところがあり、城山ホテルの創業者保直次先生の頌徳碑もあります。

そういったところで、あの場所は聖地であり、錦ヶ嶺と呼ばれている井之川集落民の守り神でありますので、あれをいかに教育の場、また観光の場につなげていけないかということで、朝潮太郎の記念館は建ちました。

これから、奥山家の西郷隆盛さんが寄宿した、あの奥山家と錦ヶ嶺、朝潮太郎の銅像、記念館が建つ記念館と、そしてみらい創りラボいのかわのあのルートを整備しまして、観光ルート、教育のロード、教育ルートとしてこれから活性化につなげていけたらなと思います。

本当にまれに見る、横綱というのは鹿児島県で３名しかいないんです。それが、こんな小さな徳之島から生まれたと思うと、本当に子や孫にとって誇りであります。徳之島町の記念館を無事、管理運営するよう、維持していけるよう努めたいと思います。

○１１番（是枝孝太郎君）

副町長、ありがとうございます。

今現在、ボランティア活動の人数が48人で行っています。そして、開館、閉館、午前10時から午後４時まで、来館数は１月200人から250人来ています。年平均約200人前後です。そういう中、ボランティア活動において日程調整は個々で行っており、非常に困難なときも多々生じています。だから、そのことを踏まえて、安全管理費という形で井之川地区にいろいろな手厚い助成をしていただきたいと思います。

例えば、鹿児島県最低賃金897円です。令和５年10月６日付、鹿児島県が全ての労働者に適用すると。897円掛ける２時間で1,794円、1,794円掛ける48人で８万6,112円、これが月の換算です。これを年で計算すると、12か月で計算すると103万3,344円、これをなるべく崩さないように助成していただきたいという要望を添えて、課長の答弁をもう一回伺いたいと思います。

○おもてなし観光課長（吉田広和君）

お答えします。

今、是枝議員が言われたことを踏まえながら、運営に携わる皆さんと協議して、検討していきたいと思います。

以上です。

○１１番（是枝孝太郎君）

課長、ありがとうございます。

町長の見解を伺います。

○町長（高岡秀規君）

記念館当初、収入がある計画でしたわけでございますが、おかみさんの御好意により寄附をいただいた際に、そういった使用料等々の徴収はまかりならないと、朝潮さんの気持ちを考えると、それはしないでくださいという要望から、今現在があるわけですが、ボランティアでなかなか限界が来るだろうと、ボランティア精神を持って事に当たるためにも必要な措置はすべきだというふうに考えております。

○１１番（是枝孝太郎君）

ありがとうございます。

町長、課長、本当にありがとうございます。地域としては非常に感謝しております。

次に行きます。３項目め、徳之島町経済振興について。

徳之島町経済を活性化し、経済的自立・精神的自律を向けて調査、研究を行う一つの要因として、インパクト投資の政策研究を行い、徳之島町全体に波及させる手段として組織体系づくりを行い、徳之島町が主導権を発揮し体制づくりを行い、徳之島町全体に実践はできないかを伺います。

この件に関しては、非常に難しいと思いますので、分かりやすく、企画課長、よろしくお願いします。

○企画課長（吉田　忍君）

是枝議員の御質問についてお答えいたします。

私もこの投資という部分につきましては、ほぼほぼ素人でございます。まず、インパクト投資とは、従来の投資の軸とされるリスクとリターンに加えインパクト、こちらのほうは社会的課題解決の評価測定が追加されたものをインパクト投資、また環境問題解決が関連する場合は、ＥＳＧ投資に分類されております。

まず、企画課としましては、この投資の中身について、政策研究、勉強をしていくことは可能と考えております。

また、町全体への波及という部分、例えば、町民への投資等々の話になってきた場合には、この性質が投資の一つであり、やはりリスクとリターンの２軸で考えながらインパクト投資はリスクを小さくし、リターンを得ていく取組、こちらのほうは少なからずリスクのあるものにつきましては、町民の皆様へ行政側から推奨することはなかなか難しいと考えております。

こういった推奨の部分につきましては、民間の証券会社さん等々が行っているところだと思います。

また、このインパクト投資とは何ぞやという部分につきましては、例えば、広報紙等で紹介することは可能かと考えております。

最後、徳之島町が主導権を発揮し、実践づくりというところでございますが、私も中身は余り詳しくありませんでしたので、知人に中小企業診断士の方がおり、お話を伺いました。このインパクト投資とは、官と民が連携し、社会課題解決に向けた取組を行うファンドとなりますが、行政としてはインパクト、社会課題解決、この社会課題解決とは、分かりやすくいいますと、徳之島町が６次総合計画などで目標に掲げておりますＳＤＧｓの目標達成に資する取組のことを言います。この達成できることが町から提案された企業への投資、出資できる理由付けとなり、この出資金がインパクト投資と呼ばれるものになってまいります。

基本的には、実施主体は民間企業と考えております。企業から提案等がございましたら、まずはお話をお聞きしたいと考えております。

以上です。

○１１番（是枝孝太郎君）

非常に丁寧に分かりやすく答弁していただいたと思います。

なぜインパクト投資が注目されているかというと、環境も社会課題、多くの社会課題、環境問題意識の変化、気候変動、炭素社会、それらを網羅した金融の在り方とか投資家の考え方とか変化しています。課長がさっき言いましたＳＤＧｓの取組、持続可能な開発目標の達成においても、インパクト投資がその一環として期待されているわけですから、そこにおいて、ジェンダー投資への注目度も高まっています。ジェンダーをどういうふうにしていくかという、そ

ういうのも増えてきています。

そして、さっきも言いましたインパクト投資とは、今までの、従来の投資とは違って、リスク、リターンの二面ではなく、そこに課長が言ったインパクト、どういった社会課題を解決していく企業があるのか、どういった環境問題を解決していける企業があるのか、子育て支援に関わる学力低下の向上をさせるために働きかける企業があるのか、向上させる企業があるのか、そういった企業に対してのインパクト投資があります。

そして、例えば、もう一つを言いますと、これは具体例ですけど、具体例を言います。

具体例に起きましては、例えば、こういうのがあります。例えば、地域において離婚率が高い地域でのシングルマザー向けのＩＴ人材育成支援員や貧困からなる学力低下の問題を解決するための学生支援などを行う企業に投資することが解決の一つの要因ということをインパクト投資とも言います。

だから、要は投資をその課題解決するために、その企業がその方々に投資をして、より一層社会貢献をしていただいて、稼いでいただいて、社会で活躍をしてもらう。だけど、その分、企業にとってもその人たちを人材として雇用し、そして、新たなＩＴだったらソフト、アプリの開発とか、そういった方向で考えて、一緒になって成長していこうという考えです。

様々な考えがありますけど、基本的に、課長がおっしゃった、地域住民にとってリスクの多いこと、町独自がお願いするわけにもいきませんので、本当にできるんだったら、中学生ぐらいから100円でもいいから町民ファンドとか、そういったのをつくっていただいて、町がつくるんじゃないですよ、そういった企業があったらそれをつくっていただいて、そこから社会課題、環境課題、地域課題、そして気候変動、シングルマザーのことにおきましても、学力低下におきましても、そういった課題を解決していこうという考えですので、この点、私たちは東京のほうに研修に行ってまいりました。パーソルホールディングスの副社長といろいろ話をさせてもらう機会がありましたので、そういう考えはいいんじゃないかと、１回勉強会をしてみようかなという考えでしたので、今後、そういうパーソルホールディングスが来たときは勉強会なり企画課長を中心として、私たちも参加して、勉強会をしたいので、そういった場面がありましたら、また企画をしていただきたいと思います。どう考えますか。

○企画課長（吉田　忍君）

お答えいたします。

先ほどの、例えば、中学生から100円の投資というお話がありましたが、これアメリカとかでは今、子どもたちの中でお小遣いの範囲から、もう既に教育の一環として学習環境がなされて、実走されているというお話をお聞きしたこともございます。やはり、この投資について、例えば、子どもたちはまず投資とはこういうものだ、財形貯蓄とはこういうものだ、生涯設計とはこういったものだという、まず子どもたちには学習の機会をつくってあげたいですし、例

えば、先ほどのパーソルホールディングスさんが、もし来島されてこういったものの、私もまだまだこれは勉強不足ですので、一緒になってお話を聞く、そしてまた、その際には興味のある議員様方に御案内して、一緒に勉強会をしていくことは可能だと思います。

○１１番（是枝孝太郎君）

町長の考えを伺いたいと思います。

○町長（高岡秀規君）

まず、インパクト投資について、投資が目的なのか、それとも社会的課題解決が目的なのかというのをはっきりしないといけませんね。そうすると、まず社会的課題、持続可能な社会の実現に貢献することが最重要視するとなると、例えば、環境問題で水をより使わない、農薬を使わない、実は水耕栽培もインパクト投資の中に入るんですよ。そして、また、太陽光発電も環境で再生可能エネルギーとしてインパクト投資が入ります。

私は、もしそういった理念で考えますと、子どもの第三の居場所、民間の投資、これインパクト投資に入るんではないかと思っています。ただ、リターンがないわけですね。

だから、そこで投資が目的なのか、社会的課題解決にそういった理念を持ってくるのかということを重要視したいなというふうに思っておりまして、当然、社会的課題の解決については、国の補助事業等を利活用することが町の役割だろうというふうに思います。

そしてまた、生活困窮者に対するリスキリングだったりそういったものについては、民間の投資が必要だろうと、必ず民間の投資ということはリターンがあるということです。そして、我々は水耕栽培にしては町のほうでしっかりとリターンではなくて、しっかりと運営を今、支援をしているところです。

ものの考え方によって、恐らくインパクト投資については考えていくべきだろうというふうに思いますし、今後、地域課題に向き合うときに、インパクト投資なのか、それとも町がやる事業なのかということを、社会問題解決を重要視するのかということをしっかりと踏まえたうえで、実行すべきかなというふうに考えております。

○１１番（是枝孝太郎君）

基本的な考えは、目指すのは補助金からの自立、ＮＰＯ法人がいろいろな場面で補助金をいただく、あれは時限立法です。だけど、自ら自立してインパクト投資を呼び起こしてファンドを設立したりとかして、次の事業展開をすると。徳之島町が経済的に自立するためには、補助金、朝潮銅像のことは言いませんけど、資料館のことは言いませんけど、自立が大事だと思います。

そういう点から、今町長がおっしゃったのも、課長がおっしゃったのももちろんだと思いますけど、社会的課題の解決の企業に投資する、環境課題についての企業に投資する、それとか、シングルマザーのスキルアップのために投資する、学力低下においてそれをどうやって伸ばす

か、その人材を育成するために、その人たちを学力を向上させるための企業に投資するとか、そういったアイデアをつくりながらインパクト投資という考えをＳＤＧｓに、課長が言いました、それをまとめて持続可能な目標率を上げていくと。

これ沖縄のほうでももうやりつつありますので、ホールディングスが来たときは、ぜひとも皆さんに声をかけていただいて、勉強会をしていただきたいと思います。

11番の是枝が３項目について質問しました。質問したことに対して、執行部並びに主管課長、必ず実行していただきたいと思います。

それでは終わりたいと思います。

○議長（行沢弘栄君）

しばらく休憩します。15時から開きます。

休憩　午後　２時４１分

再開　午後　３時００分

○議長（行沢弘栄君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、宮之原剛議員の一般質問を許可します。

○３番（宮之原剛君）

議場の皆様、町民の皆様、中継を御覧の皆様、こんにちは。

まず、本年１月１日に発生しました能登半島地震でお亡くなりになられた方々の御冥福と被災された皆様へ心よりお見舞いを申し上げ、被災地の方々の安穏と早期復興を心よりお祈り申し上げます。

昨年は、奄美群島復帰70周年の一連のイベントが次々に開催されました。運営に携わった職員の皆様、関係者の皆様の御苦労に深く感謝申し上げます。

また、新庁舎落成の下、70周年の佳節の声、奄振法改正案も２月９日に閣議決定、今国会会期末には成立する見通しであります。これまでの町長をはじめ関係各位の御尽力に重ねて感謝申し上げます。

さて、能登半島地震の教訓を踏まえ、今後30年以内に起こる確率が70％と言われている震度７、マグニチュード８から９の南海トラフ巨大地震に備え、先月、防火訓練、避難訓練が行われた集落もありました。東区も２月４日に消防署へ依頼し、公民館で津波を想定した防災コア、地震に備え、緊急の心肺蘇生法、そして、ＡＥＤの使用方法、そして、消火訓練などをしていただきました。改めて緊急避難時非常持ち出しバッグの中身の確認や自主防災組織の見直しの必要性を感じました。

緊急と言えば、あってはなりませんが台湾有事であります。先月２月25日には自衛隊奄美駐屯地開設記念行事戦闘訓練の公開なども行われ、去年は、徳之島でも他国からの武力攻撃を想

定した日米共同訓練も行われました。

それでは、令和６年３月第１回定例会において、議長の許可を得て、３番、公明党の宮之原剛が、町民の皆様の声を身近な問題から喫緊の課題まで４項目にわたり一般質問をいたします。執行部の明快かつ簡潔な答弁をよろしくお願いをいたします。

通告いたしました１項目めの国民保護法に基づく避難訓練についてであります。

今年１月21日に、他国からの武力攻撃を受ける事態を想定した避難訓練が屋久島町で行われました。国民保護法に基づいて、自衛隊と町民を含めた避難の手順を確認するというものでありましたが、米軍オスプレイの墜落事故を受けて、関係者のみでの訓練になったようです。

（１）まず、国民保護法について、どのような法律なのかをお伺いいたします。

○総務課長（村上和代君）

宮之原議員の御質問にお答えいたします。

国民保護法は、国民保護とは、まず我が国に対する外部からの武力攻撃や大規模テロ等が行われた際に、国民の生命、身体及び財産を保護するため、または武力攻撃等が国民生活及び国民経済に及ぼす影響が最小となるようにするための措置を指します。そして、この措置の具体的内容及び国、地方自治体などの責務について規定した法律が国民保護法であります。

以上です。

○３番（宮之原剛君）

今、新聞等でしょっちゅう出てきますが、津波を想定した避難訓練、またはこの国民保護法に基づくという、非常に町民の皆さんがやっぱり気にされている部分なのかなと思います。この国民保護法の中での保護計画の中で、もしも徳之島がそうなった場合にどこへ避難するのかということで計画の中に記載されているでしょうか。

○総務課長（村上和代君）

お答えいたします。

奄美群島の場合、県の国民保護計画では、与論島、沖永良部、徳之島からは、県本土、また状況により沖縄に直接避難となっております。

○３番（宮之原剛君）

県本土か、もしくは状況により沖縄のほうということのようでありますが、この屋久島で行われた避難訓練ですが、どのような流れ、プロセスで行われたのかと。国、県が主導でということだとは思うんですけども、流れとしてどういうふうな流れだったのかちょっと教えていただきたいと思います。

○総務課長（村上和代君）

お答えいたします。

新聞報道によりますと、屋久島、口永良部島、島外避難訓練が行われておりますが、まず初

めに、政府が武力攻撃予測事態認定の可能性を踏まえて避難計画作成や調整を開始いたします。次に、屋久島、口永良部島への来島自粛を国民に周知いたします。来島制限を開始、航空機、船舶の輸送体制を確立いたします。４番目に、武力攻撃予測事態を認定いたします。最後に、島民の避難開始となっております。

以上です。

○３番（宮之原剛君）

プロセスとして大きな部分で５段階あるようでありますが、本当に有事になった場合に、このプロセスが流れで本当にスムーズに行くものなのかと、ちょっと疑問に思いますけども、徳之島においてもこのような訓練を今後行う予定が、また計画があるのかどうかということでお願いいたします。

○総務課長（村上和代君）

お答えいたします。

実は本町では平成30年の１月10日に、弾道ミサイルが発射され、我が国に飛来する可能性があると想定した訓練が行われております。主催は内閣官房、消防庁、鹿児島県、徳之島町の共同主催で、全国初の離島での訓練でございました。実施日時は、先ほど申しました平成30年の１月10日の午後２時から15分程度の訓練でした。訓練場所が徳之島町の亀津地区、想定がＸ国から弾道ミサイルが発射され、我が国に飛来する可能性があると判明、訓練の項目といたしましては、防災行政無線による住民などへの情報伝達を実施、亀津地区において、住民などが屋内避難等を実施、亀津漁港において、漁船を操縦している者が避難行動を実施、このときの訓練に参加した人数が、住民や関係機関160名となっております。

次に、そういった訓練が予定されているのかという質問でございますが、弾道ミサイルの着弾や、先ほど議員の申しました台湾有事の切迫感も高まってきていると思います。今後の訓練は必要だと感じておりますが、国や県と共同で行う必要があるために、今後は調整が必要かと思われます。

以上です。

○３番（宮之原剛君）

再確認ですが、先ほど以前行われた弾道ミサイルが来たときのという訓練ですが、平成30年、分かりました。国、県等の協議をしっかり進めていかないと、またこの訓練もできないと思いますけども、その保護法に基づく訓練をするしないは別として、この議論をやはり並行して進めていくべきだと思います。もしこれが必要ならば、そういう議論を進め、また町民のほうにも説明をしていくべきではないかと思います、状況を、するしないは別として、そこら辺、町民への説明はどうでしょうか。

○総務課長（村上和代君）

お答えいたします。

町民に向けての説明は、ホームページや広報紙等でお伝えしていけたらと思っております。

○３番（宮之原剛君）

できれば、ホームページ、広報紙も含めてですが、住民、区長さんとか、それから駐在さん、それで、各女性連とか、主だった団体等の責任者の方々も含めての町全体の説明会というか、そういう今どこら辺まで協議が進んでいるのかというのは説明会を開催していただきたいと思います。これは要望であります。

厳しい安全保障環境であります。抑止力としての備えは必要だと思います。

元自衛官であります瀬戸内町の土井一馬防災専門官がこの屋久島町の訓練に参加しております。それで、２月の10日には天城町で防災研修が行われております。２月25日は天城町の総合防災訓練、これは、その国民保護法に基づくのではなくて、これは、津波の関係での総合防災訓練600名参加しておりますが、このようなことを天城町はされておるようであります。

有事にしろ、自然災害にしろ、初動対応はどうしても自主防災組織による自助・共助が大事だと思います。防災研修、防災訓練を、自主防災組織を含めた町全体での避難訓練を２年か３年に、最近はやれていませんので、町全体のこの訓練を２年か３年置きに１回は実施したほうがいいのではないかと。この間は亀徳地区とか東区とか防災訓練しましたけども、やはり亀徳は避難訓練もされたようですけども、東区の場合は公民館でという講習でありましたけども、やはり個々にやってしまうとどうしても課題点が見えづらいと、それでまた緊張感というか、そういうのもなくて、せっぱ詰ったという、それは訓練ですからどうしても仕方ありませんけども、町全体でやるような防災訓練を、今後２年か３年に１回は実施していただきたいと、実施したほうがいいのではないかと思いますが、総務課長どうでしょうか。

○総務課長（村上和代君）

お答えいたします。

実は、今年度も３町でする計画は立てておりました。天城町で実施予定でありましたが、天城町のグラウンドのほうが急遽使えないということになりまして延期になった経緯がございます。来年度また改めて３町で実施するよう検討してまいります。

○３番（宮之原剛君）

ぜひ３町、もしくは徳之島町だけでもいいですので、新年度にこういう防災訓練を予定していただきたいと思います。

台湾有事、あってはならないことでありますが、町民の命と財産を守る行政、議会の責任として備えは必要だと思います。

12月議会でも台湾有事の質問に、茂岡勇次課長が答弁しておりました。まず対話が大事だと思うということをおっしゃっていました。まさにそのとおりだと思います。

日本政府には、平和憲法に基づく平和外交に全力で当たってもらうよう、また中国との関係の深い公明党には、特に先頭に立って対話で打開の道を開いていくことを期待し、次の質問に移らさせていただきます。

２項目め、ＡＥＤ設置についてであります。

（１）現在町内の各公共施設のＡＥＤ（自動体外式除細動器）設置状況を教えてください。

○総務課長（村上和代君）

お答えいたします。

各公共施設の設置状況でございますので、関係機関のそれぞれの課からお聞きし取りまとめておりますので、全公共施設をこちらのほうで答弁させていただきます。

役場本庁が２台、生涯学習センター１台、保健センター１台、花徳支所１台、各小中学校13台、文化会館１台、体育センター１台、亀津公園１台、総合運動公園６台、生涯学習センター２台、へき地保育所２台、母間保育所１台、それと、地域営業課美農里館のほうに２台設置、計34台の設置でございます。

○３番（宮之原剛君）

各公共施設等にはしっかりとＡＥＤが設置されているということで安心いたしましたけども、各自治公民館ですが、一応高齢者の方がしょっちゅう集まるとこでありますし、地域サロンとかいろんな行事を、公民館講座もしくはまた自主講座等も盛んにやっております。それで、やはりそこの自治公民館にもこのＡＥＤの設置が必要だと思います。額が結構かかるようでありますが、この設置の助成ができないでしょうか、お願いします。

○総務課長（村上和代君）

お答えいたします。

ＡＥＤですが、まず購入額、買取りをした場合とリースでした場合の金額をお伝えしたいと思います。

まず買取りをした場合、これはメーカーによっても違いますが33万9,600円、これは購入した場合には、パット使用期限がございます。２年となっておりまして、１枚6,000円ですので、２枚元々入っておりますので１万2,000円必要になります。バッテリーの期限が４年となって、１台３万6,000円となっております。これらを含めて33万9,600円になります。

またリースの場合は、バッテリー、パットともに備え付けられておりまして、パットの取り替えにつきましても無償で取り替えができます。また処分料も無料となっております。リース料につきましては17万8,200円、差額が16万1,400円となります。

購入する場合にはリースのほうがいいかと思いますが、今御質問のありました各自治公民館での設置の助成につきましては、今のところ希望する公民館につきましては、各集落へ補助金を出しています。集落活性化補助金を活用されてはどうかと思います。

以上です。

○３番（宮之原剛君）

公民館は災害時の避難場所にも指定されております。それで、やはり公民館には必要かなと思いますが、亀津、亀徳は消防署に近いですので、いざ何かあった場合にも５分くらいで来れると、この間消防署の職員が言われておりました。ですので、亀津、亀徳以外のやはり遠い場所、そういう自治公民館にはやはり設置が必要だと思いますので、御検討いただきたいと。

また、その予算措置にしても、集落活性化事業20万毎年あります。その集落活性化事業は非常に使い勝手のいい事業なんです。電気代にも使うことができますし、または保険、１日保険とかスポーツ保険、ボランティア保険等にも使えます。非常にこれ使い勝手のいい補助事業で、これで先ほど総務課長もおっしゃっていたように使えるのであれば、リース料として毎年継続してそこで支払いをすると。これは全公民館ではなくて、希望する公民館はそれでもって町に申請、集落活性化事業の助成金として申請すればいいわけですので、そういうことでぜひこのＡＥＤの設置は、それぞれの公民館でやっていければなと思っております。

それから、町内のＡＥＤの設置箇所ですが、どこにＡＥＤがあるのか、銀行とか行ったらあります、各銀行さんとか、それで、学校にもあるということで、そういう場所を示す何か広報紙とか、そういうここにありますよということを周知していただきたいと。民間事業所にもありますので、そこら辺をちょっと広報等で周知をすることはできないでしょうか。

○総務課長（村上和代君）

お答えいたします。

現在、町ホームページにおいて、公共施設のＡＥＤの設置箇所については掲載しております。また、徳之島地区消防組合のホームページに、町内に限らず、徳之島島内に設置されているＡＥＤ設置箇所マップが掲載されております。

今後の周知方法につきましては、今議員がおっしゃっていただきましたように、町の広報紙等を活用して周知をしていきたいと考えております。

○３番（宮之原剛君）

ぜひ、この間、東区で防災訓練したときに、高齢者の方から、実際に何かあったときに、使いたいときにこの東区公民館の近くにどこにあるんですかと、そのＡＥＤがと、すぐ近くの鹿銀とか労銀とかありました。パチンコ店にもありました、調べてみたら。近いとこはいいと思うんですが、そのようにどこにあるのかというのを示すマップを広報紙に織り込んでまた掲載していただければなと思いますので、どうかよろしくお願いします。自治公民館や近場の設置箇所が分かっておれば対応も早く、また亡くなる命も救えると思いますのでよろしくお願いをいたします。

それでは、３項目めに移ります。音楽教育環境の整備についてであります。

（１）ですが、昨年12月の補正予算でも私がお伺いいたしましたが、亀津小学校、亀津中学校吹奏楽部の楽器の維持管理の状況をお伺いいたします。

○学校教育課長（太　　稔君）

宮之原議員の御質問にお答えいたします。

吹奏楽部の楽器の管理は顧問の先生が行っておりますが、維持修理に関しましては、年に一度鹿児島の業者が来島いたしましてメンテナンスを行っております。

以上です。

○３番（宮之原剛君）

吹奏楽部があるのは亀津小学校、それから亀津中学校だけだと思いますが、昔東中、東天城中学校にもあったということですけども、今は休止状態ということでありますが、この楽器の維持管理状況は、先ほど言われたとおり、管理は顧問の先生がされると、維持は、メンテナンスは業者にお願いをしてされているということでありますが、この楽器で、今例えば亀津小にした場合に、一番古いのはいつ頃の楽器がありますか。

○学校教育課長（太　　稔君）

お答えいたします。

一番古いのは、小学校では昭和56年に購入したユーフォニアム、同じく亀津中学校のほうに昭和48年に購入した同じやつがございます。

以上です。

○３番（宮之原剛君）

昭和56年、今からどれぐらい前ですか、43年ぐらい前ですか、もうすごいやっぱり古い楽器がまだあるということでありますが、この間、亀津小学校のほうに校長先生を訪ねて、一緒に音楽室を見させていただきました。校長先生の許可を得て写真を撮らせていただきましたけども、これがホルンです。ホルンのちょうど開いている根っこの部分がもうへこんでしまって、これも結構古いやつだと思います。それから、楽器のハードケースこれですけれども、ハードケースのほうも、ガムテープか黒いやつを貼りまくって補修したり、もう相当古いこのケースがありました。中身も古いんだと思います。このような実態があります。

昨年、亀津小学校の吹奏楽部は県大会で16年ぶりに金賞をもらったという快挙も成し遂げております。そして、先日24日ですか、鹿児島で行われた九州大会に出場をしております。本当に生徒さん方、子どもたちも一生懸命頑張っておられます。

スポーツ分野もいいですけども、文化芸術分野での教育環境も整えて、離島の子どもたちの才能を伸ばしていくべきだと思います。

離島のある町は、毎年継続的に傷んだ楽器の買い替え、予算を毎年組んでいるんです。そんな大きな予算ではありません。やっぱり１個か２個ぐらいです。例えばさっき言ったユーフォ

ニアムとかは、高いのは100万ぐらいしますので、いいやつはピンからキリまであると思いますけども、やはり何十万という金額が１個に対してかかるわけでありますので、そんなに大きな予算は組めないと思いますけども、毎年その状況に応じて、傷んだ状況に応じて、継続的にこの予算を組んでいく、助成とかできないのか、ふるさと思いやり基金とかもありますので、その基金の使い道の中に教育文化、スポーツの振興に関する事業ということもうたわれておりますので、どうかこの点、修理、継続的な予算を組むことができないのかということでお伺いします。課長どうでしょうか。

○学校教育課長（太　　稔君）

お答えいたします。

経年劣化の進んだ楽器も多くございます。また再調査を行ってしっかり調べていきたいと思います。

また新規の購入ですけども、補助金とかその他の財源等を検討してまいります。またクラウドファンディング等も活用して購入という方法もございます。

また修理に関しましては、軽微な物は使用者のほうで行っていただいて、高額とか大規模な物に関しましては、修繕費は協議を行って、学校のほうと協議していきたいと思います。

以上です。

○３番（宮之原剛君）

クラウドファンディング等ありましたけども、いろんな知恵を働かせて、その予算確保、ふるさと納税の使い道、ネットで調べたら結構いろんな事業をされております。その中にこの楽器の購入等をぜひその事業も入れていただければと思います。

先ほど課長からもありましたが、楽器のメンテは各自でするということもありましたですけども、役場のギタリストでもあります廣課長、楽器を演奏する前にまずやることは何でしょうか。

○介護福祉課長（廣　智和君）

お答えします。

最初にすることはチューニングといいますか、調律ということでよろしいでしょうか。

○３番（宮之原剛君）

そのとおりでございます。チューニング、音をまず合わせるということですよね。ギターにしろ、管弦楽にしろ、経年劣化しているこういうホルンとかやはりチューニングもできないそうです、携わっている方に聞いたら。結局全部が全部じゃないですけども、やはりその吹奏楽部で使われている楽器の中には、そういうのが幾つかあって、それで小学校の新入部員、入ってすぐの子どもたちはそういう古い物から使わされるということで、結局音が合わせられない楽器でいくら練習してもうまくならないわけです、はっきり言って。ですので、やはり最低限

チューニングができる状態に持っていくというのは大事なことだと思います。

ですので、その状況常々学校教育課とかも、それから学校側も確認しながら、子どもたち、高校生とかは自分でできるらしいんです、メンテナンス、家に持ち帰ってきれいに掃除したり磨いたり、チューニングができるようになるんですけども、小学校、中学生はそれはできないんです。自分でその楽器のメンテはできないですので、せめてチューニングができる楽器を使わせてあげたいというふうに思います。

この間の演奏会においても、その楽器を徳之島吹奏楽団の団員の方から借りたり、それから、亀津中学校の吹奏楽部から借りて鹿児島に行かれているわけです、実際は。ですから、それだけ楽器が不足しているということでありますので、この点ぜひ今年その予算を組んでいただきたいと思います。また、ふるさと納税等、クラウドファンディング等、いろんな対策を講じていただきたいと思います。

文化は心の薬と、文化のレベルはその国、地域の人間性のレベルのバロメーターとも言われております。徳之島は、他の島と比べても結構盛んじゃないかと思います。ダンス、舞踊、写真、絵画、書道、音楽、演劇、それから合唱団もあります。それから、島唄、三味線、伝統芸能も盛んであります。そのような文化が盛んな徳之島であります。サックス奏者でもあります高岡町長、音楽を含めて文化芸術の交流発展について一言お願いをいたします。

○町長（高岡秀規君）

吹奏楽部等々の楽器については非常に高価であるということから、町の資産として、備品として運用するのが子どもたちにとって平等な環境がつくれるのでないかなというふうに思いますので、今後楽器については検討していきたいというふうに思います。

○３番（宮之原剛君）

どうか学校側と連携をして、定期的に楽器の状況を確認して把握して、音楽教育の環境整備もよろしくお願いいたします。

それでは、最後４項目めであります交通弱者・障がい者支援についてであります。

（１）政府は今年の４月からライドシェアを条件付でできるようにすると発表しておりますが、そもそもライドシェアとはどういうシステムなのかお伺いをいたします。

○企画課長（吉田　忍君）

宮之原議員の御質問についてお答えいたします。

ライドシェアとは、第二種運転免許を持たない一般ドライバーが、自家用車を使用し有償で顧客を送迎するサービスのことでございます。

○３番（宮之原剛君）

３か町のほうで協議会、徳之島地域公共交通活性化協議会というのがあると思います。いろんな公共交通機関の課題とか対策を検討する協議会でありますけども、その中でこのライドシ

ェアについては話題に出ていないんでしょうか。

○企画課長（吉田　忍君）

先日開催されました徳之島地域公共交通活性化協議会においては、話題は出ておりません。

以上です。

○３番（宮之原剛君）

以前、大分何十年も前、30年ぐらい前ですか、皆さんも使われていたと思いますけども、軽貨物運送、そのときはまだ合法だったんでしょうね。よく利用したものであります。軽貨物運送です。まさにこの高齢化社会にマッチしたものだと思います、この軽貨物運送とか。法的にもうそれはできないということでなくなったわけですけども、今まさにそのライドシェアというこの政策が、国としても力を入れていこうという流れになっております。タクシー会社とそこら辺を連携、協議して、町内でもライドシェアの導入の可能性はないのか、課長の御意見を伺いたいと思います。

○企画課長（吉田　忍君）

お答えいたします。

現行の制度でも、タクシー事業の許可を持たない法人または個人の有償による送迎、こちらのほうは、いわゆる白タク行為として原則禁止されているところです。

そもそもこの条件付解禁とは、タクシー会社によるドライバー不足、こちらのほうを解消する一環として、タクシー会社が事業の一環として、地域の自家用車とドライバーを活用して事業を行うものでございます。タクシー会社の持っている配車データを活用し、タクシーが不足している地域や機関、時間帯に限定してライドシェアが実施される、このことを条件付運用と示しております。

タクシー会社との連携、協議によるライドシェアの導入の可能性はということでございますが、こちらのほうタクシー会社との連携であれば、国土交通省が来年３月末をめどに設計します新たな制度、こちらのほうによる自家用車活用事業と称する自家用自動車有償運送許可であると考えられますので、こちらのほうはタクシー会社の補完として実施されるものになりますので、タクシー事業者の判断で九州運輸局に申請、その許可を受けてから運行開始ができると考えております。

以上です。

○３番（宮之原剛君）

運用するに当たってはいろいろ問題もあると、安全性の問題とかあると思います。国のほうでの条件緩和というのは、結局タクシー会社の管理の下ということでなっておるみたいでありますので、どうかそういうデメリットもありますけども、様々な問題解決にも、交通弱者対策とか高齢化対策とか、いろいろ解決につながると思いますので、国の動向を踏まえて地方高齢

化地域こそ、いち早くこのシステムを検証の意味でも、試験的にでも導入すべきだと思います。

今後、国もそういう補助事業等を出してくると思いますので、見つけ出して、弱者対策をぜひしていただければと思いますが、課長、そこら辺。

○企画課長（吉田　忍君）

先ほどの答弁の重複になりますが、このタクシー会社とのライドシェアの試験的導入という形ではなく、基本的にはタクシー事業者がドライバー不足の解消に向けて本事業を実施する場合に、事業者のほうから九州運輸局に申請許可を得てまいりますので、我々としましては、この国が設計する新たな制度、こちらのほうの情報が入り次第、タクシー会社さん等々に周知に努めてまいりたいと考えております。

○３番（宮之原剛君）

この間、議員研修で鹿児島に議員皆さん行かれましたけども、鹿児島でも、本当今までタクシー乗り場、タクシーがあるところでタクシーがつかまえられないんですね。だから、それだけ本当にタクシードライバーが不足しているなということは皆さん感じたと思いますけども、今後タクシー事業者としっかり連携しながら、また国の施策等を見ながら、その交通弱者対策をしていただければと思います。

それでは、最後の質問に移ります。最後に、ヘルプカード、ヘルプマークについてお尋ねをいたします。

これ左側がヘルプカード、右側がヘルプマークになっております。これは、本土のほうに行けば、電車とか、それからバスとかでよく見かけるマークであります。そして、そのカードのほうは、各個人個人が持たれて、私はどういう障害を持っていると、一見外観からは分からないんだけども、耳が聞こえにくかったり、やはり精神的な障害を持っていたりいろいろするんですけども、そこら辺をしっかり具体的に書かれて、どういう支援をしてほしいというのが書かれておるようなんです。免許証ぐらいの大きさですか、カード、もうちょっと大きいかな、それぐらいのカードだそうでありますが、このヘルプマーク、ヘルプカードについて、分かりやすく簡潔に説明と、それから、各市町村でも発行できるというふうになっておりますが、我が徳之島町での発行状況も併せてお伺いをいたします。

○介護福祉課長（廣　智和君）

御質問にお答えいたします。

まず、ヘルプカード、今写真見せていただきましたけど、実物がこんな形になります。またマークがこんな下げれるようにストラップがついているということですけども、また併せてチラシというかパンフレット、こういったものが、今、２階の窓口とかあるんですけども、その内容についてもこのパンフレットで説明しますと、ヘルプカードとは、障害などで困っている人が周りの支援を求めるためのカードです。カードに配慮してほしいことや手伝ってもらうこ

とを記入しておき、いざというときに提示することで支援が必要な人と支援ができる人をつなげるということになっております。どんなときかといいますと、例えば日常的にちょっと手伝ってほしい買い物のときとか、あとバスとか乗ったときにちょっと座りたいんだけど、言えないときにカードを示したりとかするというような感じになっているようでございます。

今発行状況ということなんですけども、徳之島町、この制度自体が令和元年度から始まっているということでして、令和元年度が、カードが２枚、マークがゼロ、令和２年度、カードが２枚、マークゼロ、令和３年度、カード４枚、マーク３枚、令和４年度、カード４枚、マーク４枚、令和５年がゼロ枚、ゼロ枚、今年６年になってから、カード４枚、マーク４枚というふうになっているということです。

以上です。

○３番（宮之原剛君）

このヘルプカード、マークは、障害者手帳を受けていない方ももらえるということですよね。

○介護福祉課長（廣　智和君）

このカード、マークともに障害者手帳を持っている、持っていないに関係なく使えるということです。

○３番（宮之原剛君）

といたしますと、やはり障害者手帳を発行されてもらっている方は結構いらっしゃると思いますが、それから考えても、障害者手帳を持っていない方も発行できるということからすると、毎年の発行部数は非常に少ないのかなと思います。

これは、非常に島で持って、島は大体周りの人たちも分かると思うんですけども、その方が、障害の方が持っていらっしゃる方が本土に行かれた場合には言えないわけです。しかし、それを持っているということ、またはこういうふうなマークを下げているということで、非常に本人もいろんな旅行とか用事、本土での動きがしやすいのじゃないかと思いますので、これ身につけておれば、何かあったときに役立つわけですので、町でもこのことを広報紙に載せたり、またホームページで紹介するなど、もっと周知を徹底すべきだと思いますが、課長どうでしょうか。

○介護福祉課長（廣　智和君）

お答えいたします。

現在周知の方法としては、介護福祉課といいますか、２階のエレベーター前のほうにパンフレットの設置、またポスター等を置いてあるという状況なんですけれども、インターネット等にはまだ載せていないということでしたので、また今後もっと周知できるようにしていきたいと思います。

以上です。

○３番（宮之原剛君）

ヘルプカードは令和元年７月から、ヘルプマークは令和３年７月から配付されておるわけでありますけども、その配付当初は、多分町でも広報紙とかに載せたと思うんですけれども、もう何年かたっておりますので、令和３年は一昨年ですけども、３年前ですけども、再度この広報紙にその旨を載せていただいて周知していただくようよろしくお願いをいたします。

多くの障害を持った方々が困らないように周知を徹底していただくよう、また施政方針の障害者福祉の充実のところにもありました、人に優しい地域社会づくりということで、先ほどの議員さんもおっしゃっていましたけども、そのようなこともうたわれておりますので、どうかそのように障がい者の方々を支援していただきますよう、努力していただきますよう要望して、私の質問を終わります。

以上です。

○議長（行沢弘栄君）

しばらく休憩します。16時５分から再開します。

休憩　午後　３時４６分

再開　午後　４時０５分

○議長（行沢弘栄君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、木原良治議員の一般質問を許可します。

○１３番（木原良治君）

皆さん、こんにちは。お疲れさまです。今日最後の質問者となりました。しばらくお付き合いをお願いいたします。

事前に２項目通告しております。皆さんも既に御存じのように、道の駅、花徳の県道空港線沿いに建築中であり、また世界自然遺産センターを併設中でもあります。相当な期待を持ってこの質問を取り上げました。２月16日に国交省のほうから正式に道の駅「とくのしま」ということで登録されました。より一層身近に感じてこの質問を取り上げます。

まず最初に、道の駅の概要から伺います。そして、また別に道の駅「とくのしま」の概要と、続いて１点１点詳細については質問席のほうから行います。

○花徳支所長（尚　康典君）

木原議員の御質問についてお答えいたします。

道の駅の概要としましては道の駅は道路利用者の安全で快適な道路交通環境の提供並びに地域振興に寄与することを目的とし、駐車場やトイレなどの休憩機能、道路情報や地域情報を提供するための情報発信機能、地域との交流によりその地域が持つ魅力を知ってもらう地域連携機能の３つの機能を併せ持った施設であります。

道の駅の登録の要件を満たし、国交省への登録をもって道の駅となります。また、今回の登録により全国の道の駅の数は1,213駅となり、県内では23駅となります。

○１３番（木原良治君）

道の駅のイメージは我々よく県外、県内でも旅行に行ったときに、トイレ休憩、そして昼食の休憩で立ち寄ります。先ほどの尚支所長の３つの条件、これはトイレ、駐車場これは24時間のオープンの条件が第１、そして第２が例えば徳之島でしたら徳之島の道の道路のそして景勝地のそういう情報発信の機能を持つと。そして、３点目が道の駅に徳之島の特産品、物産品を展示し、販売し、そして食堂も備える、そういう地域の交流の場ともなる機能を３つ備えているということですね。

○花徳支所長（尚　康典君）

木原議員がおっしゃったようにトイレなどの休憩機能と道路情報などの情報を提供する情報発信機能と地域の魅力とかを地域が発信していく地域連携機能の３つを併せ持った施設でございます。

○１３番（木原良治君）

道の駅「とくのしま」、12月のオープンに向けて同時に世界自然遺産センターもオープンのイメージを持って伺いますけど、駐車場、何台ぐらい止められるんですか、そしてトイレはどのように24時間のオープンの施設になるんですか。

○花徳支所長（尚　康典君）

お答えいたします。

今ありましたように駐車場とトイレは24時間利用可能であります。また今回道の駅の登録を目指すということで、駐車場とトイレに関しては県のほうで整備をしていただいております。駐車場としましては46台と屋外トイレは11基を整備してあります。道の駅のこちらの概要といたしましては、あと町のほうで整備しています案内ステーション、子育て支援室、販売所、食堂、イベント広場等がありまして、全部合わせて道の駅「とくのしま」として今回登録されております。

○１３番（木原良治君）

同じ敷地の中に県道沿いが道の駅「とくのしま」、そして同じ敷地の中に奥の方に世界自然遺産センター、これは駐車場は共有するということで、そういうイメージでいいんですか。

○花徳支所長（尚　康典君）

お答えいたします。

道の駅「とくのしま」として奥の世界遺産センターも含めての道の駅「とくのしま」としての登録となっております。それとあと駐車場につきましても、トイレにつきましても、奥の世界遺産センターとの共有での使用となっております。

以上です。

○１３番（木原良治君）

当初、世界自然遺産に登録されたときに、まさかこの道の駅ができるとは想定はしていなかったんですけど、想定外でいい結果を導いてくれたものだと思います。

３年前に世界自然遺産センターが世界自然遺産に登録された、それからこの道の駅が今日まで来たことに対する年次的に経過を簡潔に説明していただけますか。

○花徳支所長（尚　康典君）

それでは経過を御説明いたします。

まず最初は令和２年度に観光拠点施設の整備事務が企画課から北部振興対策室に移管になり、またそのときに環境省より世界遺産センターを花徳地区のほうに整備したいというのがありまして、また、国交省より町長のほうに町が整備する観光拠点施設は道の駅を目指したらどうかという助言があり、また、町長から、担当のほうに道の駅の提案があり、県の道路維持課へ相談し、推進し、今の用地は北部創世推進委員会にも諮って選定してあります。

続いて、令和３年度はそれに伴いまして、用地の売買、あと基本計画、造成設計を実施いたしました。

そして、令和４年度は、この令和４年度から奄美群島振興交付金特定重点配分対象事業を活用いたしまして、管理運営計画、基本設計、実施設計の策定と地質調査造成工事を実施いたしました。そして、令和５年２月に花徳生活館と生涯学習センターにて住民説明会を開催いたしました。その後、今年、令和５年度は同じように奄美群島振興交付金を活用し、本体工事、外構工事、人材育成事業を実施いたしました。

そして、先ほど木原議員もおっしゃいましたが、今年の令和６年２月16日に道の駅に登録となりました。令和６年度、来年度はまた奄美群島振興交付金を活用してイベント広場や植栽等の外構工事、人材育成事業を実施する予定であります。

○１３番（木原良治君）

世界自然遺産は環境省ですよね。それでもって世界自然遺産センターができる。そして道の駅は国交省ですよね。国交省の予算、それにまた駐車場は県のほうで整備していただくと。世界自然遺産センターだけができるものだと思っていたんですけど、そこに先ほど尚花徳支所長も、町長のトップセールスで道の駅、国交省のアドバイスがあったと今お聞きしたんですけど、もう少し町長のほうから詳しく説明願えますか。

○町長（高岡秀規君）

まず、遺産センターの誘致に係る暗黙の条件、そしてまた特定重点の配分の予算をいただく条件等々は遺産センターの中に、横に、観光拠点施設等々の施設があったほうがいいと、その施設については、地域が経営するような民間で運営をするということが、ある程度民間の運営

が条件であったということであります。その中で、要望等を行っているうちに、ある程度目星が立ったときに町がある程度予算が大きいものですから、国交省としては、道の駅という提案をしていただきました。それによって、隣接する道路の持ち主が、結果的に道の駅の整備になりますので、あそこは県道ですから、鹿児島県が道の駅を申請すれば町の負担は大分減りますよという助言がありまして、道の駅を目指すことになりました。

○１３番（木原良治君）

今尚花徳支所長と町長のほうから奄振交付金の中で特定重点配分交付対象事業がありましたよね。名前が特定重点配分交付対象事業なので、予算のほうにもちょっと絡むんですけど、相当な国の補助対象であり、町の持ち出しがあろうかと思うんですけど、これが後で起債、過疎債、地方交付税の還元になってほとんど町の負担がないということですよね。ちょっと予算のほうに飛びますけど、これ幾らでできるんですか。道の駅だけでいいです。

○花徳支所長（尚　康典君）

それでは、道の駅関係といたしましては６億2,960万4,000円となります。そのうちの奄振事業で４億7,206万4,000円で、このうち国の特重を使っていますんで、国が10分の６を買いまして、国のほうが２億8,323万7,000円で県のほうが10分の１で4,720万4,000円で町のほうが10分の３ということで１億4,162万3,000円となります。

また町の持ち出している予算のうち交付税措置でまた10分の1.5、15％の町の持ち出しの半分の返りが交付税措置もあります。それとまた別で町単で奄振の補助事業に載らない箇所もありますんで、そちらのほうで町単として4,770万2,000円、あと先ほども言われましたが県のほうに駐車場とか屋外トイレとか整備させていただいていますんでそのお金が１億983万8,000円となります。

以上です。

○１３番（木原良治君）

この道の駅「とくのしま」、総面積、建築面積規模を伺います。

○花徳支所長（尚　康典君）

お答えいたします。

道の駅「とくのしま」としての総面積は6,832平米でございます。その建築面積、その建屋の面積は588.48平米となります。

○１３番（木原良治君）

３年間かけてこの事業が12月にオープン迎えるということで、これまでに花徳支所のほうでその場合は企画課でしたよね。企画課、そして花徳支所に移って、過去に、その事業費として令和５年度も400万ですね委託料、令和６年度、また400万、その前に令和３年度も400万ぐらいありましたよね。それを具体的にどのように使ってこの400万がまた令和６年まで来ている

んですか。３年間どういった委託をしてきたんですか。

○花徳支所長（尚　康典君）

お答えいたします。

令和３年度の400万はこの道の駅の運営に当たりまして、管理運営計画を策定していただきました。それに当たりまして、類似施設の情報とかをいただいて管理運営計画を令和３年度は作成しております。令和４年度につきましては、その道の駅の施設管理を担う人たちの人材育成事業といたしまして、今年度行ったのは、視察研修を行いました視察研修でこの２回行ったんですけど、宮崎県のほうと11月に宮崎県のほうにあと先月２月に熊本のほうに視察研修のほうに伺っています。あとそのための研修のプログラムの作成とかをしていただきました。

あと、今度管理運営をしていくに当たっての運営協議会の設立及び組織の推進支援という形で、組織の成立に向けた運営協議会の設立に向けた組織構成の検討や生産者組織の起案案の作成支援とか、あと関係事業者との自治体との連携調整と事業計画書の作成支援、収支予算書の作成支援を今年度は行いました。

来年度また人材育成事業として行うのは、今回、道の駅を登録されて、施設が求められている公共部門とか集計部門の業務において適切な管理運営を担う民間事業者に対しての施設の供用開始、実際さっきおっしゃいました６年の12月に予定しているんですけど、そのために向けた人材育成を行っていきたいと思います。また、施設の共用開始後は即配イベントの企画や実施等による観光物産のＰＲとかを予定しております。

○１３番（木原良治君）

12月のオープンまでにあと８か月ですよね、あと８か月なのか、まだ８か月なのか、この先ほどの奄振の交付金事業の相当補助金のいい特定重点配分対象事業、これは一応頭に置いて運営に関して、一応どういう方々に運営を委託するのか、指定するのかという話に今度はなるんですよ。12月のオープンでしたら。それに向けてどういった方々がその道の駅を管理して運営されるのかとなるわけです。

これは、町のほうで公募型をするのか、それとも国交省の奄振事業の特定重点配分対象事業の中に並行して話を進めるために徳之島町のほうで一応指定型の町のほうで指定する団体を立ち上げていただいて、並行してこの事業が進められたと思います。公募型普通は公募型ですよね。

今回はこの町のほうで指定を目指した団体に今回の12月のオープンに向けての指定を考えておられるということですよね、これでどなたかが説明していただけますか。

○町長（高岡秀規君）

特定重点配分の事業をするに当たっては、ある程度形が見えていないといけないということです。今後立ち上げますとか、今後こういった団体を要望していますとか、そういった計画だ

けでは説得力がないということを連絡を受けまして、ある程度省庁を納得させるような公益性のある地域性が見込める団体を立ち上げる必要があったということです。そこで一般社団法人なのか、ＮＰＯ法人なのか、等々で民間の活力を活用するということで花徳集落の皆さん方と話合いを北部振興開発委員会等々を重ねて、一定の団体が立ち上がったというところで、その一定の団体の委託が可能であるという計画を出して、今奄振の特定重点配分の事業を採択になったということであります。

○１３番（木原良治君）

この特定の団体に対して、先ほどの２年連続の400万、これは有効に使われたということですよね。そして今回令和６年度に、この後の予算審査特別委員会のほうでまた審査しますけど、これも同じようなことに使われるということ３年連続同じような目的で使われるということですか。

○花徳支所長（尚　康典君）

お答えいたします。

最初の１年目の令和３年度は管理運営計画という計画書を作成していただきました。昨年度から人材育成事業ということで、視察研修に行ったり、あと組織の立上げに関しての支援をいただいているところであります。６年度も同じように視察研修やら組織の支援もいただきながら、今度はまた運営後のどういうふうに持っていくかというのもまた相談しながら行っていきたいと考えております。

○町長（高岡秀規君）

ちょこっと補足しますが、もしかしたらちょっとごっちゃになっているかもしれません。していないかもしれませんが、結局一般委託先と今の実際３年間続いている委託先、それとは全然別の団体でありまして、あくまでも道の駅の獲得の基本計画等々の計画が必要だったということと、あと道の駅をある程度運営を安定化するためには、人材が必要であるということがあったので、そこは委託しているということであります。それと運営する会社は別ではあります。

○１３番（木原良治君）

企画課のほうに行きますけど、最初の企画課のほうでこの道の駅を進めていました。そして、今回令和６年度の予算案に750万、今度企画課のほうで道の駅の委託料が出ていますね。これ花徳支所と企画課、並行していっているのか、750万の目的、今後の展開ちょっと聞かせてください。

○企画課長（吉田　忍君）

木原議員の御質問にお答えいたします。

先ほど説明がありましたように、この本計画、最初の窓口は企画課でございました。候補地の選定等々をしながらタイミングを見て北部振興室のほうへ移管した経緯がございます。今回

企画課で当初予算に計上してあります道の駅有効活用計画策定業務委託料、こちらにつきましては、事業費750万でございます。

内容につきましては、今年12月にオープン予定の道の駅「とくのしま」を徳之島の新名所となるように、観光客や地域住民が楽しめる満足できる施設として、その一体を網羅した形での有効活用できるように花徳支所と並行しながらというよりかは、花徳支所も一緒になりながら、各分野情報発信、観光、特産品物販などでの施策を企画提案しながら実施につなげていく計画策定となっております。

以上でございます。

○１３番（木原良治君）

この道の駅をイメージしたときに、花徳支所のみならず、企画課、それと地域営業課、地域営業課課長に聞きますけど、加工センター美農里館、道の駅ができたのイメージしてるんですよ、12月、そして現在ある加工センター美農里館、この施設はオープンしたときにどのような存在感になるんですか。

○地域営業課長（清瀬博之君）

木原議員の質問にお答えします。

道の駅「とくのしま」がオープン後の美農里館店舗のことについてお尋ねでした。

現在美農里館店舗は令和６年度以降も営業を行っていく予定であります。また、町の方針として道の駅「とくのしま」がオープン後も営業をしていく予定ですが、道の駅の運営状況や美農里館店舗の売上げ等を考慮して将来的には柔軟にまた臨機応変に考え、対応していきたいというふうに考えております。

以上です。

○１３番（木原良治君）

道の駅ができてそこに加工センターの様々な製造した商品が道の駅のほうに行って、相当売れるのを期待するんですが、そこでまたおもてなし観光課長に聞きますけど、外から見たときに道の駅ができたパッとイメージすると、花徳支所、地域営業課、おもてなし観光課、企画課、あなた方一体となった話合いというのはなされたことはありますか。おもてなし観光課長。

○おもてなし観光課長（吉田広和君）

お答えします。

その件に関しては今のところございません。

○１３番（木原良治君）

３年間ずっと花徳支所のほうに400万計上して、議会の承認の下で計上してまた今回また400万計上しました。議会の承認の後、企画課のほうで750万、総務課を中心に財政的にあなた方は、ここから見たときにちょうどいいタイミングで花徳支所長の横にはおもてなし観光課長が

いるし、その横には地域営業課長がいるし、その前には吉田企画課長がいるし、その隣には総務課長、皆さん席は一緒だけどこう話合いというのはなかったんですか。

○総務課長（村上和代君）

お答えいたします。

以前道の駅をつくる段階では、何度か話合いなされましたが、この委託料を組むに当たり、５つの課で話合いをするのはありませんでした。

○１３番（木原良治君）

ここから見たとき、偶然なのか、必然なのか、とにかく花徳・母間・東天城の方々が課長がそろって、これは町長と副町長の先を見越す力があっての人事だったと思いますけど、副町長、まだ一度もチーム徳之島として道の駅の完成に向けて12月のオープンに向けてなされてないんですけど、意思の疎通が席はみんな隣同士ですけど、これ、副町長、チーム徳之島として意気込み、まとめていかれる意気込み聞かせてください。

○副町長（幸野善治君）

お答えいたします。

まだ、総務課長が答弁したとおり、全体で集まったというのはないんですが、支所と企画課、もしくはまた町長、それにまた私とかそれからおもてなし観光課と美農里館とか、そういった個々にはやはり構想については話したことがあります。本格的に話すのは４月の新年度になってから、そこに民間の青年団とかそれから関係する団体を入れて、構想は話したいと思っております。まず協議会みたいなものを立ち上げるのは間違いないと思います。

○１３番（木原良治君）

12月の世界自然遺産センターと道の駅のスタート、そうすると指定管理の議案とそれに伴う予算と、これはついてきますよね。これはいつ頃提案する予定なんですか。

○町長（高岡秀規君）

今のところは６月の議会で選定を済ませ予算措置をしっかりとして、上程する予定であります。

○１３番（木原良治君）

６月にまた提案されたときにまた議員の皆さんと一緒にそれぞれの考えで議論、討論なると思いますけど、しっかりとやっていただきたいと思います。

今回この道の駅取り上げたのも、先ほどの町長の施政方針の中で６回も出てきたんですよ。道の駅。冒頭の事業のほうでも出てきました。商工の振興でも出てきました。そして観光の振興でも出てきました。そして北部、そして結びの最後のほうでも道の駅「とくのしま」は出てきました。これは相当な意気込みを持って町長がこれを世界自然遺産センターと同時にオープンを目指して、オープンするのが目的じゃないです。これをいかに持続可能な観光拠点施設に

持っていくかが問われると思います。町長のチームづくりに対して、６月の予算と指定管理の提案に対するちょっと抱負なりを聞かせていただけますか。

○町長（高岡秀規君）

建物、物はお金がそろえば買えますが、その運営については人材だと思います。

この人材も能力とは別にいわば気持ちの精神、どういった物事の考えているのかが問われるだろうというふうに思います。

今後は、議員がおっしゃるように連携を密に取るためにどうしたらいいのか、どういう考え方をするのか、恐らくこの仕事はほかの課に移りました。僕は呼ばれないという発想じゃないかなと。呼んでくれないと。じゃなくて、どうなりましたかという問いかけが実は必要なわけです。そこまで意識を変えて、呼ばれないからじゃなくてどうなりましたからスタートをすれば、恐らく連携を取れ、そしてまたいつ会合をしましょうかという発想になるだろうというふうに思います。

今後は、ある程度の各課ごとに提案していきますが、全て連携を取って、点と点、線と線で面ができる企画は出してはいるんですが、なかなか人材という面で連携が取れなかったこともあろうかというふうに思いますので、今後はそういう甘い経営ではないので、離島における道の駅のハードルの高さは重々分かりながら、我々が努力するべきだというふうに考えております。

○１３番（木原良治君）

６月の予算と指定管理の議案が出てきたときに、今後そういう方々を花徳支所長、それからおもてなし観光課長、地域営業課長、企画課長、総務課長、しっかりと育てていってくださいよ。オープンで花火打ち上げて終わりじゃ、世界に発信する道の駅になりますから、よろしくお願いします。

次の質問に行きます。

よく最近、奄美市でもですけど、鹿児島県でも、公共施設に対する命名権、企業の名前を冠つけたり、商品の名前をつけたりして、そういう命名権料で各施設の運営費、管理費を軽減していくと、そういう命名権に対して、本町は公共施設等どのように考えていますか。

○社会教育課長（茂岡勇次君）

お答えをいたします。

今議員のおっしゃった命名権ですけど、初めて私もネーミングライツという言葉を聞きました。ただ、私がよく存じ上げているのが、一番いうと鹿児島県文化センター宝山ホールというのが有名で、またその後、陸上競技場にも平和リース球場とかいろんな形でついております。これについては、やはり広告ということで、やはり鹿児島の企業さんが主立ったスポンサーになっているのかなと思っております。

それで、私のほうでこのネーミングライツ事業を行っている郡内の状況を調べましたところ、郡内では奄美市が約４か所行っております。この４か所について具体的な内容ですけども、まず、皆さん御存じの奄美振興会館、ここが名称が奄美川商ホールの名称となり年額で140万円、奄美市市民交流センターがアマホームＰＬＡＺＡの名称で101万円、名瀬運動公園市民球場及びブルペンが奄美川商球場・奄美川商球場ブルペンの名称で75万円、また住用町にあります木工工芸センターが木工工芸みどりの里で12万円となっております。またこの契約期間についてですが、木工工芸みどりの里は令和５年４月１日から令和８年３月31日となっており、あとの残り３か所が令和５年４月１日から令和10年３月31日、５年間となっております。

これにつきましては、やはり収入の面からいきますと、やはり議員のおっしゃるように魅力的なものではないかというのは私も感じております。

以上です。

○１３番（木原良治君）

国体の開会式等に行ったときに、ちょうど白波スタジアムですよね。そして我々議員が年に１回研修するのも市民文化ホール川商ホールですよね。そして県の文化会館が宝山ホール、企業にとっても相当県民市民に対してその商品に対して企業の信頼性がぐっと上がってくると思います。そうしたときに、じゃあ徳之島はということになるんですけど、例えば徳之島町のほうに大分貢献している方々がいたときに、公募型もいいんですけど、最初にその前にこちらのほうから長年の実績と信頼等を考慮して、公共施設のネーミング命名権、ネーミングライツ、こういう提案のされ方も考えたらいかがですか。これどなたかに。

○町長（高岡秀規君）

私もその点については奄美市等々の事例を見まして気になっているところでございました。個人名はできないかもしれませんが、もし企業等でそういった希望があれば、ある程度我々もそれに備えて価格、そしてまたどういった運営、看板等の改修等をしっかりと提示できるように、準備はしておきたいなというふうに思います。

○１３番（木原良治君）

この議会が終わった後に尼崎のほうに議長も行かれるんですけど、関西地区で頑張っている企業体、徳之島の方いっぱいいらっしゃいます。この前の代々木のフェスタ行っても、相当頑張っている企業体があります。そういう方々が徳之島に冠をつける意気込みもあると思いますよ。長年苦労した実績を徳之島のほうに残したいという冠のほうも考慮して、関西、関東、徳之島の今度は町長も行かれますよね。そういう提案もなされて、しっかりとネーミングに対して提案していただきたいと思いますけど、よろしくお願いします。答弁だけ聞いて終わります。

○町長（高岡秀規君）

しっかりと精査をいたしまして、価格等じゃあ、どういった方向性等々が確立しないと説明

もできませんので、検討を重ねたいと思います。

○１３番（木原良治君）

１つだけ質問ちょっと戻りますけど、道の駅なんですけど、ちょっといいですか、ちょっと戻るんですけど、世界自然遺産センターと併設するので、そこの道の駅の駐車場にやはり環境に配備した駐車場ということでＥＶ車、ＥＶ車も日本車でなければだめですよ、渡来の車はだめですよ。そういう環境に配慮したＥＶ車の充電スタンド、そういうのは配置されている設計なんですか。

○花徳支所長（尚　康典君）

お答えいたします。

今おっしゃいましたＥＶ車の充電器なんですけど、そちらのほうは一応設置できるような準備は整えております。もし掘り返すとか、そういったことをしなくても電気を通せるような管は通してあります。

以上です。

○１３番（木原良治君）

世界自然遺産の島ということで、環境に配慮したＥＶ車に対応できるスタンドも設けると、そして、道の駅でもし車を購入するとかになった場合、そういう配慮したＥＶ車の、多少値段は上がると思いますけど、補助金等も相当あるみたいなんですよ。こういう配慮は吉田企画課長かな、財政課かな。

○花徳支所長（尚　康典君）

お答えいたします。

世界遺産の島でありますので、ＥＶ車の導入につきましては、今後検討していきたいと思います。

○１３番（木原良治君）

時間、５時前なのでこれで終わります。ありがとうございました。

○議長（行沢弘栄君）

以上で、本日の日程は全部終了しました。

次の会議は、３月６日午前10時から本会議を開きます。

本日は、これで散会いたします。お疲れさまでした。

散　会　午後　４時５２分

令和６年第１回徳之島町議会定例会

第２日

令和６年３月６日

令和６年第１回徳之島町議会定例会会議録

令和６年３月６日（水曜日）　午前10時　開議

１．議事日程（第２号）

○開　議

○日程第　１　一般質問

竹山　成浩　議員

勇元　勝雄　議員

政田　正武　議員

植木　厚吉　議員

○散　会

１．本日の会議に付した事件

○議事日程記載事件のとおり

１．出席議員（１６名）

議席番号	氏　名	議席番号	氏　名
１番	内　博行　君	２番	政田正武　君
３番	宮之原　剛　君	４番	植木厚吉　君
５番	竹山成浩　君	６番	松田太志　君
７番	富田良一　君	８番	勇元勝雄　君
９番	徳田　進　君	１０番	池山富良　君
１１番	是枝孝太郎　君	１２番	広田　勉　君
１３番	木原良治　君	１４番	福岡兵八郎　君
１５番	大沢章宏　君	１６番	行沢弘栄　君

１．欠席議員（０名）

１．出席事務局職員

事務局長	清原美保子　君	主　査	稲村よう子　君

１．地方自治法第121条の規定により説明のため出席した当局職員の職氏名

職　名	氏　名	職　名	氏　名
町　長	高岡秀規　君	副町長	幸野善治　君
教育長	福　宏人　君	総務課長	村上和代　君
企画課長	吉田　忍　君	建設課長	清山勝志　君
花徳支所長	尚　康典　君	農林水産課長	高城博也　君
耕地課長	水野　毅　君	地域営業課長	清瀬博之　君
農委事務局長	藤　康裕　君	学校教育課長	太　稔　君
社会教育課長	茂岡勇次　君	介護福祉課長	廣　智和　君
健康増進課長	田畑和也　君	おもてなし観光課長	吉田広和　君
税務課長	新田良二　君	住民生活課長	大山寛樹　君
選管事務局長	白坂貴仁　君	会計管理者・会計課長	当　洋子　君
水道課長	保久幸仁　君	農委事務局次長	川田隆博　君

△　開　議　午前１０時００分

○議長（行沢弘栄君）

おはようございます。

これから本日の会議を開きます。

△　日程第１　一般質問

○議長（行沢弘栄君）

日程第１、一般質問を行います。

竹山成浩議員の一般質問を許可します。

○５番（竹山成浩君）

おはようございます。定例会２日目、議長の許可を得て、本日１番に質問をさせていただきます。

質問に入る前に、今年１月１日に発生しました能登半島地震によりお亡くなりになられた方々に哀悼の誠をささげますとともに、被災されました全ての方々にお見舞いを申し上げます。発生から２か月余り経過しましたが、被災されました方々はもちろん、被災地で活動されておられるボランティアの皆様、また復旧・復興へ全力で取り組んでおられる全ての方々が、一日も早く心休まるときが訪れますよう、心から願っております。

また、今年も母間地区において恒例のさくら祭りライトアップが開催されました。御来場いただきました多くの皆様には、これからも持続的な集落イベントとして開催していきますので、来年もぜひお越しをお待ちいたしております。

昨日、福岡議員の質問にもありました被災地への支援ですが、今回のさくら祭りで「頑張ろう石川県」として義援金を募ったところ、多くの皆様に御協力を賜りました。また、主催の母間青年団の出店の売上金の一部を義援金と合わせて社会福祉協議会から日本赤十字社を通して現地へ送らせていただきました。御協力を賜りました皆様方に、心から御礼を申し上げます。ありがとうございました。

さて、令和６年３月第１回定例会におきまして、５番竹山成浩が事前に通告してありました２項目について、それぞれ分けて質問いたします。町長はじめ担当課長の明快で前向きな答弁をよろしくお願いします。

まず、初めに、本町の危機管理について。

住民の災害に対する防災意識をどう考えているか、伺いたいと思います。

○総務課長（村上和代君）

竹山議員の御質問にお答えいたします。

住民の防災意識は、非常に重要だと考えます。防災意識が高い住民は、災害が発生した際に

的確な行動を取り、被害を最小限に抑えることができると思います。

まず、住民が自分自身や家族の安全を確保するために、災害リスクや災害の可能性を認識し、理解することが重要です。地域の特性や頻発する可能性の高い災害の種類についての情報を共有することも大事なことだと思います。

次に、防災意識の高い住民は、事前に備えを行い、災害が発生した際には冷静な判断を下すことができると思います。

また、災害時に迅速で正確な情報にアクセスするよう努めることができ、地域の防災情報や避難経路、避難所の情報について理解と共有が大事だと考えます。

さらには、地域住民が互いに助け合い、情報を共有し、協力して災害に備えることも、防災意識の一部だと考えております。

以上です。

○５番（竹山成浩君）

冒頭述べさせていただきましたが、年頭元日からの大地震、さらに２日、日航機と海保機の衝突事故と大惨事が続けて起こりました。このような大規模な自然災害や事故などの不測の事態は、いつ自分の身に起こり得るかは分かりません。私たちの居住する徳之島には、台風や地震など自然災害と隣り合わせの島です。総務課長の答弁にもありましたとおり、日頃からそういった防災意識を忘れずにしていただきたいと考えるところでございます。

そこで、２番目の質問に入ります。２月４日に津波を想定した高台への避難訓練が実施されましたが、訓練を行った集落と、それから参加人数はどれくらいだったのか、伺いたいと思います。

○総務課長（村上和代君）

お答えいたします。

参加した集落は、５集落です。

参加人数は、亀徳118名、池間50名、反川73名、大当170名、前川44名、計455名となっております。

○５番（竹山成浩君）

本町全体で捉えると、参加する集落の数は少なかったんじゃないかなと考えるところですけど、その集落集落によっての参加人数というのは結構な方が参加をされていたんじゃないかなと思います。やっぱり、こうした取組が危機管理対策につながると認識するところでありますので、これからもぜひこういった訓練をお願いしたいと思います。

当日は、防災ラジオでの屋内でのみの放送だったとお聞きしました。屋外での呼びかけとかサイレンとかそういったのはなかったと思われますが、それは参加集落のみでの訓練だったか、その辺またちょっとお聞きしたいと思います。

○総務課長（村上和代君）

お答えいたします。

当日は、この５集落のみの放送も、サイレンも５集落のみ鳴らしたところでございます。

○５番（竹山成浩君）

それは、外での放送というか、あれはなかったんですよね。

○総務課長（村上和代君）

お答えいたします。

外の放送も鳴りました。そのときは。

○５番（竹山成浩君）

分かりました。ありがとうございます。

こうした地震、津波による大規模災害を想定した避難訓練では、地域は自分たちで守るという連帯感に基づいた地域ぐるみで、災害に強いまちづくりを推進していかなければならないと考えるところでございます。

昨日の宮之原議員の質問にもありましたが、２月25日、天城町では地震と大津波を想定した総合防災訓練が町内全域で行われたようです。昨日言われていましたように、600人ほどの参加があったとお聞きしました。

この避難訓練に関してですけど、住民の皆様に、当日の地震発生時刻というのは、その放送は周知せずに行ったように伺いました。そうすることで、防災に対する意識も緊張感を持った訓練になると思うところでした。今後、こうしたことも検討されたらどうかと思うところでございます。

町内14集落の各自主防災組織が企画した訓練メニューを展開したようですが、本町において自主防災組織はどれくらいあるのか、またどのような活動をされておられるのか、分かる範囲でお願いしたいと思います。

○総務課長（村上和代君）

お答えいたします。

自主防災組織を持っている集落は、29集落ございます。29集落ございますが、全ての集落が訓練しているかというと、まだ訓練をしていない集落もございます。

この前の２月４日の訓練におきましては、前川集落では、防災グッズの紹介や消防団員による消火訓練、またＡＥＤの講習を実施したようでございます。

また、亀徳集落では、１月28日に防災訓練を実施し、亀徳小学校教員による防災講話やＤＶＤの視聴、炊き出し訓練等を行っております。もちろん、２月４日にも亀徳集落におきましては、避難訓練が行われております。

それぞれの集落では、轟木集落は特に自主防災組織が何度も訓練を行っておりますが、ＡＥ

Ｄの講習であったり、消防署の講話であったり、避難訓練であったり、炊き出し訓練であったり、様々な訓練が実施されているようでございます。

以上です。

○５番（竹山成浩君）

実際に、やっぱり、いざとなってその場に居合わせるような状況よりも、訓練でそういった身につけるというのは、自主防災組織でそういった活動をされていらっしゃるということはすばらしいことだなと感じるところでございます。

次、３番目の高台への避難経路の安全性は確保できているか、伺いたいと思います。

先ほどからのその訓練の内容につながりますが、母間の大当地区は、緊急避難場所へ小学校横の町道を上がっていくんですけど、道路ののり面部分が今にも崩落しそうで、岩が突出している箇所があります。両サイドは急傾斜地で工事が完了しているんですけど、その道路は車の離合もできない狭い箇所であります。

私も写真を撮ってきたんですけど、こういった今前面にこの崖が写っている。これが避難路になっているんですけど。これは、また２月４日の防災訓練の様子であります。

大規模な自然災害を含めた有事の際は、この道路が使用できるのかと非常に懸念されます。母間小学校の子どもたちも避難経路として利用するわけですから、今後対策が必要だと考えるところでございます。

そこで、建設課長、現場を確認していると思いますが、今後何がしか対策はできないか、見解をお聞きしたいと思います。

○建設課長（清山勝志君）

お答えします。

御質問の町道母間塩道線と小学校校庭から急傾斜地の階段を通り高台への避難路の接する箇所は、一部防災対策ができていません。

県に確認したところ、急傾斜地にて必要な対策工は完了しているとのことで、道路のための防災対策は道路管理者に対応をお願いしているところであります。

また、他事業との兼ね合いを考慮しながら新規事業に取り込めないか、検討していきたいと思います。

また、校庭から接道部分までの維持管理については県のほうで行うとのことでした。

○５番（竹山成浩君）

この町道に関しては、県としてはやはり難しいと、町としてできる限りの対策を講じていただきたいと考えるところでございます。

それと、小学校の校門から正面にこの急傾斜地の崩壊防止工事が完了された箇所があります。正面に。そこに高台へ避難するための階段が設置されておりますが、学校側の話によりますと、

階段の手すりは県のほうが点検に来られると、周辺は雑草や雑木が生い茂り、そうした有事の際、万が一、階段を利用して子どもたちがその階段を利用して高台に避難する、そういった場合が起きれば、非常にハブの危険とかそういったところで危険で、学校側としたら、それはもう大変、こうした部分は学校側では対処しないといけないのか、非常に懸念に思っているということですけど、その辺はどうでしょうか。

○建設課長（清山勝志君）

階段部分についても、雑草が生えてはいますが、その件につきましても県が維持管理をするということでした。

○５番（竹山成浩君）

でしたら、県のほうにお願いするような形にすれば整備をしていただけるということで、ありがとうございます。子どもたちの安全確保のため、早急な対策をお願いしたいと思います。

次、危機管理対策の４番目、昨日もうＡＥＤの設置について宮之原議員が質問されていましたので、多くは割愛させていただきますけど。指定避難所にＡＥＤの設置はできないかと、その辺をちょっとお聞きしたいと思います。

○総務課長（村上和代君）

お答えいたします。

指定避難所のＡＥＤの必要性につきましては、災害時における応急処置や救命活動において重要な役割を果たす可能性があると考えます。

現在、指定避難所の箇所が41か所ございます。その中で15か所は設置済みでございます。現在設置されていない箇所が、ほとんど指定避難所になっている公民館等でございます。

この公民館等に設置するためには、あと25か所の設置が必要となってきますので、昨日、宮之原議員のほうにも答弁させていただきましたが、集落活性化補助金を活用して、リースにおいてＡＥＤの設置をしてはどうかと現在のところ考えているところでございます。

○５番（竹山成浩君）

公民館となれば、区長さんとまた話をされて検討して、ぜひ、またそういう方向で設置ができたらと考えるところであります。ありがとうございます。

２年前、まだ記憶に新しいと思いますが、令和４年１月16日、深夜に大津波警報が発令され、多くの住民の皆さんが高台へと避難しました。その避難場所において、トイレがなく、警報中にもかかわりませず帰宅したという人が多くおられました。

もちろん、トイレの必要性は重々承知の上だと思いますが、その後、私たち町議会としても町長のほうへ提言もさせていただきました。その後、進捗状況というか、設置へ向けての検討はできないか、伺いたいと思います。

○総務課長（村上和代君）

お答えいたします。

トイレの必要性につきましても、今回の能登半島地震におきましても、断水等によりトイレが使用できなくなるなどの放送がございました。災害時において避難者の健康とそして衛生面の確保をするためにも、非常に重要であると考えております。

今回、新年度予算におきまして、避難所２か所にトイレの整備を予定しております。今予定をしているのは、母間の避難所と、それと亀津の金毘羅神社の避難所、この２か所となっております。

引き続き、今後も指定避難所にはトイレの整備を順次設置できるよう検討していきたいと考えております。

○５番（竹山成浩君）

ありがとうございます。

この写真を撮ったときに、車椅子に乗っている高齢者の方がお一人おられたんですけど、ちょっと写っていないんですけど。そうしたら、トイレも多目的トイレも設備というのかな、そういった感じで多目的トイレもできるような感じのトイレがまたできれば大変うれしいなと考えるところでもございます。

高岡町長の施政方針も拝見させていただきましたところ、避難場所への公衆トイレの設置も明記されておりました。ぜひ、よろしくお願いしたいと思います。

今回、石川県で発生した能登半島地震を教訓に、災害に強いまちづくりにさらに邁進していくことが必要だと認識するところです。

また、地域の人々が共助できるような関係も大切だと考えるところでございます。

今回の高台への避難訓練の実施は、子どもから高齢者まで、地区によっては多くの参加がありました。今後も、希望地区だけではなくて町全体での取組も必要だと考えます。災害や災難に対する人の意識というものは、発生頻度が低くなるとともに薄らいでしまいがちです。災害は忘れたころに突然襲ってくると言われますので、災害への備えは日頃から継続して心がけていきたいものと考えるところでございます。

それと、一つ、テレビのニュースだったと思いますが、地震・津波がありました石川県珠洲市三崎町は、約40世帯90人ほどが暮らす小さな町ですが、地震から間もなく津波に襲われ、多くの住宅が倒壊、大半を高齢者が占めるんですが、５分以内で高台へと避難し、全員無事だったとの報道がありました。

その地区では、東日本大震災をきっかけに、毎年避難訓練を行っており、これは奇跡じゃなくて訓練が生きたと振り返っておりました。

台風と違って、いつ起きるか分からない大地震や津波など、自然現象は人間の力では到底食い止めることはできません。

しかし、災害による被害は私たちの日頃の備えによって減らすことが可能だと考えるところでございます。一人一人が防災意識を高めるためにやっていきたいものです。

今回の当初予算に、新しく防災関連で食料費300万円余りが計上されていました。備えあれば憂いなしです。災害に強い町、徳之島町が確立できるように期待しております。

それでは、２項目め、北部地区の観光振興について質問いたします。

昨日、木原議員が道の駅「とくのしま」について、概要から経過、運営等多くの質問をされていますので、かぶるところは割愛させていただきました。

北部地区活性化へ向けて、施政方針にもあるとおり、本町としても目玉の一大事業であります。地に足のついた取組をよろしくお願いしたいと思います。

先日、新聞報道でありましたが、道の駅「とくのしま」が正式に認定されました。まず、道の駅に登録されたことによるメリットは何か、伺いたいと思います。

○花徳支所長（尚　康典君）

竹山議員の御質問についてお答えいたします。

道の駅に登録されたことによるメリットにつきましては、まず、国交省により商品登録されている道の駅ブランドを活用できる点と考えております。道の駅制度が開始から30年以上たち、登録数が全国で1,200駅を超えて、テレビや雑誌等のメディアでも多く取り上げるなど、道の駅の認知度は確実に高まっており、取材の機会の創出や宣伝効果や、全国の道の駅を周遊することを趣味とする道の駅ファンの誘客にもつながると期待しております。

また、道の駅登録を目指すことで、整備地沿線の道路管理者である鹿児島県の協力を得られたことで、駐車場や屋外トイレ、障がい者用屋根付駐車場、また駐車場の照明等の整備、それからまた案内看板の設置については、県のほうでおよそ１億2,500万円の予算で整備を進めていただいており、整備の負担による財政の負担の軽減に関してもメリットと捉えております。

それと、また、昨日、木原議員からの御質問でもございましてお答えしましたが、奄美群島振興交付金特定重点配分対象事業を令和４年度から３年間活用でき、国の補助率が10分の５から10分の６へかさ上げされ、町の負担も10分の３が後でまた特別交付税措置されることもよかったと考えております。

○５番（竹山成浩君）

予算的に様々なメリットがあるようにお伺いしました。

道の駅とは、駐車場やトイレなど24時間無料で利用できる休憩機能、それから交通、観光、緊急医療などに関する情報提供機能、また文化、観光、レクリエーション施設など、地域と交流を図る地域連携機能の３つの機能を備えていることが条件だということで、昨日の町長の説明もありました。非常にグレードが高い施設だと認識しております。

地域の特産品の販売や伝統文化の提供などによって、島のよさを伝えたり、また隣接する世

界遺産センターとの連携により、豊かな自然や地域住民との交流イベントなど、観光客のみではなく、地域の人たちも巻き込んでいくことが大切だと認識しております。

この拠点施設が道の駅に認定されたということは、徳之島で初めてのことであり、非常に喜ばしいことでありますが、これからの運営体制が非常に重要で、いかにしてお客様に足を運んでいただけるかが一番のポイントではないかと考えるところであります。

そこで、12月オープンへ向けて、道の駅の運営体制は指定管理とのことですが、食堂や農水産物、特産品の直売所に関しては、既に選定されておられるのか、今後募集をして決定するのか、伺いたいと思います。

○花徳支所長（尚　康典君）

お答えいたします。

食堂と販売所の運営につきましては、そこをテナントとして別の業者に貸すのではなく、その指定管理の方で直接運営を考えておりますので、業者を募集することはないと思います。

○５番（竹山成浩君）

その管理者のほうで運営、販売までされていくということですね。地域への波及効果が現れるような形で考えていただいて、また地元のお店や業種との競合が起きないような形、配慮も大切だと考えますので、よろしくお願いしたいと思います。

北部地区は、豊かで貴重な動植物が生息する手つかずの自然が多く残り、道の駅は地域の中でも突出した集客力を持つ施設であることから、情報提供、周知に非常に適した場所となります。来訪者のおもてなしの場、また島の魅力を伝える場として、来訪者と住民の交流の場として、にぎわいの創出を目指していくことが、本質、本丸だと認識しております。

ぜひ、昨日、木原議員の質問にもありましたように、東天城中学校卒業の３名の課長には、常に連携を取り合って、東天城地区観光振興のために御尽力を頂きたいと思います。同じく、東中生の卒業生として、よろしくお願いしたいと思います。

次に、２番目の質問ですが、九州から関西、中部、関東地方と、本土では郷土会の方々が今なお精力的に活躍されておられます。北部地区に道の駅がオープンすることで、今後、交流人口、関係人口の増加が期待されます。さらに、郷土会の方々との関わり、つながりを大切にしていく必要があると認識しております。

そこで、花徳支所長、北部地区の活性化へ向けて、郷土会との関わりをどう考えているか、また今後どのようにしていくべきか、伺いたいと思います。

○花徳支所長（尚　康典君）

お答えいたします。

郷土会の関わりにつきましては、今後、内地にある各校区や中学校の郷土会へのパンフレットなどの送付をしてＰＲしたり、また、今行っている代々木や尼崎での徳之島祭り等に出向い

て、徳之島に道の駅「とくのしま」と世界遺産センターができたことを広く知ってもらえるようにＰＲ活動をしたり、また郷土会のほうには、また徳之島へ帰省した際にはぜひ道の駅「とくのしま」に立ち寄ってもらって、実際、空港から本当に亀津市街地に向かう途中にありますので、島に着いてすぐとか、また空港でまた内地に帰るときとかに、この道の駅「とくのしま」に寄っていただいて、お土産の購入等をしてもらえるように宣伝していきたいと考えております。

○５番（竹山成浩君）

ぜひ、ＰＲに取り組んでいただきたいと考えるところです。

先月２月18日に、所管事務調査を含めて、代々木公園で開催されました第９回徳之島観光物産フェアに議会からも参加をさせていただきました。イベントに携わった方々に感謝を申し上げ、大盛会で終了できましたことに、改めて御礼を申し上げたいと思います。

会場で高岡町長の挨拶があったわけですが、町長の問いに、徳之島へ一度も行ったことがない人が結構おられたと思います。でしたよね。

そうした観点から、今後、二世、三世の方々への情報発信や観光メニューの構築も必要ではと考えておりますが、おもてなし観光課長、どう思われますか。

○おもてなし観光課長（吉田広和君）

竹山議員の御質問にお答えします。

私も代々木のほうに参加させていただきました。その際、郷土会との交流会が盛大に行われたと聞いています。残念ながら私は参加することはできなかったんですけれども、今後そういったところに、関係課問わず、もっと若い職員を参加させることによって、郷土会の方々と交流し、地元徳之島をアピーズすることによって、郷土会の方々から情報発信することによって、今後、交流人口、関係人口が増えていくのにつながっていくのではないかと思います。

以上です。

○５番（竹山成浩君）

これまでのイベントや今回の代々木フェスタにおいても、私たち議会として、郷土会の方々と懇親会までもお付き合いをさせていただきました。今後、本町ＰＲのためには、課長がおっしゃいましたように、若い職員の力が必要だと個人的にも考えるところでございます。バイタリティーあふれる職員の皆さんに、そうした場所に出向いてもらって、もっともっと活躍の場を広げてみてはどうでしょうか。村上総務課長、どう思われますか。

○総務課長（村上和代君）

お答えいたします。

今、議員がおっしゃってくださったように、本当に、郷土会の方々には日頃からもう感謝申し上げるところでございます。二世、三世の方につきましても、本当にこの前も来ていただい

たんですが、初めて徳之島に来られたとか、小さい頃に来て、久しぶりに、何十年ぶりに徳之島に来られた方も、もう昔のままの自然が残っていてとてもすばらしいというお話をしてくださいました。そのような方々へのＰＲも兼ね、今後、今、議員がおっしゃっていたように若い職員、課は関係なく若い職員も、関西、関東なり、郷土会のほうに参加することにより、交流人口を深めることができるのかな、また二世、三世にも移住の期待も込めまして、その辺の予算のほうは今後検討していきたいと考えております。

○５番（竹山成浩君）

ぜひ、検討を頂きたいと思います。

今回の道の駅がオープンすることで、新しい風が吹くことは間違いありません。島の伝統文化、おもてなしの心を持ったしまんちゅの温かさを訪れる皆様にも伝えていくことが、徳之島全体へ波及効果となり得ると考えるところでございます。

最後に、高岡町長、この道の駅「とくのしま」がオープンすることによる経済効果、それから交流人口から関係人口の増加を見込んだ将来的な展望をお願いしたいと思います。

○町長（高岡秀規君）

道の駅がオープンすることによっての費用対効果については、我々がいかに努力するかにかかっているだろうというふうに思います。

また、二世、三世等々の交流人口をまずしっかりと手がけたいというふうに思っておりまして、まずはＩターン、Ｕターン、人口減少に歯止めをかけるための施策という、逆算をした施策が必要かなというふうに考えております。

仮に、一度も来たことがない二世、三世の方が何を望んでいるのか、そしてまたどうしたら徳之島に来てくれるのか等々の意識調査というのが、必ず必要になってくるだろうというふうに思います。それには、必ず人間関係というものが構築されなければいけないということから、先ほどおもてなし観光課の吉田課長が答えたように、懇親会等にも出席するということは意味があるというふうに考えております。

そして、もしかしたら意味がないことを積み重ねることに意味を持たせるということが、意識的にそれができるかどうか、人が成功事例をつくるということをしっかりと認識することが最重要課題だというふうに考えております。

それで、また道の駅が、離島においての道の駅の経営というのは非常に厳しいことが考えられます。島外からなかなか来ないわけですから、陸地での内地での道の駅と離島に限られた消費者での道の駅の経営というものはハードルは高いんですけども、しっかりと指定管理者等々の経営は、あらゆる分野での事業が必要になってくるだろうし、そしてまた道の駅とそしてまたみのり館等と連携を取りながら、ネット上での販売等も含めて、売上げをいかに上げていくか、そしてまた交流人口をいかに人が来てくれるのかという意識ということを、しっかりと人

を育てなければいけないかなというふうに考えております。

○５番（竹山成浩君）

この道の駅「とくのしま」が、地域の活性化はもちろん地方創生の一手を担う施設として、島民の皆様にも親しまれ、そして、交流人口の拡大で島のよさを発信できるナンバーワンの成功事例をつくっていただきたいと期待しております。

これで、竹山の質問を終わりたいと思います。ちょっと風邪気味で、鼻声で申し訳ございませんでした。

○議長（行沢弘栄君）

次に、勇元勝雄議員の一般質問を許可します。

○８番（勇元勝雄君）

おはようございます。

能登半島地震が１月１日起きまして、甚大な被害が出ました。また、亡くなれた方、災害に遭われた方の早期の復興を願い、徳之島町のこと、能登半島、実際災害というのはどこで起こるか分からない状態なんです。そういうことを思いながら一般質問いたしますけど。

十何年前、山の議員が言っていました。町長が悪いんじゃない、議会が悪い、決めるのは議会だという話をしていました。そういう点を踏まえ、我々議員はもっと町民に寄り添った政治をしなければいけないと常々思っています。

そういうことを踏まえ、４項目について一般質問をしたいと思います。

２月４日に行われた町防災訓練の各集落の参加状況は竹山議員が聞いていますので、それに対して、この防災訓練は町が企画したんでしょうか、それとも町で計画して、各課長話し合って、２月４日に防災訓練をしようという趣旨で計画したのか、お伺いいたします。

○総務課長（村上和代君）

勇元議員の御質問にお答えいたします。

２月４日の防災訓練は町のほうで計画したのかということでございますが、２月４日は町のほうで計画をいたしまして、集落の駐在員のほうにお声かけをし、参加される集落を募って訓練を行いました。

以上です。

○８番（勇元勝雄君）

今、各集落に募ってという言葉がありましたけど、これはどういうことでしょうか。

○総務課長（村上和代君）

お答えいたします。

自主防災組織のある集落に、自主防災組織を強化するという意味での訓練でございましたので、駐在員会のほうで自主防災組織で訓練をされる集落を参加を呼びかけたところでございま

す。

○８番（勇元勝雄君）

防災訓練ですから、参加を募るとかそういうことじゃなく、町がこういう防災訓練やりますからという話だけで私いいと思うんです。やるやらないは、各駐在員が決めるわけですよね。一番大事な、能登半島地震が起きて今一番町民も関心を持っている事柄ですから。町が決めた、それはやるやらないはその駐在員の考えでいいと思うんですけど、募るとかそういう話じゃないと思うんです。やりますから、協力お願いしますという話じゃないかと、私は思うんです。

この中で、職員の参加人数はどれぐらいでしょうか。

○総務課長（村上和代君）

お答えいたします。

２月４日に行われました防災訓練へ参加した職員は、調べましたところ、亀徳８名、池間１名、大当１名、井之川３名、前川ゼロとなっております。

この訓練には、消防団として参加している職員もいたため、実際にはこれ以上の参加人数であったかとは思われます。

○８番（勇元勝雄君）

消防団と参加しても、恐らく全部カウントされているはずなんです。

実際、能登半島地震をテレビで拝聴しても、役場職員が多忙で手が回らないとか、そういう一番中心にならなければ、職員が、その参加人数では、その集落の駐在員に募ったということでも、職員が率先してこういうことをやらなければ、亀徳でも消防団の方が何名かいていましたけど。

実際、職員の今、公僕としての自覚は、私は大変低いと思うんです。こういう大事な訓練に誰も職員の出席が少ない。

課長で防災訓練に出席した方は、何名ぐらいいるでしょうか。

○議長（行沢弘栄君）

村上総務課長、分かります。

○総務課長（村上和代君）

課長で参加したのは、申し訳ございません、今ちょっと把握しておりません。

○８番（勇元勝雄君）

３名です。本当情けないです。徳之島町。

町長はどう考えますか。

○町長（髙岡秀規君）

職員の参加人数が少ないということは、重々今承知したところでございます。ボランティア清掃にしても、こういう自主防災組織の在り方等が、我々が指導しなければいけない立場にあ

る職員等の参加は、これからはしっかりと参加率を高めるために指導していかなければいけないかなというふうに考えております。

○８番（勇元勝雄君）

こういうことに参加できないということは、本当、課長の資格は私はないと思うんです。職員を指導しなければいけない。また、役場職員は、町民の生命、財産を守るために一生懸命にならなければいけない職員が、防災訓練に出ない。それは、もう１月１日にああいう大きな災害があっても、こういう認識ですから。もっと町長はしっかりと職員を指導してもらいたいと思います。

何回か、総務課長にはお伺いしましたけど、町の現在の備蓄状況、食料品等、いろいろほかの種類をお伺いいたします。

○総務課長（村上和代君）

お答えいたします。

12月にも答弁させていただきましたが、備蓄状況につきましては、現在、テント100張り、簡易ベッド100台、マット70枚、毛布40枚を各集落の避難所、生涯学習センター、社会福祉協議会に配備しております。

また、今年度、要支援者用のラップポントイレ２基も購入いたしております。

また、来年度、備蓄食料品、飲料水の配備を予定しているところでございます。

○８番（勇元勝雄君）

危機意識がないんです。災害が起きて一番初めに必要になるのが、私は食料品だと思います。

今度の予算を見ても、飲料水が500本、もろもろで300万ぐらいの予算です。500本の飲料水、どのように配布するんですか。災害が起きて、職員が役場来てやった場合、職員も飲料水が必要なんです。200名近くの職員がいます。１人１本職員が使った場合、あと300本しか残らないんです。

６年度の予算を含めて、このような備蓄の状況でいいと思っているんでしょうか、お伺いします。

○町長（高岡秀規君）

今、備蓄の量につきましては、今後検討課題としたいというふうに考えております。

○８番（勇元勝雄君）

もし津波が来た場合、飲料水もほとんどなくなるんです。商店は全部津波の被害を受けます。そうした場合、結局、品物がない、港は災害を受ける、そうした場合、ヘリで運ぶという手もあるとは思うんですけど、そういうことを考えてもっと備蓄を増やさなければ対応できないと思うんです。ただ何かあったらいいという状態じゃなくて。４階に備蓄倉庫ありますけど、これは普通の倉庫ですよね。何のための備蓄倉庫か。そういう点も考えて、将来の災害に備えて

もっと備蓄を増やしてもらいたいと思います。

○町長（高岡秀規君）

備蓄に関しては、当然我々がそろえなければいけないということと、あと各家庭でもしっかりと備蓄をするという意識を持っていただいて、各家庭でも備蓄というものをしていただくという施策も必要かなというふうに考えております。

○８番（勇元勝雄君）

そういうことも町から広報また啓発をしなければ、家庭に備蓄を置いておくということも、徳之島町の場合は全部家が海岸沿いにあります。その避難をするときにそれだけ持ち出せるか、そういうのも考えて、ある程度考えて。

そして、役場で備蓄した分をその防災訓練のときに炊き出しに使うとか、そういうことをしなければ、１回備蓄したら終わりではないんです。毎年そういう備蓄品を使って防災訓練をするとか、そういうことをしなければいけないと思うんです。

現在、亀徳の避難所、亀徳小学校の裏の高台、そして県道の三差路、港ヶ丘住宅、３か所になっていますけど、海抜は大体何メーターぐらいでしょうか。

○総務課長（村上和代君）

お答えいたします。

亀徳の避難場所は、県道80町道亀徳中央線交差点付近と港ヶ丘町営住宅、それと亀徳小学校裏の真岸場広場となっております。

それぞれの避難場所の海抜につきましては、中央線交差点付近が25メーター、港ヶ丘が20メーター、真岸場広場が25メーターとなっております。

以上です。

○８番（勇元勝雄君）

亀徳小学校の裏の避難場ですよね、小学校が大体海抜６メーターということで表示されています。それから19メーターも上がっているとは、私は到底思えないんです。今私が考えている場所だった場合。

三差路の避難場所、あそこは何回か崖崩れがあって、防災ネット、今、県のほうが旧道のほうに張っているわけです。そして、場所的にも物すごく狭いんです。恐らくあそこも25メーターということは、私は到底考えられないんですけど。河川から崖一つ上がって、あの崖が19メーターもあるとかいうことは考えられないわけです。

亀徳の場合、津波に対して条件的には一番悪いんです。港に石油タンクが６基か７基ぐらいあります。そして、プロパンのガス会社があります。そして、神嶺ダムがあります。地震が起きた場合、神嶺ダムの崩壊も考えなければいけない。幸いにして、西原線の工事がありますけど、そういう点も踏まえて、もっと上まで、上まで上がる場合は、川のほうは崖で、大体80度

ぐらいの崖になっているわけです。そして左側が個人の家ですけど、ブロックが昔の積み方で、もしあそこが崩壊した場合、私は避難場所としての意味をなさないと思うんです。亀徳小学校はそこからずっと上のほうに今避難訓練をしています。そして、真岸場のその道路もやっていますけど、そこはまた急傾斜で、恐らく地震が来たら崖崩れがあるような場所なんです。

そして、県道の避難場所。もし車で来た場合、車渋滞で恐らくあそこで全部車が止まった場合、上のほうに行けないと思うんです。また崖が崩れる可能性もあります。それは、再三、その崖を改良してくれということで町にもお願いし、また県にもお願いしていますけど、10年以上お願いしていますけど、まだ改良されません。

また、港ヶ丘にしても、入り口が今でも小石が落ちるような状態で、崩れる可能性があります。防災マップを見ても、住宅から出てなごみの岬のほうに走って、また低いところに逃げるような防災マップの作り方をしているわけです。なるべく高台に逃げるようなことをしなければ。

亀徳の避難所の場所をもう一度再考するということは考えられないでしょうか。

○総務課長（村上和代君）

お答えいたします。

避難場所につきましては、訓練等を実施していく中で、今、議員のほうから御意見いただきましたが、集落のそういった意見を伺いながら、防災会議に諮り、追加や変更を行っていけるものと考えております。

また、亀徳につきましては、現在、徳洲会病院が建設中でございます。この完成に伴い、病院とも協議し、避難場所としてまた指定をしてはどうかと考えているところでございます。

○８番（勇元勝雄君）

建設課長、亀徳西原線の改良のとき、そういう点も踏まえてある程度、避難道路としての機能を持たせるような改良をしてもらいたいと思います。これは要望です。

毎回、何回かもう職員のボランティアに対しては質問していますけど、なかなか改善されないです。これは、町長も強制はできないんですけど、公僕としての考えです。町民のために何かしたい、そういうことですから、そういう点を踏まえ、町長ももっと職員の指導。ある人に言ったら、言っても言うことは聞かないとか、そういうことじゃないんです。これは常識です。町民の方が出てボランティアしているのに、職員が出ない。そういう点も踏まえ、今後改善されるようによろしくお願いします。

２番目の町政についてお伺い……。

○議長（行沢弘栄君）

勇元議員、しばらく休憩します。11時15分から再開をします。

休憩　午前１１時００分

再開　午前１１時１５分

○議長（行沢弘栄君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

勇元議員。

○８番（勇元勝雄君）

２番目の町政についてお伺いいたします。

町長の町村会会長としての出張、町長としての各出張の回数と日数をお伺いいたします。

○総務課長（村上和代君）

お答えいたします。

出席した会議の回数でよろしいでしょうか。

町長として、会議として出張した回数は47回、日数が33日、町村会会長として出席した会議の回数が117回、日数として96日間となっております。

○８番（勇元勝雄君）

133回ですか、133日ですよね。年間の日数にしたら半分以上は出張ですよね。

前、大和村の村長が、南海日日新聞社ですか、そこでそういうことを書いてありました。町村会会長をしたらなかなか自分の町のことができないというようなコメントを出しておりました。町長は、こういう出張が多くて、町政に対して支障はないのかお伺いいたします。

○副町長（幸野善治君）

今の勇元議員の質問にお答えしたいと思います。

各種会合とかイベントの出席は、町長が不在の場合は私、副町長が出ます。私が出張とか、ほかの要件が発生した場合は総務課長、そして、担当課長が出席し、業務を現在こなしております。

それで、各担当課長も責任がありますので、相当勉強するわけですね。私、何回も勇元議員に答えておりますが、私たちのときの課長の皆さんと今の課長の皆さん、本当に勉強しています。いろんな国の補助事業やら県の事業、民間団体の事業等の交渉とか事務的な処理は、大変、相当な能力が上がっております。それで、現在のところは、町長は別にいなくても支障は今のところはないものと思っております。

いろんな各種のイベントなどでは、挨拶とか専門的なことは、業務をこなすことによって、その担当課長もうまくなりますので、やっぱり人を育てるということを町長は主眼に置いているようです。

その業務の内容によっては、町長がどうしてもいなければならないときは、日程の調整を再度やりまして調整しますが、今、電子決裁なるものもありまして、必ず町長は電子決裁で目を通しております。そして、緊急の場合では、電話での協議やら、会議等においてはリモート会

議も開いております。

町長が今、町村会会長を長いことをやって、私から見たメリットというのがどういったのがあるかと申しますと、まず３点申し上げたいと思います。

国や県とのパイプが太くなりまして、情報がどこの市町村よりも大島郡の市町村長の中では早い、早く得られるようになったということが１点目。

２点目には、今の町長は町村会会長として、大島郡は平等でなければならないということで、全市町村長に、得られた情報を平等に流して他の市町村も情報の共有が得られるようになったことが２点目。

３点目には、奄振等の重要施策、三本柱、いろんな重要施策がありますが、重要施策等の新規事業に、今回、町村会会長になったということで、人を育てるということで、教育・文化の振興の施策を入れることができた。これは町村会会長になってから初めてのことであります。

そのほかトップセールス、民間団体とのトップセールスや民間事業者との社長さんとのパイプが太くなって、企業誘致にもつながっているということ、こういったのがメリットであります。ですから、今のところは問題ないものと私と総務課長は思っております。

以上です。

○町長（高岡秀規君）

お答えいたします。

まず、基本として、私が町村会会長としての仕事をしている間に支障がないようにしなければいけないというのは原点であります。僕が一番感じるのが、いろんな課長、担当課が担当するいろんな会議があるんですが、町長が行けば我々には関係ないというような発想だけはやめていただきたいと。

ほかの市等々を見ますと、首長と担当の課の担当が出席する場合が多々あります。その中で、しっかりと行政を預かる身というのは、やっぱり課長が責任を持って施行しなければいけません。だからこそ会議は町長に任せればいいという発想はあってはならないというふうに思います。

発想として、町長が行く会議に私も出てみたいというぐらいの気持ちで任務に当たっていただきたいというふうに今考えております。

そしてまた、会長としての職務で一番感じることは、今、副町長が話ししましたが、今までは役員が会合に出た場合に情報がなかなか来なかったことが多かったんですが、それを私はなくそうということで会長に一応手を挙げたわけです。

よって、僕が最初に得た情報は、全ての町村に順次流しております。そこでの自治体での競争力というものを高めたいと。そしてまた、そこで得られた会議の中での知識というものは、町行政に生かせるということですので、出張があるからといって自分の町のことができないと

いうような言い訳は成り立たないというふうに考えております。

○８番（勇元勝雄君）

今、副町長が、トップセールスによって企業誘致ができたという答弁がありましたけど、どのような企業誘致したんでしょうか。

○副町長（幸野善治君）

一番大きな誘致は、東天城中学校に、民間のホテルが５棟建てられました。あれこそまさに大きな企業誘致であります。３年間は赤字覚悟の下で、世界自然遺産登録を見据えたのを期待して、須永さんだったね、社長は。ふるさとチョイスの社長で、あれは個人的ないわゆる町長の熱意とパイプ、それと担当者の熱意とパイプが一致したものであります。

○町長（高岡秀規君）

私は、企業誘致については、以前より慎重に企業誘致は進めないといけないというのを考えておりまして、本来、町があらゆる支援をしないと誘致に応じない企業もあるだろうし、そしてまた、町にとって有益な効果をもたらすかどうかの見極めも必要であります。

実際に、私が会長であるからとか、会長でないときと同じような提案が企業から来ます。それは関係ありません。そこで選んでいくというのは、私どもの執行部の仕事でありますから、しっかりと企業誘致につきましては今後も有益のあるしっかりとした施策でもって誘致はしたいというふうに考えております。

○８番（勇元勝雄君）

今度３月で副町長が退職ということをうわさで聞いています。そうした場合、副町長はどのようにするんでしょうか。

○議長（行沢弘栄君）

勇元議員、ちょっと質問範囲超えていますんで、よろしくお願いします。

○８番（勇元勝雄君）

いや、これも町村会会長として、結局出張が多いから、町政、行政ができるかという話の続きですよ。副町長が先ほど答弁しましたけど、副町長と総務課長、また、課長でいろいろやって支障はないということですから、もし、副町長が退職して副町長がいなくなった場合は、副町長の代わりをする方がいるのか、そういう質問です。

○町長（高岡秀規君）

そこは支障がないようにしっかりと対策を打たなければいけないというふうに考えておりますし、支障はないものだというふうに考えております。

○８番（勇元勝雄君）

年間130日ぐらい出張へ行って事務に支障がない、非常に疑問には思うわけですよ。

今後、いろいろ、奄美市も県から副町長を持ってきている、そういうことを考えて、しがら

みのない人を副町長にしたほうが私はいいと思うんです。これはただ意見です。

町村会の会長をしているということで、交際費、過去２年間100万ずつ増額しています。これは１期２年、それは仕方ないなと思って予算を通したわけですけど、今年度からその100万円、交際費ですね。増額ということはあり得るんでしょうか、総務課長。

○総務課長（村上和代君）

お答えいたします。

100万円補正で現在も組んでおりますが、来年度におきましてもそれは必要になってくるかと思われます。

町長は、先ほど副町長も申しましたが、トップセールスとして、本当に多くの方々、また、郷土会の皆さん方や、とても徳之島のためになるような方々との接点がたくさんございます。

町村会としてではなく、町村会として出張に行った場合にでも郷土会の皆さんとお会いしたりとか、そういったこともたくさんございますので、交際費につきましても今後は必要になってくるかと今のところは考えております。

○８番（勇元勝雄君）

今まで100万円で済んでおったわけですよね。町村会会長になってから100万円増額をしたわけですよ。前の説明ではそういう話だったんじゃないですか。町村会の会合とか、そういうのも出るから、交際費が要るという私は答弁をもらったと思っていますけど。

町村会の会合に出るんだったら、町村会から交際費は出してもらわなければ、町民の税金から100万円も交際費を出す、そういうのおかしいと思わないですか、総務課長。

○町長（高岡秀規君）

それは、町村会としての交際費等々についてと、我々が交際費として使う場面は、分野は違います。

そしてまた、町村会としての旅費については、ある程度町村会から出ます。それの回数によって、回数が増えているわけですから、交際費はやっぱりどうしても増えてしまいます。

そしてまた、地産地消等のＰＲ等でも必要になってきておりますので、今後も会長としての任務を遂行するためには、私ども交際費ということで、人に出させることなく自分で自腹を切るという方向が一番ベストかなと思っております。

○８番（勇元勝雄君）

職員が出張に行っても、懇親会へ出ても懇親会費は出ない。また、いろいろ手土産を持っていっても経費は出ない、そういう状態なんですよ。そういう点を踏まえて、もし交際費を増加するんだったら、町長としての交際費、町村会会長の交際費として分けて予算でも出してもらいたい。

３番目の行財政計画についてお伺いをします。

現在、恐らく町には行財政計画はあると思う。どのような進捗状況になっているかお伺いいたします。

○総務課長（村上和代君）

お答えいたします。

平成27年３月に策定されました徳之島町行政改革大綱において、具体的対策とした事務事業の見直し、課の新設、統廃合など様々な改革を行ってまいりました。

具体的には、補助金評価委員会による各集落事業補助金の評価、各課事務分掌の見直しによる事務の効率化、上水道と簡易水道の一元化など、計画に基づく対策は一定の成果があったものと考えております。

また、徳之島町職員定員管理計画におきましては、平成26年度に職員数159名をピークに職員を削減してまいりました。しかしながら、目まぐるしく変化する社会情勢の中、防災対策の強化、世界自然遺産や地方創生、北部地区振興への取組、また、保育士、幼稚園教諭の確保など人員を増加しなければ対応できない状況があり、現在のところ職員数は増加しているところでございます。

○８番（勇元勝雄君）

人件費が一番大きいですよね。一番減ったときが159名、今200名超していますよね。そして、会計年度職員が100名超しています。300名超して行政を今運営しているわけですよね。

保育所も公立でやるより民営でやったほうが、私はサービスがよくなると思うんですよ。延長保育にしてもそう、民間がやった場合は、競争ですから、保育の質を上げなければ子どもが集まらない。前に保育所の民間にした場合と公立でやった場合の額を出してもらいましたけど、そのときでも何千万かの民間がやったほうが安くつく、そういう状態なんですよ。

行政改革、財政計画、恐らく、現在の人員でやっていたら恐らく将来は徳之島町、パンクしますよ。親方日の丸、実際業務量は増えているかも分かりませんけど、昔は手書きで全部やって、計算機でやっていたんですよね。

何のためにパソコンとかいろいろ入れたんですか。業務の改善のためにやっているわけです。もっと危機感を持って予算を組まなければ、総務課長、あなたの責任ですよ。総務課長がぴしっとしなければ、今後、徳之島町は立ち行かなくなります。そういう点を踏まえて、これからもっと厳しさを持って、予算の査定においては厳しさを持ってやってもらいたい。

４番目の地方交付税、ふるさと納税、今後の推移はどのようになっていくか町長の考えを聞きたいと思います。

○町長（高岡秀規君）

まず、最初に申し上げますが、総務課長に全責任を負わせるというものではありません。それははっきり申し上げます。

そしてまた、民間委託にしたら安くなる、そんな失礼な話ありません。じゃあ、民間だったら安くで雇いなさいということですか。私は、そういった考えでは民間委託はしたくないというふうに思います。当然、同じ経費でサービスの向上というものは考えなければいけません。

そしてまた、幼稚園とかそういったものについても、公務員として、公的な機関としてやるべきことがあるだろうということで、今、教育委員会としっかりと対策をしているところです。民間ができないことは行政がやる、行政ができないこと、ある程度利益を生むところは民間でも構いませんが、しっかりとその辺についてははっきり申し上げたいというふうに思います。

そして、今後の地方交付税等の在り方につきましては、ここ数年はある程度確保できるのではないかなというふうに思います。そしてまた、町村としての要望は、国が働き方改革、そしてまた、クラブの地域への移行等、経費がどんどん重むような施策に移りつつあります。よって、我々がやらなければいけないことは、地方交付税の地方財政の十分な確保を我々はしっかりと取り組まなければいけないと考えております。

そして、今後の地方交付税の在り方についてはある程度確保できてくるのではないかなというふうに今は感じ取っているところです。

そしてまた、ふるさと納税等々につきましても、今後は、制度としては非常に厳しくなるでしょうが、恐らく全国の流れとして、この制度は続いていくのかなというふうに考えておりますが、中身はある程度精査されてくるかもしれません。

まず、その両方をしっかりと今後取り組んで、今、担当課が一生懸命頑張っているところですから、十分な核を取り組んでいきたいというふうに思います。

○８番（勇元勝雄君）

今、保育所の件で町長がおっしゃいましたけど、民間がやっても安くできるわけではないんですよね。今、亀徳保育所、亀津保育所、民間がやってもあれだけのサービスはできるわけですよ。安いからじゃなくて、経費がかかるかかからないかという話なんですよね。

町がやる場合と民間がやる場合、亀津保育所にしても、亀徳保育所にしても、それだけのこと経費は国から、県から、町から出ているわけですから、現在の町がやるより経費が安くなるという話なんですよ。

地方交付税にしても、国が1,000兆以上の借金を抱えています。ふるさと納税にしても１兆円近くのふるさと納税で、減収になったところは国から交付税で補塡されていると思うんですよね。

そうした場合、いつまでも国が１兆円近くの金を補塡できるか、そういう点を踏まえたら、恐らく、今、町長が言うように厳しくなると思います。厳しくなるということは、恐らく返礼品が少なくならざるを得ないわけですよね。経費はそこまで落とせないわけですから。

そういう点も踏まえて、やっぱり、将来を見据えて財政を考えなければ、総務課長に責任を

負わせるわけではないんですよ。町長は政治家ですから、ある程度、町民の意見を聞かなければいけない。そういうところも総務課長、副町長で抑えていくのが、総務課長、副町長の力だと私は思っています。そういう点を踏まえて、行財政改革、一生懸命取り組んでもらいたい。

５番目の町政懇談会、これは所信表明でも出ていましたけど、４月から実施するということで、そういう町民の声を多く聞いて、座談会に出てくる人も実際少ないですけど、何名かの意見も出ますから、そういう点も意見を聞いて、町民に寄り添った行政をしてもらいたい。これは答弁要らないです。

物産館（道の駅）、指定管理者ということでございますけど、前もお願いしました。ノウハウを持っている方にある程度、二、三年勉強させてもらうとか、プロポーザルで公募をするとか、そういうお願いをしましたけど、指定管理者も決まっているみたいですけど。

実際、都会の道の駅というのは、交流人口が物すごく多いんですよね。徳之島３町で２万人ちょっとの人口であれだけの施設を維持できるか、それは、指定管理者の方の営業努力によって決まると思います。町長、指定管理者の方にもそういう話をしてください。

また、物産館の仕事の仕方も私はおかしいと思うんですよ。企画がそういう仕事を探してきて、普通だったら、観光施設ですよね。観光課に任すのが私は普通じゃないかと思うんですよ。支所に北部振興室をつくったから支所でやらなければいけない、そういう話じゃないと思うんですよね。

施設をつくるということは北部振興になるわけですから、支所で、物産館というのは、恐らく私は観光施設だと思います。観光課が私はやるべき仕事だと思うんですよね。町長はどう考えますか。

○町長（高岡秀規君）

僕は、役場の職員を経験したことがありません。一番疑問に思うのが、この仕事はこの課、この仕事はこの課だから自分たちではないというような発想が、僕は効率化をストップさせていると、壁があると思います。

そしてまた、今後は、北部振興の中で観光拠点施設ができますが、道の駅もできます。どの課がやるか、恐らくみんなが譲り合いになると思います。そうあってはならない。一番重要なことは、各課が連携を取るということです。

私は、今までの役場の固定観念というものをなくさないと成功事例はつくっていけないというふうに考えておりますから、この仕事はこの課というふうな発想で考えたくはありません。今後、誰が責任を持って成功事例を導くかということで、各課が、あなたの仕事だからではなくて、自分たちの仕事だという思いでしっかりと取り組んでいけるよう頑張っていきたいというふうに思います。

○８番（勇元勝雄君）

どこでもですね、役場職員をやっていたからそういう話じゃないんですよ。観光課は観光の仕事をやっているわけですよね。パンフレットを出すにしても、経験があるわけですよ。

また、町長が言うように、連携を取ってという話でしたけど、現在、昨日、木原議員からも質問がありましたけど、連携が取れているかといったら、取れていないわけですよね。話合いをしたかという話をしたら、やっていません。そういう答弁でした。

物産館、６億以上の金をかけてやっているわけです。県のほうも１億何千万か出しているわけですから、頑張って成功に導いてもらわなければ、また、徳之島町また失敗した、美農里館も失敗した、そういう話が出ているんですよ。支所が担当するなら、それでいいでしょう。そういう点を踏まえて一生懸命頑張ってもらいたい。

７番目の水道、下水道の料金改定を考えているか。水道は今度議案で出ていましたけど。

○水道課長（保久幸仁君）

お答えいたします。

水道料金の改定については、今議会において町給水条例の一部を改正する議案を提出しております。

○建設課長（清山勝志君）

お答えします。

令和６年度より公共下水道事業特別会計から公営企業会計の適用の徳之島町下水道事業に代わり、現在、策定している下水道事業の経営戦略についても令和６年度に見直す予定があります。その際、下水道料金の改定についても検討する予定であります。

○８番（勇元勝雄君）

水道料金、今度何％の値上げでしょうか。

○水道課長（保久幸仁君）

水道料金につきましては、現行より約８％の増となっております。

○８番（勇元勝雄君）

８％ということは、現在、水道料金が２億ちょっと、２億近くですよね。二八、十六、1,000万ちょっとの値上げですけど、現在繰入れしているのが２億5,000万、1,000何百万繰入れが減るということはいいことですけど、最終的にはどれぐらいの料金にしなければ繰入れなしでペイできるか。

○水道課長（保久幸仁君）

お答えいたします。

現在の水道料金と比較いたしますと、繰入金をしない場合は、例えば基本料金につきましては現行料金が1,320円、これは２か月分の水道料金になります。税込みになります。それと比較いたしますと、基本料金につきましては2,420円、1,100円の増となります。約83％の料金が

アップするような形になります。

○８番（勇元勝雄君）

町民としては、それだけの料金を負担できないですよね、現在の状況で。水道課の今度の浄水場、大原の浄水場ですよね。水源を何回か見てきましたけど、干ばつのとき、ほとんど水がない状態ですよ。なぜ浄水場を現在の大原のあそこに造ったのかお伺いします。

○水道課長（保久幸仁君）

現在のところに浄水場を設けた理由といたしましては、水源につきましては、現在の水源地から取水するような形になっております。その水量につきましては、令和２年６月に水量調査を行っております。この水量調査の数値を踏まえ、現在の大原の場所に浄水場を設けるような形になりました。

○８番（勇元勝雄君）

今年の水源の状況で、それだけの水量があったかお伺いします。

○水道課長（保久幸仁君）

現在の水源地の取水につきましては、数値的なことは図っておりません。現在の大原の浄水場の運営につきましては支障がないことを確認しております。

○８番（勇元勝雄君）

まだ使っていないから支障がないとは断言できないわけですよね。

もともと、大原というとこは水量が少なくて現在の水源地に水源を持ってきたわけです。

浄水場というのは、私が考えるには、現在の亀津の上に造ってあるタンクのそばに造るべきであって、水がないとこに浄水場を造って、もし干ばつになって、今年、干ばつで大分困ったわけですよね、水道課。十何億の金かけて、もし干ばつになったら、水源の水がありませんから断水ですよじゃ済まないわけですよね。

もっと水量のある下のほうに浄水場を造って、そして干ばつになった場合、現在のタンクを造っている場所に造った場合、大瀬川からも水を上げられる、亀徳の川からも水を上げられる、そのような状態をつくっておかなければ、あれでもし水がなくて水道料金を上げます、できますか。町長、今の浄水場の状態を、大原の浄水場、現地に造ったことをどう考えますか。

○町長（高岡秀規君）

今、あの上水道につきましては、ある程度大丈夫ではないかなという判断の下で設置したというふうに思います。

○８番（勇元勝雄君）

十何億もかけるわけですから、絶対大丈夫という確信がなければできないわけですよ。もしあの浄水場が使えなくなった、水がなくて使えなくなった、断水した場合、水を上げる場所がないんですよね。浄水場があっても水がない。

今後、いろいろ町民の皆さんに、料金改定にしてもお願いしなければならない立場なんですよ。そういう点を踏まえると、もっと緊張してやらなければ、失敗したら失敗したでいいというものではないんですよ。町民の命に係わるわけですからね。

水道課、もっと緊張して仕事をしなければいけないと思います。また、町長もそういうことまで考えて行政をやらなければいけないと思うんですよ。これは今後どうなるか見守るしかないと思います。

○建設課長（清山勝志君）

今、勇元議員のことにお答えします。

今、もし断水した場合、それは今現在使っている地下水が第四大瀬橋のほうにありますが、それを上のほうにポンプアップで持っていく、そこによって断水はないと思います。

○８番（勇元勝雄君）

地下水も常時使っておったらいいんですよ。何年も放っていたら、つける地下水のパイプですよね、あそこにスリットが入っています、下のほうに。それがさびて使えないということもあります。そして、そういうことを現在の地下水から現在の配水池までは配管をしておくわけでしょうか。

○水道課長（保久幸仁君）

現在の水道管の布設替工事におきまして、そのような対応を取っているとこです。

○８番（勇元勝雄君）

現在のタンクのところに滅菌装置を入れるわけですね。

○水道課長（保久幸仁君）

勇元議員、御確認いたしますが、滅菌装置。

○８番（勇元勝雄君）

消毒。

○水道課長（保久幸仁君）

消毒は、現在の配水池のところで行う予定になっております。

○８番（勇元勝雄君）

結局、あそこの水はどういうことで使えないかということは、石灰分が多い。緊急的なものだからいいと思うんですよ。だけど、たまに使わなければパイプのスリットが詰まって使えないという状態、また、ポンプもそのまま置いておったら使えない状態になるわけですよ。そういう点も踏まえて、そういうことも考えるんでしたらね、やっぱり浄水場は下のほうに造るべきだと私は思っています。

○議長（行沢弘栄君）

ちょっと、料金改定からだんだんとそれていっていますので、元に戻していただけません。

よろしくお願いします。

○８番（勇元勝雄君）

下水道もそういう状態ですよね。アパートを持っている人とかは、個人でもそうですけど、下水道の料金と合併処理の手数料と比較して、下水道のほうが安いからということで加入している人も大分いると思うんですよ。だから、今後、下水道、加入する場合も、メリット・デメリット、説明してやられなければ、下水道料が上がったから前の話とは違う、そういう話も出ますから、そういう話もやってもらいたい。

８番目、民間の造成地内の消防設備、水道の配管の直径をお伺いいたします。また、現状の消防設備の状況でいいのかお伺いいたします。

○総務課長（村上和代君）

お答えいたします。

造成地内の消火栓等の消化水利につきましては、開発行為者が設置することとなっております。徳之島町の都市計画区域内の3,000平米を超える開発または区域外の１万平米を超える開発については建設課に届出が必要となっております。その際には、消火水利の設置も必要となるため申請していただきます。

現在の造成地内の現状でありますが、例えば、蔵越住宅につきましては、開発行為者が設置はいたしましたが、反対側のほうにどんどんまた造成されていっております。ですので、今後、消防設備の設置は、また水道管のパイプを大きくするとかですね、貯水槽を大きくするとか、そういったところは、今、水道課と一緒に協議しているところでございます。

○８番（勇元勝雄君）

蔵越は２か所か３か所消火栓がありますよね。前、昔見たときは、あそこに防火水槽も開発許可の中にあったと思うんですが、この間聞いたら、そういうのはないという話、また１回取下げして、１回取下げして、２度目の許可証にはそういう防火水槽がないと私は認識しています。１回目はありました。

また、尾母に行くあそこの造成地、見たところ消火設備、私が見た限りではありませんでした。あそこの場合、恐らく水圧はほとんどないと思うんですよね。そういうのを引き取る場合は、ある程度町のほうでも確認しておらなければ、引き取ってからは町の負担でやらなければいけない状態ですよ。

あそこも防火水槽を造らなければ消防設備として恐らく使えないと思うんですよ。現在のタンクから恐らく１気圧あるかないか、また、配管がどれぐらいの配管が入っているか、そういう点も踏まえて、ある程度緊張感を持って、業者から引き取る場合はやってもらなければ、町の負担が物すごい増えるんですね。役場の金だからいいという話じゃないと思うんですよ。そういう点も踏めて今後気をつけてもらいたい。

以上です。

○議長（行沢弘栄君）

しばらく休憩をいたします。13時30分より再開いたします。

休憩　午後　０時０２分

再開　午後　１時３０分

○議長（行沢弘栄君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

○８番（勇元勝雄君）

総務課長にちょっとお願いですけど、午前中、集落のＡＥＤの件なんですけど、総務課長は集落支援金でお願いしますというお話ですけど、集落支援金で間に合うのは、亀津４区と亀徳だけです。そういう点も踏まえて、今後、予算措置をお願いします。

９番目のロードキルの防止のための夜光掲示板等の設置状況をお伺いいたします。

○おもてなし観光課長（吉田広和君）

勇元議員の御質問にお答えします。

今年度においてもクロウサギの生息が多く見られる尾母旭ケ丘轟木線を重点的に、ロードキル防止のためのアマミノクロウサギ夜光掲示板を５基設置しています。それ以外に、反射材を使用した注意喚起のポールと減速帯とセットで７か所に設置しています。

以上です。

○８番（勇元勝雄君）

大事な観光資源ですから、ふるさと納税のお金もあるわけですから、そういうのにどんどん使って、ロードキルをなるべく減らすような対策をしてもらいたいと思います。

現在、町の海岸べりの駐車場がありますけど、南区の松山石油の裏のほうの駐車状況は、どのような状況になっているかお伺いいたします。

○総務課長（村上和代君）

お答えいたします。

毎日駐車場を私も確認しているわけでございませんので、今日の状況がどうなのかというのは存じておりません。

○８番（勇元勝雄君）

今日の状況じゃないんですよね。ずっと、あれができてから、どのような状況になっているか。

○総務課長（村上和代君）

お答えいたします。

職員の車、また消防の職員の車が駐車しています。また、近隣の住民の方、また、たまに農協のほうの会議があったりする場合には、そちらの駐車場を使ったりする場合もございます。

○８番（勇元勝雄君）

駐車場は、今、民間の当地を60万で借りていますよね。また、来年度も60万、予算を組んでいますけど、見てみたら児童公園のあそこにも駐車場がありますけど、あそこほとんど、もう昼間、満杯の状態です。また、松山のスタンドの裏のほうの駐車場もほとんど満杯です。

ある程度、総務のほうで、財産管理という係もいるわけですから管理をしてもらわないとですね。農協のための駐車場じゃないんですよね。恐らく職員の方も止めているんじゃないかと思いますけど。そういう点も踏まえて、きちっと管理をしてもらわないと、役場の金を60万も出して駐車場を、民間の土地を駐車場として借りながら、そういう点はおかしいと思うので、今後、財産管理のほうできちんと管理をしてもらいたいと思います。

３番目の町道の整備について。

何回か質問しています。また、個人的にもお願いをしていますけど、内スーパー前と海王寺の２か所ですね。徳洲会も来年は完成する予定です。地主の方も３名の方、お願いして、町が事業をする場合には協力してもらえますかという話をしまして承諾をもらっています。前は、課長は、海王寺の方と話して、もし話がまとまらなければ、反対側のほうに拡幅するということを答弁してもらいましたけど、その後、どのような状況になっているかお伺いいたします。

○建設課長（清山勝志君）

お答えします。

町道亀徳井之川線につきましては、令和６年度に測量委託を実施予定であります。

○８番（勇元勝雄君）

その２か所でしょうか。

○建設課長（清山勝志君）

内スーパー前から松田解体、その部分が、まだ測量が未定なので、そこまでとなっております。

○８番（勇元勝雄君）

やっぱり早急にしてもらわなければ、非常に車の離合、特に海王寺前は、両方からスピードを出してきて、そこで車と出会ったとき、ものすごく怖い思いをするわけですね。内スーパーの前も子どもたちの通学路になっています。幸いにして、事故が起きないのが幸いですけど。あそこの地主の方も、町が事業をするなら協力するという話ですから、早急に２か所だけは、やってもらいたい。

また、６年度、測量して、７年度、事業するといっても７年度ということですけど、なるべく早くやってもらいたいと思います。

４番目の、ソテツジャングルの駐車場について。

現在、ソテツジャングルの駐車場は、中のほうに民間の方の好意によって駐車場ができてい

ますけど、大型は止められない状態なんですよね。

これから、自然遺産になって観光客も増えるわけですから、土地が買えないじゃないと思うんですよね。ある程度の誠意を見せてお願いしたら集落の方も土地を譲ってもらえると思えるんです。そういう点も考えて、駐車場をつくることは実施できるのかできないのかお伺いいたします。

○おもてなし観光課長（吉田広和君）

勇元議員の御質問にお答えします。

大型観光バスに関しましては、勇元議員も御存じのとおり、県道沿いのスペースに駐車して、観光客が県道を横断する形で利用しています。観光客の安全を考え、安全にバスを駐車できる場所はないかと今調査しているところであります。ですが、バス会社や執行部との実質的な協議は、まだ行っていませんので、近々、バス会社と執行部で実際に現場へ行き、検証した上で判断していきたいと思います。

以上です。

○８番（勇元勝雄君）

何年も前からこういうお願いをしているわけですよね。ある程度、スピード感を持って仕事をしなければ、今から協議をするとかそういう話じゃないと思うんですよ。実際、観光バスが道路の横に２台、３台停まっている現場を見たことがあるんですよね。観光地で、大型のバスが止められない観光地というのは、私は考えられないと思うんですよ。ふるさと納税のお金もあるわけですから、そういうのを利用して早急にしなければ、イメージが悪くなるばかりですよね。実際、徳之島町で観光地といったらソテツトンネルぐらいだと私は思っています。都会の人が来て、島らしい観光地というのは。

そういう点も踏まえて、ある程度スピード感を持ってやってもらいたい。町長、どう考えますか。

○町長（高岡秀規君）

スピード感を持ってということですが、そこについては、ある程度の、逃げ道の言葉ではありません、優先順位ということで、当初、ソテルジャングルは、前の駐車場の整備という話からスタートしたと思うんですよ。今ようやく現実的な駐車場の意見ということで承って、今おもてなし観光課の課長とは、せんだってお話をしたところでありますから、しっかりと安全を保つために、そういった整備は必要かなというふうに考えてはいます。

○８番（勇元勝雄君）

前からバスの止まる駐車場というのは、何回も言っていると思うんですよね。観光課長、何回か話していますよね、そういう話は。

○おもてなし観光課長（吉田広和君）

前回の12月の質問のときに、こういった案件があるということで話をしました。

以上です。

○８番（勇元勝雄君）

12月からでも３か月たっているわけですよね。それがスピード感がないということですよ。これからは観光で島を潤さなければいけない。道の駅できた、観光に行って駐車場のない観光地、考えられないわけですよね。都会の観光地、全部バスが止まれるスペースがあるわけですよ。１億も２億もかかる事業じゃないわけですから。結論は、いつ頃出る予定でしょうか。

○町長（高岡秀規君）

場所等をしっかりと確認した上で、時期的なものは、まだ分からないということであります。

○８番（勇元勝雄君）

実際、奄美に10万トン級のクルーズ船が来て、バスもない、タクシーもない、レンタカーもないという状態でやっています。それ以前の問題ですよね、徳之島町は。10万トン級のクルーズ船の誘致を目指して、今、港湾の整備をお願いしているが、そういう点も踏まえて、ソテツジャングルの駐車場を早急に整備できるように頑張ってもらいたい。

以上です。以上で終わります。

○議長（行沢弘栄君）

次に、政田正武議員の一般質問を許可します。

○２番（政田正武君）

皆さん、こんにちは。

初めに、このたびの能登半島地震により被災された方、犠牲になられた方、その御家族の方々に慎んでお悔やみとお見舞いを申し上げるとともに、一日も早い復旧と復興を心からお祈り申し上げます。

さて、３月も残り少なくなり、また、別れと出会いの季節がやってまいりました。今年も夢と希望を胸に、高校を卒業したほとんどの生徒が島を離れていきます。今年の成人式のアンケートで、98.9％が「徳之島に生まれたことを誇りに思う」、42.2％、昨年度より10.5ポイントアップしているようですが、「将来、徳之島に住みたい」と答えています。

子どもたちの未来への投資、教育への投資を行うことによって、離島というハンディを子どもたち自らが克服し、グローバルな人材となり、その子どもたちが高度なスキルを身につけ、将来、島に帰りたい、島のために貢献したいと思えるような、そんな徳之島町を役場の皆さんと議会とともに協力して築いてまいりましょう。

２番政田正武が５項目について御質問いたします。

初めに、会計年度任用職員制度についてお伺いします。

会計年度任用職員制度の概要について、総務課長に御説明をお願いいたします。

○総務課長（村上和代君）

政田議員の御質問にお答えいたします。

会計年度任用職員制度につきましては、令和２年度、地方公務員法の改正により導入された非常勤の地方公務員です。

以上です。

○２番（政田正武君）

今の御説明ですと、会計年度任用職員も公務員扱いということでよろしいでしょうか。

○総務課長（村上和代君）

はい。非常勤ですが、公務員扱いということでございます。

○２番（政田正武君）

現在、会計年度任用職員に限った研修等は行っていますか。

○総務課長（村上和代君）

お答えいたします。

研修でございますが、以前はコロナ前は、接遇の研修であったりとか会計年度任用職員も参加する研修をしておりましたが、去年の接遇研修等には、まだ人数をそこまでたくさん入れることが、ちょっとできなかったので、職員のみの研修にいたしております。

今後は、また研修等も会計年度任用職員の研修も実施していきたいと考えております。

○２番（政田正武君）

ぜひ会計年度任用職員に限った接遇の研修会等も行っていただきたいと思いますけれども。会計年度任用職員は、服務規定や守秘義務、信用失落の禁止等々、ルールを遵守し、職務に専念しなければならない公務員であるということを会計年度任用職員本人は認識していると、総務課長はお考えですか。

○総務課長（村上和代君）

お答えいたします。

会計年度任用職員は、今、政田議員のほうが申しましたように、非常勤の地方公務員でありますが、服務に関しては正規職員と同様の部分もあるため、個人情報保護や守秘義務など慎重に取り扱わなければなりません。

今後も、会計年度任用職員の法令の遵守を徹底するよう指導を行っていきたいと考えております。

○２番（政田正武君）

その会計年度任用職員の身だしなみや町民に対しての対応は、しっかりできているとお考えですか。

○総務課長（村上和代君）

お答えいたします。

私が見る範囲では、その辺は、会計年度任用職員もしっかり窓口対応等をしていただいています。

○２番（政田正武君）

今から四十四、五年前なんですけれども、私も役場で臨時職員をしておりました。そのときはジーパンにＴシャツといった格好で職場に出てきたんですけれども、副町長も御存じだと思いますけれども、当時は、メリヤスに作業ズボンをめくり上げて、サンダルを履いている先輩の職員もいらっしゃいました。それに比べれば、現在は、会計年度職員の皆さんもそうですけれども、職員の皆様、身だしなみもしっかりして意識が高いと思っております。

多くの会計年度任用職員の方が公務員であると認識しており、町民への対応もしっかりできているということでしたので大変安心いたしました。

次に、会計年度任用職員の資格取得についてですが、今後、各課において、特殊な技術、資格を有していなければ事業ができないといった事案も出てくると思いますが、そういった場合に、業務を遂行するに当たって必要であると判断される場合は、会計年度任用職員が資格取得のために研修会等へ参加をさせるといった、そういうお考えはおありですか。自費で行くのは大変でございますので、公費を使って研修等に参加させる、そういうお考えはありますか。

○総務課長（村上和代君）

お答えいたします。

会計年度任用職員は、一般事務補助のほか保育士、幼稚園教諭、保健師、看護師など専門的な資格を持った方の募集作業を行っておりますが、業務遂行のための人材確保が喫緊の課題となっております。技術職員には、公共工事の品質を確保するために、専門的な見地から判断を下せることが求められており、資格を有する者の配置が必要であります。

また、保健師等につきましても、専門分野での業務が拡大しており、現在の人数では厳しい状況となっているのが現状でございます。

今後、ますます人材確保が困難となることが予想されており、本町といたしましても募集内容や方法を模索しているところでございます。このような状況の中であるため、会計年度任用職員の資格取得については、状況に応じた支援は必要かと考えます。

また、業務遂行上、必要な専門職の技術や知識向上のための研修等への参加もできるよう努めてまいります。

○２番（政田正武君）

今、総務課長がおっしゃられたように、今後は専門職の確保も厳しくなっていくと思われます。現在、職員採用でも技術士等の募集をかけても応募がなかなかないといった状況ですよね。職員だけでは対応できず、業務に支障を来し、行政サービスの低下につながらないように、会

計年度任用職員の技術・知識の向上等のためにも、研修会等に参加をさせて、町民の皆様に質の高いサービスが提供できるような体制づくりをお願いしたいと思います。

ここにいらっしゃる課長の皆様も、職員を管理する能力、リーダーシップを発揮できる方々だと思っております。今後も町民の皆様によりよいサービスが提供できるように、職員並びに会計年度任用職員の指導、サポートをしっかりしていただきたいとお願いいたします。

この件については、最後に、公務員というのはサービス業だと思いますね。町民の皆様に質のよいサービスを提供して、その対価として給料を頂いていると私は思います。皆様も町民の方に十分なサービスができているのか、そして、今もらっている給料が妥当なのか、そういった点も自己診断していただきたいと思います。

次に、２番目の子育て支援についてでございます。

本町でどのような子育て支援を行っているかお尋ねいたします。

○介護福祉課長（廣　智和君）

政田議員の御質問にお答えいたします。

介護福祉課としては、国が実施している通称13事業といわれる子ども・子育て支援事業がございます。本町はその中の８事業を実施しております。

実施している事業名を申し上げますと、延長保育事業、放課後等児童健全育成事業、病児保育事業、地域子育て支援拠点事業、乳幼児全戸訪問事業、養育支援事業、一時預かり事業、子育て援助活動支援事業です。

また、保育所での児童の受入れ促進と待機児童対策の解消、保育人材の確保や質の向上を目的とした子育て支援員研修や、言葉発達に関する研修会の開催、また、保育士等修学資金の創設、保育所等における給食支援事業、出産子育て応援給付事業、また出産祝金事業など、積極的に取り組んでおります。

○２番（政田正武君）

介護福祉課のほかにも、その子育て支援に関する事業があれば教えていただきたいと思います。

○学校教育課長（太　　稔君）

政田議員の御質問にお答えいたします。

学校教育課のほうでは、学士村塾、漢字検定及び数学検定、学力向上試験、みんなの学習クラブの活用、中学校等の島外大会出場の補助金、海外語学留学、われんきゃポイント事業、進学塾、向学塾、また新年度でＯＩＳＴとの交流を行っております。

以上です。

○２番（政田正武君）

いろいろと広い分野で子育て支援を行っておりますけれども、本町が独自で行っている事業

というのは、ありますでしょうか。

○介護福祉課長（廣　智和君）

お答えします。

町の単独費用で行っている介護福祉課での事業は、先ほどの答弁の中でもお話ししました保育士等修学資金や出産祝金、また、保育資格取得旅費助成事業などがございます。また、次年度以降も積極的に事業展開ができるように取り組んでいきたいと思います。

以上です。

○２番（政田正武君）

そうですね、この保育士の奨学金とか看護師への奨学金制度というのは、伊仙、天城町はどうなんですか、行っていますか。

○介護福祉課長（廣　智和君）

お答えします。

現在のところ、徳之島町のみが行っております。伊仙町のほうでは、少し保育士等のほうを検討しているというような情報がありますけれども、徳之島町が今行っております。

○２番（政田正武君）

多岐にわたり、様々な支援を行っていますけれども、昨年、町民の方から町への要望活動をしたいというお話がありまして、総務課長に相談して副町長と２人で対応していただきました、10月ぐらいでしたけれども。その要望活動の後、いろいろお話を聞きたいことがあるということで、お二人にちょっとした研修会を２時間程度していただきました。

そのときは、介護福祉課と教育委員会関係の研修でしたけれども、３名、４名でしたかね、来た方に総務課長が、このように資料を作っていただいて、徳之島町で行っている子育て支援、介護福祉課であったり社会教育課、学校教育課、いろいろな資料を作っていただいて、そちらのほうで細かい資料を提供していただき、研修いたしました。

その中で、これは令和４年度の資料なんですけれども、介護福祉課約10億6,000万、健康増進課3,300万、学校教育課９億4,000万、社会教育課1,300万、合計20億4,600万と様々な子育て支援を行っていると、その方たちに総務課長が詳しく説明していただきました。

また、その町民の方が、この事業を見てびっくりしておりました。いや、今テレビやマスコミで、医療費や保育料、給食費の問題がクローズアップされて、徳之島町は何でほかの市町村は、こんな支援を行っているのに、徳之島町だけやらないのかと思っていたと。でも、総務課長が、この事業をやっているということを説明したところ、びっくりしていました。自分たちは何にも分からなかったと。

それはなぜかと。情報が入ってこないからなんですね。なので、こんなすごい、いい取組をいっぱいしているわけです、20億も。だけど、町民の方は、子育て支援は徳之島町は何も行っ

ていないと感じていらっしゃる方が少なくないと思うんです。

ですので、こういう情報をもっともっと町民の方に広く周知できるような、今、町民の方が情報を得るのは、防災無線とホームページなど限られているんですね。なので、もっと広く周知できるような工夫をして、なるべく多くの方が知り得るような情報の発信の方法を検討していただきたいと思います。

次に、亀徳新港のボーディングブリッジの導入についてお伺いいたします。

先般、船に乗る機会がありましたけれども、乗船時に私の前に御高齢の方がおられ、階段を上る際に非常に辛そうにしておりました。また、待合室には車椅子の方が待機しておられました。その車椅子の方は最後でしたので、どのように乗船されたか確認はできなかったんですけれども。こういった御高齢の方や身体にハンディを抱えられる方にとっては、現在の乗下船では大変きついと思います。

以前、ボーディングブリッジの導入について、福岡議員からも、これ県知事との対話の中で出てきたので質問していただきました。そのときに、県のほうにお尋ねしたところ、亀徳新港は外海なので、台風時には岩壁に波が上がり、そういう設置は難しいが、現在、沖にケーソンを設置しているので、状況を見て検討したいとの回答でしたが、導入について見解をお伺いします。

○建設課長（清山勝志君）

お答えいたします。

県に確認したところ、亀徳港は外洋に面しているため、平常時でも接岸した船舶は安定せず、さらに悪天候には岩壁エプロンが波浪で水深するなどボーディングブリッジの破損等が想定されることから、現状では、ボーディングブリッジの設置は困難な状況である。まずは、定期フェリー等の安全で安定的な運行を図るため、防波堤の整備を推進したいとのことでした。

○２番（政田正武君）

同じ回答になるとは思いますけども、なかなか、そのボーディングブリッジの設置は難しいと思いますけれども、先ほども申し上げましたけれども、御高齢の方、身体にハンディを抱えていらっしゃる方、またインバウンドも増えてくると思いますので、徳之島町は人に優しい徳之島町、おもてなしの徳之島町でありますので、粘り強く何回も何十回も要望して、熱い思いと本気度を見せないと実現しないと思います。轟木の万田橋も、福岡議員がしっこいくらい十数年間要望し続けて実現したわけです。それも踏まえて、熱い思いを持たないと実現しないと思います。それを踏まえて、清山課長、熱い思いをお聞かせください。

○建設課長（清山勝志君）

お答えします。

私は、もう３月で終わりますので、次の建設課長に引き継いでもらいたいと思います。

○２番（政田正武君）

ぜひ次期課長に引き継いで、熱い思いを語って、実現できるようにお願いしたいと思います。

次に、ハンディを抱えた方たちの乗下船の状況についてお伺いしたいんですけども、現在、身体にハンディを抱えた方、御高齢の方の乗下船は、どのようにサポートしておられますか。

○企画課長（吉田　忍君）

政田議員の御質問についてお答えいたします。

サポートということでございますが、内容といたしましては、新港待合所から船内までを送迎車で案内、船内におきましては、エレベーターで移動していただいております。

以上です。

○２番（政田正武君）

その補助については、サポートについては、各船舶会社が御協力いただいているということですね。その人数とかは、把握はできていませんか。

○企画課長（吉田　忍君）

お答えいたします。

鹿児島からの下り線につきましては、鹿児島のほうでは、その人数までは把握していないということでした。こちらからの乗船につきましては、現状につきましては、繁忙期、閑散期、ございますが、おおむね月10名から12名の状況でございます。

○２番（政田正武君）

今課長から答弁がありましたけども、月10名から12名の利用されている方がいるということですので、利用者も少なくはないと思うんですね。ですので、先ほど申し上げましたけれども、人に優しい徳之島町、おもてなしの徳之島町でございますので、ぜひボーディングブリッジの導入については、その実現に向けて、皆様とともに議会も挙げて、要望等を活動したいと思いますのでよろしくお願いいたします。

次に、ホームページの情報発信についてでございますけれども、今ホームページを開いて、いろんなイベントカレンダーがありますよね。そのいろんな行事があるにもかかわらず、その行事がいつあるのか、時間が始まるのか、日程はいつなのかというのを検索をしても、ほとんど情報が入っていない状況だと感じるんですけれども、課長は現状について、どうお考えですか。

○企画課長（吉田　忍君）

お答えいたします。

本イベントカレンダーにつきましては、令和２年度に情報発信機能強化といたしまして、イベントカレンダー機能を追加しているところです。こちらのほうは、現在、ウェブサイトを管理しておりますコンテンツマネジメントシステム、ＣＭＳというもので運用しておりますが、

こちらのほう、イベントカレンダーやウェブサイトのページの作成から承認、公開までを、それまでは企画課のみで行っておりましたが、現在は、各課において担当職員が、それぞれが発信可能となっております。

そのカレンダーの更新状況につきましては、現状、更新できているか、全くあまりされていないか、また掲載が遅いかなど、ばらつきがあるようには感じております。

○２番（政田正武君）

現在、広報担当は何名でございますか。

○企画課長（吉田　忍君）

お答えいたします。

現在は１名の職員で町広報誌の作成及び町公式ウェブサイトの管理、フェイスブック、Ｘ、インスタグラム等ＳＮＳによる情報発信を行っております。

○２番（政田正武君）

担当は１名で行っているわけです。私も以前、企画課にいましたけれども、当時から担当１人で土曜・日曜・祝日、早朝から夜遅くまで１人で取材して原稿を書いて、編集等、大変だと思っていました。今後、その情報の発信について、体制の強化を含めて充実できるようなお考えはありませんか。

○企画課長（吉田　忍君）

お答えいたします。

一番充実させる方法は、やはり職員の増員をお願いしたいところではあります。しかしながら、やはり定員管理の問題等々もございます。現在、企画課では、令和５年度からこういったＳＮＳ等、情報発信を中心とした地域おこし協力隊の公募をしてまいりました。残念ながら、令和５年度につきましては、雇用の見込みがないため補正予算のたびに減額してまいりました。

現在の状況でおきましては、来年度を見越して、今、出身はちょっとごめんなさい、ど忘れしたんですが、関東のほうから１人、こういった情報発信やイベントプロモーションをしたいという、やる気のある方から事前相談を受けておりまして、今、前向きに面談を重ねているところでございます。

○２番（政田正武君）

実際、私も役場を離れて感じることは、中にいたときには、いろいろな情報が入ってくるんですけれども、役場を離れて、町の情報というのはほとんど入ってきません。なので、町民の方もほとんど情報を得られていないんじゃないかなと思います。広報とホームページ、防災無線が主な情報源でございますけれども、ホームページもリアルタイムで更新するとなれば、広報担当１人では、なかなか難しいと思います。先ほど課長からありましたように、ホームページとか、そういうふうに地域おこし協力隊ですね、その方面に長けた方が、今前向きに考えて

いるということでございますので、その人員を増やして体制を強化をしていただいて、ホームページを見れば、全部とは言いませんけれども、ある程度、町の動向が分かるようなシステムの構築に努めていただきたいと思います。

私が、企画課にいたときに、システム改修を行っておりますよね、700万ちょっとでしたかね。そのときに、大沢議員から、それを改修してどういうメリットがあるかという質問があって、情報がリアルタイムで見ることができますと私は答弁しているので、そのようになるように、ぜひこの地域おこし協力隊の協力を得て、町の情報がしっかり町民に伝わるようにお願いしたいと思います。

それと、ここに昨年、秋の園遊会に町長が招待された報道写真があります。これもあまり見た方もおられないと思うんですけども、今でもユーチューブで「秋の園遊会」と検索すれば視聴できます。1,400人ぐらい招待されていて、その中、ここが入口なんですけれども、町長、最前列なんですね。この辺に松任谷由実とか西川きよしとか将棋のひふみんとかもいられて、1,400人の前でも最前列で話しているんですね。

そして、天皇陛下と雅子様、秋篠宮殿下、紀子様といるんですけれども、お言葉を交わされています。特に、秋篠宮殿下とは、結構、話されているようで、その奥様のお着物姿に「着こなしがよろしいですね」というお言葉も頂いたいうような話も聞いておりますけれども。こういうことも、すごい徳之島のＰＲにもなるので、やっぱり情報発信ですね、そのホームページとか広報とかでもどんどん知らせて、すごいことなんですよ、天皇陛下とおしゃべりできるということはですね、もう絶対ないと思うので、こういったことも、いろんな情報を仕入れて発信していただきたいと思います。

それと、先ほど課長がおっしゃられたように、イベントカレンダーについては各課で入力できるということですので、課長は職員のほうに、自分の担当している事業等については積極的にホームページに掲載して情報を発信していただくようにお願いしたいと思います。

それと、先ほどちょっと気づいたことなんですけども、施政方針でもいろいろ情報を発信していくということです。先ほど、廣課長が、その情報発信の中で、昨日、宮之原議員が言ったの何ですかね、あれ何でしたっけ。（発言する者あり）あれも下のほうに置いてあるとか、まあ言ったんですけど、町民の方は分からないと思うんですね。ですので、１階のエレベーターのところに掲示板の設置とか、身体にハンディがある方とか高齢者の方は、階段を登らないと思うんですよ。階段のほうに、ポスターをいろいろ張ってあるんですけど、町が大事なそのイベントとか、町民に知らせたい事柄とか掲示板ですね、そういうのを設置して貼っておけば、町の行いたい行事とかそういうのを一目で分かるような状況になると思うので、そういう設置も検討していただきたいと思います。

次に、トライアスロンの件についてお伺いします。

令和５年度に、国体トライアスロンが天城町で開催されましたけれども、３町協力の下ではなく、天城町の単独で開催されました。毎年行われているトライアスロンは、来年度以降は、どのように運営していく予定ですか。

○おもてなし観光課長（吉田広和君）

政田議員の御質問にお答えします。

来年度以降も、これまでどおり３町で行われ、来年度は６月23日に37回目の大会が開催されることが決定しています。

○２番（政田正武君）

国体レベルの大会を天城町単独で開催できるのであれば、来年度以降も単独で開催できるのではないかと感じるんですけど、どうですか。

○おもてなし観光課長（吉田広和君）

お答えします。

徳之島でのトライアスロン大会は、バイクで島を一周するコースが魅力で選手たちは参加していると聞いています。ですので、長年行ってきたコースを変えるわけにはいかないかと思います。

以上です。

○２番（政田正武君）

島を一周するコースが魅力というのであれば、なぜ国体も３町で開催して徳之島一周を使わなかったのかと疑問に思うんですよね。そのコース取りとか規定など、様々な理由があるのでしょうけれども、その３町開催となったいきさつは御存じですか。

○おもてなし観光課長（吉田広和君）

お答えします。

第１回目の大会から2007年の20回大会までの間、参加者が年々減少傾向にあったそうです。その中で、総会の中で２町に、２町の町長に協力を図ってみてはどうかという話がありまして、全島での開催に賛同してもらうことができて、2008年の第21回大会から３町開催が始まったそうです。

以上です。

○２番（政田正武君）

今、参加者が減ってという話だったんですけども、その参加者が減ったことによって、人員や予算の関係ですね、本町、伊仙町に協力を求め、３町開催になったというわけではないんですか、予算的な面とかはですね。

○おもてなし観光課長（吉田広和君）

お答えします。

そういうわけではないと聞いています。

○２番（政田正武君）

分かりました。その人員や予算が足りないからといった理由であれば、本年度開催されたサーフィン大会は、来年度予算に計上されていないようですけれども、その大会は、ネットなどで大会に参加された方たち独自で、よく紹介されていただいております。徳之島をすごく盛り上げて、島をＰＲしてくれております。

昨日、是枝議員がおっしゃっていましたが、原紙を生み出す観光は、島は限られているというお話もありました。このサーフィン大会のように、世界に発信できるような観光資源はないんじゃないかなと思うんですよね。そういった町の行事も開催が危ういのに、他町の行事に予算の協力をするのはいかがなものかということを申し上げたかったのですが、その人員や予算の関係で３町開催になったということですので理解いたしました。

ちなみに、来年度のサーフィン大会は開催しないんですか。ちょっとすみません、ちょっと違いますか。

○おもてなし観光課長（吉田広和君）

今年度、サーフィン大会を実施するために補助事業を申請していましたが、補助事業が採択されなかったので、今年度実施できる事業を探して申請を図りたいと思っています。

以上です。

○２番（政田正武君）

やはりいい大会ですので、世界に発信できるという事業、行事はないと思うので、単発ではだめだと思います。継続は力なりです。ぜひ長く続けられるように、いい補助事業を見つけて開催して、島の魅力を発信し続けていただきたいと思います。

今後も各団体の行事等に負担金や補助金を支出することもあると思いますので、その際には、しっかりとその費用対効果も議論して、適正に処理していただきたいと思います。

以上で質問を終わります。

○議長（行沢弘栄君）

しばらく休憩します。14時35分から再開いたします。

休憩　午後　２時１９分

再開　午後　２時３５分

○議長（行沢弘栄君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、植木厚吉議員の一般質問を許可します。

○４番（植木厚吉君）

皆様、こんにちは。

まず、今年１月に発生いたしました能登半島地震におきまして被災された方々、また犠牲になられた方々に対して、心中よりお見舞いを申し上げるとともに、お悔やみを申し上げたいと思います。一日も早い復旧・復興を心より祈念いたします。

一般質問２日目、最終登壇者になります。関係各課長の前向きな答弁を期待いたしまして、４番植木厚吉が通告の３項目について質問させていただきたいと思います。

まず、１項目め、次期奄振予算について伺います。

今年２月、奄振法の一部を改正する法案が閣議決定されました。我々奄美の島々において大変貴重な財源であるとともに、今後の奄美の島々のさらなる発展に大きく寄与することかと思います。

また、今回の改正案は、鹿児島県町村会会長である高岡町長の思いも色濃く反映されており、島の現状にそぐう改正内容として大きく期待をするところであります。

今回の改正の概要といたしましては、令和11年までの法期限の５年間の延長、地方への人の流れの創出、沖縄との連携強化、新たな課題等への対応となっております。

その中の沖縄との連携の項目について伺います。

今やハワイと並ぶ観光人口を誇る沖縄ですが、沖縄との連携強化は、今後様々なメリットが想定されます。今後の施策計画等を伺いたいと思います。

○企画課長（吉田　忍君）

植木議員の御質問についてお答えいたします。

今回閣議決定されました主な改正内容につきましては、農業の振興において、農業の生産性の向上に関する事業を農林水産業の振興に関する事業への改正、次に、教育及び文化の振興に関する事業の追加、そしてまた沖縄県との連携強化を含めた各種制度の拡充などとなっております。

今述べました以上の３項目につきましては、沖縄県との連携強化に関連するものであり、令和６年度においても、事業要望として計画の提出がなされております。

主立ったものを御紹介いたしますと、まず１つ目は、条件不利性改善事業の中で、こちらのほうは農林水産課及び地域営業課が関連してまいりますが、農林水産物等輸送コスト支援事業、拡充内容といたしましては、補助対象について沖縄向けの輸出コストが追加、品目に畜産品加工品を追加、原材料等の移入に係る補助品目数を１町村ごと３品目から５品目への拡充などとなっております。

次に、奄美群島航空・航路運賃軽減協議会が実施します航路・航空路運賃軽減事業といたしまして、運賃軽減の対象路線について、沖縄県内路線に加え、奄美群島―沖縄路線を追加、今調整中でありますが、運賃軽減の対象者である離島割引カード対象者に加え、介護帰省者を追加するよう調整中とのことです。

最後に、成長戦略事業といたしまして、学校教育課より、新しい時代にふさわしい教育推進事業として、沖縄科学技術大学院大学との連携事業を実施予定としております。

今後につきましても、沖縄との連携強化に資するものは、令和７年度以降も増えてくると考えております。

以上です。

○４番（植木厚吉君）

沖縄向けの、まず農産品に関してなんですけども、農産品に関しての輸送コストの支援があるということで、今後、今まで本土に向けていた、出荷等をされていた作物等の中で、南のほうに輸出する際に、今後期待されるような品目等はございますか。

○農林水産課長（高城博也君）

農産物ということでありますので、農産物に焦点を置いて御説明いたしますと、まず、農産物が今まで野菜のほうで１つ追加になっております。さつまいもが、まず追加になっております。

それと、畜産物が成牛と肥育豚ということになっております。これ成牛については、ほぼ肥育牛でありますので、当該の出荷後60日以内に食肉処理施設において処理されることを対象としておりますので、現在のところ徳之島においては、肥育牛は町が試験的に行っているもの以外はいませんので、ほぼ対象にはならない状態でありますけれども、そういったことになっております。

付け加えまして、水産物についてでありますけれども、これまで水産物の一部が輸送コスト支援の対象となっておりました。さらに沖縄向けの対象品目は、ほぼ今回で全て対象になるというふうなことでありますので、農林畜産物を全て、今後、沖縄に向けた新たな流通システムの構築を関係機関と早急に検討する必要があると考えておりますし、検討後に施策や計画を講じることとなると思います。

ちなみに水産物のほうでありますけれども、これまで、マグロ、カジキ、カツオ、ブリ、タチウオ類がなっていたものが、イカ、タコ、エビ、カニ等も含めて、６品目もほぼ対象となるであろうというものに関して全て上がっておりますので、かなり優位な生鮮的に沖縄のほうにも戦略的に向かえるんじゃないかなと考えております。

○４番（植木厚吉君）

この質問をするに当たって、いろいろ調べものをしたところ、結構沖縄のほうが日本一を誇るフルーツ等が非常に多くて、マンゴーしかりパイナップル、シークヮーサー、ドラゴンフルーツ等たくさんあるんですけども、このような品種の中で、今後、南に向けた出荷がさらに拡大するという中で、今後奨励していこうとか、また奨励を推薦する品目とかは、何か検討されていますか。

○農林水産課長（高城博也君）

お答えいたします。

環境の変化で温暖化であって、南のほうからだんだんにこういうふうに平均気温がやっている中、やはり沖縄で作られていたものが、普通に奄美諸島でも作られているというふうな状況であります。

また、これは調査も必要だと思います。何が不足しているのか、そういったものを早急に進めていく必要があると思いますんで、そういった施策も早急に講じて、ソフト面で調べた上で、大消費地である沖縄のほうへもやっていきたいと思っていますし、先日説明を受けたんですけれども、資料の中で微妙に鹿児島向けと沖縄向けの運賃の補助率、補助というか、そこら辺の対象も微妙に違うところがありますんで、そこら辺も含めた上で、今後、施策と計画を講じていきたいと思います。

品目については、まだ目立ったものは把握しておりません。

○４番（植木厚吉君）

先ほど課長の言葉の中にもありましたけども、そこに関わる流通システムの構築というのも大事だということでありました。

これで、前議会で広田議員も取り上げておられましたけども、航空貨物の件、うちもこの件に関しまして、いろいろ吉田課長から知恵をいただきながら、御教授いただいたんですけども、なかなか航空は荷物の限りがあって、なかなか航空での取扱い難しいというところで、海上の輸送になるかと思いますけども、この中で輸送コスト支援の中で、以前から福岡議員が取り上げられております、コールドチェーンの構築ですとか、その辺の輸送のインフラの整備も、今後はさらに必要性が増してくると思うんですけども、その辺の今後の見解をお願いします。

○農林水産課長（高城博也君）

お答えいたします。

やはりそういったものは十分必要だと考えております。

出荷先が特に南のほうになりますので、そこら辺は十分こうやって考えた上で、今後、何が必要なのかと。また、上に向かうコンテナと、下に行くコンテナと、また数の量的なものも、また今までと違うような形になりますので、また戻ってくるときに空でいいのかどうか、そういったものも含めた形で調査を十分にやっていかなきゃいけないですし、今後また補正でお願いするかも分かんないですが、そういう調査を含めた形は十分やっていきたいと。

○４番（植木厚吉君）

これ以前、徳之島には今定期的に入る定期船と貨物船というのがあると思うんですけども、以前は一時期ですけども、貨物船航路が沖縄のほうまで行っていたんですね。

ちょっと諸事情は分かりませんけども、それが中心になっているとこなんですけども、今後また貨物量の増加に伴って、そういう関係会社といいますか、その辺とのまた協議も、再協議

の段に着くのも、一つのアイデアなのかなと思うところであります。

また、沖縄との連携という中で、観光立県沖縄も課題がありまして、沖縄県、ハワイに次ぐ、ハワイと同等の観光人口を誇る県でありますけども、沖縄の課題といたしましては、滞在期間が短いというのが、沖縄県の観光産業の課題であると聞いております。

その中で、やはり奄美群島でありますとか、我々の琉球の文化圏を持つ島々との連携や、またそういったツアー等を今後また構築していくのも、一つのアイデアだろうかと思いますけども、その辺の協議といいますか、どうか協議する段には着けないでしょうか。

○企画課長（吉田　忍君）

お答えいたします。

企画課としましては、奄美広域事務組合の中で需要喚起の中を含めまして、沖縄を視野に入れた観光ツアーの話等々もなされているところでございます。

○４番（植木厚吉君）

ぜひ、ハワイで言えば、周辺の島ではオアフ島であったりとか、カウアイ島とか、その辺を点在して１週間程度滞在して、大きなお金が落ちるという仕組みをつくっているらしいですね。

やはり我々も、県は違いますけども、沖縄とは密接な関係がありますし、文化圏は完全に琉球の文化でありますので、その辺のひもづけをさらに行政同士で深めて、何といいますか、沖縄の流入人口をさらにこちらへ拡大できる仕組みづくりを取り組んでいただきたいと思うところであります。

その中で、先ほどからいろんな農産品等々、移出に向けて取り組んでいるということでありますけども、その中で、以前、町長のお話にありましたけども、奄美琉球というブランドの構築について、少し見解を伺いたいと思います。

○町長（高岡秀規君）

まず、沖縄との農産物に関しての輸送コストについて、また畜産品を項目に入れるときの議論の中身なんですけども、結果的に加工品で、我々が畜産の奄振の予算を取りに行ったときに、肥育のモデル的な事業というものが、畜産は農業ではないという備品扱いだった経緯がございまして、そこに私は疑問を感じまして、奄振の中に畜産品を入れると。畜産を入れるということで議論をしてきました。

その中で、当初もくろんでいたのは、飼料とかそういったものの運賃の補助ができないかというところから実はスタートはしたんですが、子牛の場合は加工品ではないわけですね。そして、運賃に補助が出ているということから、そこには奄振の予算はつかないと。

しかしながら、畜産品をまず入れるということが突破口になるだろうから、その文言にこだわったわけです。そこで、鹿児島県の離島振興課長のほうがアイデアを出しまして、畜産品を含む、「品」を入れたわけですね。

そして、沖縄とのまずは肥育牛、加工をした肉を対象にすることからスタートしようということで、今スタートしております。

当然、徳之島のモデル的に実験的に徳之島で肥育した牛がいますから、それを沖縄に向けて、しっかりと石垣牛と混在しないぐらいの戦いを、連携を図りながら構築はできるのではないかなと。

当然、沖縄にも奄美の出身者がいますので、そういった郷土会とのつながりも、将来は持てるんじゃないかなということが１つです。

それでまた、今、沖縄の観光客が、非常にハワイの観光客を抜いたということがございまして、恐らく観光業、第３次産業が発達して、予算がどんどん来るようになりますと、農業を離れる世代、農業を離れるということも、もしかしたら進んでくるのではないかな。つまりは、沖縄産の物だけでは足りない、加工業にも足りない、どっかから、島外から持ってこないといけない時代が来るのではないかなということから、農産品についても対象にしていただけないかと、将来を見据えた上でという話をしたところであります。

その中で、沖縄の加工業のいろんな話を聞きますと、沖縄産というものに、やっぱりこだわるんです。奄美は鹿児島県産になってしまいます。

そこで、奄美琉球列島ということから、今、広域と沖縄の県知事が協定を結びました。その中で、奄美琉球産物ということで、食品の表示法でそれをできないかということを、今後は検討材料として要望していきたいなというふうに思っておりまして、将来、恐らく沖縄と奄美は、我々が思っている以上に深いつながりになるだろうと予測しますし、台湾、香港での輸出についても、意外と我々が思っている以上な価格で、実は日本産、メイド・イン・ジャパンというものは売れている現状を見ますと、北だけではなくて、南へのターゲットということも、我々はしっかりと品質をスキルアップしながら構築していきたいというふうに考えております。

○４番（植木厚吉君）

いわゆる産地というものは非常に大事に扱われていますし、下手をすれば産地偽装ですとか、そのような文言も飛び交う中で、新たなる鹿児島県産という、沖縄県産という枠を超えた琉球というブランドの確立は、ぜひ町長のその思いを実現に向けてしていただきたいと思うところであります。

また、このような今回の新予算拝見させていただきまして、町長が普段からおっしゃっていることが大分に反映されたものであるなと。また、今のお立場の中で、大分に活躍されたのをかいま見たとこでありました。

その中で、また沖縄というところは、いろんな国際的な音楽イベントや、また映画祭等々、イベントもすごい活発な地域でありまして、今後そのような文化的な交流というのも必要だと思いますけども、何かそのような点で計画はございませんか。

○町長（高岡秀規君）

以前、映画といいますと、実は、ある徳之島出身の方がつくられた映画が、沖縄で参加できませんかと。そして、徳之島町の物産のブースに出展すると、優先的に映画が上映されるという話があったんですが、我々いかんせん、当初予算に組んでいなくて、流用的な予算もなくて、お断りをせざるを得なかったというのがございます。

今後は文化面でも、沖縄との連携というのは必要不可欠ですから、まず我々から、与論、永良部、南三島を含めた沖縄との連携というものが、非常に今後は重要になってくると。

１週間の観光メニューとなると、メニューはつくれても、来るお客が恐らくいなかったんだろうと。それは、インバウンド、アメリカですとかヨーロッパとか外国の方が、バケーションについて１週間ないし１か月の休み取るのが普通なんですね。日本人はまだまだ３泊４日とか２泊３日のまだ時代ですから、なかなか需要と供給のバランスが取れなかっただろうというふうに思います。

今後はターゲットを絞った形での、何泊というもののメニュー開発が必要だろうというふうに思っております。

○４番（植木厚吉君）

イベントの件に関してなんですけども、実は去年、沖縄国際映画祭というものがありまして、喜界島の知り合いのほうから、奄美の応援団として参加できないかということで、格好までですが、応援団として参加させていただきました。

また、以前から沖縄とは、音楽の活動で非常に親しくさせてもらっている友人がおりまして、沖縄はアジア国際音楽祭ですとか、非常にアジアの中心的な場所として、そのようなイベントも数多く取り組んでいます。

先ほどの農産品のＰＲも含めてですけども、やはりそのような文化的な交流から、いろんな派生が生まれてくるものと思いますので、ぜひそのようなイベントも今後ぜひ提案、またさせていただきたいと思いますので、御協力のほどお願いしたいところであります。

その中で、いろんな今後、また新たな沖縄を通じたアジア等へのチャレンジする施策等が必要になってくるかと思いますけども、先ほど行政の在り方について、勇元議員からの厳しい御指摘もございましたけども、行政の執行部に対して、チャレンジすることの大切さと、またチャレンジすれば必ず失敗というものはついてくると思うんですけども、チャレンジと失敗という捉え方について、また町長の見解をいただけますか。

○町長（高岡秀規君）

未来を担う人材とはどういったものか。今の現在の成功者と言われる方たちが、全て成功したかということを分析いたしますと、皆さん御存じのように、100やったうちの99は失敗であったと。成功を勝ち取るための失敗の経験が必要だということを、皆さんもあらゆるところで

見ていると思います。

ただし、失敗を簡単に、問題で簡単にするものではないことは間違いありませんが、失敗というものは、やめたときだと私は思っております。

私はどうしても、この事業を成功事例につくり上げるまで頑張れるかどうか。そして、皆さんの意識が持つかどうかということに、非常に多くかかってくるだろうと。

よって、建物とかというのはお金をかければできますが、成功事例をつくるのは、人材なんですね。その人材を育てるというものは、いつになったら育てるのか。そして、いつになったら成功事例をつくるのか、私でも見通しがなかなか厳しいものがありますが、いろんな課題と向き合いながら、臨機応変にやりながら考えていくという姿勢も必要だろうと。

しかしながら、それでやめてしまっては失敗だというふうに考えておりますので、今後はしっかりといろんな情報を得ながら、市場との格差、そしてまた市場との連携を図って成功事例を導く考える力、人間力が必要だというふうに思いますので、精いっぱい成功事例をつくるために、役場、そしてまた議会の皆さんにも理解を得ながら、地域の皆さんと一丸となって取り組むということが、事例をつくる第一歩になるのではないかなというふうに思います。

○４番（植木厚吉君）

私もこの質問をするに当たって、いろんな調べものをしながら、よく考えてみたんですけども、以前から富田議員が取り組んでおられます、さつまいもの栽培に関してのこと、また、福岡議員が取り組んでおられます、自然栽培や高品質な野菜の件、また、徳田議員が携わっておられます海産物、沖縄というものを通して、全ての点が線となって面となっていく、町長が普段おっしゃる、そのような点が線となり、面となるような施策を、胆力を持って取り組んでいただくように期待をして、この質問を締めたいと思います。

次に、さとうきびの対策について伺いたいと思います。

さとうきび生産出荷の一連の作業として、畑から製糖工場までのキビ輸送作業は、キビの生産において切っても切り離せない重要な作業の一つであります。

しかしながら、昨今の燃料の高騰の影響や、車両資機材、物品の価格高騰などにより、キビの輸送に携わる業界におかれている環境は、大変厳しい環境にあります。

また、主要燃料であります軽油には、リッター当たり32円程度の軽油取引税が課せられており、平均販売価格も170円から180円前後となっておりまして、そのような燃料の消費が多い業界にとっては、かなり大きな負担となっております。

しかし、取引税に対しまして、農用利用等などの一定の条件を満たせれば免税措置等があると聞きますが、キビ収穫作業を農作業の一環として捉え、免税措置の対象となるよう、関係機関と協議をできないか伺いたいと思います。

○企画課長（吉田　忍君）

植木議員の御質問についてお答えいたします。

本件に関しましては、植木議員のおっしゃるキビ輸送作業に係る燃料費について、重々お話はお聞きしているところです。

私も20年ぶりぐらいに地方税法とか地方税法施行令、そしてまた、私なりに調べたものを鹿児島県の税務課間税係、こちらのほうとちょっと話をさせていただいた上でお答えいたします。

まず、軽油免税、農作業の関係でございますが、こちらのほうの要件といたしましては、まず前年度の素材生産量が1,000立方メートル以上である素材生産業を営む農家さんで、次に、もう一つが、使用する機材について動力耕運機、その他の耕うん整地用機械、栽培管理用機械、収穫調整用機械、植物繊維用機械及び畜産用機械と定められていることから、この輸送作業自体が免税につながるようなものは難しいと考えております。

○４番（植木厚吉君）

私も、免税に対していろいろ調べてみたんですけども、確かに要綱で言えば、かなり条件的には厳しいんですが、要綱の一つの農作業に資する作業というところで捉えますと、キビ輸送はもちろん運ぶだけではなくて、その中に荷役作業が入るわけですよね。キビのいわゆる積込み作業というやつですね。

その辺は、圃場内といいますか、農場での作業になりますし、積込み作業は農用作業としての捉えることは難しいですか。

○企画課長（吉田　忍君）

お答えいたします。

対象とされる事業の原則が、農地と敷地内での作業というのが、まず一つ。

先ほどの荷役作業の部分でございますが、トラックそのものが道路運送車両法第４条、いわゆるトラクターとか特殊機械ではない公道を走れる車両、こういったものに登録を受けているものを除くとされておりますので、荷役作業自体のお話ではないかと思われます。

○４番（植木厚吉君）

この辺、また農業にお詳しい高城課長、一言補足をお願いします。

○農林水産課長（高城博也君）

お答えいたします。

御質問のさとうきびの集荷作業は、農業として捉えられないかということでありますけれども、農業用の機械の定義が、圃場で作物生産のために使われる圃場機械、収穫物を調整確保する農産機械、さらに畜産に用いる畜産機械などと含めたものとして、はっきりうたわれております。

ということで、万が一、集荷作業自体がさとうきびばかりでなく、ばれいしょ、肉用牛、つまりその他の農産輸送にも存在することから、対象となるのは非常に困難であるかと思います。

また、協議についてでありますけれども、軽油引取税は地方税法の法令ですので、行政のほうから協議するということは、また現在のところ考えておりませんし、行政のほうでそれを、条例であれば、この場で議員の皆様と話をする課程となると思いますけど。

そもそも軽油引取税のほうは、もともと軽油を使ったトラックが公道を走る上で、公道の補修等を目的として設置された税金であります。

ですから、今は一般財源のほうになっているようでありますけれども、もともとトラック輸送の関係で道路の補修等のための目的税であったため、そういった意味で言えば、なかなか今の現在では、対象になるものだとはちょっと考えにくいところであります。

以上です。

○４番（植木厚吉君）

今回の質問も、駄目はもともとで上げているあれではあるんですけども、やはり今、皆さん御承知のとおり、今の時期になりますと、さとうきびトラックが道路を行き交っておりますけども、今現在、恐らく新車で導入しようと思いますと、恐らく3,000万から4,000万そこらの値段になろうかと思います、新車で言いますと。

それをトラック等の法定年数は５年でありますので、その辺の償却を考えれば、年間600万程度、また操業日数が80から90日となりますと、１日７万円から８万円の償却費用となるわけで、実際的には新規の導入はできないというのが現状であります。

島内ほぼの事業者さんも、車齢が30年を超えるような車両をずっとメンテナンスして使っておるわけでありますけども、その次に向けた投資もなかなかできない状況でありまして、また今期の製糖期前も、運賃交渉で大変、南西糖業さんのほうとも紛糾されたと聞いております。

やはりこのような現況の中、町としても単独の事業も難しい中、このような免税措置とかだけでも何か対応にならないかと意味での質問でもありました。何かアイデアはございませんか。

○農林水産課長（高城博也君）

これまでの答弁に付け加えて言いますと、製糖会社、ＪＡ並びに輸送組合とは、輸送の関係で運賃のほうが協議して、契約のほうはＪＡと恐らく組合のほうとなっておると思いますけども、燃料サーチャージ制度を今、製糖会社等のほうからは導入しているということであります。

ですから、この燃料サーチャージというのは、燃料価格の上昇・下落のコストの増減分を別建てて運賃として設定する制度ということで基準価格が設定されて、それをオーバーすると、それで補塡がいくというふうな形で聞いております。

この制度は、全国のトラック協会のほうから荷を委託する会社等へ通知が行っておりまして、それによって製糖会社も３年前より導入しているということであります。

また、トラックの入替えについてであります。

これについては、この場で申し上げていいのかどうか分からないんですけれども、実際にト

ラックは非常にトラックの台数からして、現在の生産トン数からすれば、徳之島町、伊仙町・天城町はあれですけれども、台数が多いんじゃないかなと思って。

これは生産がピークの時代の台数が、そのままほぼ、何台かは減っているかも分からないですよ、やっていると。

これは、この場で言うべきことではありませんけれども、個人的見解で言えば、私は30年前も、当時の経済課にいましたけれども、ハーベスターが入るときに、ハーベスターの導入をどうして輸送組合に、トラックのほうに、こうやって進めていかないんだということを言われていって、個人的にいろいろ言われたこともあります。

今思えば、正直言って、こういう人手不足、トラックが多い、ハーベスターは足りないんです、徳之島町は。両町から加勢をもらっている状況であります。

その当時のまた南西糖業の子会社が、恐らく今の会社に替わるときも、いろいろ農協さんが受託作業、受託センターを入れた時代もある。それで、なくなってしまう。

そういったことであれば、一番ベストで入るのは、輸送組合がハーベスターに取り組んでいただければ、僕は、これは課長としてのあれではなくて、個人的見解で申しますけれども、そういうふうな考えで。そうであれば、補助事業等もハーベスター。

ここで昔からこうやって、昔の補助事業を知っている方が何名いらっしゃるか分かんないですけども、昔のドラム脱用の時代にハイランプ、収穫用のトラックがあって、それが圃場に入ってやって、持っていった時代があるんですよ。そのときは、ハイランプ作業は、ハイランプの機械というのは補助対象でありました。

ですから、輸送でオペレーター、ハーベスターの不足、また、トラックの台数の過剰等考えたときに、やはりトラック業界も少し考えていただければなと個人的には思います。これはあくまで個人なので、よろしくお願いいたします。

○４番（植木厚吉君）

後ほどまた控室で、個人的見解をお伺いさせていただきたいと思います。

そのような中で、私もトラック等保有しておりますけども、本当に十数年前、15年、20年前と比べますと、燃料代で言えば倍ぐらい。本当、消耗品に関しても1.5倍から２倍になっております。

本当に各業界一緒なんだろうと思いますけども、重要な岐路にも来ているのかなと思うところであります。

また、そのような先ほどの話のような内容も含めて、今後また業界等々とも、ぜひいろんな話を進めていただければなと。

また、有効的な支援策があるのであれば、ぜひ考えていただきたいと思います。

その中で、先ほどの話もありましたけど、輸送コスト支援等は、適用は難しいですか。すみ

ません、補足です。島内輸送に関しての。

○町長（高岡秀規君）

今現在は、地域間格差、条件不利性の解消ということがありまして、島外が当然対象、島内の場合は、なかなかまだ今は厳しい状況かなというふうに思います。

○４番（植木厚吉君）

また１つ、これは税務課長にお伺いしたいんですけども、自動車税の減免措置とかありますよね。そういったのをぜひ検討すること、税務課長の判断ではできないとは分かっておりますけども、そのような観点も持ってみたらどうかと思いますが、どうでしょうか。

○税務課長（新田良二君）

税務課の業務なんですが、税務課では固定資産税、住民税、軽自動車税、あと市町村たばこ税、あと国民健康保険税等の条例で定めた税目がございます。その条例で定めた税目に対しての減免、免税等は、生活困窮者、あと障がい者等の減免はございますが、キビ輸送については、もともと賦課権限が私どもにはございませんので、減免対象にはならないと思います。

ちょっとお聞きしているとこで、キビ輸送に関しては種子島、奄美本島、あと南三島等あると思うんですよね。そのような課題も、ほかの市町村もやはりあると思います。

先ほど町長の答弁もありましたチャレンジ、皆さん、議会とまた市町村と一丸となって、このような課題があるということで、陳情、要望等、なさっていかがではどうでしょうか。

以上です。

○４番（植木厚吉君）

このような、いわゆる移送事業者等に、県のほうで、ちょっと正式名称忘れましたけども、地域交通燃料助成とか、何かそういう助成金がありますよね。その概要とかって分かりますか。

○企画課長（吉田　忍君）

現在、離島のガソリン流通コスト対策事業といたしまして、鹿児島県の交通政策課のほうで行っております。

これは、およそ平成23年ぐらいから、どんどんガソリンの価格が高騰してきたものに対しまして、現在、徳之島におきましては、レギュラーガソリン及びハイオクガソリンについて、10円の補助がなされているところでございます。こちらのほうは、令和６年度も補助を継続する予定だとお聞きしております。

以上です。

○４番（植木厚吉君）

なかなかこういう助成等々、難しいのは重々承知の上で、こういう質問をさせていただいているんですけども、やはり業界におかれては、厳しさというのもまた再認識していただいて、先ほど町長の言葉にもありましたけど、誰がする、どの課がするというのを超えて、各課でま

たこのような現況を見ていただいて、今後有効的な支援措置等が考えられるのであれば、ぜひ御意向いただきたいなと思うところであります。

それでは、次の質問に移らさせていただきたいと思います。

３項目め、島内の戦跡について伺いたいと思います。

島内には、日清日露戦争、日中戦争、また太平洋戦争の戦跡や忠魂碑などが多くあり、歴史的な資料としても価値が高く、後世に残すべき史跡と考えますが、現在はどのように管理されておるのか。また、今後、保全のための整備等の計画はできないか、伺いたいと思います。

○社会教育課長（茂岡勇次君）

植木議員の御質問にお答えいたします。

現在、徳之島町内における慰霊碑等についてですけども、把握できている数としましては２か所。内容としては、高千穂神社内にあります護国神社に慰霊碑を建立し、英霊を慰めている場所。

それから、亀徳のなごみの岬に、輸送船富山丸、疎開船武州丸の慰霊碑を建立し、慰霊祭を実施いたしております。

一応担当のほうに確認をしましたところ、天城町には５か所、伊仙町には２か所という現状であるようでございます。

戦跡としましては、井之川岳頂上に向かう登山道のある場所と、花徳の山中に旧日本軍の構築した残豪があるということでした。

また、国登録有形文化財になっています、山小学校の古い校舎、これは陸軍の兵舎として使われていたこともあり、今現在、戦闘機の機銃掃射の弾痕跡が見られるようです。

管理については、今現在行っているのは、なごみの岬については、おもてなし観光課のほうで常時トイレの確認と清掃並びに、そのときに確認をしていただいて、草取りなど管理はしてもらっています。

また、護国神社については、現在、遺族会のほうから高千穂神社さんのほうにお願いをして管理はしていただいているよということもお聞きしております。

以上です。

○４番（植木厚吉君）

資料のほうで配付させていただいておりますけども、忠魂碑でありますけども、これは花徳の駐在所裏といいますか、の山中にある忠魂碑であるんですけども、地元の先輩にお聞きしますと、日清日露戦争、また太平洋戦争等で犠牲になられた方々の魂を祭るために、この慰霊碑の建立を国から命ぜられたという中で、伊仙町で言えば義名山神社、先ほどおっしゃった亀津の護国神社、東天城村が花徳の山の中、天城町のほうは、北部保育所のとこに、このような碑が建っておるわけであります。

先ほどの話の中にありましたけども、このような忠魂碑等々も、管理する方々がその情報を忘れていったりとか、なかなか集落での引継ぎができていかないと、やはりこのように放置状態になってしまったり、分からない状態になってしまうんですけども、課長は、この忠魂碑の存在を御存じでしたか。

○社会教育課長（茂岡勇次君）

この忠魂碑については、初めてお聞きしました。

○４番（植木厚吉君）

やはりこのような史跡、もちろん先ほどに出ました各所の慰霊碑、慰霊塔等も、しっかり戦後の平和教育という中で重要なものであると認識します。やはりこれも町もしっかり責任を持って、地域と協力しながら整備していくのが妥当ではないかなと思うところであります。

また、瀬戸内町のほうで、郷土教育や観光資源として、このような戦跡等を活用されていると聞きます。

戦没慰霊祭等も規模が縮小されていく中、このような戦跡史跡も重要だと思います。改めて課長の答弁、求めます。

○社会教育課長（茂岡勇次君）

お答えいたします。

議員のおっしゃるように、やはり情操教育というか、社会教育については、いろんな形で子どもたちに、こういうものはこうでありますよ、こうですよということは伝えていかないといけない。学校教育現場における教育の中、また社会教育においては、やはり地域の皆さんのいろいろな言葉、いろいろな情報を得るということは非常に大事だと思っております。

その中で、やはり大事なことは温故知新、故きを温ねて新しきを知る、やはりこれはこの言葉のとおり、今の現代、日本並びに徳之島、日本があるのは先人の皆さんの自然の下にあるということは、私どもも分かっております。

ただ、やはり今のこの世の中で、いろんなことが起きている状態では、おっしゃるように、今、少子高齢化もございます。各文化財もなかなか管理していくことは難しい。その中では、担当のほうと協議しまして、議会の皆さんの許可いただきまして、予算化をして管理をしていかないといけない現状でもあります。

ただ、忠魂碑については、地域の皆様がその場にある、自分たちのものがこうやって先人が建てたものを大事にしていくという考えは、子どもたちのために残すということでは、取っかかりとして社会教育課のほうも予算化はある程度計上して、お力になれればと考えております。

○４番（植木厚吉君）

また、同じ花徳なんですけども、花徳神社というのがありまして、そこにも戦没者の慰霊碑がございますけども、何度もすみません、その戦没者、どのような方々であったというのは認

識されていますか。

○社会教育課長（茂岡勇次君）

すみません、具体的には何名かの、ある程度言うと、特攻の場合は特攻の慰霊碑とか、そういう中ではあるんですけど、すみません、詳しいことについては存じ上げておりません。

○４番（植木厚吉君）

これも私も当初は全然分からなかったんですけども、いろんな資料を調べていくうちに、花徳の慰霊碑の祭られている方々は、大戦当時の歩兵第45連隊という隊の方々が祭られているそうであります。

この隊は明治29年に結成されまして、日露戦争から従軍されている方々であるそうです。最終的には、ガダルカナル島へ出兵し、また、その途中のブーゲンビル島というところで戦死された方々と聞いておりますけども、後の文献では、古豪の言わば強靭な九州賢人の物すごい歩兵団であったという資料等も残っております。

やはりこのような先人が、地元の村から出ているというのも誇り高いですし、また、このような平和教育という教育が、今、しきりに取り上げておられます国防とか、そのような国を守っていくという気持ちの醸成にもつながっていくと思いますので、ぜひこの慰霊碑等々の扱いは丁寧に、また今後検討されていただきたいと思います。お願いします。

○社会教育課長（茂岡勇次君）

分かりました。これも私も３月で終わらせていただきます。ですので、一応これをまた次の課長並びに担当職員のほうに。

それから、このことについては徳之島町文化財保護審議会というのもありますので、そこで調査、また審議も含め、検討して前向きに考えさせていただきたいと思います。

以上です。

○４番（植木厚吉君）

３月までとおっしゃっていますが、そのようなことも超えて、また今後、相談させていただきたいと思います。

以上、私の質問を終わらさせていただきたいと思います。

ありがとうございました。

○議長（行沢弘栄君）

以上で、本日の日程は全部終了しました。

次の会議は、３月７日午前10時から本会議を開きます。

本日は、これで散会いたします。お疲れさまでした。

散　会　午後　３時２８分

令和６年第１回徳之島町議会定例会

第３日

令和６年３月７日

令和６年第１回徳之島町議会定例会会議録

令和６年３月７日（木曜日）　午前10時　開議

１．議事日程（第３号）

○開　議

○日程第　１　一般質問

広田　　勉　議員

松田　太志　議員

○散　会

１．本日の会議に付した事件

○議事日程記載事件のとおり

１．出席議員（１６名）

議席番号	氏　名	議席番号	氏　名
１番	内　博行　君	２番	政田正武　君
３番	宮之原　剛　君	４番	植木厚吉　君
５番	竹山成浩　君	６番	松田太志　君
７番	富田良一　君	８番	勇元勝雄　君
９番	徳田　進　君	１０番	池山富良　君
１１番	是枝孝太郎　君	１２番	広田　勉　君
１３番	木原良治　君	１４番	福岡兵八郎　君
１５番	大沢章宏　君	１６番	行沢弘栄　君

１．欠席議員（０名）

１．出席事務局職員

事務局長	清原美保子　君	主　査	稲村よう子　君

１．地方自治法第121条の規定により説明のため出席した当局職員の職氏名

職　名	氏　名	職　名	氏　名
町　長	高岡秀規　君	副町長	幸野善治　君
教育長	福　宏人　君	総務課長	村上和代　君
企画課長	吉田　忍　君	建設課長	清山勝志　君
花徳支所長	尚　康典　君	農林水産課長	高城博也　君
耕地課長	水野　毅　君	地域営業課長	清瀬博之　君
農委事務局長	藤　康裕　君	学校教育課長	太　稔　君
社会教育課長	茂岡勇次　君	介護福祉課長	廣　智和　君
健康増進課長	田畑和也　君	おもてなし観光課長	吉田広和　君
税務課長	新田良二　君	住民生活課長	大山寛樹　君
選管事務局長	白坂貴仁　君	会計管理者・会計課長	当　洋子　君
水道課長	保久幸仁　君		

△　開　議　午前１０時００分

○議長（行沢弘栄君）

おはようございます。

これから本日の会議を開きます。

本会議に入る前に、６日の本会議の一般質問にて、政田議員より金額の訂正がありますのでお願いいたします。

○２番（政田正武君）

おはようございます。

昨日の子育て支援の一般質問の中で、学校教育課が行っている子育て支援の金額を「9,400万」のところを「９億4,000万」と桁が違っておりました。合計も「20億」と申し上げましたけれども「12億」ですので、訂正しておわび申し上げます。申し訳ありませんでした。よろしくお願いします。

△　日程第１　一般質問

○議長（行沢弘栄君）

日程第１、一般質問を行います。

広田勉議員の一般質問を許可します。

○１２番（広田　勉君）

おはようございます。

12番広田が通告の４項目についてお尋ねいたします。

相続税についてでありますが、来月の４月から相続登記が義務化になるということですので、今までとどのような大きな違いがあるのかどうか。分かりやすく御説明お願いいたします。

○税務課長（新田良二君）

ただいまの広田議員の御質問にお答えいたします。

相続登記がなされてない不動産は所有者が分からない状態となり、管理や利用が難しいため公共事業や復旧・復興事業の妨げとなるなど様々な問題が生じています。

この問題の対策として、2021年４月の民法・不動産登記法の改正等に関する法案が成立し、本年４月１日から相続登記の申請が義務化されます。

相続等により不動産を取得した相続人は、自己のために相続の開始があったことを知り、かつ当該不動産を取得したことを知った日から３年以内に相続登記をしなければなりません。既に法改正以前に所有している相続登記が済んでいない不動産についても義務化され、速やかに登記を行う必要があります。正当な理由がなく申請を怠ったときは過料の適用対象になります。

また、新たな制度として、相続登記の申請義務を履行するための簡易な方法として、相続人

申告登記制度が新設され、この相続人申告登記を申し出た者は相続登記の申請を履行したものとみなされる制度でございます。

以上でございます。

○１２番（広田　勉君）

そう多くの違いはないということですので、全国的に言われるように、相続登記の移動がなされず、公的機関が使用時の取得交渉が非常に困難に陥っていると、それは分かりますんですけども、この登記移動がなされないには、それなりのいろんな理由があるはずなんです。一番の移動登記がなされず遅れている理由は何だとお思いでしょうか。

○税務課長（新田良二君）

お答えいたします。

様々な理由はあろうかと思われますが、相続が発生しても、それに伴って相続登記がなされない原因についてでございますが、核家族化などによって先祖伝来の土地への関心の低下や、相続登記の申請が義務化とされておらず、かつ、その申請をしなくても相続人が不利益を被ることが少なかったことや、相続をした土地の価値が乏しく売却も困難である場合には費用や手間をかけてまで登記の申請をする動機づけが働きにくい等があったものと思われます。

以上でございます。

○１２番（広田　勉君）

やっぱり、めんどくさいと、はっきり言ってめんどくさいというのが一番のあれだと思いはするんですけども、やっぱり登記というものは非常に大事なものであって、兄弟の中でも非常に難儀している人たちもいらっしゃることはいらっしゃるんです。

今回の義務化において移動登記の簡素化は、簡素化された法制化というのかな、先ほど聞いた中では入ってないんだけど、ただ義務化せよというだけじゃないんだけど、その簡素化も一つあるのかどうか、義務化するに当たって。

○税務課長（新田良二君）

先ほども申し上げました新たな制度ですね、この相続人の申告登記でございます。

なかなか相続登記をしますとやはりいろんな広範囲にわたって数次、広範囲にわたって、いろんな分割協議とかいろいろ問題が生じます。こういったこともあろうかということで、遺産分割協議等は３年以内には、数次にわたって広範囲にわたると成立しないとも思われます。しかし、相続登記が義務化で３年以内に遺産分割等が成立しない場合は、まず、ひとまず、先ほどの法定相続人の相続登記となります。ただ、この相続分での相続登記の手続はいろんな広範囲にわたり、それなりに手間、時間もかかります。

そこで今回、新たな法改正で相続人申告登記でございます。

この新制度の相続申告登記をすれば、法定相続での相続登記を避けることができる新制度で

ございます。

こちらは自らが相続人である旨を申し出ることによって、相続登記の申請義務を履行したものとみなす制度でございます。

申出がされた場合には、登記官が所要の審査をした上で、登記簿に申出をした者の氏名、住所等を職権で登記し、申出に係る登録免許税は非課税となる制度でございます。

以上です。

○１２番（広田　勉君）

とにかく親が亡くなったりすると、その固定資産を誰かに税務課としては請求書を送ってきます。私のところにも親の死亡後に親の固定資産の税金の請求が私のところに来ているわけですよ。兄弟６人おるんですけども、小銭持っている妹もおったりいろいろすんだけど、なぜ、同居人でもない私のところへ税務課として親の固定資産税を請求してくるのかどうか。そういう基準ちゅうかだな。ほかの兄弟のところに送ってもいいんじゃないかと思うんだろうけど、どういうふうな基準で私の、私の場合は私のところへ請求書が来たんだけど、どういうふうな基準で送っているのかどうか。

○税務課長（新田良二君）

どのような基準で送っているかとの御質問ですが、固定資産の所有者が亡くなられ、相続登記が行われてない場合は、共有財産として法廷相続人全員が連帯して納税義務を負うことになります。このような場合、亡くなられた方の固定資産税に係る納税通知書等の書類を代表して受領いただく、地方税法第９条相続による納税義務の承継、同法380条の３及び本町税条例第74条の３に基づき、相続人代表者届出書兼現所有者申告書の提出をいただき土地保管課税台帳へ登録がなされます。

ただいまの議員の御質問につきましては、平成22年４月相続人代表者届出書兼現所有者申告書が提出され、固定資産税の納税通知書及び納付書を送付させていただいている状況でございます。

以上です。

○１２番（広田　勉君）

請求書を例えば送った場合、これを拒否された、いや、自分はもう要らんと、いや、払わんとかいうふうな、こういったケースはあるのかないのか。相続。

○税務課長（新田良二君）

先ほども申し上げました相続人代表者届出書兼現所有者申告書を必ず提出していただくことになります。こちらは被相続人が亡くなられた場合は、まず住民生活課のほうでいろいろ手続がございます。そして保険等、加入されている保険等、年金等の手続がございます。あと、こちらのほうに、また固定資産税、また水道課等々のいろいろな申請がございます。そのときに、

ぜひ、この相続人代表者届出書兼現所有者申告書を提出いただいて代納者という形でお願いをしているところでございます。断る方もいらっしゃいますが、ぜひ、お願いしますということでお願いしております。

以上です。

○１２番（広田　勉君）

もう一つは、夫婦だけの、子どもさんがいないとか、跡取りがいない家庭もあります。それとか名義人がもうじいさんの代であって、大体がもう子どもさんがいなくて御夫婦が亡くなったと。そういった固定資産はどういうふうに、誰に送付するというのはあるんですか。税金の送る先。

○税務課長（新田良二君）

かなりですね、相当古い固定資産税の納付書を送付して、宛て所に尋ねがないということで返戻がされています。昨年度から相続人調査を行っております。かなり広範囲に調査をしてみると相続人がわたっております、その相続人全てを今調査をして、全ての方に案内をして御理解いただくようにしているところでございます。

以上です。

○１２番（広田　勉君）

非常に大変なあれだとは思いはするんですけども、例えば相続するにおいて、固定資産を私はずっと払っていると。あと親の老後を最後まで介護しておるとか、そういう兄弟の中で、そういった中で他の相続人より相続権は有利になるか、それともあくまでも皆平等で等しい権利であるのかどうか。

○税務課長（新田良二君）

相続権は他の相続人よりも有利になるかとの御質問ですが、相続については、民法886条、887条、889及び890条等に相続人の範囲がございます。

まず、配偶者は常に相続人となります。次が、第１順位がその子や孫、ひ孫になります。第２順位が父母。父母が亡くなっている場合はその祖父母でございます。第３順位が兄弟姉妹。兄弟姉妹が亡くなっている場合はその兄弟姉妹の子や孫というふうに、相続権、相続の範囲の規定がございます。

以上です。

○１２番（広田　勉君）

次々行きますけども、内縁の配偶者は相続人と数えられるのかどうか。死亡前に、あの土地、この土地、あなたにあげるからとかいうふうな口約束でよく登記せずに島の人はいるんですけども、こういったものは数えられるかどうか。

○税務課長（新田良二君）

先ほど申し上げました相続人の範囲でございますが、内縁については民法の規定はございません。例えば遺言書とかある場合は相続可能になる場合もございますが、この民法上の範囲内には規定は、内縁については、規定はございません。

以上です。

○１２番（広田　勉君）

あくまでも口約束は難しいということですよね。

それと本人が生まれてから亡くなるまでの謄本を取るんですけれども、その謄本で一応家系図みたいなやつを作るんですよね。ずっと、長女、長男、ずっと家系図作っていくんですけども、その中で胎児は入るもんかどうか。

○税務課長（新田良二君）

その胎児についても、民法886条にございまして、胎児は相続については既に生まれたものとみなされます。

以上です。

○１２番（広田　勉君）

そしたら、じゃあ系図の中に入れないといかんてわけですね。分かりました。

知人でアメリカに行ったきり分からない兄弟がいるとか聞いたことあるんですけど、国内においてもやっぱりどこ行ったか分からない親戚とか、いろいろ相続人がおられる場合がありますけども、どこまで探さなければいけないのか。とことんその人を探して、最後まで探してって作るのかどうか。戸籍の場合は７年間どうのこうのあるんですけども、これはどこまで探すのか。

○税務課長（新田良二君）

どこまで探すのかとの問合せなんですが、いろいろ私たちも相続人調査を行っております。いろんな広範囲にわたって相続人がございます。いろんなケースがありますので、どこまで遡るかというのはケースごとに違ってくると思います。

以上です。

○１２番（広田　勉君）

戸籍は７年ぐらいで一応抜けるんじゃなかったかなと思うんですけど。

○住民生活課長（大山寛樹君）

広田議員の御質問にお答えします。

戸籍の場合は失踪宣告を行います。失踪宣告は家庭裁判所が生死不明となった人について法律上で死亡したことをみなす制度であります。失踪宣告にはその人の生死不明が判明した最終の翌日から起算して満７年が経過してから行方不明者の所在地、住居地を家庭裁判所のほうへ申立てを行います。

以上です。

○１２番（広田　勉君）

大体戸籍が抜けるようだったら行方不明の人も抜いていいんじゃないかなというふうに思いますけどね。

○税務課長（新田良二君）

この失踪なんですが、言わばみなし死亡の制度でございます。行方不明の不在者をいつまでも生存者として取り扱うことは、財産関係や身分関係に不確定な法律状態のままで放置することになり不都合が生じることがあります。戸籍で失踪宣告が出ますとやはり死亡とみなされ相続の範囲から外れるということでございます。

以上です。

○１２番（広田　勉君）

次に、固定資産税を払うことが困難な場合というか、もう要らないと言う方がおるんですけども、不要な土地、空き家を国や市町村に引き取ってもらう方法というのはあるのかないのか。

○税務課長（新田良二君）

固定資産税は、地方税法第359条及び本町税条例第54条において、毎年１月１日に土地家屋償却資産を有している方が固定資産の所在する市町村に納めていただく地方税、町税でございます。

今の御質問なんですが、相続等によって土地等を相続したが利用する予定がない、負担が大きい、土地を手放したい等の理由により不要になった土地の相続土地国庫帰属制度の制度がございます。この申請できるのは相続や遺贈によって土地の集計を取得した相続人になります。この土地国庫帰属制度でございますが、まず法務大臣が要件審査等を行いまして承認または拒否をします。申請者が約10年分の土地管理費相当額の負担金等の納付、そして国庫帰属になりまして、国有財産として管理するという制度でございます。

以上です。

○１２番（広田　勉君）

鹿児島にある不動産でしたけども、同級生に一度いろいろ調べてもらって、現況の写真なんかを送っていただいたんですけども、もう手に負えないわというふうなことで、亀徳に住んでいらっしゃるんです。亀徳に住んでおって鹿児島の土地なんだけど、ここで処分できますの。徳之島町で。徳之島町の住民。土地は鹿児島にあります。どういうふうに処理したらいいのかということです。

○税務課長（新田良二君）

徳之島町在住の方で、鹿児島で所有している物件を処分できるかとの質問ですが、はい、可能だと思います。（発言する者あり）この国庫帰属制度、国へ引き取ってもらうという制度で

ございますので、可能でございます。

以上です。

○１２番（広田　勉君）

よく土地は、権利書だとか、そういうのもいろいろ持っておられて、権利書を持っているから自分のもんだと。登記は申請済み、威張っている人なんかもいらっしゃるんですけども、これは権利書を見失っても相続登記というのはできるもんかどうか。

○税務課長（新田良二君）

司法書士のほうへ確認しております。相続登記において権利書は原則不要とのことです。

以上です。

○１２番（広田　勉君）

私の甥っこがおやじの葬儀代におやじの手持ちのお金をちょっと使ったもんだから。あと、相続放棄をしなさいと言ったんだけど、いや、金に手をつけたから相続放棄ができないというふうになったんだけど、相続放棄するにはどのような規定があるのか。時期的なもんとかいろいろですね。

○税務課長（新田良二君）

この相続放棄についても、民法938条に規定ございます。

「相続の放棄をしようとする者は、その旨を家庭裁判所に申述しなければならない」とございます。

相続を知った日から３か月以内に被相続人の家庭裁判所へ申述しなければなりません。

以上です。

○１２番（広田　勉君）

次に、相続財産が不動産の場合は遺産分割方法がなかなかできないんだけど、特に私ども花徳なんかでしたらね。不動産はそれを、じゃあ、みんなで分割しましょうと言うたって、売れはしないし、分割にしようがないんだけど、そういったものはどうなるもんでしょうか。

○税務課長（新田良二君）

相続財産の不動産の分割方法には、主に、代償分割、換価分割、現物分割、共有等の方法がございます。

まず初めに、代償分割は、相続人のうち、誰かがその不動産をそのまま取得して、その対価として他の相続人にお金を支払うわけでございます。

次に、換価分割とは、不動産を売却して売却代金を相続人同士で分ける方法でございます。

次に、現物分割でございますが、土地建物を特定の相続人１人が相続する方法でございます。

共有の分割方法は、複数で持ち合いですね、相続人それぞれ法定相続割合で共有し取得する方法でございます。

以上、４通りございますが、不動産の性質は個々の分割協議判断にもよります。

以上でございます。

○１２番（広田　勉君）

不動産が処分できず時間がかかるときは、相続税は誰がいつまで申告するのか。

○税務課長（新田良二君）

この相続税の申告納税につきましては、こちらも相続税法第１条の３、２条、３条等に相続税の納税義務者の規定がございます。亡くなった被相続人から遺産を受け継いだ人であり被相続人が死亡したことを知った日の翌日から10か月以内に被相続人の住所地を所管する税務署に対して行うことになります。

相続が発生すると被相続人が所有していた財産は相続財産となります。

相続財産は、遺産分割等によって遺産分割協議書にその分割内容を記して、相続人全員により税務署へ提出することによって、相続税申告を行うことになります。

以上です。

○１２番（広田　勉君）

相続がスムーズにいかないのには、遺産分割が不成立がよくあるんです。誰かがちょっと物言うと、もうめんどくさいから嫌だと言って、それをほったらかしということになるんだけど、もし不成立だった場合は、相続税は誰かがかぶらなきゃいかんですよね。

○税務課長（新田良二君）

お答えいたします。

相続財産の分割協議が成立しないときは、各相続人が遺産の分割協議や民法第900条に規定する法定相続分の割合等に従って財産を取得したものとみなして、相続人の計算をし、未分割申告として納税することになります。その後、相続財産の分割が行われ、その分割に基づいて修正申告または公正の請求をすることになります。

以上です。

○１２番（広田　勉君）

次の行旅死亡人葬祭費に今年も20万円の予算が組まれておりますが、昨年は何名の対象者がおられたのか。

○住民生活課長（大山寛樹君）

広田議員の御質問にお答えいたします。

行旅死亡人葬祭費の対象者は、昨年は２名でした。

○１２番（広田　勉君）

前はもう少し行旅予算が多かったような感じもしますけども、この２名のあれで葬儀が出せるのかなというふうな心配が一つと、身元確認は一応警察がして、身元引受人探しは役場がす

ると思うが、探して、火葬代とか、いろいろお骨の送料とか、いろいろ金のかかるものを理解していただいて請求すると思うんだけど、この予算ではちょっと大変やないかなと思うんだけど、いかがでしょう。

○住民生活課長（大山寛樹君）

広田議員の御質問にお答えします。

葬祭費につきましては、死亡者の本籍地市町村へ相続人調査を行い、相続人の方へ費用の請求を行っています。

金額での予算につきましては、令和５年度の方を対象に約20万円で葬儀のほうは賄っています。

以上です。

○１２番（広田　勉君）

世界自然遺産になると、また、いろんな人が来て、こういう方々も増えると思うんです。市町村での引取手のない死亡者の葬祭費用が増加しているが、この人たちの遺留金も全国では21億5,000万円ぐらいあるらしい。ですので、厚労省と金融庁は手引書を作成し、2021年３月に遺留金を、この21億円の遺留金を有効に使って葬祭費に充当できるというふうにしたらしいんですけど、実際それを金のある金融機関に断られている役所もあるらしい。本町は本人の持ち金はもちろんのこと、こういった預金も調べたりするのかどうか。

○住民生活課長（大山寛樹君）

広田議員の御質問にお答えします。

遺留金についての調査はしていません。まず、先ほども答弁しましたが相続人の方を調査し相続人の方への費用請求を行っているところであります。

○介護福祉課長（廣　智和君）

御質問にお答えします。

現在、介護福祉課では、現在１名継続対応中でございます。この方もＩターン者でございまして、島に四、五年だったと思いますけれども、本人の葬祭費を立て替えて、今、支払っている状態でございます。

そして本来であれば、相続人へ請求するということになるんですけれども、遺体の引取りの拒否また相続人全てが相続放棄となりました。そのために役場としては葬祭費と債権ございますので、債権の回収、遺留金の処理等を目的として、現在、相続財産清算人の申立てを行う準備をしております。こちらは家庭裁判所のほうに申立てをすれば、家庭裁判所のほうで清算人を選任して処理をしていくということになります。その後、町としては債権を回収いたしまして、その他の遺留金等につきましては国庫に帰属するといった流れになると思います。

以上です。

○１２番（広田　勉君）

財産問題については非常にややこしくて、それで相続もややこしいもんだからしないと、ほったらかしされていると。そうすると今度は国・県がその土地をどうしても使いたいんだけどと言ったら、もう、めんどくさくなってきていると。いうふうな悪循環のあれなんですよね。

それで、その遺留金が21億も、死亡した人たちの遺留金が21億もあるから、国としては簡単に使っていいというふうなことをするんだけど、金融機関は、いや、それじゃならんとか、どうのこうのとか、いろいろして、役所は困っているというふうなことなんですけども、やっぱり４年前に農地の相続登記についてお伺いしたときも、中間機構への農地バンクへ簡素化された手続があるということがありましたので、今回のやっぱりこういうふうな相続登記の義務化とか、そういう預金の下ろしですね、やっぱり簡素化、手続をある程度少しは簡素化しないと、これは前に進まないと思うんです。ですので、この辺のほうをもう少し簡素化されているところをもう少し探していただきたいなと。そうしないと、国民に相続登記は義務化するんだけど、国は何もしないと、そういうことでは非常に大変なわけです。ですので、国も登記所を縮小してあるんだから、登記官を派遣するとか、月一とか。最低限、登記の申請書を役場の窓口に置いておくとか、そういうことをすべきじゃないかなと思うんだけど、それはされてないんですよね。

○総務課長（村上和代君）

お答えいたします。

以前は派遣登記所として法務局から登記官が来島し、登記相談を実施しておりました。新型コロナウイルスが発生した2020年頃から派遣登記所を中止しております。来年度からは２か月に１回リモートによる登記相談が再開されるとのことです。そのリモート相談ですが、法務局の相談日に合わせて、奄美の法務局に直接電話で申込みを行い、相談時間の設定をいたします。その相談は、自宅または役場のほうにもパソコンを置いてくださいという依頼がありましたので、役場の会議室でリモート相談を受けることができるようになっております。

申請書ですが、申請書につきましても、法務局のホームページでダウンロードができるようです。ダウンロードが可能、不可能な、また、お年寄りの方とかにつきましては、また役場のほうで対応いたしたいと考えております。

○１２番（広田　勉君）

だったら、じゃあ、窓口のほうで一応取扱いは少ししていただけると。完全なる名瀬の法務局へ行って、登記者にいろいろせんでもいいというふうな状況であると認識していいですか。

それとも、司法書士に頼んだら簡単ですよ。簡単だけど、やっぱり、そんな大きな財産じゃないから我々の財産というのは、ほんのほんの僅かですので、簡単にできる登記ですので、名瀬へ行かずとも、郵便で申請できるのは知っておるんだけど、受付用紙とか、そういったもの

も全部窓口で対応できるのかどうか。

○税務課長（新田良二君）

窓口で対応ができるのかとの御質問ですが、今、確定申告の期間中でございます。この確定申告の受付につきましては、税理士法50条で臨時の税理事務所という形で国税庁の許可を得て、今、受付を行っております。しかしながら、相続登記につきましては、法律がございますので、こちらの権限ではできかねます。

以上です。

○１２番（広田　勉君）

次の施政方針についてでございます。

２月16日に登録された道の駅「とくのしま」とありますが、古仁屋には「海の駅」、浅間には「空の駅」という標榜してあるところがございます、表示するには許認可が必要なのか。さきの議会で道の駅という名前を上げたら、この表現は消してくれというふうに言われましたので、えらい厳格なものであるのかなというふうに思いましたけども、どれぐらいの厳格なものであるのか、道の駅というのは。

○花徳支所長（尚　康則君）

お答えいたします。

道の駅というのは、国交省のほうから許可が下りてからその言葉を使えるということで、こちら最初道の駅という言葉を使って、最初上げていたんですけど、それはもう、今年６年２月16日に国交省のほうから道の駅「とくのしま」として登録されましたので、今はもう使えることができるようになりました。

以上です。

○１２番（広田　勉君）

古仁屋で使われている海の駅というのも似たようなもんかな。

○花徳支所長（尚　康則君）

お答えいたします。

海の駅のほうは登録条件があるようで、海の駅のほうとしては、来訪者が利用できる船舶係留施設があること、海の駅に関する情報提供等のためにガイドを配置していること、また、来訪者が利用できるトイレを有することの３つがあるようであります。

道の駅が道路の利用者のための施設であるという一方では、海の駅は陸からの訪問者もいますし、また船舶の利用者も可能という施設というわけであります。

ちなみに海の駅は、全国では179駅あるそうです。

○１２番（広田　勉君）

走ってたら浅間にも空の駅がありますんですけどね。何年か前、鹿児島での議員研修があり

まして、熊本大学の徳野貞雄教授が、「道の駅の名づけ親は俺だ」というふうな講演がありました。その当時、講演を聞いていて、そんな難しい縛りはなさそうだけどなと、物すごく緩い講演でしたので、道の駅というのは。この間から聞いたら非常に難しそうに言うから、我々が最初聞いていた道の駅とは非常に、緩いのが道の駅でしたけど、徳野教授が面白おかしく言うから緩く聞こえたかもわかりませんけれども、去年は一応４か所許可されたというふうに、たしか16日許可されたというから、ちょっと見てみたら４か所だと。大体、国道横とか、主要県道横とか、そういったものの場所的にあるという話ではあります。

また、以前、福岡の「豊前」と書いて、「ぶぜん」と読むんですけども、その道の駅豊前おこしかけという道の駅に当議会で視察に行ったことがあります。そのときの説明で、開園２年前の平成10年から当時の白石駅長と地元の有志は特産品づくりのプロジェクトを開始し、生産者の方々が本当に生きがい、働きがいを感ずることのできるシステムをつくらなければ、将来はないと。そして特産品づくりを始めたらしい。徳之島のこの道の駅はいつから、誰がこのような特産品づくりを始めるのか。

○町長（高岡秀規君）

特産品につきましては、今後も新たな事業者、個人事業主ができてくることを願っております。

実は美農里館自体が既存の加工業者と重ならないように加工の商品開発をしようということで、実は美農里館はできており、美農里館を手本に新たな個人事業主が出てくることを期待して当初は建てました。

そしてまた、徳之島町、そしてまた天城町、伊仙町等にも加工業者は今現在いらっしゃいます。今現在いる既存の加工業者を基軸に、今後交流人口が増えた場合に昔のような新たな起業家、加工業者を育成することもしっかりと視野に入れて、この加工拠点施設はスタートするものだというふうに考えております。

○１２番（広田　勉君）

先ほども言うたように、この豊前、町長も行かれましたかな。もう２年前から準備しておると。その前から日本一のまずトイレを造ろうというふうに頑張っていたみたい。それから道の駅に走っていって、物すごく準備が長期にわたって頑張っていらっしゃるわけよね。だから、花徳の道の駅のほうは、もう12月ぐらいオープンするような話も聞いているけど、そうですか。

○町長（高岡秀規君）

計画はですね、道の駅、そしてまた、国の環境省と連携を図りながら世界自然遺産センターと道の駅を同時にオープンのセレモニーをするのか、それとも別々するのか等は今後協議していきたいというふうに思います。

めどといたしましては、今年の12月オープンを目指して、今、両方とも、遺産センターにし

ても加工拠点施設にしても完成を目指しているところであります。

○１２番（広田　勉君）

自然遺産にしてもセンターにしてもそうですけど、私は、大和村の方２回、住用の方も１回行って、いろいろお話して聞いてきたんですよ。そしたら、そこの職員に徳之島にもこれができますけども環境省から来られるんですかとお尋ねしたら、いや、徳之島の場合は地元で雇用しますと、環境省からは来ないというふうに言うてました。そしたら、じゃあ、この説明をする人の教育もありますよね。物ができたら。そういったものの準備は、もう絶対されていると私は思ってんだけど、どの辺ぐらいまで行っているのかどうか。

○町長（高岡秀規君）

環境省は恐らく天城町の役場に今事務所がありますね。そこは継続するものだと思います。そしてまた遺産センターにつきましては、各町からまず１人ずつ派遣をすることになります。そして指導については、当然、環境省と連携を図りながら運営はするものだと私は思っております。それでまた内容についても、大和村、私も行きました。環境省に要望しているのは、あれと同じものではなくて、徳之島ならではの遺産センターのディスプレーの仕方、運営の仕方等を要望しているところでありまして、環境省のほうもそこはしっかりと考慮しているものだと今聞いております。

○１２番（広田　勉君）

３町から職員を１人ずつ出すと。その人たちの教育はいつされるわけですか。

○町長（高岡秀規君）

追って人材が決まって、そしてまた環境省との今協議を今しているところですから、そこの内容については環境省のほうも、当然連携を取るものだと私は思っております。

○おもてなし観光課長（吉田広和君）

お答えします。

派遣される職員３名以外に専門員の方を２名雇用することになります。以上です。

すみません。３町の協議会で、その２名を雇用することになります。

以上です。

○１２番（広田　勉君）

職員を派遣するんじゃなくて、よそから専門員を呼ばれるということですか。

○町長（高岡秀規君）

まず、３町から１人ずつ、補佐級だというふうに聞いていますが、派遣をしまして、それプラス専門員を環境省のほうから専門的な知識を持った方を雇用していただきたいという要望があるところであります。

○１２番（広田　勉君）

その教育とか、あと道の駅の教育、そしてそこに食事もできるようなことができるという、そういったあれももの凄く時間かかる、準備が必要と私は思ってんだけど、皆さんはそんな、あまり、思ってんのか、思ってないか、よう分からんですけどね。

○町長（高岡秀規君）

実はタイトなスケジュールであるということは間違いございません。そしてまたなぜ急がないといけなかったかというと、世界自然遺産センターの設置時期、そしてまた選定に当たってはタイトなスケジュールでの選定があったということであります。

そこでまずは遺産センターの誘致と、そしてまた観光拠点施設、それが地域での運営等々、民間での運用をすることがある程度内容としてございましたので、今取り組んだところでございますが、準備期間については私もまたおもてなし観光課も、そしてまた花徳支所も、時間がないというせっぱ詰まった意識はお互い持っているところでございまして、しっかりと12月に合わせて、早めに業者を選定いたしまして、その内容についてしっかりと準備をしていきたいというふうに思っております。

○１２番（広田　勉君）

どうも、この福岡の道の駅の視察と今町長がずっとお話、この間から何回もお聞きしているんですけど、別物みたいに全然聞こえるんです。前も言いましたけど、百菜は道の駅じゃないですからね。はい、そうですとおっしゃいましたから、ああいうものを想定は、私は絶対してないし、もっと専門的な道の駅、そしていろいろ我々が車を走らせていて、インターとかいろいろ行ったときに見たりすんですけど、その情報。だから、どうもお話をお伺いしていると、百菜のイメージしかどうしても湧かないのよね。全然別個なものにつくり上げる予定ですよね。

○町長（高岡秀規君）

ある意味、誤解されているかもしれませんけども、道の駅という登録というものと登録しているかしてないかは、伊仙町はしていないということで、違いますという答弁をしたというふうに思います。内容については多少は重なることがあろうかと。それはなぜかといいますと、農産物であったり、加工品であったり、外貨を稼ぐための施策というものは多少重なる部分はあろうかというふうに思います。そしてまた食事をするところもあります。当然伊仙町のほうにもコーヒーを飲んだり飲食をするところもございます。それを同じという表現をするのか、レストランはあるんだけども、内容が地元の食材を作ったり、町が関連をして商品開発をしたり、そしてまたそこでは観光客用の文化をそこで披露したりと、内容については多少私どもはしっかりと道の駅にふさわしい、そしてまた交流人口、外貨を稼ぐための稼ぎをテーマにした施策というものを構築していきたいというように考えております。

○１２番（広田　勉君）

その道の駅の一番特典は、あなたがずっと前からおっしゃっているように、農家が自分で料

金を決められると、が一番特典だと、利点だというふうにずっとおっしゃってきておると私は思っているんですよ。道の駅の一応、今、百菜とどう違うかというと、百菜の場合は確かに物を持ってって100円で売ってくださいと。そしたら向こうは手数料かけて120円で売るわけですよ。そしたら売れなくなったとき、引き取ってくださいと電話をするわけ。ああ、どうぞ捨ててくださいと。そうすると家の中の売れない物を持っていって、そこで処分してもらいたいというふうな願望が出てくるんじゃないかなと、そういうふうなことになりかねないので、この豊前の道の駅なんかも、確かに自分で値段はつけるけど、売れなかったら持ち帰って、翌日はもう少し安くして売るとか、売れる方法で値段が自然に決まっていくんですよ。このシステムが道の駅の一番利点で、農家も値段が勝手に、それは農家少しでも高くで売りたいのは当たり前ですよ。しかし、高くしても売る人と買う人の接点をどうするかが、問題がこの道の駅の一番の売りじゃないかなと私は思ってんですけどね。だから、その辺の違いがあるので、農家は持ってきたら売れるまでそこ置いとくと。絶対させないとか、そういった決まりをつくったら、つくっているだろうと私は思いますので、次の日はもうそれは持ってこないとかね。そういうふうにして、常に新鮮なものを道の駅行ったら買えるというふうなあれで道の駅がはやっているわけですよ。そういうものをつくるだろうと私は思ってるんだけど、どうもそのイメージが、この間から話聞いていて湧かないんですよ。だから湧くような説明ちょっとしていただけませんかでよかったんだけどね。

○町長（高岡秀規君）

それは質問になかったからでありまして、そのシステムについては、出荷規制そしてまた賞味期限等々は今規則を定めているところであります。

○農林水産課長（高城博也君）

お答えいたします。

農産物と特産品の関係が出ておりますので、農林水産課の私のほうから説明いたしたいと思います。

以前、年内にそういった農家を含めた形の相談会に呼ばれて出た経緯もあります。その中で、やはり金額については農家がやると、持ってきてやって値札を貼るというふうな形でもあります。

この場を借りて一つの方法を提示したいと思うんですけれども、どこの都会のほうの大手スーパー等においても、顔の見える、農家の顔の見える売り方をしています。特に有機野菜等については、誰々さんが作ったと名前まで貼って似顔絵まで書いて陳列していることもあります。ですから、誰々さんが置いて引き取らない場合は誰々さんが残ってしまうというふうな、そういったものに関しては、二、三日で連絡取って引き取ってもらう。当然作ったものに関しては責任を農家は持ってもらうというふうな形を取っていく方法もあるのかなと思っておりま

すし、そういった方向で話し合いのほうを進めていきたいと思います。

また、現在、農林水産課のほうでは肥育牛の事業をしております。これに関しては、１頭は、１つは、半分はふるさと納税、あと半分はＰＲ用としてやっており、残りの３頭は市場に出回っております。

以前からこうやって、町長等にも話合いの中で進めておりますけれども、そういった拠点施設等で利用できるような形で準備はこれまでしておりまして、ここ２年間、Ａ５ランクは続けて連れてきたというふうな結果もありますので、今後またそれを利用していきたいというのと、今回、農産加工処理センターの機械の入替えも充実させてやっているところもあり、また、農林水産課としては６次化産業の育成の場で、これまで推進施設を造って、そこのほうに特産品というか加工品の新たなものをこうやって試作していただいているところであります。

以上です。

○町長（髙岡秀規君）

管理についてなんですけども、実際には今規定の中で、商品の傷、劣化、腐敗、安全性の懸念、残留農薬、有害物質、汚染等などの問題があるときは、我々が判断したときは、出荷者の了解なしに陳列から撤去できるとか、いろいろな規則を今定めているところであります。

それで、道の駅というものの安全性、そして安心して物を買えるものの規則を今定めて今準備をしているところですので、議員がおっしゃるように、そこの点については、ほかの販売業者とは、施設とは相違があるものだというふうに思っております。

○議長（行沢弘栄君）

広田議員、要旨からちょっと外れてきましたんで、ちょっと元に戻していただきたい。お願いします。

○１２番（広田　勉君）

道の駅が今三、四人ぐらい質問が出て、ずっと聞いておったんだけど、私ももっと聞きたかったんだけど、項目が少なかったんだけど、やっぱり本来の道の駅というのはどうであるのかということをきちっと捉えておってもらいたいというのがあれで、難しいあれじゃないと思ったりしたんだけど、それともう一つは、同時にオープンするかしないはやっぱり自然遺産は自然遺産で、もし時間的なものがあるはずだから早めにしておっていただきたいと思います。これを農作物というのは簡単なものじゃないということを前回から言うていますので、多めに入れるとか、どうのこうのいう答弁も前ありましたけど、もっと住民に分かりやすくしていただけたらなと。もっと、みんなと話し合いしながら、そして、どういうものをするとかでしていただきたいというふうに思っています。

○議長（行沢弘栄君）

しばらく休憩します。11時20分より再開します。

休憩　午前１１時０３分

再開　午前１１時２０分

○議長（行沢弘栄君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

○１２番（広田　勉君）

次に、幼児・学校教育の充実の項目ですが、東天城中学校は、この４月からは山・金見集落からも通学をしてくる新しい学校の形態となります。

備品購入費として、2,000万円しか組んでいないが、「孟子の三遷」ではないが、教育は環境です。施政方針の文言はほとんど昨年とは変わっておりませんけども、ただ、書けてないだけですよね。

○教育長（福　宏人君）

広田議員の御質問のほうにお答えをいたします。

議員御指摘のとおり、令和６年度の施政方針において、教育行政の全てにおいては、紙面の都合も含めて掲載できておりませんですので、その分について、私のほうからお答えをいたします。

まず、冒頭、幼児・学校教育の充実につきましては、その冒頭に本町の教育を取りまく社会状況の変化、それから学校現場における課題の多様化・複雑化ということで、そういったような必要性に対応するということと、議員の御指摘のとおり、未来を担う島われんきゃの教育の充実ということを書いております。具体的に、このところを少し御説明いたしたいと思います。

まず、子どもの状況なんですが、不登校傾向の子どもたち、それから現在特別支援を要する配慮する子どもたちが増加しております。子どもたちの状況も今多様であるということで、そこの対策として、来年度、この第三の居場所づくりを今推進をしているところでございます。

また、未来の子どもたちの資質能力も含めて、そういったような教育に対応するため大学とか専門機関とか、現在本町が進めている最先端の学びを来年度、Ｐｅｐｐｅｒとか、ＡＩ教材とか、これまで続けていたプログラミング教育とか、そういったものを推進していくということと、インターンシップとか、それから海外の語学研修とか、グローバルな教育を併せて推進をさらにしていきたいというふうに考えています。

さらには、本年度完成をいたしております、町史が完成いたしましたが、それの簡易版、概要版をもって、新たに来年度は島の歴史・文化も含めて、そういったような学習の機会を増やしていきたいというふうに考えています。

それから山幼稚園、それから山中学校も入学生が少ないということで、山中の場合は一応休校というような形になって、やっぱり人口減少に伴って、子どもたちの人数が、特に北部で少なくなっているということで、やっぱり学校の魅力化の事業、それから教育内容の充実を考え

る必要があるのかなというふうに考えています。

現在、昨年度から学校区ごとに学校運営協議会、それから地域協働活動というような新たな制度も含めて取り組んでいます。それから親子留学制度も今始めておりますので、そういったことを今後５年間の教育行政を見据えた形で、徳之島町教育振興基本計画を現在その策定に向けて準備を進めております。

国のほうも昨年度の６月16日に教育基本計画を策定しております。県のほうも今年の２月に教育振興基本計画を策定して、教育基本法によれば、地方自治も自治体もそれを参酌して策定を努めるように規定がございますので、本町もそういったようなスケジュールを進めてまいりたいというふうに思います。

具体的には、既に町の基本計画、それから本町の教育大綱、それから学校編成の最終答申等も出ておりますので、それを総合的にまとめる形で、島われんきゃ教育ビジョンというのを今考えております。

新しい取組と方向性なんですけど、現在、基本骨子として４つ考えております。

１つ目が子どもたちの学びを変えるプロジェクト、２つ目が誰一人取り残さないプロジェクト、３つ目が未来は自分でつくるプロジェクト、４つ目が学校の魅力化を地域と一緒に推進すると、そういったような方向性を考えています。

また、この推進に当たりまして、先で申し上げましたとおり、大学とか、教育機関、それから学校地域協働活動も含めて、学校運営協議会も含めて、進めてまいりたいというふうに思います。

それから以前議員のほうから御提案がございました子ども議会というのもございますが、新たにそういったような中高生の子どもたちの考え方とか、そういったものを、そういったような教育行政も含めて、政策に取り入れるような仕組みもつくってまいりたいというふうに考えています。

それから、この事業の推進につきましては、また指標とか、この評価とか、そういったことについても、また検討してまいりたいというふうに考えています。

来年度中に策定が終わりましたら、また議会の皆さんのほうにも説明していってまいりたいというふうに考えております。よろしくお願いします。

以上です。

○１２番（広田　勉君）

前回の代々木祭りのときに文部大臣を終えてすぐの柴山衆議院議員が来られておって、町長にも御紹介させてもらったんだけど、その人に徳之島って分かりますかっていったら、知らんと。ただ、徳之島がパソコンなんか使って、いろいろ遠隔授業とかそういったものを取り組んでいるのはよく存じておりますというふうなお話でしたので、文科省のところでも一応一定の

評価されておられるだろうと思いはします。しかし、この東天城中学校は、本町最後の新築中学校になりますので、校舎設備は今後日本の学校教育の環境のモデル校となるだろうと私は思っています。そしてまた金見・山から、集落の方々の期待以上のものになるだろうと、そして全国からも視察に来るぐらいの建物ができると私は期待しておりますけども、期待どおりいきますか。

○学校教育課長（太　　稔君）

広田議員の御質問にお答えいたします。

東天城中学校に関しましては、広田議員が希望されるような学校ができるものと思っております。

また、学校の再編に関する答申でございまして、令和２年４月20日に答申がございますが、東天城中学校は、東天城中学校を中心とした学校間をネットワークで結んで、施設分離型小中一貫校を推進しております。

具体的に申しますと、多目的ホールを活用した小中合同授業や遠隔授業を実施して、近くの小学校と結ぶ教育ですね、それを行っております。それに伴って教育の質の向上、学力向上を目指しております。

以上です。

○１２番（広田　勉君）

せっかくすごい金かけて造りますので、やっぱり我々は、環境はつくれるけれど、中の運営に関しては教育長はじめみんなのいい人事で、いい先生をぜひ呼んでやっていただきたいと。学校のＯＢとして期待しているのは、亀津の中学校からも東天城で学びたいなと思えるぐらいの教育システムを構築してもらいたいなという希望をしておりますけども、特に人事を一応重視しているんですよね。徳高と農高が合併する頃に、いろいろ話合いに来てくれと言われて一回行ったことあるんですけれども、とにかく校長を最高の校長持ってこいと。民間からでもいいから、校長をいい校長を持ってきていただきたいと。そうしたら最初の徳之島合併したときの新人の校長は最高の人でした。やっぱりそういったことで、我々ＯＢとしては、東天城中学校を中心に学校が動いていけたらなと思っていますけど、そういった期待を込めていますので、一言。

○教育長（福　宏人君）

議員の御指摘のとおりでございます。

先ほど申し上げました教育振興計画なんですが、やっぱり議員のおっしゃるとおり徳之島の子どもたちの教育をさらに未来に向けて広げるというような形で、教育の内容とか、そういったものも今大きく、大きな転換期に来ています。従来型のいろんな子どもたちの教育についても、これまでと少し違うような授業の仕方であるとか、学び方あるとか、子どもたちも2040年

に向けて、社会情勢が変わる中で、急激な変化の中で生きていかなければなりませんので、次の社会の担い手となるような資質・能力を今つけておかなければ、次の世代はないものというふうに考えています。

そのために、先ほど申し上げましたとおり、教育内容についてをさらに様々な対応をしていくということと、もう一つは学校を魅力化するというようなことも先ほど申し上げましたが、やっぱり学校だけじゃなくて、学校運営協議会も今つくっています。地域協働活動もしています。その地域の方々と一緒になりながら子どもたちの教育はいかにあるべきか。従来学校を中心に完結していましたが、それだけじゃなくて、地域住民、それから、大学、関係機関、そういったのも含めて総合的に教育の在り方について検討しながら、熟議しながら進める必要があるのかなと今考えておりますので、そういったことを来年度から順次取り組んでまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

○１２番（広田　勉君）

やっぱり、どういう子育てをするかで子どもは育っていきます。親が育てるようにしか子どもは育ちません。そういった意味で、ポイント制、ずっと町長おっしゃるんだけど、私はあんまりポイント制は好かないもんだから、というのは、これができたらこれ買ってあげるとか、そういうふうなつり方の教育したらいかんなと私はずっと思っておりますので。

次に、沖縄科学技術大学院云々連携とありますけども、このＯＩＳＴのほうですけども、具体的にはどのようなことをしていこうと考えておられるのか。

○学校教育課長（太　　稔君）

広田議員の御質問にお答えいたします。

福岡議員の御質問でも答弁しておりますが、ＯＩＳＴには、徳之島町の考えは未来の夢の実現に向けてグローバルな視点から島でも世界で活躍できる人材教育を目指しております。その中でＯＩＳＴの科学者の出前講座を各学校で行ったり、また、ＯＩＳＴへ向かってＯＩＳＴの学校を見学したり、また、ＯＩＳＴの中でもミニ講座、そういったものを考えております。

以上です。

○１２番（広田　勉君）

このＯＩＳＴのことをずっと以前聞いておりまして、一回、お尋ねしてみたいなと思っておって、あるインドの学者の先生がこういうのをつくっていると。土の話なんか一回テレビでされておりましたんだけども、いろんなことありますので、やっぱり修学旅行にＯＩＳＴも入れていったらいいなとかいうふうに思いますので、また参考のほうにしていただきたいと。

次に、「子ども第三の居場所」誰一人残さず云々とありますけども、昨日の新聞でしたか、この団体が表彰されているのはございましたんですけども、あれはあくまでも民間ですので、

行政としては、どこまで一応介入というのかな、応援というのかな、見守るだけなのか。少しお手伝いするのか。どんなもんでしょう。

○学校教育課長（太　　稔君）

お答えいたします。

第三の居場所に通う子どもたちは、学校に行けない、なじめない子どもたちとか、放課後に家庭や学校で過ごすことができない子どもたちを中心にここに通ってもらいます。その中で学習面に関しましては学校と連携をしながら、その子に応じた学習を提供してまいります。基本的な学習を伸ばしていったり、またオンラインを取り入れて学習意欲を向上したりと、そういうところで支援していきたいと思っております。

以上です。

○１２番（広田　勉君）

前々回、木原議員が初めて「第三の居場所」というものを質問して、私も初めて分かりましたんですけども、誰一人取りあえず残さないというのがもう最近いろんなところで聞きますんですけども、大体何人ぐらいになるというのは、予想はできないですよね、分かります。

○学校教育課長（太　　稔君）

お答えいたします。

今度計画される第三の居場所に関しましては、20名ぐらいを収容できる規模となっておりますので、それ以外の方がいらっしゃいましたら、ほかの手段を考えながら受入れ体制を広げていきたいと思っております。

以上です。

○１２番（広田　勉君）

いろいろ最近多様化してきて、子どもたちが発達障害という病名はなかったんだけど、最近は物すごく、そこに入る子どもたちが大勢おられるというふうなことで、非常にきめ細かいサポートをみんながやってくれてるから助かりはするんですけども、ぜひ、また、いろいろ応援をお願いいたします。

次に、堆肥センターの施設整備・拡充、設備更新、機械導入を進め供給体制の構築を図りますとありますが、現センターの問題点というと、どういったことがありますか。

○農林水産課長（高城博也君）

お答えいたします。

課題としては、原料置場の屋根の改修、敷地の拡張及び確保、さとうきびのハカマ対策、堆肥生産に伴う機械設備の設置があります。現在、機械設備に関しては、国庫事業の計画協議を進めているところであります。

○１２番（広田　勉君）

この堆肥センターに関して、いろいろまた動きがあるような感じもしますんですけれども、売れないからか分かりませんけども、補助金として1,863万円を計上したりしておりますよね、予算の中で。ほかの堆肥センターなんかは、もう、てっきり売っていると思うんだけど、堆肥センターの１回表彰されたというふうな質がですね、この質がもの凄く一般の農家が信用してないんじゃないかなというふうな懸念がありますけど、いかがなもんですか。

○農林水産課長（高城博也君）

堆肥に関しては、一、二年前にも分析をしておりまして、かなり優良な物ができており、以前、途中で、皆様も御存じのとおりアサガオの種子、ほかの飼料の種子等が混在して、なかなか農家の批判もありました。ただし、今は設備を整えて、曝気ブロワ等によって、かなりの温度を上がってやっておりますので、自信を持って進めているところであります。

また、新たに農家の要望に応えて、現存、既存する機械農家の所有する機械をフル活用できるようにペレット等のほうの政策も導入したところであります。

ですから、現在、こういった整備が順次そろっていくことで、ＰＲしてやっていきたいと思います。

また、価格については、現価を考えながらやると、どうしても金額が高くなる。そこに対して町のさとうきびに関する助成、園芸に関する助成の堆肥助成をつけております。

動きがあるという話も出ましたので申し上げますと、そういった意味合いを含めて実際に堆肥の補助金をつけて価格を農家の購入しやすいものに切り替えないとできない。要するにこのままでは運営としてかなりの赤字がずっと累積赤字が残っていってしまって、民間委託ができない状況になってきておりましたので、４月からは今回皆さんに審議いただきますけれども、管理運営費として計上して、町直営としてしばらくやっていくと。

製造業務に関しては、その製造一部を現在の民間会社のほうにはお願いいたしますけれども、管理運営に関しては、町直営でやっていくというふうな方向で、皆様にまた審議をいただきたいと思いますんでよろしくお願いいたします。

○１２番（広田　勉君）

今おっしゃられるとおり、以前、タイワンカブトムシとか、アサガオとか、いろいろ言われまして、また最近は、伊仙では見たことのない赤い毛糸の葉みたいな赤い花がいっぱい咲いているというふうな、今まで島になかったような花が見えるとかいうふうに言われておるわけです。

私がずっと以前、鹿屋の柳谷に見に行ったときは、その柳谷ではもう堆肥を作って、その堆肥で利益を出しとったんだよね。そこまでならないといけないと私は思うんだけど、この１月に鹿児島のほうの、この間、福岡議員もおっしゃっていましたけど、水道局の職員が２名来られて、下水の汚泥処理の利用で一応来島してきたんだけども、そのとき堆肥センターも案内し

たり、この中の議員たちのアドバイスも頂きながらお２人帰られましたけども、やっぱり、鹿児島の職員は必死です。２月にちょっと和泊町に用事がありまして行ったときも、その下水担当に聞いたんです。汚泥はどうしてるのと。そしたら、堆肥センターに一応、堆肥を作っていると。あと、水道の石灰はどうしてるのと言ったら、水道の石灰は、希望者の農家にはあげていると。これでも石灰は出てくるというふうな話していましたけど、本町の汚泥はどれぐらいで、どうされているのか。

○建設課長（清山勝志君）

お答えします。

現在の汚泥の処分状況は、汚泥を脱水後に場外搬出しています。脱水汚泥量は年間300トンであり、農家さんに有効利用してもらったり、堆肥センターに仮置きしております。

○１２番（広田　勉君）

とにかく堆肥の成分を、堆肥の成分じゃない、汚泥の成分をもらうようにと言われておるんですけども、今からもらう予定しているんですけども、堆肥を作るのに、牛のあれとか、いろいろ材料はいっぱいあるはずなんです。それで、もう一つは、攪拌機が向こう壊れていますよね。やっぱり攪拌しないといい堆肥はできないと思うんですよ。常に攪拌していって、いい堆肥を作ると私は思うんだけど、予算がないというあれでほってあるみたいだけど、今年は、少しは機械がどうのこうのという、いろんな予算は組んでありますけども、その攪拌機のほうは、予算は組んであるのか、どうか。

○農林水産課長（高城博也君）

お答えいたします。

攪拌機の予算は、組んではありません。なぜかというと、現在の曝気ブロワで、約70度から80度に常に熱を持って、種子等の処理ができるというふうな状況になってきました。

これについては、鹿児島のところの堆肥センター等の、民間の堆肥センター等を見て、島のほうでもどうかというふうな調査をしたところ、実際に現在の堆肥センターを運営している南国パワーさんのほうで、南国パワーさんの職員がいろいろ試験的にやってみた結果、かなりの成果が上がったということで、また、土着菌についても、いろんな意味で計算しながらやっているようでありますので、今のところ攪拌に関しては皆さんに承諾いただいて以前入れましたショベルローダー等の切り返しで十分行えるような状態になっているというふうな製造をしている現場からの声で、攪拌機は今回は見送らせていただくと。今後どういった意味で必要になってくるか分からないんですけれども、今のところは攪拌機は考えておりません。

今後、先ほどの汚泥等についても、汚泥等を使うと、汚泥の堆肥を使うと、いろいろイメージ的なものもこうやってありますので、そこら辺を払拭しながら、新たな堆肥を。また、牛ふんにするとカロリー不足でなかなか速攻性のある堆肥も、こうやって製造できないものですが、

そこら辺の新たな堆肥も今後考えて検討していきたいと思います。

そういった意味で、連携を取るには、一旦、町の直営でするのが望ましいというふうな判断で、今回町のほうの直営でやっていくという結論に至った次第であります。

○１２番（広田　勉君）

やっぱり化学肥料の高騰は、今、ウクライナの戦争で上がっているとかどうのこうのというわさもあるんですけれども、今後戦争が終わったとしても化学肥料が下がると農家の人はほとんど思っていません。もう上がったものは下がらないという認識におる。役場のほうも、担当課としても、そういう認識があるのかどうか一つと。やっぱり下がらなければ、もう堆肥に移行していく必要があるんじゃないかなと。だから堆肥に物すごく命かけてやっていくべきじゃないかなと思いますけど。

○農林水産課長（高城博也君）

堆肥に移行するというか、もう既に徳之島町においては、オーガニックビレッジ宣言では、みどり食料の関連の国の事業を取り入れております。

その化学肥料の２割軽減を目標にやっておりまして、施政方針の中でも環境保全型農業並びに有機農業の推進ということで、はっきり施政方針のほうでうたっておりますので、今後やはり化学肥料の低減に向けては積極的に行っていく。そういった意味でも、堆肥の、優良堆肥の新たな製造と、また、今ある堆肥の増産。実際に堆肥は製造が追いつかないような状態にもペレットによって生じ始めておりますので、今後、拡張、増産も考えながらやっていかなきゃいけないと思っております。

造成については、化学肥料の造成については、一時肥料のほうが安くなったという話は伺っております。しかしながら、依然として高値であるため、今後も生産コストの増が続くということを懸念材料になっておりますので、農家においてもピンチなんですけれども、施策としてはチャンスに変えて、この有機と環境保全型の農業を積極的に進めていきたいと思っております。

以上です。

○１２番（広田　勉君）

今回、機械の設備に多少はお金をかけてみたいな感じですけど、やっぱり私は、攪拌機は必要だというふうにずっと思っているんです。そうしないと、いい堆肥ができないんじゃないかなと。堆肥の種が焼き切る温度が大体120度ぐらいじゃないかなと。いや、120センチぐらい堆肥を積めば焼き切るとかいうふうな話も聞いたことあるんですけど、専門的なことはちょっと詳しくは分かりませんけど、やっぱり機械を入れて、もう少し、みんなが喜んで堆肥を欲しがると。それ柳谷みたいにもうける必要はないんだけど、みんなが堆肥のほうに走るような状況をぜひつくってもらいたいというふうにも思います。

そして、その後、この中にさとうきびの単収向上目標が昨年より、ちょっと増えていますけども、その意味はどういう意味なのか、ちょっと。

○農林水産課長（高城博也君）

お答えいたします。

単収が増えている状況は、単収5,471キロについては、平成27年12月に徳之島さとうきび生産対策本部が作成した平成28年から令和７年までの10か年計画の振興目標の数値であります。

現在、生産対策本部のほうで、次期10か年の振興目標の見直しを行う方向で国・県と協議しておりますので、現時点では計画目標であります。

○１２番（広田　勉君）

農協は農協で、一応、単収幾らぐらいとかね。南西糖業等が大体単収どれぐらいとか、いろいろ目標を全部掲げておるんだけど、ほぼ達成率はどれくらいかは分からないわね。

○農林水産課長（高城博也君）

お答えいたします。

まず、勘違いしてはいけないですけど、生産対策本部の中に、３か町、ＪＡ、並びに製糖会社が全て入っております。その中の計画であります。この目標は。

達成状況というふうな形であれば、従来から課題に上げております土地の脆弱化等もありますので、そういった目標を掲げながら有機堆肥の投入やっていきたいと思っておりますし、不可能な目標ではないと思っております。ここ10年、かなりの単収減がありますけれども、平成28年には平均で５トン781キロというふうな実績もあります。

これは豊作の年でありましたけれども、そういった意味の実績ありますんで、以前からすれば、達成不可能な数字ではないということで、有機堆肥の投入によって、こういったものをクリアできるように今後もやっていきたいと思っております。

○１２番（広田　勉君）

次に、観光振興の中に、「食を通じた徳之島の魅力を発信します」とありますが、団体で島料理が食べられるところはありますか。この４月に関西から犬田布岬の慰霊祭に兼ねた郷友会の訪問団があるんですけど、案内をちょっと頼まれとんだけど、こういった団体が食事する場所を探すのに難儀しているんですよ。

○地域営業課長（清瀬博之君）

お答えします。広田議員の質問にお答えします。

団体で島料理が食べられるところがありますかということですが、本町において団体で食事を取るところは限られていると思っております。また、特に50名以上になるとホテル等で受入れになるというふうに思っております。

いずれにせよ予約が必要で、島料理を食べたいのであれば事前に予約、お願いをする必要が

あるのではないかと考えているところであります。

今回、この施政方針の中で、島の食を通じた魅力を発信しますというのは、地域営業課で今年度観光コンテンツの中で、観光コンテンツ事業及び地域活性化事業の中で徳之島の食材をふんだんに使ったコース料理を開発いたしました。今後はこの料理の提供方法や場所等の課題を解決しながら島の食を中心に観光コンテンツを楽しんでいただけるような魅力発信につなげていきたいというふうに思っているところであります。

また、今、議員がおっしゃったように、現在、もの凄い人数であるとホテル等での受け入れでしか対応が難しいのではないかなと思っております。

また、12月にオープン予定の道の駅ではレストランが併設されます。そのレストランでは約50名程度収容が可能でありますが、そこでも、また、その島の料理につきましては、今後我々も協力しながら島料理が食べられるような、提供ができるような方策を今後また検討していきたいというふうに考えているところであります。

以上です。

○１２番（広田　勉君）

いろいろありますけども、次、行きます。次の行財政改革についてでありますが、印鑑廃止になって業務にどのような変化が出ましたか。私たちは、判こは持ち歩かないので、ついでにその役場のあれなんかも利用ができて非常に便利になっていますけど。

○住民生活課長（大山寛樹君）

広田議員の御質問にお答えします。

印鑑廃止になって、どのような業務に変化が出たのかについては、申請者の方の負担軽減につながったと思います。

以上です。

○１２番（広田　勉君）

非常に楽しております。役場での提出、書類等の添付書類に住民票とか所得証明書とか印鑑証明書とかよくあるんですが、本人個人の承諾で役場内での関係書類には添付書類なしでは駄目なのでしょうか。横の連携で分かるので、別に一々紙で出す必要があるのかどうか。ある人なんかは、これは役場内の手数料稼ぎじゃないかという町民もいらっしゃるけど。

○総務課長（村上和代君）

お答えいたします。

各種申請書等の提出につきましては、条例規則等で定められていることもありますので、担当課において制度の見直しなどの協議が必要とは考えます。

町民サービス、町民の負担軽減にもつながりますが、個人情報の取扱いなど細心の注意を払いながら検討していきたいと考えております。

○１２番（広田　勉君）

役場内での事務業務簡素化検討委員会みたいなやつはあるのかないのか。

○総務課長（村上和代君）

お答えいたします。

現在、事務簡素化についてはデジタル化を進めております。その中で来年度から協議会を立ち上げ、各部門の業務プロセスを分析し効率化や合理化の余地があるかどうかを検討いたします。

ペーパーレス化やオンラインサービスの導入により、書類の作成、事務管理や手続処理の効率化が図られ、町民の行う手続の簡素化につなげていきたいと考えております。

また、ＢＰＲを検討しております。このＢＰＲとは、これを実施することで業務を根本的に見直し再設計することで、業務の効率化、品質向上を図ることができます。

業務量の見直しをするために、業務量のまず調査そして他の町村とその業務量を比較することも可能かと思います。

以上です。

○１２番（広田　勉君）

４番目の町条例は足してばかりいってだんだん増えてくるんですけども、見直す要素もあると思うんだけど、行政がすべきなのか、議会が率先してすべきなのか。

○総務課長（村上和代君）

お答えいたします。

町条例の見直しは行政と議員の皆さん両方が関与すべきだと思います。条例の見直しにつきましては、政策の立案と実施に係る重要なプロセスであり、両方の連携が必要だと考えます。

行政は実務的なことは知識ございますが、条例の実施に関する意見やフィードバックを収集し、その情報を基に改善案を検討いたします。

議員の皆さんは、町民の代表として議会での論議を通じ様々な視点を提供いただきます。また地域のニーズや要望等を把握し、その声を条例の改正や見直しの議論に反映させる役割があると考えております。

このようなことから、これまで同様、行政と議員は協力し合いながら条例の見直しを進めていくものだと考えております。

○１２番（広田　勉君）

次に、配食のことについてですけども……。

○議長（行沢弘栄君）

広田議員、しばらく休憩します。

○１２番（広田　勉君）

やめるん。

○議長（行沢弘栄君）

13時（発言する者あり）いや、まだ、なってないです。あと15分残っていますので。

○１２番（広田　勉君）

いや、僕、すぐ終わるよ。（発言する者あり）

○議長（行沢弘栄君）

しばらく休憩します。13時30分より再開いたします。

休憩　午後　０時０２分

再開　午後　１時３０分

○議長（行沢弘栄君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

○１２番（広田　勉君）

４番目の配食についてでありますが、介護保険の特別会計の自立支援（配食）、委託料は大体700万円、地域自立生活支援事業費宅配委託料が350万円予算を組んであります。この２つの違いは。

○介護福祉課長（廣　智和君）

広田議員の御質問にお答えします。

自立支援委託料700万円の分ですけれども、要支援の方や介護認定を持っていないけれども配食サービスが必要な方を対象としています。

また、地域自立生活支援事業費宅配委託料350万円なんですけれども、こちらは介護認定１から５の方を対象としているところです。

以上です。

○１２番（広田　勉君）

大体700万円というのは、これは１食大体幾らぐらいかな。

○介護福祉課長（廣　智和君）

委託料としては、１食500円ということで、委託しているところでございます。

○１２番（広田　勉君）

ということは、大体役場としては１食500円の補助を出して、これ社協が提供している分ですよね。そしたら社協は社協で、また、配達、お金を頂いているはずなんですよ。結局大体１食1,000円ぐらいになっておるのかな。

○介護福祉課長（廣　智和君）

お答えします。

今ちょっと手元に１食幾らとか手元にないんですけれども、それぐらいなっているかと思い

ます。

○１２番（広田　勉君）

非常に認定されてない方々にいちおう700万円の補助。要介護の１から５までの認定されている方々の食事として350万円の補助を出していると。

食事の内容全部が全部じゃないんだけど、後で見させてもらったら、やっぱり魚なんかはほとんどもう骨がついていないわけよね。全部骨を抜いてある魚を提供している、おかずを。非常にきめ細かい非常に丁寧な食事ではありますども、やっぱりちょっと高いような感じもしないこともないんだけど、この配食、つまり認定してない方々の分もそうなんだけど、配食を受けられるか受けられないかの基準。恐らく役場のほうに申込み来ると思うんですよ。その基準はどういうふうにされているのか。２万1,000食くらいあるんですけど、全部で。

○介護福祉課長（廣　智和君）

お答えいたします。

徳之島町地域ケア会議というものがございまして、そちらの中でサービス利用が必要と認められた方になります。

具体的には、精神的、身体的な理由で調理が困難、また、独居高齢者、高齢者夫婦世帯、身寄りがいない、買物に行くことができないなどです。

本人家族、また、本人を取り巻く環境や社会資源、地域のボランティアなどですけれども、その環境は人それぞれですので、事例で申し上げた内容はあくまでも目安でございます。本人の生活状況やサービスの必要性をケア会議の中で検討して、その方の生活状況に応じて、その利用の決定、利用頻度を決めているところでございます。

以上です。

○１２番（広田　勉君）

生活状況を見てというふうなあれなんですけども、例えば夫婦でずっと御一緒にやってこられたのに奥さんが急遽入院する羽目になって、ずっとほとんど男の人は独り暮らしになると。そうすると、やっぱり、年行ってから作るのめんどくさくなるよね。どうしたって。女の人でもそう。大体見ておるんですけど、女の人の独り暮らしになると、85ぐらいになるともう作りたくなくなってきて、あと作りたくなくなるということは、自分がもう食べたくなくなるということで作らない。そしてだんだんと栄養不足になっていくと。そういう状況をずっと周り見てきておるんだけど、そういったものは加味されるもんかどうか、この基準の中で。というのは、今後もうすぐ増えていくと思うんです。この年いった独り暮らしというのかな。そうすると三度三度食事作るということは、あなた方若いからあんまり分からないと思うんだけど、年行ってから自分の食事三度三度作るということ物すごく苦痛になってくるわけよね。だから、１食くらいは、こういうふうな、物が頂けないかなというふうなあれになってくるし、また、

栄養もあるし、だから、非常に希望する人が私は増えると思うんです。だからそういったものに対しての基準をもうちょっときちっとこうして、こういう人は駄目、こういう人はいいとか大体チェック項目か何かつけておいて、判断、申込み来たら、誰でもチェックして、これ以上は受けられますと、これ以下は受けられませんとか、そういうチェック様式作る必要あるんじゃないかと私は思うんですけど。

○介護福祉課長（廣　智和君）

お答えいたします。

実際に今でもチェックシートはございまして、本人の状況等を確認して、先ほども申し上げましたけども環境ですね。例えばその方の甥っ子さんとかがたまに週に何回来るとか、そういうお手伝いしているとかで、それで不足している部分がやっぱりあるなとなれば、その方の状況に応じて、昼だけとか、夜だけとか、そういった回数等も決めているといった状況です。

以上です。

○１２番（広田　勉君）

私の周りでも、いや、あなたは運転ができるし、昨日まで自分で作ってんのにということで、断られる方もいらっしゃるわけ。どうしても、もうしんどくなってくる可能性があるわけよね。だから、そういったものには、適応しないとかするとかいうふうなことなんかも、きちっとチェック基準をきちっとしていただきたいなと、ほかの窓口でもそうだけど、受付の人のさじ加減で、なったりならんかったりするというのが一番悪いんです。ですので、ある程度、チェック基準をきちっとしておいて、これだけ一応予算かけておりますので、なるべく多くの町民が利用できるような方法で、まあまあ利用というのは、簡単には別に利用していただきたくないんだけど、栄養的に、もうやっぱり１食ぐらいはいい食べ物を、１日１食はいい物を食べられるような状況というのは、非常に健康的にもいいんじゃないかなと思いますけど、いかがでしょう。

○介護福祉課長（廣　智和君）

お答えいたします。

確かに高齢になると大変な、なかなか思うようにいかなかったりできない環境になってくると、非常に栄養状態等も悪くなってくるので、すごい重要なサービスだと思っております。経営会議につきましては、うちの担当者だけではなくて、メンバーとしては、包括支援センターもちろんですけども、社会福祉協議会、また、申請者に関係する事業所等、そういった人たちを交えてお話していますので、なるべくサービスが受けられるようにということは考えていると思いますので、また、今後もできるようにしていきたいというふうに思います。

以上です。

○１２番（広田　勉君）

私どもは一応議員しているものだから、いろんな、ちょっと認知が入ってきてＤＶに遭っているとか、どうしたらいいかとか、いろいろ相談を受けるわけよね。こういう食事にしても、もう作りたくなくなったと。どうしても食事を抜き出したとか、何とかならんかなとかいう御相談とかいろいろありますので、ぜひ、町長、福祉においても、みんなが１人も残さないと、取り残さないという徳之島町政をひとつお願いしたいと思いまして、私の質問を終わります。

○議長（行沢弘栄君）

次に、松田太志議員の一般質問を許可します。

○６番（松田太志君）

皆様、こんにちは。

午前中から先ほどまで広田議員の一般質問をお聞きしまして大変刺激を受けました。私も今議会最後の質問者ではありますが、気を引き締めていきたいと思います。

それでは令和６年第１回定例会において、６番、松田太志が通告の２項目について質問いたします。

町長並びに担当課長の答弁を求めます。

まず初めに、本年１月１日に発生しました石川県能登半島地震では多くの方々が犠牲になられました。御遺族の方々へ心からお悔やみを申し上げるとともに復旧・復興をお祈り申し上げます。

次の日の１月２日にも海上保安庁の航空機の航空事故があり５名の方々がお亡くなりになりました。こちらの件に関しましても心からお悔やみを申し上げます。

いつ何時災害は起こるか分からない。台風のように予想できるものもあれば、地震後の津波のように来る災害もあります。日頃からの備えが自らの命を守り、自助、共に守る共助となってきます。

南海トラフ沖地震からの災害で１人でも多くの町民を守るために町の備えと津波発生後に何分以内に津波が来るかをまず質問をお伺いいたします。

○総務課長（村上和代君）

松田議員の御質問にお答えいたします。

災害時の町の備えにつきましては、本町では、地域における土地の保全と住民の生命、身体及び財産を保護することを目的とした徳之島町地域防災計画を定めております。その中で防災マップやハザードマップを作成し全家庭へ配布、またホームページにおいての周知をしているところでございます。

また、避難所、避難経路を確認するための避難訓練の実施、自主防災組織の立ち上げの支援や災害に関する研修等を実施しております。さらには緊急避難後に必要な防災テントや簡易ベッド、要支援者トイレなどの備蓄品、各避難所の非常用発電機の設置などを行っているところ

でございます。

先ほど御質問のありました南海トラフから何分後に津波が到達するかということでございますが、最大震度が２の場合、津波の高さが１メートルの場合に61分後に徳之島に到達いたします。また、最大津波の4.03メートルの津波が発生した場合、110分後に徳之島に到達する予報となっております。

以上でございます。

○６番（松田太志君）

昨日と一昨日と大変多くの議員の方々が災害後にどういった対応を行政がしていくのかというふうな質問がございました。その中で昨日少し気になったのが、勇元議員が当初予算への食料品の質問をしていたんですが、私なりの亀徳地区の防災訓練に参加させていただいたときに、たしか、まずは自分たちで食料品を備えることが大事だというふうな認識をいただいたんですが、それについてはお互い共通の認識を持ってないといけないと思います。町として、これだけ食料品を準備しているというふうなことはあるんですが、まず自分たちの家庭の食料品は自分たちで準備をするというふうな方向性が必要だと思いますが、町長、この考えについてはどう考えていますか。

○町長（高岡秀規君）

災害等につきましては、今１時間という話が今総務課長のほうからありましたが、これは十分な時間があるということではないと思うんです。もし仮に奄美沖で起きた場合は５分から10分の間で大津波が来るのではないかなという予測もあります。地震のどこで起こるかによって、我々は津波に対しての時間というものがかかってくるわけで、恐らく５分、10分で来るということを予測して、災害に対しての避難運動等々は計画を立てなければいけないというふうに思います。

まずは、自分の命は自分で守るということを原点に、役場の職員が幾ら訓練しても、その場から被災者の救助に向かえるかというと第２次災害も考えますとなかなかそれは不可能であろうというふうに私は考えております。よって、自主防災組織をいかに充実させるかということが今後の課題になろうかというふうに思いますので、住民の意識向上と地域の自主防災組織の在り方、意識等をしっかりと課題解決に向けて取り組んでいくことが必要かというふうに考えております。

○議長（行沢弘栄君）

松田議員、もう１回お願いします。

○６番（松田太志君）

町長、すみません。食料品をまずは自分たちで備えることが大事ではないかというふうな質問であったんですが、町長も先ほど言われたように、まず自らの意識ですね、意識をどういう

ふうに根づかせていくか。町の方向性として、町として町民の方々へどういうふうに伝えていくかというふうな質問になります。

○町長（高岡秀規君）

その質問について、ちょっと聞き逃してしまったかもしれません。おわび申し上げます。

食料につきましては、昨日も質問にあったと思うんですが、非常食等々についてなんですけども、我々が準備するのは限界があるということを御理解いただきたいというふうに思います。じゃあ、その限界をどうやって解決するかといいますと、やはり先ほど話をしましたが自主防災組織の在り方で、そこの地域でも非常食について整備する。そしてまた各家庭でも、ある程度持ち運びができるものを考慮しながら都会で見られるような自主的なセットというものを備えるような施策が必要ではないかなというふうに思いますので、食料についてはそれぞれがまず用意することが原点。そしてまた我々がそれを補うことで、各防災施設、避難所等に整備をしていくのがある程度の網羅できることに近づくのではないかなというふうに思います。

○６番（松田太志君）

そうですね、私も震災以降、妻と子どもたちと相談の上、缶詰であったり、ガスコンロですね、米が炊飯器で炊けないときにはガスコンロで土鍋で炊けるというようなこともありますので、そういったものを備えていこうというふうなことで、少しずつ整えていっているところです。ただ、うちも家族も多いですので、全ての食料品がそろったかというわけではなくて、少しずつ賞味期限等の問題もありますから、そろえていって、なるべく対応していきたいと思います。

こちらの資料があるんですが、裏のページはちょっと個人名が入っているのでなかなか出せないんですが、亀徳小学校の防災学習報告会の資料になります。Ａ４サイズですね、裏表あるんですね。

去る２月27日に小学校のほうでありました。私とまた亀徳に住まれている議員の方々も出席をされて、そして総務課の職員、太課長もお越しくださっていました。ありがとうございます。

子どもたちがある先生を中心として様々な取組をしていました。炊き出し訓練であったり、理科、保健学習道具。これは暗くなったときにライトでペットボトルの中に水を入れまして、数滴牛乳を入れるんですね。そうすると箱の中でライトを照らすことによって光が反射して光が膨らむというふうな紹介でした。それであったり防災避難訓練のことであったり、亀徳の地理やまちづくり、そして避難所開設や人や物の運搬の子どもたちが学んだことについての発表会がありました。

冒頭、担当となる先生が令和５年11月に宮城のほうに行きまして、階上市、多くの地域の方の関わりがあったと。東日本から10年たって、100年たっても訓練が続けられるようにというふうなことで、亀徳小学校で取り組んでいるそうです。

２月の４日に亀徳のほうで、自主防災組織のほうで避難訓練もあったり、一昨日、自主防災組織の母間地区であったり亀徳地区の避難訓練の様子はほかの議員のほうから質問の際にお聞きしましたので、その点については省きたいと思います。

こういった亀徳小学校の取組を太課長が伺っていたと思うんですが、この点について、どのように捉えましたか。

○学校教育課長（太　　稔君）

松田議員の御質問にお答えいたします。

各学校のほうでは、この訓練と申しますのは、地震、津波、また避難訓練、また不審者対策とかそういった訓練を行っております。今回、亀徳小学校のほうがいろんな各団体、消防署、警察署、総務課とか、その他の関係機関の協力の下、この発表会というんですか、２月27日に行われております。その中で児童たちが防災に対してそれぞれの意識を明確にして研究発表を進めておりますし、また児童が調べたことを地域や行政の方に発表することで、地域と一緒になって防災の意識を高めたと思っております。

地域の方々からは、児童の発表を見て、防災に対する意識を高められたんではないかと思います。

以上です。

○６番（松田太志君）

太課長もこの報告会を聞いていただいて、今回は亀徳小学校の発表であったんですが、亀津小学校であったり、亀津中学校であったり、母間小学校であったり、ほかの小学校、中学校とのこういった発表会を開催することができれば、じゃあ、我が集落、我が地域はどうなんだ、どういった危険箇所があるんだというふうな子どもたちの学びの場であったり、防災の気づきですね、そういった子どもたちの視点というのも大人から見ればすごい新鮮で、なかなか普段通り慣れている道路も子どもたちのこういった視点で危険だったんだというふうなことにつながってきますので、教育長、教育長、亀徳小学校からのこの学びで、年度が変わって新しい学年の子どもたちが学んだ際にでも、ほかの学校の子どもたちとこういった学びを連携し合うようなことの教育というようなものは可能でしょうか。

○教育長（福　宏人君）

先日新聞等で亀徳小学校の取組等について詳細に報告を受けております。また参加させた職員からも内容を聞いております。この学校安全については、まず子どもたちが一番安全にということで、家庭の中にも各学校それぞれ本町は大体手々、それから神之嶺を除いてほとんど海岸に位置し、それから海抜が10メートル以下のところ、５メーター前後が非常に多くて、先ほど申し上げましたとおり、いつ起こるか分からないという対応を常に緊張感を持って対応するように校長会を通して話をしているところです。

本町においても、令和２年前後に国の学校安全ということで、津波に特化した、そういったような事業を東天城中学校で実施してその中で、例えば、テントの設営とか、食料の問題とか、それから子どもたちがまさに今松田議員が言ったように地形をどういうふうにして特徴的な地形を調べて、それを子どもたちが調査研究して、自分たちの今自分の住んでいるところはこういったような津波に対しては弱さとかそういうのがあるということで調べ上げて、大体学校においてはそういったことで子どもたちの目線からどうであるのか、そしてどういうふうにして逃げればいいのか、そういったような学習をそれぞれ各学校においてしているところです。

今後、今、議員が御指摘にありましたとおり、それぞれ地形とか避難場所とかちょっと違うんですが、こういったような災害に対応するような意識をぜひ何らかの形で、子どもたちの目から見たこと、それからさらには今学校運営協議会等がありますので地域の皆さんとも連携しながら、ある程度の防災意識を学校を核として高める必要があるというように思いますので、年２回ぐらい今学校運営協議会等もしておりますので、その中で子どもたちのそういったような防災に対する意識とか、そういったところをまず地域の方々がしてまた学校のほうにもお互いに共通認識をしていければというふうに考えています。

以上。

○６番（松田太志君）

ありがとうございます。

災害が身近な問題として捉えている子どもたちから根づいていき、大人たちも問題として捉えれるように教育の現場からも前向きに検討のほうをお願いします。

２月４日に先ほども申し上げました亀徳地区で避難訓練を実施しております。先日参加人数についてはお伺いをしましたが、避難困難者がいらっしゃるかと思います。各地域地域で個人情報等になるので参加した参加してないというのは各それぞれの地域で分かるかと思いますが、例えば亀徳地区であったり、この母間地区で避難困難者が何名ぐらい登録されているか、廣課長、分かりますか。

○介護福祉課長（廣　智和君）

お答えいたします。

要支援者、同意された方ということになるんですけれども、亀徳では現在34名ということになります。また、池間地区、母間４地区ありますので、それぞれ申し上げますと、池間地区が21名、反川地区が15名、大当地区が９名、花時名地区が17名といったことになります。

以上です。

○６番（松田太志君）

この避難困難者ですね、例えば年度が変われば人の出入りがあったりもしますので、なるべく担当課と地域の方と連携を図って、しっかりと把握していただきたいと思います。

２月４日の亀徳地区避難訓練に参加されていた当会計課長、大丈夫ですか。避難訓練に参加されまして、どういったことを感じたとかいうような御意見を可能であればお願いいたします。

○会計管理者兼会計課長（当　洋子君）

私は企画の段階から携わっておりまして、公務員として災害が起きたときに公務に当たるということで、残された家族は自力で何とか逃げてほしいという思いもあって亀徳地区では、自分の命は自分で守るというテーマで、まずは避難訓練の前に防災教室を開いて、津波とはこういうものだ、こういうときにはこういう場所に逃げようというような避難場所、避難経路、危険箇所、そういったものをまずは抑えた上で避難訓練をしました。避難訓練に参加してみて、初めて避難場所がどこか知ったという方もいらっしゃいましたし、最短距離で避難する想定でいたけれども最後に急な階段があるので、そこが困難なので、遠回りしてでも坂道から避難したほうが自分にはいいようだというような再認識したという方もいらっしゃいました。この避難訓練に参加してみて、すごく有意義な訓練になったかと思います。

以上です。

○６番（松田太志君）

そうですね、避難訓練は100年来なくても101年目に来るというふうな思い、先日竹山議員も伝えていました、石川県珠洲市の震災時に日頃から訓練をしている方たちが階段を上がって誰一人として災害に遭うことなく助かったというふうなことがございます。

こちらは亀徳地区の自主防災組織の訓練の際に町民の方々に配っていただいたものです。地震が来たらすぐ逃げる。警報が出たらすぐ逃げる。自分の命は自分で守る。亀徳自主防災組織での合い言葉になるんですが、各それぞれ29団体、それぞれの自主防災組織のやり方があると思います。地震、津波は亀徳の地域として誰かが助けに来るというよりは、まず自分で逃げるというふうなことで、こういった方向性で取り組んでいきました。そして２月に開催されて、私も総務課長のほうにもお伝えしました。毎年区としてやるのは大変なこともあるかもわからないが、町と区と交互に例えば主催をして年度が変われば人も変わります。転勤される方もいらっしゃいますので、いろんな意味合いを兼ねて、こういった訓練というのは毎年実施していただきたいと思います。総務課長、お願いいたします。

○総務課長（村上和代君）

お答えいたします。

今、当課長のほうからもございました。すごく自主防災組織がいかに大事であるかということが改めて今感じたところでございます。自主防災組織の強化を図りながら、また町全体での訓練もこれから強化してまいりたいと思います。ありがとうございます。

○６番（松田太志君）

ありがとうございます。

続きまして、次の質問に行くんですが、少しかぶるところもあるかと思います。

各集落での取組についてなんですが、先ほど亀徳地区ではこういったことを取り組んでいるというふうなことがありました。そして災害に遭ったときの備蓄品を高台のほうに移転させた経緯もございます。例えば低い土地にある集落ですね、先日、宮之原議員のほうも少しお話をしていましたが、低い土地に住む集落の自主防災組織等の取組状況が分かれば、簡潔にでいいです、教えていただけますか。

○総務課長（村上和代君）

お答えいたします。

低いところの地域の防災、訓練でしょうか。組織（発言する者あり）はい。

現在のところは、多分、避難訓練で高台に逃げるとか、炊き出しの訓練であったりとか、消防の講演であったりとか、そのような訓練が行われているかと思います。

○６番（松田太志君）

先ほども何度もお伝えしておりますが、南区の方々も公民館で炊き出しをしたりというようなのは以前お伺いをしたことがあります。

やはり年度が変わった時点で、また、区長会なり様々な組織で連携を図っていただいて、早い段階で訓練ができるような流れができれば、また、よろしくお願いいたします。

続きまして、次の質問にいきたいと思います。

千葉県君津市では、クラウドファンディングを活用しながら災害用トイレトレーラーを取り入れていました。１台で４か所のトイレが使用できる。このような取組をしている市町村と災害時の協定を結んではどうかというふうな質問を上げさせていただきました。この質問について答弁を求めます。

○総務課長（村上和代君）

お答えいたします。

災害用トイレカーやトイレトレーラーにつきましては、実はこれ以前より検討しております。実際にトイレカーを見させていただいたこともございます。災害時の協定を結ぶことにつきましては、本町の条件不利性等の諸条件を踏まえ、協定内容を十分に精査する必要があると思っております。

また、千葉県と徳之島では離島と本土のまた遠く離れたところでございますので、そちらのほうと協定を組むというのがどういったメリットがあるのかとか、そういったことも考えなければいけないかと考えております。

○６番（松田太志君）

高岡町長に質問をしたいと思います。

町村会の会長をされている中で、こういった災害時のほかの市町村との連携といいますか、

そういったのの話題、こういった情報共有する場はございません。

○町長（高岡秀規君）

災害については、当然そういった情報の共有ということは常日頃今しているところでありまして、１つの町が災害になった場合は隣の隣接する市町村が協定を結んで災害の支援に回るというようなことは話合いの中で決めております。そしてまた今後の離島における災害というのはまた特別な枠組みだろうというふうに考えておりますので、離島での災害の在り方というものは、今後は一致団結して地域の皆さんを巻き込んだ形で、先ほど総務課長そして当さんとかが答えたように、まず地域の人たちの自主防災意識を高めることだろうというふうに思います。

○６番（松田太志君）

ありがとうございます。

まず、いつあるか分からない災害に対して備えるというのはなかなか厳しいながらも、少しずつ町としても備えていただきたいと思います。

次の質問に行きたいと思います。北部地区の認定こども園についてお伺いしたいと思います。

12月議会でも取り上げましたが、現在どのような話合いがなされたのかを伺います。

○介護福祉課長（廣　智和君）

御質問にお答えいたします。

北部地区における認定こども園については、現在どのような話合いがなされたかということなんですけれども、介護福祉課内での協議は行っておりますけれども、子ども・子育て会議等での議論は現在進んでない状況でございます。

介護福祉課内での協議、議論といいますのは、北部地区認定こども園の現在基本計画を作成中であり、その内容等について、協議、確認作業を行っているといったところでございます。

この基本計画がある程度でき次第、子ども・子育て会議でも内容の確認を行っていただき、その上で今後の計画を進めていく予定であります。

以上です。

○６番（松田太志君）

12月議会でも質問をしまして、何か進展があるかなと思ったんですが、２点、まずこの３か月間の間で子ども・子育て会議をするべきじゃないかというふうに感じたんですね。あと介護福祉課と学校教育課が何か会を持って前進するような話合いがなされたかというふうなことを伺いたいと思いますが、どうですか。

○介護福祉課長（廣　智和君）

当初、子ども・子育て会議も３月までに実際行いたいなということもあったんですけれども、ちょっとできなかったというところでございます。また、学校教育課とはやはり基本計画を今つくっているということで、そういった情報交換等は行っているところでございます。

以上です。

○６番（松田太志君）

太学校教育課長、情報交換を行っているというようなことですが、介護福祉課とどういった情報交換を行いましたか。

○学校教育課長（太　　稔君）

お答えいたします。

学校教育課と介護福祉課と認定こども園に関しましては協力して進めていくということでお話続いております。子どもの数とか、少し早いんですけど設置場所をどこらあたりにするとか、そういうことも一つの案がありますんで、そういったことも少しずつ進めておりますし、また、今後、建設検討委員会そういったものを早期に立ち上げるように、私たちは給食センターの建設委員会も進めておりますので、そのことを話をしながら早期に建設検討委員会も進めるべきではないということを話をしております。

以上です。

○６番（松田太志君）

介護福祉課と学校教育課と常に連携を図っていただきたいと思います。

先日木原議員からもありました、何かを進める上で担当課長の連携というのは必要不可欠であります。

高岡町長、当初の施政方針の中で、「４月から地域座談会を実施します」とあります。私も長い前から認定こども園の思いをずっと議会の場で訴えかけていまして、思いもございます。

高岡町長のこの北部地区の振興における認定こども園の思いをお伺い願えますか。

○町長（高岡秀規君）

認定こども園につきましては、北部地区について行政のほうで担当するということが一番ベストかなというふうに今でも考えております。

そしてまた、その当時はこども家庭庁という話が我々には聞こえてこなかったんですが、今、こども家庭庁ができた中で、今、文部科学省とこども家庭庁との連携もうまくなりつつあるなというふうな感触を受けております。その中で気になるのが認定こども園そしてまた民間との連携を図るときに保育士の確保ですね。そしてまたなぜ都会に保育士が流れていくかという中では、地域によって、言わば公務員の給与である程度の補助金が決まるという地域枠というか、地域を加味した、いわゆる保育料の支援が行われているわけで、そこで保育士の都会での給与と田舎での給与が格差があってはならないということを今訴えているところであります。

そこで保育士の確保をしっかりとやりながら、今後予想される切れ目なく全ての子育て世帯というものが、全ての子どもたちが保育園に通える時代が来るだろうというふうに考えておりまして、その中において保育士の確保ができるのかどうか。

認定こども園のちょっと複雑なシステムがあるんですが、それが大分一元化されるのではないかなというふうに考えておりまして、今、北部地区の認定こども園につきましては、こども家庭庁との連携を図りながら、どういう幼児教育、そういった保育の在り方をするべきかということも今課題として残っているのではないかなというふうに思いますので、職員の幼稚園そしてまた保育等の現場での研修等が今必要ではないかなというふうに思っておりまして、それを踏まえて認定こども園の建設等々に当たりたいというふうに考えております。

○６番（松田太志君）

座談会でこの認定こども園について、町民の皆様に説明の一つとして、この認定こども園が出てくるのか。そしてその認定こども園の話をするときにどういった話を町民の方々にするつもりですか。

○町長（高岡秀規君）

行く行くは誰もが通える保育園というものが、構築が僕は必要だろうというふうに思っております。そしてまた今先ほどから教育委員会のほうから話があります、市町村による子ども計画の中に子どもたちの意見を聞く、そして保護者の意見を聞く、地域の意見を聞くということが恐らくアンケート結果によって計画を立てないといけないというふうに思っておりますので、国・県に準じた形で市町村の子ども計画ができますので、その意見聴取については別途特別な意見聴取ということが必要だろうというふうに思います。

○６番（松田太志君）

やはり北部地区の振興で、その北部の方々の長く子どもを育てていく基礎となる場になりますから、認定こども園はですね、様々な方々の意見を聞くのは大変重要なことだと思います。この教育の場で例えばヘックマンの法則というものがあったり、様々な法則がある中での高岡町長の思いというのはありますか。

○町長（高岡秀規君）

以前もお答えしていますが、幼児教育の重要性というものをしっかりと行政の立場でやらないといけないと、モデル事業をつくりたいというのが我々の最終的な目標であります。

じゃあ、その目標を何を根拠に持っているかというと、以前ヘックマンの法則という話もございましたが、実はクラーク賞を受賞したハーバード大学のフライヤー教授の研究がございます。それは教育生産関数ということでアウトプットとインプットで試験をしています。そのアウトプットって何かというと学力です。学力、成績が上がった人に褒美をあげる。お金であったり、いろんな物品をあげる。インプットというのが、実は親の所得であったり、学歴であったり、そしてまた家族構成、そして習い事への支出、そして家庭学習の習慣、教育者の数、そしてまた授業時間、カリキュラム等々がインプットです。このインプットをすることによって御褒美をあげます。どこの効果が得られたかというと、日本人はどうしても御褒美をあげるの

に対してなかなか踏み込んでいけないんです。実は御褒美をあげると学力向上につながるという結果が出ているので、我んきゃポイントをやっているわけです。

じゃあ、何をもって成績が上がったかといいますと、成績が上がったから御褒美を上げるでは効果が出なかったということです。例えば本を読んで本から問題を出して、その成績によって御褒美をあげるというところに結果が出たということです。つまりは、アウトプットは結果によって出していますから、方法論は分からないわけです。しかしながら、本を読んだり、習い事をしたり、いろんな体験を通して楽しいということを味合わせながら学んでいくという環境に対して結果的に御褒美をあげたら相当な効果が出たということであります。よって本読みもそうです。本を読んで問題を出して御褒美をあげた。相当に学力向上が結果が得られたということですから、結果ではなくてプロセスだということを今町として取り組もうというふうに思います。

まずは待機児童をまずなくすことと、そしてまた今簡易版の徳之島の文化、町史編さんのやつの簡易版をなぜ僕が作りなさいと言ったかというと、子どもたちがそれを学ぶわけです。そこには漢字も出てきます。そしていろんな難しい事柄も出てきます。歴史も出てきます。楽しみながら学べる環境ができるだろうと。それによって指標を持ってテストをして、文化の徳之島学の何級１級２級というところで御褒美をあげたり、そういった資格を持たせたり、方法論を子どもたちに習わせるということが必要だろうということから、今の施策を取っていますので、ぜひ、行政しかできない、そしてまた認定こども園についても、今現場では恐らく保育と教育とどうやって同一レベルのものをするか、スキルをするのかということが恐らく課題問題点になるでしょうから、我々は職員としてしっかりとスキルアップを図りながら平等性の保てる、そしてまたグローバルな人材育成にしっかりと取り組んでいきたいというふうに思います。

○６番（松田太志君）

町長、熱い思いをありがとうございます。私も子どもを育てながら様々な経験をさせることが子どもの成長につながると思うし、社会教育的な子どもの視野の広がりにつながるかと思います。

高岡町長の施政方針の中に最後の文章ですね。

「飛び立つための向かい風は自ら構築する必要があります。成功事例をつくること、またチャレンジ精神を持つこと、しっかりと責任を持って効果検証を行うことが重要だと考えます。強風が吹いたときに、壁を造る人もいます。また、風車を作る人もいます。地域振興とは、日々変化する情勢に的確に対応することが求められると思います」というふうなことが施政方針の中で上げられています。

様々な家庭環境の中で育つ人がいますので、個々の性格によっていろんな捉え方をする人がいるというのはもちろんだと思います。ただ、行政が前に進むために我々が何ができるかとい

うのが大切であって、じゃあ、どうすればできるのか。ただ、反対するだけではなくて、この物事に対して反対だ、しかしながら、こうすればできるんじゃないかというふうな階段を一つ登るような政策というものがやはり人が生きてくると思います。ただ単に反対するだけなら誰でもできるんです。やはり今後これから新しい年度が始まってきます。そしてまたいろんな方々との出会い、別れがある中で、一人一人が育つような徳之島町であればというふうに願っています。

大変簡単ではありますが、私の質問を終わらせていただきます。

ありがとうございました。

○議長（行沢弘栄君）

以上で、本日の日程は全部終了しました。

次の会議は、３月８日午前10時から本会議を開きます。

本日は、これで散会をいたします。お疲れさまでした。

散　会　午後　２時２１分

令和６年第１回徳之島町議会定例会

第４日

令和６年３月８日

令和６年第１回徳之島町議会定例会会議録

令和６年３月８日（金曜日）　午前10時　開議

１．議事日程（第４号）

○開　議

○日程第　１　議案第　１号　専決処分について承認を求める件　……（町長提出）

○日程第　２　議案第　２号　徳之島町日本復帰記念の日に関する条例の制定について　……（町長提出）

○日程第　３　議案第　３号　徳之島町犯罪被害者等支援条例の制定について　……（町長提出）

○日程第　４　議案第　４号　道の駅「とくのしま」設置及び管理に関する条例の制定について　……（町長提出）

○日程第　５　議案第　５号　徳之島町会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について　……（町長提出）

○日程第　６　議案第　６号　職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例について　……（町長提出）

○日程第　７　議案第　７号　徳之島町報酬及び費用弁償条例の一部を改正する条例について　……（町長提出）

○日程第　８　議案第　８号　徳之島町課設置条例の一部を改正する条例について　……（町長提出）

○日程第　９　議案第　９号　督促手数料の廃止に伴う関係条例の整備に関する条例について　……（町長提出）

○日程第１０　議案第１０号　徳之島町国民健康保険税条例の一部を改正する条例について　……（町長提出）

○日程第１１　議案第１１号　徳之島町印鑑条例の一部を改正する条例について　……（町長提出）

○日程第１２　議案第１２号　徳之島町保育士等修学資金貸与条例の一部を改正する条例について　……（町長提出）

○日程第１３　議案第１３号　徳之島町看護職員等修学資金貸与条例の一部を改正する条例について　……（町長提出）

○日程第１４　議案第１４号　徳之島町重度心身障害者医療費助成条例の一部を改正する条例について　……（町長提出）

○日程第１５　議案第１５号　徳之島町介護保険条例の一部を改正する条例について　……（町長提出）

○日程第１６　議案第１６号　中山間ふるさと・水と土保全基金条例の一部を改正する条例について　……（町長提出）

○日程第１７　議案第１７号　徳之島町下水道事業の設置に関する条例の一部を改正する条例について　……（町長提出）

○日程第１８　議案第１８号　徳之島町立学校設置条例の一部を改正する条例について　……（町長提出）

○日程第１９　議案第１９号　徳之島町給水条例の一部を改正する条例について　……（町長提出）

○日程第２０　議案第２０号　徳之島町水道事業の設置に関する条例の一部を改正する条例について　……（町長提出）

○日程第２１　議案第２１号　徳之島町過疎地域持続的発展市町村計画の一部変更について　……（町長提出）

○日程第２２　議案第２２号　総合整備計画の一部変更について　……（町長提出）

○日程第２３　議案第２３号　徳之島町農業委員の選任について　……（町長提出）

○日程第２４　議案第２４号　徳之島町農業委員の選任について　……（町長提出）

○日程第２５　議案第２５号　徳之島町農業委員の選任について　……（町長提出）

○日程第２６　議案第２６号　徳之島町農業委員の選任について　……（町長提出）

○日程第２７　議案第２７号　徳之島町農業委員の選任について　……（町長提出）

○日程第２８　議案第２８号　徳之島町農業委員の選任について　……（町長提出）

○日程第２９　議案第２９号　徳之島町農業委員の選任について　……（町長提出）

○日程第３０　議案第３０号　徳之島町農業委員の選任について　……（町長提出）

○日程第３１　議案第３１号　徳之島町農業委員の選任について　……（町長提出）

○日程第３２　議案第３２号　徳之島町農業委員の選任について　……（町長提出）

○日程第３３　議案第３３号　徳之島町農業委員の選任について　……（町長提出）

○日程第３４　議案第３４号　徳之島町農業委員の選任について　……（町長提出）

○日程第３５　議案第３５号　徳之島町農業委員の選任について　……（町長提出）

○日程第３６　議案第３６号　徳之島町農業委員の選任について　……（町長提出）

○日程第３７　議案第３７号　令和５年度一般会計補正予算（第７号）について　……（町長提出）

○日程第３８　議案第３８号　令和５年度国民健康保険事業特別会計補正予算（第３号）について　……（町長提出）

○日程第３９　議案第３９号　令和５年度介護保険事業特別会計補正予算（第４号）について　……（町長提出）

○日程第４０　議案第４０号　令和５年度公共下水道事業特別会計補正予算（第４号）について　……（町長提出）

○日程第４１　議案第４１号　令和５年度後期高齢者医療特別会計補正予算（第３号）について　……（町長提出）

○日程第４２　議案第４２号　令和５年度水道事業会計補正予算（第４号）について　……（町長提出）

○日程第４３　議案第４３号　令和６年度一般会計歳入歳出予算について　……（町長提出）

○日程第４４　議案第４４号　令和６年度国民健康保険事業特別会計歳入歳出予算について　……（町長提出）

○日程第４５　議案第４５号　令和６年度介護保険事業特別会計歳入歳出予算について　……（町長提出）

○日程第４６　議案第４６号　令和６年度後期高齢者医療特別会計歳入歳出予算について　……（町長提出）

○日程第４７　議案第４７号　令和６年度水道事業会計歳入歳出予算について　……（町長提出）

○日程第４８　議案第４８号　令和６年度下水道事業会計歳入歳出予算について　……（町長提出）

○散　会

１．本日の会議に付した事件

○議事日程記載事件のとおり

１．出席議員（１６名）

議席番号	氏　名	議席番号	氏　名
１番	内　博行　君	２番	政田　正武　君
３番	宮之原　剛　君	４番	植木　厚吉　君
５番	竹山　成浩　君	６番	松田　太志　君
７番	富田　良一　君	８番	勇元　勝雄　君
９番	徳田　進　君	１０番	池山　富良　君
１１番	是枝　孝太郎　君	１２番	広田　勉　君
１３番	木原　良治　君	１４番	福岡　兵八郎　君
１５番	大沢　章宏　君	１６番	行沢　弘栄　君

１．欠席議員（０名）

１．出席事務局職員

事務局長	清原美保子　君	主　査	稲村よう子　君

１．地方自治法第121条の規定により説明のため出席した当局職員の職氏名

職　名	氏　名	職　名	氏　名
町　長	高岡秀規　君	副町長	幸野善治　君
総務課長	村上和代　君	企画課長	吉田　忍　君
建設課長	清山勝志　君	花徳支所長	尚　康典　君
農林水産課長	高城博也　君	耕地課長	水野　毅　君
地域営業課長	清瀬博之　君	農委事務局長	藤　康裕　君
学校教育課長	太　稔　君	社会教育課長	茂岡勇次　君
介護福祉課長	廣　智和　君	健康増進課長	田畑和也　君
おもてなし観光課長	吉田広和　君	税務課長	新田良二　君
住民生活課長	大山寛樹　君	選管事務局長	白坂貴仁　君
会計管理者・会計課長	当　洋子　君	水道課長	保久幸仁　君

△　開　議　午前１０時００分

○議長（行沢弘栄君）

おはようございます。

これから本日の会議を開きます。

△　日程第１　議案第１号　専決処分について承認を求める件

○議長（行沢弘栄君）

日程第１、議案第１号、専決処分について承認を求める件を議題とします。

本件について、提案理由の説明を求めます。

○町長（高岡秀規君）

議案第１号の提案理由を御説明申し上げます。

本議案は、徳之島町手数料条例の一部を改正する条例について、議会の承認を求める件であります。

内容は、戸籍法の改正により、本籍地以外での戸籍証明書等の交付及び戸籍電子証明書提供用識別符号等の発行に関する事務を開始することに伴い、これらの証明交付等に係る手数料の額を定めるものであります。

何とぞ御審議の上、承認していただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（行沢弘栄君）

これから質疑を行います。

○８番（勇元勝雄君）

専決処分にした理由は、どのような理由があるでしょうか。

○住民生活課長（大山寛樹君）

お答えいたします。

専決処分にした件なんですが、12月議会に間に合わなかったための専決処分になります。

○８番（勇元勝雄君）

これは、何月から施行ですか。

○住民生活課長（大山寛樹君）

お答えします。

令和６年３月１日からの施行となります。

○８番（勇元勝雄君）

間に合わなかった理由は、どのような理由があるんでしょうか。

○住民生活課長（大山寛樹君）

お答えいたします。

その件につきまして確認して、また後で報告したいと思います。

○議長（行沢弘栄君）

しばらく休憩します。

休憩　午前１０時０３分

再開　午前１０時０４分

○議長（行沢弘栄君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

○住民生活課長（大山寛樹君）

お答えします。

県からの通達の日程が間に合わなかったためであります。

○議長（行沢弘栄君）

ほかに質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

［「討論なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

討論なしと認めます。

これから、議案第１号、専決処分について承認を求める件を採決します。

お諮りします。本件は承認することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、議案第１号は承認することに決定しました。

△　日程第２　議案第２号　徳之島町日本復帰記念の日に関する条例の制定について

○議長（行沢弘栄君）

日程第２、議案第２号、徳之島町日本復帰記念の日に関する条例の制定についてを議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

○町長（髙岡秀規君）

議案第２号の提案理由を御説明申し上げます。

本議案は、徳之島町日本復帰記念の日に関する条例の制定について、議会の議決を求める件

であります。

内容は、昨年、奄美群島が日本復帰70周年の節目を迎えたことを受け、先人たちの祖国ふるさとに対する思いや、これまでの歴史を子や孫に語り継ぐため条例を制定するものであります。

何とぞご審議の上、議決していただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（行沢弘栄君）

これから質疑を行います。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

［「討論なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

討論なしと認めます。

これから、議案第２号、徳之島町日本復帰記念の日に関する条例の制定についてを採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、議案第２号は原案のとおり可決されました。

△　日程第３　議案第３号　徳之島町犯罪被害者等支援条例の制定について

○議長（行沢弘栄君）

日程第３、議案第３号、徳之島町犯罪被害者等支援条例の制定についてを議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

○町長（高岡秀規君）

議案第３号の提案理由を御説明申し上げます。

本議案は、徳之島町犯罪被害者等支援条例の制定について、議会の議決を求める件であります。

内容は、犯罪被害者等が必要とする施策を総合的に推進し、その被害の早期回復及び軽減を図るとともに、犯罪被害者等を支える地域社会の形成を図ることを目的として条例を制定するものであります。

何とぞ御審議の上、議決していただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（行沢弘栄君）

これから質疑を行います。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

［「討論なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

討論なしと認めます。

これから、議案第３号、徳之島町犯罪被害者等支援条例の制定についてを採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、議案第３号は原案のとおり可決されました。

△　日程第４　議案第４号　道の駅「とくのしま」設置及び管理に関する条例の制定について

○議長（行沢弘栄君）

日程第４、議案第４号、道の駅「とくのしま」設置及び管理に関する条例の制定についてを議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

○町長（高岡秀規君）

議案第４号の提案理由を御説明申し上げます。

本議案は、道の駅「とくのしま」設置及び管理に関する条例の制定について、議会の議決を求める件であります。

内容は、道の駅「とくのしま」の設置及び管理に関する必要な事項を定めるものであります。

何とぞ御審議の上、議決していただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（行沢弘栄君）

これから質疑を行います。

○８番（勇元勝雄君）

道の駅、どのような形態で運営するのかお伺いいたします。

○花徳支所長（尚　康典君）

お答えいたします。

道の駅は、民間事業者への管理委託を考えております。

○８番（勇元勝雄君）

第11条の３項に、町長は、その他特別の理由があると認めるときは使用料を減額し、または免除することができるとなっていますけど、その下のほうに指定管理者による管理もできるというふうになっていますけど、指定管理者を置く場合、役場が金を出してするのか、そのまま指定管理者としてするのかお伺いいたします。

○町長（高岡秀規君）

指定管理者の制度につきましては、委託費を、指定管理料を徳和瀬そしてまた文化会館同様、予算を組む予定であります。

○８番（勇元勝雄君）

大体どれぐらいの金額を想定していますか。

○町長（高岡秀規君）

はっきりとした数字がまだ出ていないのが現状でありまして、仮に、文化会館とかというのは一時期、町が管理していましたから、ある程度経費は分かるんですが、今回、道の駅につきましては、新規の事業、新規の設置になりますので、幾ら管理費がかかるか等について、まだはっきりとした金額が出ていない状況ですので、ある程度それを精査をしながら、しっかりとした予算を組む予定でありますが、当初、恐らく2,000万から3,000万ぐらいの予算になる可能性がございます。

○議長（行沢弘栄君）

ほかに質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

［「討論なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

討論なしと認めます。

これから、議案第４号、道の駅「とくのしま」設置及び管理に関する条例の制定についてを採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、議案第４号は原案のとおり可決されました。

△　日程第５　議案第５号　徳之島町会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について

○議長（行沢弘栄君）

日程第５、議案第５号、徳之島町会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例についてを議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

○町長（髙岡秀規君）

議案第５号の提案理由を御説明申し上げます。

本議案は、徳之島町会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について、議会の議決を求める件であります。

内容は、地方自治法の一部改正に伴い、令和６年度から会計年度任用職員に勤勉手当を支給するため改正するものであります。

何とぞ御審議の上、議決していただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（行沢弘栄君）

これから質疑を行います。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

［「討論なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

討論なしと認めます。

これから、議案第５号、徳之島町会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例についてを採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、議案第５号は原案のとおり可決されました。

△　日程第６　議案第６号　職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例について

○議長（行沢弘栄君）

日程第６、議案第６号、職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例についてを議

題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

○町長（高岡秀規君）

議案第６号の提案理由を御説明申し上げます。

本議案は、職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例について、議会の議決を求める件であります。

内容は、地方自治法の一部改正に伴い改正するものであります。

何とぞ御審議の上、議決していただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（行沢弘栄君）

これから質疑を行います。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

［「討論なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

討論なしと認めます。

これから、議案第６号、職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例についてを採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、議案第６号は原案のとおり可決されました。

△　日程第７　議案第７号　徳之島町報酬及び費用弁償条例の一部を改正する条例について

○議長（行沢弘栄君）

日程第７、議案第７号、徳之島町報酬及び費用弁償条例の一部を改正する条例についてを議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

○町長（高岡秀規君）

議案第７号の提案理由を御説明申し上げます。

本議案は、徳之島町報酬及び費用弁償条例の一部を改正する条例について、議会の議決を求める件であります。

内容は、選挙管理委員会関係の報酬について追加及び令和５年鹿児島県最低賃金の変更に伴い改正するものであります。

何とぞ御審議の上、議決していただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（行沢弘栄君）

これから質疑を行います。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

［「討論なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

討論なしと認めます。

これから、議案第７号、徳之島町報酬及び費用弁償条例の一部を改正する条例についてを採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、議案第７号は原案のとおり可決されました。

△　日程第８　議案第８号　徳之島町課設置条例の一部を改正する条例について

○議長（行沢弘栄君）

日程第８、議案第８号、徳之島町課設置条例の一部を改正する条例についてを議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

○町長（高岡秀規君）

議案第８号の提案理由を御説明申し上げます。

本議案は、徳之島町課設置条例の一部を改正する条例について、議会の議決を求める件であります。

内容は、本条例中、水道課及び事務文書の文言を削除するものであります。

何とぞ御審議の上、議決していただきますよう、よろしくお願いいたします。

○議長（行沢弘栄君）

これから質疑を行います。

○８番（勇元勝雄君）

もっと中身を説明してもらいたいと思います。現在、水道課ありますけど、その水道課がど

うなるかというのを。

○水道課長（保久幸仁君）

水道課の場合は公営企業になりますので、現在、徳之島町水道事業の設置に関する条例ということで、水道課の業務等は明記しております。

○８番（勇元勝雄君）

町の水道課じゃなくて、公営企業の水道課という考えでよろしいでしょうか。

○水道課長（保久幸仁君）

そのとおりであります。

○議長（行沢弘栄君）

ほかに質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

［「討論なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

討論なしと認めます。

これから、議案第８号、徳之島町課設置条例の一部を改正する条例についてを採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、議案第８号は原案のとおり可決されました。

△　日程第９　議案第９号　督促手数料の廃止に伴う関係条例の整備に関する条例について

○議長（行沢弘栄君）

日程第９、議案第９号、督促手数料の廃止に伴う関係条例の整備に関する条例についてを議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

○町長（高岡秀規君）

議案第９号の提案理由を御説明申し上げます。

本議案は、督促手数料の廃止に伴う関係条例の整備に関する条例について、議会の議決を求める件であります。

内容は、督促手数料を廃止して事務の簡素化・効率化を図り、収納率の向上、財源確保に努

めるものであります。

何とぞ御審議の上、議決していただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（行沢弘栄君）

これから質疑を行います。

○８番（勇元勝雄君）

督促手数料の代わりに何かあるんでしょうか。

○税務課長（新田良二君）

督促手数料のほかに何かあるかということなんですが、督促状はもちろん発送します。その後には、延滞金が発生してございます。その督促料に代わる何か料金があるものかということはございません。督促状を廃止して、その後は延滞料金がございますので、その延滞料金で徴収するという形でございます。

以上です。

○８番（勇元勝雄君）

現在、督促手数料で100円取られていますよね。それがなくなって、延滞金で取るという考えでよろしいんでしょうか。

○税務課長（新田良二君）

説明不足でございません。税務課では、地方税法において、賦課徴収に係る書類は普通郵便で送付していますが、返戻がなければ、その書類は到達したものと推測されます。しかしながら、当初の納付書が届いていないのに、督促状が届いて、督促手数料も払えとはどういうことかというような内容が、督促状を発送する際に発生しています。また、本税は完納ではあるんですが、督促手数料のみが未納となっており、その督促手数料100円の納付書を送付しても、なかなか理解が得られないということでございます。その督促手数料のみの納付書を発行するにも、人件費、印刷代、郵送料など費用が発生しており、結果的に督促手数料を超える費用にもなっています。このようなことから、督促手数料、事務の業務量を軽減して、他の徴収事務に当てることで事務の簡素化・効率化を図り、収納率の向上及び財源確保に努めようとするものでございます。

こちらは、令和５年の11月16日に開催しました令和５年度収納率向上特別対策会議、総務課、会計課、住民生活課、介護福祉課、健康増進課、建設課、耕地課、農林水産課、水道課、学校教育課、私ども税務課のほうで協議をいたしました。

以上でございます。

○８番（勇元勝雄君）

ほかの課もその考えでよろしいでしょうか。

○議長（行沢弘栄君）

代表でいいね。

○税務課長（新田良二君）

11月16日に協議してございます。

以上でございます。

○１５番（大沢章宏君）

２点お伺いします。他町村はどういう感じかというのと、もう一点。結局100円だったのが、結局半年遅れるのと１年遅れるので、やっぱりそれだけまた手数料が、手数料というか、延滞利息みたいになるのか、その２点お伺いします。

○税務課長（新田良二君）

この督促手数料は、先ほど申し上げましたいろんなトラブル等が発生していまして、徐々に他市町村も督促手数料の廃止の状況が増えています。大島支庁管内では、奄美市のほうが督促手数料はもう廃止されてございます。確認したところ、喜界町のほうも検討するということでございます。

督促手数料は、納付期限がございます。納付期限が過ぎますと、20日以内に納付期限を設定して、督促手数料を付して督促状を発送します。

以上でございます。

○１５番（大沢章宏君）

だから、６か月後に払うのと、１年後に払うので、利息は、利息という言い方はちょっとあれですけども、変わってくるのかということですよ。

○税務課長（新田良二君）

失礼いたしました。今後は、督促料は発生しないということです。今までに督促料が発生しているものは、もちろん回収はさせていただきますが、今後、督促状を発送する分は、督促手数料は徴収しないということでございます。（発言する者あり）

○１５番（大沢章宏君）

ちょっと利息的な考えでちょっとおかしいんですけど、督促状が着いて半年後に払うのと１年後に払うのじゃ、その金額が違うんですかという。

○税務課長（新田良二君）

失礼しました。延滞金が発送します。延滞金は、滞納処分の前提条件で督促状を発送して、その後に延滞金が発送します。その後に、延滞金を付して請求するということでございます。

以上です。（発言する者あり）

○議長（行沢弘栄君）

特別許可します。

○１５番（大沢章宏君）

もう一回。ちょっとしつこくてすみませんけど、半年後と１年後と違うのかと、もうただそれだけで。

○税務課長（新田良二君）

申し訳ございません。延滞金につきましては、徳之島町税外収入の督促手数料及び延滞金に関する条例第５条、延滞金は１日３銭の割合を乗じて計算した金額に相当する延滞金を徴収するでございますので、延びれば延びるほど延滞金は加算しますよということでございます。

以上です。

○議長（行沢弘栄君）

ほかに質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

［「討論なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

討論なしと認めます。

これから、議案第９号、督促手数料の廃止に伴う関係条例の整備に関する条例についてを採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、議案第９号は原案のとおり可決されました。

△　日程第10　議案第10号　徳之島町国民健康保険税条例の一部を改正する条例について

○議長（行沢弘栄君）

日程第10、議案第10号、徳之島町国民健康保険税条例の一部を改正する条例についてを議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

○町長（高岡秀規君）

議案第10号の提案理由を御説明申し上げます。

本議案は、徳之島町国民健康保険税条例の一部を改正する条例について、議会の議決を求める件であります。

内容は、国民健康保険法施行令の一部改正に伴い改正するものであります。

何とぞ御審議の上、議決していただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（行沢弘栄君）

これから質疑を行います。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

［「討論なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

討論なしと認めます。

これから、議案第10号、徳之島町国民健康保険税条例の一部を改正する条例についてを採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、議案第10号は原案のとおり可決されました。

△　日程第11　議案第11号　徳之島町印鑑条例の一部を改正する条例について

○議長（行沢弘栄君）

日程第11、議案第11号、徳之島町印鑑条例の一部を改正する条例についてを議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

○町長（高岡秀規君）

議案第11号の提案理由を御説明申し上げます。

本議案は、徳之島町印鑑条例の一部を改正する条例について、議会の議決を求める件であります。

内容は、電子署名等に係る地方公共団体情報システム機構の認証業務に関する法律の一部改正に伴い改正するものであります。

何とぞ御審議の上、議決していただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（行沢弘栄君）

これから質疑を行います。

○１５番（大沢章宏君）

ちょっと勉強不足で申し訳ないんですけど、結局印鑑の代わりにマイナンバーカードが利用できるということではないですよね。

○住民生活課長（大山寛樹君）

お答えします。

これは、コンビニ等で証明書を発行するときに、システムの変更に係る印鑑条例の改正となります。

○議長（行沢弘栄君）

ほかに質疑はありますか。

○８番（勇元勝雄君）

コンビニで発行してもらうときは、どのような書類が必要なんでしょうか。

○住民生活課長（大山寛樹君）

コンビニではマイナンバーカードが必要になります。

○議長（行沢弘栄君）

ほかに質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

［「討論なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

討論なしと認めます。

これから、議案第11号、徳之島町印鑑条例の一部を改正する条例についてを採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、議案第11号は原案のとおり可決されました。

△　日程第12　議案第12号　徳之島町保育士等修学資金貸与条例の一部を改正する条例について

○議長（行沢弘栄君）

日程第12、議案第12号、徳之島町保育士等修学資金貸与条例の一部を改正する条例についてを議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

○町長（高岡秀規君）

議案第12号の提案理由を御説明申し上げます。

本議案は、徳之島町保育士等修学資金貸与条例の一部を改正する条例について、議会の議決を求める件であります。

内容は、貸与額の上限設定変更に伴う改正であります。

何とぞ御審議の上、議決していただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（行沢弘栄君）

これから質疑を行います。

○１３番（木原良治君）

確認と、補足説明がありましたら補足していただきたいと思います。

従来は、保育士等の貸与する金額が３万円。これが６万円に増額というこの議案が通ったときに、そして、期間は聞きます。そして、現在貸与していただいている生徒の方々は、この４月１日から適用になるのか。新しい４月１日からの生徒のみが対象となるのか、説明を丁寧にお願いします。

○介護福祉課長（廣　智和君）

木原議員の質問にお答えいたします。

保育士等修学資金なんですけれども、月額これまで３万円だったものが、５万円ですね。５万円に引き上げるということになります。（発言する者あり）すいません、訂正いたします。条例上は上限が６万円ということになっております。実際には選考会議開いておりまして、５万円ということで統一するということになっております。

また、今まで、これが今の貸与中の方も適用されるかということですけれども、貸与中の方も適用するということで、令和６年４月より施行するということになります。

以上です。

○１３番（木原良治君）

スピード感のある対応だったと思いますね。この条例改正までにどういった段階を踏んで、この条例を提案されたんですか。簡潔にお願いします。

○介護福祉課長（廣　智和君）

お答えします。

まず、12月議会で木原議員より指摘、質問頂きまして、その後、年を明けてから、町長含め総務課長とまず案を協議しまして、その後、令和６年２月５日に、この条例制度の看護職員また保育士等選考会というのがございますので、外部の方も含めて、その中で協議をいたしまして、制度の内容を決定したという流れになります。

以上です。

○１３番（木原良治君）

この議案が通ったとき、この後、徳之島高校、第二樟南高等学校のみならず、島外で修学を、

資格を希望される方々に対してどのように広報、通知をする考えなんですか。

○介護福祉課長（廣　智和君）

お答えします。

まず、在学中の方、今回卒業される方ですね。そちらには、まだ議案議決されていないんですけれども、一応内容のほうは徳之島高校のほうに一応お伝えして、やり取りをいたしまして、まだ決定されていないんですけれども、制度変わる方向だということで、生徒のほうに案内していただくということをしました。また改めて、学校の先生のほうも制度改正がちょっと分からないということですので、議会が終わり次第、説明に行って、今後、内容を周知していただけるような取組をしたいと思います。また、在学中の、在学中というか、今、貸与中の方にも速やかに通知をして、制度変わりますよということでお伝えしていきたいと思いますし、また、今回の広報ですね。もちろん広報、ホームページ等でまた周知していければと思っております。

以上です。

○議長（行沢弘栄君）

ほかに質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

［「討論なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

討論なしと認めます。

これから、議案第12号、徳之島町保育士等修学資金貸与条例の一部を改正する条例についてを採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、議案第12号は原案のとおり可決されました。

△　日程第13　議案第13号　徳之島町看護職員等修学資金貸与条例の一部を改正する条例について

○議長（行沢弘栄君）

日程第13、議案第13号、徳之島町看護職員等修学資金貸与条例の一部を改正する条例についてを議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

○町長（高岡秀規君）

議案第13号の提案理由を御説明申し上げます。

本議案は、徳之島町看護職員等修学資金貸与条例の一部改正する条例について、議会の議決を求める件であります。

内容は、対象職種の変更、猶予期間等の設定、貸与額の上限設定変更に伴う改正であります。

何とぞ御審議の上、議決していただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（行沢弘栄君）

これから質疑を行います。

○１３番（木原良治君）

ここも看護職員等の数字４万円が６万円に増額ですよね。そして、資格の目指す生徒たちが、今まで限られていた看護職のほうをどこまで広げていった、資格を目指す生徒たちに具体的に述べていただきたいと思いますね。お願いします。

○介護福祉課長（廣　智和君）

お答えいたします。

まず、対象職種のほうをお答えいたします。これまで看護師、保健師、助産師、介護福祉師、社会福祉師、作業療法師、理学療法師、歯科衛生師が対象だったんですけれども、新たに言語聴覚士、あん摩マッサージ師、鍼灸師、柔道整復師の資格が追加になっているところでございます。

また、貸与額についてなんですけれども、先ほどの保育士のほうの話もちょっと補足いたしますけれども、条例上は６万に設定しているところですけれども、他市町村はほぼ５万円で統一して貸与しております。なぜ６万円にしているかといいますと、今後もまたちょっといろいろ物価等上がったり、さらなるちょっと貸与の増額が必要であればということで、６万円を上限にした条例としております。実際には５万円ということになります。

また、補足として、もう一つ、看護職員等のこの条例の内容の制度の改正なんですけれども、看護職等の借りた方は、資格取得後、すぐに帰島して町内の保健福祉医療施設で従事を行わないならば、すぐに返済対象となっていたんですけれども、令和６年度以降は、今の保育士等の制度と同様に、本人の申立てで一定期間、町外の医療施設等で研修を行った場合は、その期間返済猶予ということで設けることにしております。

以上が内容になります。

○議長（行沢弘栄君）

ほかに質疑はありませんか。

○８番（勇元勝雄君）

３条の２号に修学資金の貸与を受けた期間に相当する期間を５年以上に改めるというのは、どのような理由で。

○介護福祉課長（廣　智和君）

お答えいたします。

例えば、看護師等なんですけれども、看護師の資格を取った後に、例えば、保健師等とか新たに本人の資格を増やしていく場合に、３年とか、また期間がかかるといった、最長の期間ということで設けているところでございます。

以上です。

○議長（行沢弘栄君）

ほかに質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

［「討論なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

討論なしと認めます。

これから、議案第13号、徳之島町看護職員等修学資金貸与条例の一部を改正する条例についてを採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、議案第13号は原案のとおり可決されました。

△　日程第14　議案第14号　徳之島町重度心身障害者医療費助成条例の一部を改正する条例について

○議長（行沢弘栄君）

日程第14、議案第14号、徳之島町重度心身障害者医療費助成条例の一部を改正する条例についてを議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

○町長（髙岡秀規君）

議案第14号の提案理由を御説明申し上げます。

本議案は、徳之島町重度心身障害者医療費助成条例の一部改正する条例について、議会の議

決を求める件であります。

内容は、令和６年７月１日から、受給者が徳之島町に提出する交付申請が不要となる自動償還払い方式を導入することなどに伴う改正であります。

何とぞ御審議の上、議決していただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（行沢弘栄君）

これから質疑を行います。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

［「討論なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

討論なしと認めます。

これから、議案第14号、徳之島町重度心身障害者医療費助成条例の一部を改正する条例についてを採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、議案第14号は原案のとおり可決されました。

△　日程第15　議案第15号　徳之島町介護保険条例の一部を改正する条例について

○議長（行沢弘栄君）

日程第15、議案第15号、徳之島町介護保険条例の一部を改正する条例についてを議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

○町長（高岡秀規君）

議案第15号の提案理由を御説明申し上げます。

本議案は、徳之島町介護保険条例の一部を改正する条例について、議会の議決を求める件であります。

内容は、介護保険法施行令の一部改正に伴い改正するものであります。

何とぞ御審議の上、議決していただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（行沢弘栄君）

これから質疑を行います。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

［「討論なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

討論なしと認めます。

これから、議案第15号、徳之島町介護保険条例の一部を改正する条例についてを採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、議案第15号は原案のとおり可決されました。

△　日程第16　議案第16号　中山間ふるさと・水と土保全基金条例の一部を改正する条例について

○議長（行沢弘栄君）

日程第16、議案第16号、中山間ふるさと・水と土保全基金条例の一部を改正する条例についてを議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

○町長（高岡秀規君）

議案第16号の提案理由を御説明申し上げます。

本議案は、中山間ふるさと・水と土保全基金条例の一部を改正する条例について、議会の議決を求める件であります。

内容は、文言の追加を要するため改正するものであります。

何とぞ御審議の上、議決していただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（行沢弘栄君）

これから質疑を行います。

○８番（勇元勝雄君）

５条に、次の各号のいずれかに該当する場合に限り、基金の全部または一部を処分することができるという、なっていますよね。当初予算にこの分の予算が出ていますけど、これはどのようなことで予算を組んだわけでしょうか。

○耕地課長（水野　毅君）

お答えいたします。

現在、農道整備におきまして、前回、建設課のほうで使っていましたミニショベル等で作業をしております。それの劣化による新規購入を考えております。

以上です。

○８番（勇元勝雄君）

これは議会軽視ですよね。この条例が通るという前提で予算を組んでいるわけですから。予算を組む場合は、この条例が通って、６月議会に補正で出すとかしなければ、条例が通るという仮定で予算を組んでいるわけですから、町長、どう考えますか。

○町長（高岡秀規君）

その点につきましては、予算を当初組むことが一番効率的でいいかなと思っておりまして、その点についてはちょっと僕は詳しくはないんですけども、詳しい方どなたかいらっしゃいますか。代わりに。

○耕地課長（水野　毅君）

まずは、議会を通すべきでありました。ですが、この今使っている機械がもうずっと、もう去年からずっと修理をしながら使っておりまして、緊急を要すると。それで、今、農道の作業員、再任用の方が３名いらっしゃるんですが、もうどうしてもその機械がないとはかどらないし、危険だということで、やむを得ず緊急的な感じで組んでしまいました。

○町長（高岡秀規君）

私も予算は見ていたんですが、条例等との連携、そういったことについては承知しておりませんで、お詫びを申し上げます。

○８番（勇元勝雄君）

総務課長、こういうことは、これまでも何回も注意していますよね。役場というのは、条例によって動く。条例というのは、役場の法律なんですよね。それは事情は分かります。だけど、条例が通って初めて予算を組めるわけであって、条例も通らないのに予算を組む。これは総務課の怠慢ですよ。課としてはこういう状態だから、予算をくださいという要望はするはずです。だけど、この条例を出すに当たって、総務課のほうが関知しているわけですよね。こういうのを議会軽視というんですよ。今後気をつけてもらいたい。条例に対しては反対じゃないですけどね。

○町長（高岡秀規君）

再度お詫びを申し上げます。今回、条例を指定後に予算の議決があるという、安易な考えでいたしました。もし条例が通った後に予算が否決されますと、また予算を組み直さないといけないということで、非効率的なことも考えられたと思います。お詫びを申し上げます。

○議長（行沢弘栄君）

ほかに質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

［「討論なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

討論なしと認めます。

これから、議案第16号、中山間ふるさと・水と土保全基金条例の一部を改正する条例についてを採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、議案第16号は原案のとおり可決されました。

△　日程第17　議案第17号　徳之島町下水道事業の設置に関する条例の一部を改正する条例について

○議長（行沢弘栄君）

日程第17、議案第17号、徳之島町下水道事業の設置に関する条例の一部を改正する条例についてを議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

○町長（高岡秀規君）

議案第17号の提案理由を御説明申し上げます。

本議案は、徳之島町下水道事業の設置に関する条例の一部を改正する条例について、議会の議決を求める件であります。

内容は、地方自治法の一部改正に伴い改正するものであります。

何とぞ御審議の上、議決していただきますよう、よろしくお願いを申し上げます。

○議長（行沢弘栄君）

これから質疑を行います。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

［「討論なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

討論なしと認めます。

これから、議案第17号、徳之島町下水道事業の設置に関する条例の一部を改正する条例についてを採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、議案第17号は原案のとおり可決されました。

△　日程第18　議案第18号　徳之島町立学校設置条例の一部を改正する条例について

○議長（行沢弘栄君）

日程第18、議案第18号、徳之島町立学校設置条例の一部を改正する条例についてを議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

○町長（高岡秀規君）

議案第18号の提案理由を御説明申し上げます。

本議案は、徳之島町立学校設置条例の一部を改正する条例について、議会の議決を求める件であります。

内容は、尾母小中学校の位置の訂正を行うものであります。

何とぞ御審議の上、議決していただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（行沢弘栄君）

これから質疑を行います。

○８番（勇元勝雄君）

これは、恐らく地籍調査をやって学校敷地が統合されたということで、こういう結果になったと思いますけど、もっと迅速に地籍調査をやった時点で、その条例を改正してもらいたい。

○議長（行沢弘栄君）

要望でいいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）

ほかに質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

［「討論なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

討論なしと認めます。

これから、議案第18号、徳之島町立学校設置条例の一部を改正する条例についてを採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、議案第18号は原案のとおり可決されました。

△　日程第19　議案第19号　徳之島町給水条例の一部を改正する条例について

○議長（行沢弘栄君）

日程第19、議案第19号、徳之島町給水条例の一部を改正する条例についてを議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

○町長（高岡秀規君）

議案第19号の提案理由を御説明申し上げます。

本議案は、徳之島町給水条例の一部を改正する条例について、議会の議決を求める件であります。

内容は、人口の減少による水道使用料金の減額、水道施設等の老朽化に伴う修繕費、漏水修繕費の増加等に伴い、水道使用料金の改正を行うものであります。

何とぞ御審議の上、議決していただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（行沢弘栄君）

これから質疑を行います。

○８番（勇元勝雄君）

この水道料金を改定に当たって、何回ぐらい会議をしたんでしょうか。そして、現在の状況でどれぐらいの料金アップをしなければ、とんとんにもっていけるか。

○水道課長（保久幸仁君）

お答えいたします。

水道料金の改定につきましては、町水道事業運営調査委員会を令和４年度に１回、令和５年度に２回、計３回開催しております。

それと、繰入金なしで行うとどのような水道料金になるかという質問ですが、現在から約83％アップ、例といたしまして、基本料金が２か月の税込みで2,420円、現行料金より1,100円のアップになります。それと、10立方メートル使用した場合、２か月分で4,235円、現行より1,925円のアップになります。20立方メートル使用した場合は6,435円となり、現行が3,520円

ですので、2,915円の増となります。

○議長（行沢弘栄君）

ほかに質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

まず、本案に反対者の発言を許します。

○８番（勇元勝雄君）

去年から薬品類の、伊仙、天城、他町よりも400円アップ、そういうことをしながら町民に負担をかける。水道は一番の民間的な発想でやらなければいけないところが、そして、１月から他町村と合わせるという話を聞いたもんだから、合わせるかなと思ったら、他町村より100円下げてもらったと。そういう状態で、そして、水道の運営に対しての経費も、人件費も大分上がっています。企業努力が足りないですよ。そういう状態で町民の皆さんに負担をかける。もっと自分たちが努力して、それでも足りないからお願いしますというのが筋であって、親方日の丸で使い放題しながら町民に負担をかける。水道料金というのは、もう上げざるを得ない状態なんですけど、恐らく20年近く料金も上がっていない、そういう状態ですから、上げなければ、ある程度の料金アップをしなければいけないと思うんですけど、現在のような状態で町民に負担をかけるこの条例案に対しては、私は反対です。

○議長（行沢弘栄君）

次に、本案に賛成者の発言を許します。

［「討論なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

これで討論を終わります。

これから、議案第19号、徳之島町給水条例の一部を改正する条例についてを採決します。この採決は起立によって行います。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

［賛成者起立］

○議長（行沢弘栄君）

起立多数です。したがって、議案第19号は原案のとおり可決されました。

しばらく休憩します。11時15分から再開します。

休憩　午前１１時０２分

再開　午前１１時１５分

○議長（行沢弘栄君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

△　日程第20　議案第20号　徳之島町水道事業の設置に関する条例の一部を改正する条例について

○議長（行沢弘栄君）

日程第20、議案第20号、徳之島町水道事業の設置に関する条例の一部を改正する条例についてを議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

○町長（高岡秀規君）

議案第20号の提案理由を御説明申し上げます。

本議案は、徳之島町水道事業の設置に関する条例の一部を改正する条例について、議会の議決を求める件であります。

内容は、地方自治法の一部改正に伴い改正するものであります。

何とぞ御審議の上、議決していただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（行沢弘栄君）

これから質疑を行います。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

［「討論なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

討論なしと認めます。

これから、議案第20号、徳之島町水道事業の設置に関する条例の一部を改正する条例についてを採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、議案第20号は原案のとおり可決されました。

△　日程第21　議案第21号　徳之島町過疎地域持続的発展市町村計画の一部変更について

○議長（行沢弘栄君）

日程第21、議案第21号、徳之島町過疎地域持続的発展市町村計画の一部変更についてを議題とします。

本件について、提案理由の説明を求めます。

○町長（高岡秀規君）

議案第21号の提案理由を御説明申し上げます。

本議案は、徳之島町過疎地域持続的発展市町村計画の一部変更について、議会の議決を求める件であります。

内容は、徳之島町過疎地域特別持続的発展市町村計画について、３、産業の振興の中で、漁協施設の老朽化や今後見込まれる観光客の増加に対応した新しい拠点施設としての整備計画を追記し、経営近代化施設については、現堆肥センターを島内資源の肥料利用促進のための拡充施設整備、機械導入を行う堆肥センター機能向上整備事業を追加いたしました。また、９、教育の振興において、生涯学習センターについて、老朽化に伴う長寿命化事業を追記いたしました。以上の計画書本文、文言を変更するものであります。

何とぞ御審議の上、議決していただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（行沢弘栄君）

これから質疑を行います。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

［「討論なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

討論なしと認めます。

これから、議案第21号、徳之島町過疎地域持続的発展市町村計画の一部変更についてを採決します。

お諮りします。本件は決定することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、議案第21号は可決されました。

△　日程第22　議案第22号　総合整備計画の一部変更について

○議長（行沢弘栄君）

日程第22、議案第22号、総合整備計画の一部変更についてを議題とします。

本件について、提案理由の説明を求めます。

○町長（高岡秀規君）

議案第22号の提案理由を御説明申し上げます。

本議案は、徳之島辺地に係る総合整備計画の一部変更について、議会の議決を求めるものであります。

内容は、市町村道橋梁施設・消防施設について、それぞれ事業費を変更するものであります。

何とぞ御審議の上、議決していただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（行沢弘栄君）

これから質疑を行います。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

［「討論なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

討論なしと認めます。

これから、議案第22号、総合整備計画の一部変更についてを採決します。

お諮りします。本件は決定することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、議案第22号は可決されました。

△　日程第23　議案第23号　徳之島町農業委員の選任について

△　日程第24　議案第24号　徳之島町農業委員の選任について

△　日程第25　議案第25号　徳之島町農業委員の選任について

△　日程第26　議案第26号　徳之島町農業委員の選任について

△　日程第27　議案第27号　徳之島町農業委員の選任について

△　日程第28　議案第28号　徳之島町農業委員の選任について

△　日程第29　議案第29号　徳之島町農業委員の選任について

△　日程第30　議案第30号　徳之島町農業委員の選任について

△　日程第31　議案第31号　徳之島町農業委員の選任について

△　日程第32　議案第32号　徳之島町農業委員の選任について

△　日程第33　議案第33号　徳之島町農業委員の選任について

△　日程第34　議案第34号　徳之島町農業委員の選任について

△　日程第35　議案第35号　徳之島町農業委員の選任について

△　日程第36　議案第36号　徳之島町農業委員の選任について

○議長（行沢弘栄君）

日程第23、議案第23号、徳之島町農業委員の選任についてを議題とします。

本件について、提案理由の説明を求めます。

○町長（高岡秀規君）

議案第23号について提案理由を御説明申し上げます。

本議案は、令和６年５月７日で任期満了になる農業委員会委員を、農業委員会等に関する法律第８条第１項の規定により、新たに議会の同意を得て任命を行うものであります。

14名の方々の住所・氏名・生年月日を申し上げます。

議案第23号につきましては、徳之島町亀津5241番地１、崎田広光、昭和39年５月17日生まれでございます。よろしく議決のほうお願いいたします。

○議長（行沢弘栄君）

高岡町長、一括で36号までお願いします。よろしくお願いします。

○町長（高岡秀規君）

分かりました。すいません。

議案第24号につきましては、徳之島町亀津2752番地１、鮫島徹三、昭和49年５月12日生まれでございます。

議案第25号につきましては、徳之島町亀津3167番地、嘉山杏奈、昭和61年７月22日生まれでございます。

議案第26号につきましては、徳之島町徳和瀬2095番地、里美幸、昭和55年２月27日生まれでございます。

議案第27号につきましては、徳之島町山1667番地２、林慶造、昭和40年５月28日生まれでございます。

議案第28号につきましては、徳之島町亀徳2184番地92、内博行、昭和54年１月６日生まれでございます。

議案第29号につきましては、徳之島町亀津4593番地23、藤田善文、昭和29年10月28日生まれでございます。

議案第30号につきましては、徳之島町亀津1113番地、白山明、昭和42年６月14日生まれでございます。

議案第31号につきましては、徳之島町花徳2168番地１、原田辰法、昭和32年５月19日生まれでございます。

議案第32号につきましては、徳之島町亀津4908番地、平山正也、昭和30年９月27日生まれでございます。

議案第33号につきましては、徳之島町母間3477番地、爲島良一、昭和29年11月15日生まれでございます。

議案第34号につきましては、徳之島町手々3220番地、嶺田正秀、昭和22年７月24日生まれでございます。

議案第35号につきましては、徳之島町母間8932番地、武島光子、昭和30年11月５日生まれでございます。

議案第36号につきましては、徳之島町轟木952番地、木場友広、昭和31年７月10日生まれの、以上14の議案の14名でございます。

なお、履歴につきましては、議案書に添付してありますので、お目通しください。

何とぞ御審議の上、同意していただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（行沢弘栄君）

これから質疑を行います。１件ごとにしますので、23号の。それでは、23号から一つ一つ行きますので、よろしくお願いします。

これから質疑を行います。

○１５番（大沢章宏君）

もちろん議案には賛成ですけども、ちょっと要望として、これだけの方がいらっしゃるので、その履歴書に顔写真とか載せるのは無理でしょうか。農業委員ってやっぱり結構重要な仕事ですので、なかなか町で会っても、身近な人は分かるんですけども、なかなかその辺は大事なあれだと思いますので、もし可能であればですね。総務課長、どんなもんですかね。

○農業委員会事務局長（藤　康裕君）

お答えいたします。

次期改選のときに、あらかじめ農業委員会の定例会に諮りまして、顔写真も載せてよろしいのかどうか諮ってみたいと思います。よろしくお願いします。

○議長（行沢弘栄君）

ほかに質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

［「討論なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

討論なしと認めます。

これから、議案第23号、徳之島町農業委員の選任についてを採決します。

お諮りします。本件はこれに同意することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、議案第23号は同意することに決定しました。（発言する者あり）

日程第24、議案第24号、徳之島町農業委員の鮫島徹三委員の選任についてを議題とします。

先ほど本件について、先ほど町長から議案第36までの一括して提案理由の説明がありましたので、これから質疑を行います。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

［「討論なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

討論なしと認めます。

これから、議案第24号、徳之島町農業委員、鮫島徹三委員の選任についてを採決します。

お諮りします。本件はこれに同意することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、議案第24号は同意することに決定しました。

日程第25、議案第25号、徳之島町農業委員、嘉山杏奈委員の選任についてを議題とします。

［14番　福岡兵八郎君　退場］

○議長（行沢弘栄君）

これから質疑を行います。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

［「討論なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

これから、議案第25号、徳之島町農業委員、嘉山杏奈委員の選任についてを採決します。

お諮りします。本件はこれに同意することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、議案第25号は同意することに決定しました。

［14番　福岡兵八郎君　入場］

○議長（行沢弘栄君）

日程第26、議案第26号、徳之島町農業委員、里美幸委員の選任について議題とします。

これから質疑を行います。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

［「討論なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

討論なしと認めます。

これから、議案第26号、徳之島町農業委員、里美幸委員の選任についてを採決します。

お諮りします。本件はこれに同意することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、議案第26号は同意することに決定しました。

日程第27、議案第27号、徳之島町農業委員、林慶造委員の選任についてを議題とします。

これから質疑を行います。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

［「討論なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

討論なしと認めます。

これから、議案第27号、徳之島町農業委員、林慶造委員の選任についてを採決します。

お諮りします。本件はこれに同意することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、議案第27号は同意することに決定しました。

日程第28、議案第28号、徳之島町農業委員、内博行委員の選任についてを議題とします。

地方自治法第117条の規定によって、内博行議員の退場を求めます。

［１番　内　博行君　退場］

○議長（行沢弘栄君）

これから質疑を行います。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

［「討論なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

討論なしと認めます。

これから、議案第28号、徳之島町農業委員、内博行委員の選任についてを採決します。

お諮りします。本件はこれに同意することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、議案第28号は同意することに決定しました。

［１番　内　博行君　入場］

○議長（行沢弘栄君）

日程第29、議案第29号、徳之島町農業委員、藤田喜文委員の選任についてを議題とします。

これから質疑を行います。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

［「討論なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

討論なしと認めます。

これから、議案第29号、徳之島町農業委員、藤田喜文委員の選任についてを採決します。

お諮りします。本件はこれに同意することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、議案第29号は同意することに決定しました。

日程第30、議案第30号、徳之島町農業委員、白山明委員の選任についてを議題とします。

これから質疑を行います。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

［「討論なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

討論なしと認めます。

これから、議案第30号、徳之島農業委員、白山明委員の選任についてを採決します。

お諮りします。本件はこれに同意することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、議案第30号は同意することに決定しました。

日程第31号、議案第31号、徳之島町農業委員、原田辰法委員の選任についてを議題とします。

これから質疑を行います。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

［「討論なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

討論なしと認めます。

これから、議案第31号、徳之島町農業委員、原田辰法委員の選任についてを採決します。

お諮りします。本件はこれに同意することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、議案第31号は同意することに決定しました。

日程第32、議案第32号、徳之島町農業委員、平山正也委員の選任についてを議題とします。

これから質疑を行います。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

［「討論なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

討論なしと認めます。

これから、議案第32号、徳之島町農業委員、平山正也委員の選任についてを採決します。

お諮りします。本件はこれに同意することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、議案第32号は同意することに決定しました。

日程第33、議案第33号、徳之島町農業委員、爲島良一委員の選任についてを議題とします。

これから質疑を行います。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

［「討論なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

討論なしと認めます。

これから、議案第33号、徳之島町農業委員、爲島良一委員の選任についてを採決します。

お諮りします。本件はこれに同意することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、議案第33号は同意することに決定しました。

日程第34、議案第34号、徳之島町農業委員、嶺田正秀委員の選任についてを議題とします。

これから質疑を行います。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

［「討論なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

討論なしと認めます。

これから、議案第34号、徳之島町農業委員、嶺田正秀委員の選任についてを採決します。

お諮りします。本件はこれに同意することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、議案第34号は同意することに決定しました。

日程第35、議案第35号、徳之島町農業委員、武島光子委員の選任についてを議題とします。

これから質疑を行います。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

［「討論なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

討論なしと認めます。

これから、議案第35号、徳之島町農業委員、武島光子委員の選任についてを採決します。

お諮りします。本件はこれに同意することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、議案第35号は同意することに決定しました。

日程第36、議案第36号、徳之島町農業委員、木場友広委員の選任についてを議題とします。

これから質疑を行います。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

［「討論なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

討論なしと認めます。

これから、議案第36号、徳之島町農業委員、木場友広委員の選任についてを採決します。

お諮りします。本件はこれに同意することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、議案第36号は同意することに決定しました。

△　日程第37　議案第37号　令和５年度一般会計補正予算（第７号）について

○議長（行沢弘栄君）

日程第37、議案第37号、令和５年度一般会計補正予算（第７号）についてを議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

○町長（高岡秀規君）

議案第37号の提案理由を御説明申し上げます。

本議案は、令和５年度一般会計補正予算（第７号）について、議会の議決を求める件であります。

内容は、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ１億2,897万5,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ98億995万2,000円とするものであります。

歳入の主な内容は、国庫支出金１億9,343万4,000円、地方消費税交付金5,788万6,000円、地方交付税5,042万2,000円などの増額、町債9,290万円、繰入金8,722万7,000円、寄附金4,496万4,000円などの減額であります。

歳出の主な内容は、民生費１億1,920万6,000円、土木費4,183万8,000円、教育費3,705万6,000円などの増額、総務費4,062万7,000円、衛生費1,646万1,000円、農林水産業費1,113万4,000円などの減額であります。

なお、事項別明細につきましては、審議の段階で御説明申し上げます。

何とぞ御審議の上、議決していただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（行沢弘栄君）

質疑の前に、前日に補正予算説明会を行いました。

これから質疑を行います。

○３番（宮之原剛君）

昨日、補正予算の説明をしていただきましたけども、ちょっと踏み込んでお伺いと、また要望になるかと思いますけども、よろしくお願いをいたします。

１件だけですね。事項別明細書の25ページであります。款項目節、３、１、10の18と、それから、３、１、11の18、２か所ありますけども、国からの補助金で100％の補助金なんですけども、繰越明許また継続事業ということで、年度をまたがるということでお聞きしておりますが、まず、３、１、10の18の3,300万ですね。補助金、住民税均等割の給付金なんですけども、この対象者、大体計算しますと７万円ですから、470世帯ぐらいですかね。そういう感じになると思うんですが、この方々へ、対象者への案内ですね。４月初めに届くかという昨日のお話でございましたけども、案内からまた給付までの間のタイムスケジュールですね。流れ、書類等のも含めてお聞きしたいと思います。よろしくお願いします。

○介護福祉課長（廣　智和君）

宮之原議員の御質問にお答えいたします。

まず、事項別明細書25ページの目10の給付金事業についてですけれども、これは均等割のみの世帯の方なんですけれども、１世帯10万円になります。ですので、330世帯を今、見込んでいるといったところになります。

また、スケジュールということなんですけれども、昨日も御説明いたしましたけれども、４月上旬、なるべく早い時期に確認書というものを発送して、手元に届きまして、その後、給付事務を行って、６月末締切りを考えているところでございます。

また、案内としましては、４月号の広報ですね。４月頭に配られますそちらに、まず掲載されます。

以上です。またホームページ等でも検討していきたいと思いますので、またよろしくお願いいたします。

○３番（宮之原剛君）

10万円ということで、330世帯ということだということですね。これ、なぜちょっとお聞きしたかったかというと、町民の方からちょっと声が出ておりまして、高齢者それから独り暮らしの方等、見守りとかヘルパーさんが行かれたときに、その案内の通知が来ていて、それがそのまま開かずに、もう置いたままになっているというとこがあったりして、それで、来られた方が気がついて、ちょっと教えてあげたり、手助けしてあげて申請を出したとかいうこともあるということでございますので、このように10万というと結構大きなお金でありますから、やはり年金暮らしの人って本当３万、４万、５万で生活されておりますのでね。もらえる方がもらえないというのは非常にいかがなものかと思いますので、その点もらえなかったということが極力ないように、そのフォローをしていただきたいと思いますが、課長、どうでしょうか。

○介護福祉課長（廣　智和君）

お答えいたします。

全給付金においても防災無線等を何回か放送いたしまして、広報等も何回も載せているところでありますが、どうしても申請に来られない方がいらっしゃいまして、ただ、システム上といいますか、通知については、こちらから吸い上げた住所のみの連絡先で送っておりますので、なかなかフォロー100％とまではいかないかとも思いますけれども、なるべく関係機関等も通じて、そういうことのないように、またフォローしていただくようにしていきたいと思います。

以上です。

○３番（宮之原剛君）

以前の７万円の12月補正してもらっている部分に関しては、2,400世帯と大きな対象者でありました。今回は330世帯ですか、ということで少ないですので、漏れがないように、関係機

関、社会福祉協議会等は、ヘルパーさんの訪問とか訪問介護、それから、民生委員も抱えておりますので、社協あたりにもちょっと声かけをして、そこら辺また訪問したときに、気がついたら手助けしていただきたいというふうなことも含めてお願いしたいと思います。これは要望です。

以上です。

○議長（行沢弘栄君）

ほかに質疑はありませんか。

○８番（勇元勝雄君）

要望として聞いてもらいたいと思います。

昨日の補正予算の審査でも言いましたけど、低所得者所帯給付金は２つの事業がありました。昨日の説明でも百何十名かの方がまだ、もうもらえないわけですよね。ある程度役場のほうでは来ていない方を把握できるわけですから、役場のほうでは名前も分かるわけですよね。再度はがきを出すとか、直接、民生委員の方もいらっしゃいますから、そういう手だてをしてもらわなければ、せっかくのもらえる金がもらえない。実際、老人の方の場合は、３万、４万の金は一月分の生活費に該当するわけですよね。職員も仕事量が多いと思いますけど、今後、なるべくもらえないという方がいないような手だてをしてもらいたい。

そして、予算なんですけど、非常に予算の減額が多い。せっかくの事業、予算を組みながら、人がいないからできないとか、そういうことじゃなくて、予算を組む場合は、もっと事前の調査をして、ある程度予算の消化ができるようなことをしなければ、せっかくふるさと納税の金を使っていろいろ事業をやっていますけど、人が集まらなかったから事業ができないとか、そういう状態がないように、もっと計画性を持ってやってもらいたい。よろしくお願いします。

○議長（行沢弘栄君）

ほかに質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

［「討論なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

討論なしと認めます。

これから、議案第37号、令和５年度一般会計補正予算（第７号）について採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、議案第37号は原案のとおり可決されました。

△　日程第38　議案第38号　令和５年度国民健康保険事業特別会計補正予算（第３号）について

○議長（行沢弘栄君）

日程第38、議案第38号、令和５年度国民健康保険事業特別会計補正予算（第３号）についてを議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

○町長（高岡秀規君）

議案第38号の提案理由を御説明申し上げます。

本議案は、令和５年度国民健康保険事業特別会計補正予算（第３号）について、議会の議決を求める件であります。

内容は、歳入歳出予算の総額から歳入歳出それぞれ103万5,000円を減額し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ15億6,690万2,000円とするものであります。

歳入の内容は、諸収入134万2,000円の増額、繰入金236万円、県支出金１万7,000円の減額であります。

歳出の内容は、総務費50万5,000円、保険事業費36万円、保険給付費17万円の減額であります。

なお、事項別明細につきましては、審議の段階で御説明申し上げます。

何とぞ御審議の上、議決していただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（行沢弘栄君）

質疑の前に、前日に補正予算事前説明会を行っております。

これから質疑を行います。

○８番（勇元勝雄君）

５ページの６、１、２のがんドック助成金、恐らくこれは30万円だったと思いますけど、27万減になったその理由は、どのような理由があるのかお伺いいたします。

○健康増進課長（田畑和也君）

お答えいたします。

当初45万組んでおりましたが、５年度の令和６年２月末現在、４件来まして、あと残りの分を27万減額しております。検査費用は12万で、検査費用の補助を３万円しております。

以上です。

○８番（勇元勝雄君）

その理由ですよね。それは人が募集がなかったとか、申請がなかったとかはあるでしょうけど、もっと12万円に対して３万、なるべくもうちょっと金を上げて半額とか、５万とか半額、そうしてもっと広報をしなければ、一般の方、分からない方がいっぱいいるんですよね。こういう事業もありますということをもっと広報紙なり防災無線なりで、こうして予算がせっかくの助成ですから、がんで亡くなる方もいっぱいいます。早期発見、また、保険税でも響きますから、そういう手だてをしてもらいたい。これは要望でよろしいです。

○議長（行沢弘栄君）

ほかに質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

［「討論なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

討論なしと認めます。

これから、議案第38号、令和５年度国民健康保険事業特別会計補正予算（第３号）について採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、議案第38号は原案のとおり可決されました。

△　日程第39　議案第39号　令和５年度介護保険事業特別会計補正予算（第４号）について

○議長（行沢弘栄君）

日程第39、議案第39号、令和５年度介護保険事業特別会計補正予算（第４号）についてを議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

○町長（高岡秀規君）

議案第39号の提案理由を御説明申し上げます。

本議案は、令和５年度介護保険事業特別会計補正予算（第４号）について、議会の議決を求める件であります。

内容は、歳入歳出予算の総額から歳入歳出それぞれ3,835万円を減額し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ11億5,083万6,000円とするものであります。

歳入の内容は、繰入金1,388万円、支払基金交付金1,007万3,000円、国庫支出金964万2,000円、県支出金475万5,000円の減額であります。

歳出の内容は、保険給付費3,419万4,000円、地域支援事業費381万6,000円、総務費34万円の減額であります。

なお、事項別明細につきましては、審議の段階で御説明申し上げます。

何とぞ御審議の上、議決していただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（行沢弘栄君）

これから質疑を行います。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

［「討論なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

討論なしと認めます。

これから、議案第39号、令和５年度介護保険事業特別会計補正予算（第４号）についてを採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、議案第39号は原案のとおり可決されました。

△　日程第40　議案第40号　令和５年度公共下水道事業特別会計補正予算（第４号）について

○議長（行沢弘栄君）

日程第40、議案第40号、令和５年度公共下水道事業特別会計補正予算（第４号）についてを議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

○町長（高岡秀規君）

議案第40号の提案理由を御説明申し上げます。

本議案は、令和５年度公共下水道事業特別会計補正予算（第４号）について、議会の議決を求める件であります。

内容は、歳入歳出予算の総額から歳入歳出それぞれ17万円を減額し、歳入歳出予算の総額を

歳入歳出それぞれ３億4,560万9,000円とするものであります。

歳入の内容は、繰入金133万8,000円の増額、使用料及び手数料150万8,000円の減額であります。

歳出の内容は、総務費12万4,000円、事業費５万2,000円の減額であります。

なお、事項別明細につきましては、審議の段階で御説明申し上げます。

何とぞ御審議の上、議決していただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（行沢弘栄君）

これから質疑を行います。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

［「討論なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

討論なしと認めます。

これから、議案第40号、令和５年度公共下水道事業特別会計補正予算（第４号）について採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、議案第40号は原案のとおり可決されました。

△　日程第41　議案第41号　令和５年度後期高齢者医療特別会計補正予算（第３号）について

○議長（行沢弘栄君）

日程第41、議案第41号、令和５年度後期高齢者医療特別会計補正予算（第３号）についてを議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

○町長（高岡秀規君）

議案第41号の提案理由を御説明申し上げます。

本議案は、令和５年度後期高齢者医療特別会計補正予算（第３号）について、議会の議決を求める件であります。

内容は、歳入歳出予算の総額から歳入歳出それぞれ211万9,000円を減額し、歳入歳出予算の

総額を歳入歳出それぞれ１億3,800万8,000円とするものであります。

歳入の内容は、後期高齢者医療保険料83万9,000円の増額、諸収入254万4,000円、繰入金41万4,000円の減額であります。

歳出の内容は、後期高齢者医療広域連合給付金83万9,000円の増額、保険事業費295万7,000円、総務費1,000円の減額であります。

なお、事項別明細につきましては、審議の段階で御説明申し上げます。

何とぞ御審議の上、議決していただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（行沢弘栄君）

これから質疑を行います。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

［「討論なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

討論なしと認めます。

これから、議案第41号、令和５年度後期高齢者医療特別会計補正予算（第３号）について採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、議案第41号は原案のとおり可決されました。

△　日程第42　議案第42号　令和５年度水道事業会計補正予算（第４号）について

○議長（行沢弘栄君）

日程第42、議案第42号、令和５年度水道事業会計補正予算（第４号）についてを議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

○町長（高岡秀規君）

議案第42号の提案理由を御説明申し上げます。

本議案は、令和５年度水道事業会計補正予算（第４号）について、議会の議決を求める件であります。

内容は、収益的収入におきまして、営業外収益3,279万7,000円の増額であります。収益的支

出におきまして、営業外費用2,375万円、営業費用904万7,000円の増額であります。

また、資本的収入におきまして、企業債１億4,100万円の増額であります。資本的支出におきまして、建設改良費252万9,000円の増額であります。

なお、事項別明細につきましては、審議の段階で御説明申し上げます。

何とぞ御審議の上、議決していただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（行沢弘栄君）

これから質疑を行います。

○１０番（池山富良君）

水道会計についてちょっとお伺いします。先ほど８％の値上げというのがありましたけども、水道というのは人間の命の源なんです。人も動物も木も水がないと生きれない。そして。８％値上げとかそうじゃなくて、町民の皆さんが納得して払えるような水道説明をしないと、現段階でほとんど水道会計は一般会計から繰入れして使っているんです。本当に赤字なんですよね。そういったことを町民の皆さんに、新聞でもいいでしょう。町の便りでもいいでしょう。そういったので恐らく50％値上げしないと、水道会計はもたないと思うんですよね。そういったことを町民の皆さんに分かっていただいて、８％じゃなくて20％でもいいでしょう。そうしないと町の財政が持たないということを町民の皆さんに分かっていただいて、そして、町民の皆さんが納得して払っていくような水道会計にしないと、今後ますます大変なことになると思うんです。ぜひ、町長以下、課長の皆さんにお願いだけども、こういったことを新聞報道でぜひ町民の皆さんにお願いをして、町民の皆さんが納得して払うような水道事業に、健全な水道事業にもっていてもらいたいと思います。これはお願いと要望です。よろしくお願いします。

○議長（行沢弘栄君）

ほかに質疑はありませんか。

○８番（勇元勝雄君）

今度の予算で、300万の薬品費が出ています。他町より、伊仙、天城よりも１缶400円アップで取っている金額、年間の差額の金額とある程度合致をします。この予算に対して私は反対はできませんけど、薬品がなかったら消毒はできないわけですよね。そういう点も踏まえ、来年度はこういうことがないように一生懸命頑張ってもらいたい。

以上です。これは要望です。

○議長（行沢弘栄君）

ほかに質疑はありませんか。

○１１番（是枝孝太郎君）

伺います。収益的収入及び支出、２ページです。支出に関してですけど、総係費、委託料150万、この委託料は、どちらに委託をして150万を支払っているのか伺います。

○水道課長（保久幸仁君）

委託料150万円ですが、この150万円につきましては、第１浄水場の取水のほうを神嶺ダムのほうから水を頂いております。その神嶺ダムからの導水管が漏水の可能性があるということで話がありまして、その調査費用といたしまして、150万円委託料として、漏水調査会社のほうの委託料として予算を計上しております。

○１１番（是枝孝太郎君）

その会社の所在地はどこでしょうか。

○水道課長（保久幸仁君）

鹿児島県の垂水市の会社になっております。

○８番（勇元勝雄君）

神嶺ダムの導水管の漏水調査だったら、耕地課と一緒にやらなければいけないんじゃないですかね。神嶺ダムの関係で36.4％ですか。水道課が負担しなければならないという規則はありますけど、耕地課のほうで漏水調査の予算は組んでいるでしょうか。

○耕地課長（水野　毅君）

お答えいたします。

耕地課のほうでは、漏水調査の予算は組んでおりません。

○８番（勇元勝雄君）

そういう点が水道課はおかしいと思うんですよ。負担割合があるわけですから、導水管は耕地課と水道課で負担しなければならない。この予算に対しては、今、是枝議員から質問があって気づいたんですけど、なぜ水道課だけでやらなければいけないか、その理由をお伺いいたします。

○水道課長（保久幸仁君）

この委託料に関しましては、今年の１月上旬に、神嶺ダムの水位の低下に伴う喫緊の現状がありまして、水道課のほうでやはり神嶺ダムからの取水につきましては、水道というインフラ関係に使用しておりますので、喫緊の状況ということで、導水管の調査委託料として予算のほうを計上したところであります。

○議長（行沢弘栄君）

ほかに質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

まず、本案に反対者の発言を許します。

○８番（勇元勝雄君）

今まではこの委託料というのは分からなかったわけで、実際これは耕地課と負担割合で出すべき金であって、今から漏水調査を入札をして、委託をしてできる期間がないんですよね。そういうことに対して、この予算に対して私は反対いたします。

○議長（行沢弘栄君）

次に、本案に賛成者の発言を許します。

○１１番（是枝孝太郎君）

特定はしませんけど、亀津全域の水道事業において、亀津の人たちに対して神嶺ダムから補給をしていると。そういう点で、確実に亀津の人たちのライフラインを徹底して調べていただいて、水の確保をして、そして、環境にすばらしい水の提供をしていただきたいという点において、これは正当性があるということで、私は賛成します。

○議長（行沢弘栄君）

次に、反対者の発言を許します。

［「討論なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

これで討論を終わります。

これから、議案第42号、令和５年度水道事業会計補正予算（第４号）について採決します。この採決は起立によって行います。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は御起立お願いします。

［賛成者起立］

○議長（行沢弘栄君）

起立多数です。したがって、議案第42号は原案のとおり可決されました。

△　日程第43　議案第43号　令和６年度一般会計歳入歳出予算について

△　日程第44　議案第44号　令和６年度国民健康保険事業特別会計歳入歳出予算について

△　日程第45　議案第45号　令和６年度介護保険事業特別会計歳入歳出予算について

△　日程第46　議案第46号　令和６年度後期高齢者医療特別会計歳入歳出予算について

△　日程第47　議案第47号　令和６年度水道事業会計歳入歳出予算について

△　日程第48　議案第48号　令和６年度下水道事業会計歳入歳出予算につ

いて

○議長（行沢弘栄君）

日程第43、議案第43号、令和６年度一般会計歳入歳出予算についてから日程第48、議案第48号、令和６年度下水道事業会計歳入歳出予算についてまで、以下６件を一括議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

○町長（高岡秀規君）

令和６年度当初予算書を提出するに当たり、予算編成における主な方針と予算の概要を説明申し上げ、議会の皆様の御理解と御協力をお願い申し上げます。

令和６年度の予算編成に当たって、財源不足を解消するとともに、歳入に見合った歳出とし、継続可能な財政構造の確立を目指します。そのため歳入面では、国や県の情報を収集し共有化を図るとともに、全職員が新たに活用できる補助制度等を検討することや自主財源の確保につながる施策に取り組む必要がございます。

歳出面では、これまで以上に義務的経費の抑制に努め、物件費、補助費等については、シーリングを設定して予算編成を行いました。また、拠出金の抑制・削減に取り組むほか、公共施設の長寿命化計画等の策定による年次的改修計画など、維持・補修経費への特定財源の確保に努め、本町が実施している各種施策を実りあるものとするため、最小の経費で最大の行政効果を目標に掲げ、限られた財源でより質の高い行政サービスを提供することなどを主な方針といたしました。

下水道事業会計につきましては、令和６年度より地方公営企業法の財務規定等を適用するに当たり、これまでの農業集落排水事業特別会計及び公共下水道事業特別会計が一本化になります。

令和６年度の一般会計の当初予算は87億8,710万円で、前年度当初予算に対し4.6％、金額にして３億8,257万円の増額予算であります。

予算編成では主な施策を実施するに当たり、財政調整基金、ふるさと思いやり基金等の繰入れを行いました。公債費につきましては、昨年度より実施している東天城中学校建設事業債、公共施設等の更新・改修による地方債の借入れにより今後も増加することが予想されます。経常収支比率につきましては、昨年度より若干改善が図られているものの、依然として硬直化が進んでおりますので、引き続き税収等の一般財源の確保や経常的経費の削減を図り、財政の健全化に努めてまいります。

主な歳入の概要を、前年度当初予算対比で御説明申し上げます。

町税は896万4,000円の増額、主に法人住民税、市町村タバコ税の増額であります。

国庫支出金は１億3,465万円の増額、主に東天城中学校建設事業における公立学校施設環境改善交付金の増額であります。

県支出金は１億2,520万5,000円の増額、主に奄美群島成長戦略推進交付金活用事業の増加による県補助金の増額であります。

繰入金は7,658万7,000円の増額、主に財政調整基金繰入金による増額であります。

諸収入は5,042万7,000円の増額、主に学校給食費の公会計化に伴う給食費の増額であります。

町債は8,210万円の減額、主に東天城中学校建設事業における東天城中学校建設事業債の減額であります。

次に、歳出の概要を、前年度当初予算対比で御説明申し上げます。

議会費は202万3,000円の減額、主に旅費の減額であります。

総務費は１億4,733万5,000円の増額、主にふるさと納税推進事業アンダーシービレッジ整備事業による増額であります。

民生費は3,003万9,000円の増額、主に児童手当制度の改正・拡充による増額であります。

衛生費は2,286万8,000円の減額、主に新型コロナウイルスワクチン接種体制確保事業による減額であります。

農林水産業費は8,435万9,000円の増額、主に畜産クラスター施設整備事業、畜産基盤再編総合整備事業による増額であります。

商工費は1,276万円の増額、主に観光コンテンツ造成事業に係る増額であります。

土木費は719万9,000円の増額、主に防災安全社会資本整備事業による増額であります。

消防費は9,250万1,000円の増額、主に水槽付消防ポンプ自動車導入事業による増額であります。

教育費は7,677万3,000円の増額、主に学校給食費の公会計化による増額であります。

公債費は4,384万3,000円の減額、町債元金償還金の減額であります。

続きまして、特別会計の当初予算は、それぞれ次のようになっております。

国民健康保険事業特別会計14億1,919万3,000円、前年度比8.9％の減額。

介護保険事業特別会計10億4,641万8,000円、前年度比3.5％の減額。

後期高齢者医療特別会計１億5,159万9,000円、前年度比8.2％の増額。

水道事業会計のうち収益的収入及び支出は４億2,376万5,000円、前年度比9.1％の増額。資本的支出は４億8,243万2,000円、前年度比36.1％の減額であります。

下水道事業会計は、収益的収入及び支出は２億9,220万6,000円、資本的支出は４億7,636万6,000円でありました。

以上、令和６年度の当初予算案の概要を申し上げました。

何とぞ御審議くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（行沢弘栄君）

以上で、提案理由の説明を終わります。

これから６件について総括質疑を行います。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

質疑なしと認めます。

お諮りします。本予算案６件については、議長を除く15名の委員で構成する令和６年度予算審査特別委員会を設置し、これに付託して審査することにしたいと思います。御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、本予算案６件については、議長を除く15名の委員で構成する令和６年度予算審査特別委員会を設置し、これに付託して審査することに決定しました。

委員会条例第８条第２項の規定により、委員長及び副委員長は委員会において互選することになっております。

互選のため、しばらく休憩します。

休憩　午後　０時１８分

再開　午後　０時１９分

○議長（行沢弘栄君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

ただいま予算審査特別委員会の委員長及び副委員長が決定しましたので、御報告いたします。

委員長に総務文教厚生常任委員会委員長の富田良一議員、副委員長に経済建設常任委員会委員長の竹山成浩議員が決定しました。

以上で、本日の日程は全部終了しました。

本日は、これで散会いたします。お疲れさまでした。

散　会　午後　０時１９分

令和６年第１回徳之島町議会定例会

第５日

令和６年３月14日

令和６年第１回徳之島町議会定例会会議録

令和６年３月14日（木曜日）　午後３時　開議

１．議事日程（第５号）

○開　議

○日程第　１　議案第４３号　令和６年度一般会計歳入歳出予算について
……（予算審査特別委員長報告）

○日程第　２　議案第４４号　令和６年度国民健康保険事業特別会計歳入歳出予算について　……（予算審査特別委員長報告）

○日程第　３　議案第４５号　令和６年度介護保険事業特別会計歳入歳出予算について　……（予算審査特別委員長報告）

○日程第　４　議案第４６号　令和６年度後期高齢者医療特別会計歳入歳出予算について　……（予算審査特別委員長報告）

○日程第　５　議案第４７号　令和６年度水道事業会計歳入歳出予算について
……（予算審査特別委員長報告）

○日程第　６　議案第４８号　令和６年度下水道事業会計歳入歳出予算について
……（予算審査特別委員長報告）

○日程第　７　陳情第　３号　自衛隊誘致に関する陳情について
……（総務文教厚生常任委員長）

○日程第　８　発議第　１号　徳之島に於ける自衛隊関連施設整備に関する意見書
……（富田　良一　外１名）

○日程第　９　発議第　２号　徳之島町議会基本条例の一部を改正する条例について　……（徳田　　進　外４名）

○日程第１０　議員派遣の件

○日程第１１　議会運営委員会の閉会中の所掌事務調査の申し出について
……（議会運営委員長）

○閉　会

１．本日の会議に付した事件

○議事日程記載事件のとおり

１．出席議員（１６名）

議席番号	氏　名	議席番号	氏　名
１番	内　博行　君	２番	政田　正武　君
３番	宮之原　剛　君	４番	植木　厚吉　君
５番	竹山　成浩　君	６番	松田　太志　君
７番	富田　良一　君	８番	勇元　勝雄　君
９番	徳田　進　君	１０番	池山　富良　君
１１番	是枝　孝太郎　君	１２番	広田　勉　君
１３番	木原　良治　君	１４番	福岡　兵八郎　君
１５番	大沢　章宏　君	１６番	行沢　弘栄　君

１．欠席議員（０名）

１．出席事務局職員

事務局長	清原美保子　君	主　査	稲村よう子　君

１．地方自治法第121条の規定により説明のため出席した当局職員の職氏名

職　名	氏　名	職　名	氏　名
町　長	高岡秀規　君	副町長	幸野善治　君
教育長	福　宏人　君	総務課長	村上和代　君
企画課長	吉田　忍　君	建設課長	清山勝志　君
花徳支所長	尚　康典　君	農林水産課長	高城博也　君
耕地課長	水野　毅　君	地域営業課長	清瀬博之　君
農委事務局長	藤　康裕　君	学校教育課長補佐	貞　優樹　君
社会教育課長	茂岡勇次　君	介護福祉課長	廣　智和　君
健康増進課長	田畑和也　君	おもてなし観光課長	吉田広和　君
税務課長	新田良二　君	住民生活課長	大山寛樹　君
選管事務局長	白坂貴仁　君	会計管理者・会計課長	当　洋子　君
水道課長	保久幸仁　君		

△　**開　議**　午後　３時００分

○議長（行沢弘栄君）

こんにちは。

これから本日の会議を開きます。

会議に入る前に、大山住民生活課長より、３月８日の議案第11号、徳之島町印鑑条例の一部を改正する条例についての訂正答弁を頂きます。

○住民生活課長（大山寛樹君）

お疲れさまです。

３月８日に答弁いたしました印鑑条例の一部を改正する条例について、訂正いたします。

マイナンバーカード保有者が、スマートフォン・Ａｎｄｒｏｉｄに新たに利用者証明用電子証明書を登載することで、コンビニエンスストアでのマイナンバーカードなしでスマートフォンでの印鑑登録証明書を取得することができることになり、それに伴う条例改正となります。

すみませんでした。

△　日程第１　議案第43号　令和６年度一般会計歳入歳出予算について

△　日程第２　議案第44号　令和６年度国民健康保険事業特別会計歳入歳出予算について

△　日程第３　議案第45号　令和６年度介護保険事業特別会計歳入歳出予算について

△　日程第４　議案第46号　令和６年度後期高齢者医療特別会計歳入歳出予算について

△　日程第５　議案第47号　令和６年度水道事業会計歳入歳出予算について

△　日程第６　議案第48号　令和６年度下水道事業会計歳入歳出予算について

○議長（行沢弘栄君）

日程第１、議案第43号、令和６年度一般会計歳入歳出予算についてから日程第６、議案第48号、令和６年度下水道事業会計歳入歳出予算についてまで、以上６件を一括議題とします。

本案について、予算審査特別委員長の報告を求めます。

○予算審査特別委員長（富田良一君）

報告いたします。

令和６年度一般会計歳入歳出予算並びに５特別会計歳入歳出予算について、予算審査特別委員会での審査の経過と結果について御報告申し上げます。

当委員会は、去る３月８日に委員会を招集し、８日、12日、13日に一般会計の審査並びに特別会計の審査を行いました。３日間にわたって町長をはじめ、副町長、総務課長並びに各担当課長、財政担当及び各課担当職員の出席を求め、説明資料に基づいて審査をいたしました。

審査の経過については、審査終了後、議長へ報告しており、内容については御承知のことですから省略いたします。

結果について、これから報告いたします。

議案第44号、令和６年度国民健康保険事業特別会計歳入歳出予算、議案第45号、令和６年度介護保険事業特別会計歳入歳出予算、議案第46号、令和６年度後期高齢者医療特別会計歳入歳出予算、議案第48号、令和６年度下水道事業会計歳入歳出予算、以上４件については、全会一致で原案のとおり可決すべきものと決定しました。

議案第43号、令和６年度一般会計歳入歳出予算、議案第47号、令和６年度水道事業会計歳入歳出予算については、賛成多数で原案のとおり可決すべきものと決定しました。

以上で、令和６年度予算審査特別委員会の審査の経過と結果についての報告を終わります。

○議長（行沢弘栄君）

これから、委員長報告に対する質疑を行います。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

質疑なしと認めます。

これから、議案第43号、令和６年度一般会計歳入歳出予算について討論を行います。

［「討論なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

討論なしと認めます。

これから、議案第43号、令和６年度一般会計歳入歳出予算についてを採決します。本案に対する委員長報告は原案可決です。

お諮りします。議案第43号は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、議案第43号は原案のとおり可決されました。

これから、議案第44号、令和６年度国民健康保険事業特別会計歳入歳出予算について討論を行います。

［「討論なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

討論なしと認めます。

これから、議案第44号、令和６年度国民健康保険事業特別会計歳入歳出予算についてを採決します。本案に対する委員長の報告は原案可決です。

お諮りします。議案第44号は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、議案第44号は原案のとおり可決されました。

これから、議案第45号、令和６年度介護保険事業特別会計歳入歳出予算について討論を行います。

［「討論なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

討論なしと認めます。

これから、議案第45号、令和６年度介護保険事業特別会計歳入歳出予算についてを採決します。本案に対する委員長の報告は原案可決です。

お諮りします。議案第45号は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、議案第45号は原案のとおり可決されました。

これから、議案第46号、令和６年度後期高齢者医療特別会計歳入歳出予算について討論を行います。

［「討論なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

討論なしと認めます。

これから、議案第46号、令和６年度後期高齢者医療特別会計歳入歳出予算についてを採決します。本案に対する委員長の報告は原案可決です。

お諮りします。議案第46号は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、議案第46号は原案のとおり可決されました。

これから、議案第47号、令和６年度水道事業会計歳入歳出予算について討論を行います。

まず、原案に反対者の発言を許します。

○８番（勇元勝雄君）

この水道事業会計の薬剤に対しては去年から指摘していました。伊仙町・天城町よりも400円高いから、伊仙町・天城町に合わせてくれないかというお願いもしました。それで大体年間

300万円、徳之島町は損失を受けているわけですけれど、また今年度の予算も同じような単価で予算書を提出しています。

この間、水道課長から聞いた単価では次亜塩素パック両方で850万円ぐらいの差額が出ます。現在、水道事業は年間２億5,000万円近くの赤字を出しながら、こういう予算書を議会のほうに出すというのを私は非常に疑問に思います。役場のミスによって町民に負担をかける、これが全部水道代に跳ね返るわけですから。そのような理由で、私はこの水道会計には反対いたします。

○議長（行沢弘栄君）

次に、原案に賛成者の発言を許します。

［「討論なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

これで、討論を終わります。

これから、議案第47号、令和６年度水道事業会計歳入歳出予算についてを採決します。この採決は起立によって行います。本案に対する委員長の報告は原案可決です。

議案第47号は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

［賛成者起立］

○議長（行沢弘栄君）

起立多数であります。したがって、議案第47号は原案のとおり可決されました。

これから、議案第48号、令和６年度下水道事業会計歳入歳出予算について討論を行います。

［「討論なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

討論なしと認めます。

これから、議案第48号、令和６年度下水道事業会計歳入歳出予算についてを採決します。本案に対する委員長の報告は原案可決です。

お諮りします。議案第48号は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、議案第48号は原案のとおり可決されました。

△　日程第７　陳情第３号　自衛隊誘致に関する陳情について

○議長（行沢弘栄君）

日程第７、陳情第３号、自衛隊誘致に関する陳情について、議題とします。

本件について、委員長の報告を求めます。

○総務文教厚生常任委員長（富田良一君）

ただいま議題となりました陳情第３号、自衛隊誘致に関する陳情について、総務文教厚生常任委員会における審査の経過と結果について御報告申し上げます。

当委員会は、去る３月６日の本会議散会後、委員会を開催し、審査をいたしました。

陳情の趣旨は、近年、ロシアによるウクライナ侵攻や中国による軍事的海洋進出の懸念など、日本周辺を取り巻く国際情勢は混迷を極め、我々南西諸島の島々は地政学的にも重要な位置にあり、諸外国の軍事的動静に対し予断を許さない状況に置かれている。

そのような現状の中、日本の国防の要である自衛隊組織において、我が徳之島には自衛隊に関する施設がいまだ設置されておらず、南西諸島一帯においての空白地となっている。

また、徳之島は、九州本土と沖縄を結ぶ海路・空路の中継拠点として最適な位置にあり、昨年からは自衛隊演習の拠点としても活用されていることや、奄美諸島は台風等の自然災害常襲地帯であることからも、自衛隊の常駐は大きな意義を持つと考えられます。

こうした観点から、議会における自衛隊関連施設の誘致活動の推進や、防衛省等関係各機関に対し、自衛隊関連施設誘致の意見書の提出をしていただきたいというものであります。

当委員会としては、これを採択して意見書を提出すべきという意見が出され、全会一致をもって採択すべきものと決定しました。

以上で報告を終わります。

○議長（行沢弘栄君）

これから、委員長報告に対する質疑を行います。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

［「討論なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

討論なしと認めます。

これから、陳情第３号、自衛隊誘致に関する陳情についてを採決します。この陳情書に対する委員長の報告は採択です。

お諮りします。この陳情は委員長の報告のとおり決定することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、陳情第３号は委員長の報告のとおり採択することに決定しました。

△　日程第８　発議第１号　徳之島に於ける自衛隊関連施設整備に関する意見書

○議長（行沢弘栄君）

日程第８、発議第１号、徳之島に於ける自衛隊関連施設整備に関する意見書を議題とします。

本件について、提出者の趣旨説明を求めます。

○総務文教厚生常任委員長（富田良一君）

ただいま議題となりました発議第１号、徳之島に於ける自衛隊関連施設整備に関する意見書の説明をいたします。

この件は、先ほど採択していただきました陳情第３号に関する意見書の提出であります。

皆様に配付してあります、意見書（案）の趣旨で関係機関に意見書を提出したいと思います。

よろしく御審議くださいますようお願いいたします。

○議長（行沢弘栄君）

これから質疑を行います。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

［「討論なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

討論なしと認めます。

これから、発議第１号、徳之島に於ける自衛隊関連施設整備に関する意見書を採決します。

お諮りします。本件は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、発議第１号は原案のとおり可決されました。

△　日程第９　発議第２号　徳之島町議会基本条例の一部を改正する条例について

○議長（行沢弘栄君）

日程第９、発議第２号、徳之島町議会基本条例の一部を改正する条例についてを議題とします。

本案について、提出者の趣旨説明を求めます。

○議会運営委員長（徳田　進君）

お疲れさまです。

ただいま議題となりました発議第２号の趣旨説明を申し上げます。

本案は、徳之島町議会基本条例の一部を改正するものであります。

平成28年４月１日に徳之島町議会基本条例を制定し、町民とともに歩む議会を目指し、少なくとも年１回は議会報告会を開催すべきでありますが、大規模な災害の発生、感染症等により開催することが困難な場合があるため、議会運営委員会において議会報告会の開催を検討する場合があることを明記するものです。

内容といたしましては、第５条に「ただし、議会報告会の開催については、議会運営委員会において検討するものとする。」というただし書を加えるものです。

以上で趣旨説明を終わります。よろしく御審議ください。

○議長（行沢弘栄君）

これから質疑を行います。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

［「討論なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

討論なしと認めます。

これから、発議第２号、徳之島町議会基本条例の一部を改正する条例についてを採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、発議第２号は原案のとおり可決されました。

△　日程第10　議員派遣の件

○議長（行沢弘栄君）

日程第10、議員派遣の件を議題とします。

お諮りします。議員派遣の件については、お手元に配りましたとおり派遣することにしたいと思います。御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、議員派遣の件は、お手元に配りましたとおり派遣することに決定しました。

お諮りします。ただいま決定された議員派遣の内容に、今後、変更を要するときは、その取扱いを議長に一任願いたいと思います。御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、議員派遣の内容に今後変更を要するときは、その取扱いを議長に一任することに決定しました。

△　日程第11　議会運営委員会の閉会中の所掌事務調査の申し出について

○議長（行沢弘栄君）

日程第11、議会運営委員会の閉会中の所掌事務調査の申し出について、議題とします。

委員長から、会議規則第75条の規定によって、お手元に配りました申出書のとおり、閉会中の継続調査の申出があります。

お諮りします。委員長から申出のとおり、閉会中の継続調査とすることに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、委員長から申出のとおり、閉会中の継続調査とすることに決定しました。

お諮りします。本定例会の会議に付託された事件は全て終了しました。したがって、会議規則第７条の規定によって、本日で閉会したいと思います。御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、本定例会は本日で閉会することに決定しました。

これで、本日の会議を閉じます。

この場をお借りして、この４月に退任される幸野副町長から一言頂戴したいと思います。幸野副町長、よろしくお願いいたします。

○副町長（幸野善治君）

皆さん、長い間、慣れ親しんだ役場を離れ、副町長を退任するに当たり、この場を借りてお礼の挨拶を申し上げたいと思います。

私は、平成28年４月に高岡町長の要請を受けて副町長に就任しました。それから２期８年間、今までの役場生活約45年間のうち、最も充実した日々を送れたのではないかと実感しております。

その充実していた日々の中で記憶に残る事業や提言を申し上げ、これからの町政の指針や課

題として取り組んでいただけたらと思います。

副町長に就任してすぐ母間騒動200周年記念事業が母間小学校で開催され、当時の校長でありました福教育長のリーダーシップと、母間校区民の団結力の強さに感銘を受けました。

また、現在、人気上昇中のマスコット「まぶーる君」が徳之島町のキャラクターに指定された年でもありました。

それと、ふるさと納税額がちょうど１億円を超え、納税件数と額は、奄美群島では現在なお１位をキープしております。これは企画課ふるさと納税担当者の斬新な発想と責任感、仕事の丁寧さ、チームワークによるものです。一番多いときは令和元年に６億円を超す金額を集めましたが、当時の企画課長からは「物すごい金額が集まりそうだから職員数をもっと増やしてほしい」という要望を受け、その続きが現在のスタッフであり、よい仕事をするには人材だということを確信しました。

翌30年には町史編さん室を開設しましたが、完成するまで約６年かかっております。これは私が企画課長当時からの私の希望と町長の政策が一致しており、昨年の完成記念シンポジウムと祝賀会が終わった後は感無量のものがありました。これも意欲のある人材と専門性を持った職員がいたからこそ成功したものだと思っています。

奄美群島が世界遺産に決定した令和３年には自然編「恵みの島」、４年に民俗編「シマの記憶」、そして５年に通史編「１、２」が完成しました。恐らく県下でもトップクラスの町史だと私は自負しております。

令和元年には、徳之島町がＳＤＧｓ未来都市に選定され、町長代理として首相官邸へ招かれ、総理大臣、官房長官、地方創生担当大臣、経済産業大臣から祝福を受けたことは一生の記念になりました。

もう一つ、記念に残る大事業は、令和４年10月に完成した新庁舎の建設であります。完成するまでの約４年間、議会の皆さんと、場所やアスベストの問題で議論したのも懐かしい思い出となりました。奄美群島が日本に復帰して70周年の年に完成記念式典と祝賀会をすることができ、敷地面積が群島随一の新庁舎は自慢できる建物と私は思っています。

四方敷地の塀を取り払い、島特有の花木でバランスを取り、緊急避難ビルの役割を果たす災害に強い庁舎、１階から屋上まで町民の皆さんが使いやすく、親しまれる庁舎です。あと50年はこの庁舎とともに歩むであろう職員と新庁舎は、町民誰もが相談しやすい、来庁しやすい安らぎの持てる庁舎になってもらいたい。そして、群島一の広い敷地と駐車場を持つ、この駐車場を活用した島おこしの一大イベントはできないか、皆さんに提言・提案したいと思います。

２年前、大島郡で初めての女性総務課長が誕生しました。職員への気配りと住民からの信頼が厚い勉強家の総務課長です。私は、歴代の課長には根底から支えられました。総務課長を中心に職員全員が入庁した当時のことを思い出し、「国民全体の保護者」と宣誓したことを胸に

秘め頑張っていただきたい。

現高岡町長は現在64歳、鹿児島県町村会長として多忙な日々を送っています。しかも、体力・気力とも充実しているというのが私の実感です。本人はいつも弱者の立場から物事の進め方を図り、福祉の原点を探っているように思います。このため、おのずと障がい者や高齢者に優しいまちづくりが進んでいるのではないでしょうか。

本町の基本政策は、農業の振興、福祉の充実、教育・文化の振興です。この重要施策を進めながら、ごみ等のない美しいまちづくりを目指しています。世界自然遺産の島にふさわしいまちづくりを進めるということです。

奄美群島一の町、日本一住みやすい町、世界から注目される町を目指して、議会議員の皆さんと役場職員が一丸となって日々の業務に邁進していただきたい。特に、役場職員が一日の大半を過ごす徳之島町役場新庁舎は、町民の心のよりどころとなることを願って退任の挨拶といたします。２期８年間、本当にありがとうございました。（拍手）

○議長（行沢弘栄君）

幸野副町長、２期８年間、お疲れさまでした。

○議長（行沢弘栄君）

以上で、令和６年第１回徳之島町議会定例会を閉会します。お疲れさまでした。

閉　会　午後　３時３０分

地方自治法第123条第２項の規定により、ここに署名する。

徳之島町議会議長　　行 沢 弘 栄

徳之島町議会議員　　竹 山 成 浩

徳之島町議会議員　　池 山 富 良